静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第６集

森町円田丘陵の横穴墓群

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

森町－６

宇藤横穴墓群（第二東名 No.113 地点）

天王ヶ谷横穴墓群（第二東名 No.113 地点）

調査報告編

【第２分冊】

２０１２

中日本高速道路株式会社東京支社

静岡県埋蔵文化財センター

静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第６集

森町円田丘陵の横穴墓群

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

森町－６

宇藤横穴墓群（第二東名 No.113 地点）

天王ヶ谷横穴墓群（第二東名 No.113 地点）

調査報告編

【第２分冊】

２０１２

中日本高速道路株式会社東京支社

静岡県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は、静岡県周智郡森町円田地区に所在する宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群の発掘調査報告書（調査報告編）の第２分冊である。

2　遺跡の所在地や調査体制、執筆分担などについては、第１分冊に記載しているので、割愛する。

3　第２分冊の頁数・章番号・図表番号は第１分冊から連番としている。

また、図表の目次については、本書（第２分冊）に掲載したもののみを記載している。

調査報告編（第２分冊）　目次

第６章　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の評価 ……287
第１節　横穴墓の特徴と変遷……287
１　はじめに……287　２　横穴墓の形態分類……287
３　前庭と単位群……298　４　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の変遷過程……302
５　掘削痕からみた横穴墓壁面の最終調整の特徴…… 306
第２節　副葬品からみた特徴……309
１　須恵器・土師器の特徴……309　２　武器の特徴……313
３　紡錘車と砥石……315
第３節　人骨からみた宇藤・天王ヶ谷横穴墓群造営集団の特徴……318
１　遺体の埋葬方法について……318　２　埋葬された遺体の特徴……322
３　埋葬された人々の関係……324
第４節　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の特質……326
１　円田丘陵における古墳と横穴墓……326
２　太田川中流域における宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の位置づけ……330
３　森町円田丘陵周辺における古墳時代後期後半～終末期の特質……331
註 ……334

第７章　結語 ……335

参考文献……337
図版
抄録・奥付

（調査報告編　第１分冊　目次）

巻頭図版
序
例言・凡例
目次
挿図目次・挿表目次・巻頭図版目次・写真目次
第１章　調査に至る経緯
第２章　調査の方法と経過
第３章　地理的環境・歴史的環境
第４章　宇藤横穴墓群
第５章　天王ヶ谷横穴墓群
抄録・奥付

（自然科学分析・人骨調査編　目次）

例言
目次
挿図目次・挿表目次・写真目次・図版目次
第１章　自然科学分析
第２章　人骨調査
第３章　自然科学分析・人骨調査のまとめ
図版
抄録・奥付

第２分冊　挿図目次

【第６章　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の評価】

第228図　太田川流域の横穴墓の平面形態による分類‥‥‥ 287
第229図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態①‥ 288
第230図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態②‥ 289
第231図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態③‥ 290
第232図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態④‥ 291
第233図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の横穴墓の
　　形態別規模比較図① ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 292
第234図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の横穴墓の
　　形態別規模比較図② ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 292
第235図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の縦断面形態‥ 294
第236図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の内部施設①‥ 295
第237図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の内部施設②‥ 296
第238図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の内部施設③‥ 297
第239図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の前庭の
　　位置と共有関係 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 299
第240図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の
　　前庭と開口部の関係 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 301
第241図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群変遷図①‥‥‥ 303
第242図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群変遷図②‥‥‥ 304
第243図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群変遷図③‥‥‥ 305
第244図　遠江における横穴墓の掘削痕‥‥‥‥‥‥‥‥ 307
第245図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土
　　須恵器の器種と数量 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 310
第246図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土
　　土師器の器種と数量 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 310
第247図　森山古窯群産須恵器集成図‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 311
第248図　森山古窯群産須恵器出土遺跡分布図‥‥‥‥‥‥ 312
第249図　天王ヶ谷５号横穴墓出土の特異な鉄鏃‥‥‥‥‥ 313
第250図　天王ヶ谷横穴墓群出土の武器‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 314
第251図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の
　　人骨出土状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 319
第252図　遠江における人骨出土状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 321
第253図　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群出土人骨の
　　死亡年齢別出土数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 323
第254図　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群出土人骨の
　　性別別出土数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 324
第255図　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の出現期の横穴墓の
　　規模と副葬遺物 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 326
第256図　文殊堂古墳群と林５号墳の埋葬施設と副葬品‥‥ 327
第257図　円田丘陵の古墳と横穴墓における墓道の復原‥‥ 329
第258図　太田川流域（森町域）における古墳の動向‥‥‥ 330
第259図　遠江における手工業生産と古墳‥‥‥‥‥‥‥‥ 332

【図版】

別図３　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土遺物
　　図版集合写真掲載遺物番号

【附図】

附図１　宇藤横穴墓群Ⅰ・Ⅱ支群　地形測量図
附図２　天王ヶ谷横穴墓群Ⅰ支群　地形測量図
附図３　天王ヶ谷横穴墓群Ⅱ・Ⅲ支群　地形測量図
附図４　天王ヶ谷横穴墓群Ⅳ支群　地形測量図

第２分冊　挿表目次

【第６章　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の評価】

第85表　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の
　　支群・単位群の概要‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 298
第86表　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土
　　須恵器・土師器の器種と数量‥‥‥‥‥‥‥‥ 309
第87表　森山古窯群産須恵器出土遺跡地名
　　および出土器種‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 312
第88表　東海地方の紡錘車出土遺跡地名表‥‥‥‥‥‥‥ 315
第89表　東海地方における砥石出土遺跡地名表‥‥‥‥‥ 317
第90表　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の
　　人骨出土横穴墓とその特徴‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 318
第91表　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の被葬者の年齢性別
　　による組合関係‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 324

第２分冊　図版目次

【第１・３～５章】

図版１　１.宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群　遠景（南から）
図版２　１.宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群　全景
（完掘状況，南西上空から）
２.宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群　全景
（完掘状況，南東上空から）

【第４章　宇藤横穴墓群】

図版３　１.宇藤横穴墓群　遠景（南から）
２.宇藤横穴墓群　Ⅰ支群（８～13号横穴墓）全景
（南から）
図版４　１.宇藤８号横穴墓　遺物および敷石検出状況(南から)
２.宇藤８号横穴墓　完掘状況（南から）
３.宇藤８号横穴墓　土器出土状況（南西から）
４.宇藤９号横穴墓　完掘状況（南から）
図版５　１.宇藤10号横穴墓　完掘状況（南西から）
２.宇藤10号横穴墓　敷石出土状況（南西から）
３.宇藤13号横穴墓　完掘状況（南から）
図版６　１.宇藤11号横穴墓　完掘状況（南西から）
２.宇藤11号横穴墓　敷石出土状況（南西から）
３.宇藤12号横穴墓　完掘状況①（南西から）
４.宇藤12号横穴墓　完掘状況②（南西から）
図版７　１.宇藤横穴墓群　Ⅱ支群（１～７号横穴墓）遠景
（南から）
２.宇藤横穴墓群　Ⅱ支群（１～７号横穴墓）全景
（南から）
図版８　１.宇藤１・６・７号墓共有前庭（南西から）
２.宇藤１号横穴墓　玄室および奥壁（南から）
３.宇藤１号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版９　１.宇藤２～４号横穴墓　前庭完掘状況（南から）
２.宇藤２号横穴墓　完掘状況（南から）
図版10　１.宇藤３号横穴墓　完掘状況（南から）
２.宇藤２・３号横穴墓　完掘状況（南から）
３.宇藤４号横穴墓　完掘状況（南から）
４.宇藤４号横穴墓　遺物出土状況（南から）
５.宇藤４号横穴墓　遺物出土状況（東から）
図版11　１.宇藤５号横穴墓　完掘状況（南から）
２.宇藤５号横穴墓　完掘状況（南から）
３.宇藤５号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）
４.宇藤５号横穴墓　遺物出土状況（東から）
図版12　１.宇藤５号横穴墓　敷石検出状況（東から）
２.宇藤５号横穴墓　袖部（奥壁側から）
３.宇藤５号横穴墓　完掘状況（南から）
図版13　１.宇藤６号横穴墓　完掘状況①（南から）
２.宇藤６号横穴墓　完掘状況②（南から）
図版13　３.宇藤６号横穴墓　敷石出土状況（南から）
４.宇藤６号横穴墓　完掘状況③(敷石除去後,南から）
図版14　１.宇藤７号横穴墓　出土状況（南から）
２.宇藤７号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）
３.宇藤７号横穴墓　完掘状況（南から）
図版15　１.宇藤７号横穴墓　人骨出土状況（南から）
２.宇藤７号横穴墓　人骨出土状況(天井除去後,南から)
３.宇藤７号横穴墓　遺物出土状況（南から）
図版16　１.宇藤８号横穴墓　出土遺物①
２.宇藤８号横穴墓　出土遺物②（集合）
３.宇藤１号横穴墓　出土遺物
図版17　１.宇藤10号横穴墓　出土遺物
２.宇藤７号横穴墓　出土遺物
３.宇藤３号横穴墓　出土遺物
４.宇藤５号横穴墓　出土遺物
５.宇藤４号横穴墓　出土遺物①
図版18　１.宇藤４号横穴墓　出土遺物②
２.宇藤４号横穴墓　出土遺物③（集合）

【第５章　天王ヶ谷横穴墓群】

図版19　１.天王ヶ谷横穴墓群　遠景（南西から）
２.天王ヶ谷横穴墓群Ⅳ支群　遠景（南西から）
図版20　１.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ～Ⅲ支群　遠景（南西から）
２.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群（１～25号横穴墓）全景
（南から）
図版21　１.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群Ａ単位群（１～７号横穴墓）全景（南東から）
２.天王ヶ谷１・２号横穴墓　完掘状況（北東から）
図版22　１.天王ヶ谷１号横穴墓　完掘状況（北東から）
２.天王ヶ谷２号横穴墓　完掘状況（北東から）
３.天王ヶ谷３～７号横穴墓　完掘状況（南東から）
図版23　１.天王ヶ谷３号横穴墓　完掘状況（東から）
２.天王ヶ谷３号横穴墓　奥壁（東から）
３.天王ヶ谷３号横穴墓　閉塞石出土状況(東上方から)
４.天王ヶ谷３号横穴墓　閉塞石出土状況（東から）
図版24　１.天王ヶ谷３号横穴墓　遺物出土状況（東上方から）
２.天王ヶ谷４号横穴墓　完掘状況（東から）
３.天王ヶ谷４号横穴墓　敷石および人骨出土状況
（東から）
４.天王ヶ谷４号横穴墓　金属製品出土状況（北から）
図版25　１.天王ヶ谷４号横穴墓　奥壁（東から）
２.天王ヶ谷４号横穴墓　袖部（奥壁側から）
３.天王ヶ谷５号横穴墓再利用時　遺物および
人骨出土状況（南東から）
図版26　１.天王ヶ谷５号横穴墓　奥壁（南東から）

図版26　2.天王ヶ谷５号横穴墓　袖部（奥壁側から）
3.天王ヶ谷５号横穴墓　遺物および人骨出土状況（南東から）
図版27　1.天王ヶ谷５号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷５号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷５号横穴墓　閉塞石出土状況（南東から）
4.天王ヶ谷５号横穴墓　閉塞石出土状況(南東上方から)
図版28　1.天王ヶ谷５号横穴墓　右側壁側遺物出土状況（北西から）
2.天王ヶ谷５号横穴墓　玄室中央部遺物出土状況（東から）
3.天王ヶ谷５号横穴墓　左側壁側耳環出土状況(東から)
図版29　1.天王ヶ谷６号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷６号横穴墓　閉塞石出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷６号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）
4.天王ヶ谷６号横穴墓　遺物および敷石出土状況（南東から）
図版30　1.天王ヶ谷６号横穴墓　遺物出土状況（南東から）
2.天王ヶ谷６号横穴墓　奥壁（南東から）
3.天王ヶ谷６号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版31　1.天王ヶ谷７号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷７号横穴墓　閉塞石出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷７号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）
4.天王ヶ谷７号横穴墓　遺物および人骨出土状況（南東から）
図版32　1.天王ヶ谷７号横穴墓　人骨出土状況（南東から）
2.天王ヶ谷７号横穴墓　袖部（奥壁側から）
3.天王ヶ谷７号横穴墓　奥壁（南東から）
図版33　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群Ｂ単位群(８～13号横穴墓）全景（南東から）
2.天王ヶ谷８号横穴墓　完掘状況（南東から）
3.天王ヶ谷８号横穴墓　敷石出土状況（南東から）
図版34　1.天王ヶ谷８号横穴墓　奥壁（南東から）
2.天王ヶ谷９号横穴墓　完掘状況（南東から）
3.天王ヶ谷９号横穴墓　奥壁（南東から）
図版35　1.天王ヶ谷10・11号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷10号横穴墓　完掘状況（南東から）
3.天王ヶ谷10号横穴墓　敷石出土状況（南東から）
図版36　1.天王ヶ谷10号横穴墓　奥壁（南東から）
2.天王ヶ谷10号横穴墓　遺物出土状況（南東上方から）
3.天王ヶ谷10号横穴墓　遺物出土状況（南東から）
図版37　1.天王ヶ谷11号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷11号横穴墓　人骨および敷石出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷11号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）
4.天王ヶ谷11号横穴墓　遺物出土状況（南東上方から）
5.天王ヶ谷11号横穴墓　奥壁（南東から）
図版38　1.天王ヶ谷12号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷12号横穴墓　人骨出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷13号横穴墓　完掘状況（南から）
図版39　1.天王ヶ谷13号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷13号横穴墓　遺物出土状況（南から）
3.天王ヶ谷13号横穴墓　敷石出土状況（南から）
図版40　1.天王ヶ谷13号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）
2.天王ヶ谷13号横穴墓　人骨および遺物出土状況細部（中央～右側壁，南から）
図版41　1.天王ヶ谷13号横穴墓　中央頭蓋骨周辺遺物出土状況（南から）
2.天王ヶ谷13号横穴墓　右側壁側頭蓋骨周辺遺物出土状況（南から）
3.天王ヶ谷13号横穴墓　左側壁側頭蓋骨周辺遺物出土状況（南から）
図版42　1.天王ヶ谷13号横穴墓　右側壁遺物出土状況(南から)
2.天王ヶ谷13号横穴墓　奥壁（南から）
3.天王ヶ谷13号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版43　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群Ｃ～Ｅ単位群（14～25号横穴墓）全景（南から）
2.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群Ｃ単位群(14～19号横穴墓）全景（南から）
図版44　1.天王ヶ谷14号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷14号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）
3.天王ヶ谷14号横穴墓　閉塞石出土状況(南上方から)
4.天王ヶ谷14号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）
5.天王ヶ谷14号横穴墓　完掘状況（敷石除去後，南から）
図版45　1.天王ヶ谷14号横穴墓　人骨出土状況①（玄室右側壁側，南から）
2.天王ヶ谷14号横穴墓　人骨出土状況②（玄室左側壁側，南から）
3.天王ヶ谷14号横穴墓　遺物出土状況（東から）
図版46　1.天王ヶ谷15号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷15号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）
3.天王ヶ谷15号横穴墓　人骨出土状況（南から）
4.天王ヶ谷15号横穴墓　遺物出土状況（南から）
図版47　1.天王ヶ谷15号横穴墓　左側壁遺物出土状況（南西から）

図版47　2.天王ヶ谷15号横穴墓　右側壁南側遺物出土状況（東から）
3.天王ヶ谷15号横穴墓　右側壁北側遺物出土状況（東から）
図版48　1.天王ヶ谷16号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷16号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）
図版49　1.天王ヶ谷16号横穴墓　左側壁人骨出土状況(南から)
2.天王ヶ谷16号横穴墓　右側壁人骨出土状況（南から）
3.天王ヶ谷16号横穴墓　刀子ほか出土状況（西から）
図版50　1.天王ヶ谷16号横穴墓　鉄鏃出土状況（北西から）
2.天王ヶ谷16号横穴墓　玉類および耳環出土状況（南から）
3.天王ヶ谷16号横穴墓　奥壁左隅角土器出土状況（南西から）
図版51　1.天王ヶ谷16号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）
2.天王ヶ谷16号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）
3.天王ヶ谷16号横穴墓　閉塞石出土状況（奥壁側から）
図版52　1.天王ヶ谷16号横穴墓　奥壁（南から）
2.天王ヶ谷16号横穴墓　袖部（奥壁側から）
3.天王ヶ谷55号横穴墓　完掘状況（南から）
図版53　1.天王ヶ谷17号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）
2.天王ヶ谷17号横穴墓　遺物および閉塞石出土状況（南から）
3.天王ヶ谷17号横穴墓　閉塞石出土状況(南上方から)
4.天王ヶ谷17号横穴墓　閉塞石出土状況(奥壁側から)
5.天王ヶ谷17号横穴墓　完掘状況（南から）
図版54　1.天王ヶ谷17号横穴墓　玄室後室（南から）
2.天王ヶ谷17号横穴墓　袖部（奥壁側から）
3.天王ヶ谷17号横穴墓　奥壁（南から）
図版55　1.天王ヶ谷17号横穴墓　土器出土状況①（西から）
2.天王ヶ谷17号横穴墓　土器出土状況②（南から）
3.天王ヶ谷17号横穴墓　人骨および大刀出土状況（東から）
図版56　1.天王ヶ谷18号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷18号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）
3.天王ヶ谷18号横穴墓　敷石出土状況（南上方から）
4.天王ヶ谷18号横穴墓　奥壁（南から）
図版57　1.天王ヶ谷19号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷19号横穴墓　完掘状況（敷石除去後，南から）
3.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群Ｄ単位群(20～23号横穴墓）全景（南から）
図版58　1.天王ヶ谷20・21号横穴墓　完掘状況（南から）
図版58　2.天王ヶ谷20号横穴墓　人骨および敷石状況(南から)
3.天王ヶ谷20号横穴墓　閉塞石出土状況(南上方から)
4.天王ヶ谷20号横穴墓　閉塞石出土状況(奥壁側から)
図版59　1.天王ヶ谷20号横穴墓　人骨出土状況（南から）
2.天王ヶ谷20号横穴墓　頭蓋骨周辺遺物出土状況（南から）
3.天王ヶ谷20号横穴墓　紡錘車出土状況（東から）
図版60　1.天王ヶ谷20号横穴墓　前庭出土状況（西から）
2.天王ヶ谷20号横穴墓　完掘状況（敷石除去後，南から）
3.天王ヶ谷20号横穴墓　奥壁（南から）
図版61　1.天王ヶ谷21号横穴墓　完掘状況（南西から）
2.天王ヶ谷21号横穴墓　敷石出土状況（南西から）
3.天王ヶ谷21号横穴墓　奥壁（南西から）
図版62　1.天王ヶ谷22・23号横穴墓　完掘状況（西から）
2.天王ヶ谷22号横穴墓　完掘状況（西から）
3.天王ヶ谷23号横穴墓　完掘状況（西から）
図版63　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群Ｅ単位群(24・25号横穴墓）全景（南から）
2.天王ヶ谷24号横穴墓　完掘状況（南から）
3.天王ヶ谷25号横穴墓　完掘状況（南西から）
図版64　1.天王ヶ谷25号横穴墓　奥壁（南から）
2.天王ヶ谷25号横穴墓　閉塞石出土状況（南西上方から）
3.天王ヶ谷横穴墓群　SK01出土状況（東から）
図版65　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅱ支群（26～29号横穴墓）全景（南から）
2.天王ヶ谷26号横穴墓　完掘状況（南東から）
3.天王ヶ谷26号横穴墓　奥壁（南東から）
図版66　1.天王ヶ谷27号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷27号横穴墓　遺物出土状況（南から）
3.天王ヶ谷27号横穴墓　敷石出土状況（南から）
図版67　1.天王ヶ谷27号横穴墓　袖部（奥壁側から）
2.天王ヶ谷27号横穴墓　奥壁（南から）
3.天王ヶ谷28・29号横穴墓　完掘状況（南から）
図版68　1.天王ヶ谷28号横穴墓　閉塞石出土状況(南上方から)
2.天王ヶ谷29号横穴墓　完掘状況（南から）
3.天王ヶ谷横穴墓群　SX01完掘状況（南東から）
図版69　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群（30～44号横穴墓）全景（南西から）
2.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群Ａ・Ｂ単位群（30～43号横穴墓）全景（南から）
図版70　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群Ａ単位群（30～34号横穴墓）全景（南東から）
2.天王ヶ谷30・31号横穴墓　完掘状況（東から）
図版71　1.天王ヶ谷30号横穴墓　完掘状況（東から）
2.天王ヶ谷30号横穴墓　紡錘車出土状況（東から）
3.天王ヶ谷31号横穴墓　完掘状況（東から）

図版71　4.天王ヶ谷32号横穴墓前庭　北西隅角遺物出土状況（南東から）
5.天王ヶ谷31号横穴墓　奥壁（東から）
図版72　1.天王ヶ谷32号横穴墓前庭　北西隅角遺物出土状況（南東から）
2.天王ヶ谷32号横穴墓　完掘状況（南東から）
3.天王ヶ谷33号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）
4.天王ヶ谷33号横穴墓　完掘状況（南から）
図版73　1.天王ヶ谷34号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷34号横穴墓前庭　遺物出土状況（南から）
3.天王ヶ谷34号横穴墓　左側壁に残る壁面調整痕（南西から）
図版74　1.天王ヶ谷34号横穴墓　奥壁（南から）
2.天王ヶ谷34号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版75　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群Ｂ単位群（35～40号横穴墓）全景（南から）
2.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群Ｂ１・Ｂ２単位群（35～38号横穴墓）　完掘状況（南から）
図版76　1.天王ヶ谷35号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷35号横穴墓　敷石出土状況（南から）
3.天王ヶ谷35号横穴墓　閉塞石出土状況(南上方から)
4.天王ヶ谷35号横穴墓　遺物出土状況（東から）
5.天王ヶ谷35号横穴墓　奥壁（南から）
6.天王ヶ谷35号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版77　1.天王ヶ谷36号横穴墓　完掘状況（東から）
2.天王ヶ谷36号横穴墓　玄門（奥壁側から）
3.天王ヶ谷36号横穴墓　奥壁（南から）
4.天王ヶ谷37号横穴墓　完掘状況（南から）
5.天王ヶ谷37号横穴墓　人骨および敷石出土状況（南から）
図版78　1.天王ヶ谷37号横穴墓　遺物出土状況（南から）
2.天王ヶ谷37号横穴墓　敷石出土状況（南から）
3.天王ヶ谷37号横穴墓　袖部（奥壁側から）
4.天王ヶ谷37号横穴墓　奥壁（南から）
5.天王ヶ谷38～40号横穴墓　完掘状況（南から）
6.天王ヶ谷38号横穴墓　完掘状況（南から）
図版79　1.天王ヶ谷38号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷38号横穴墓　奥壁（南から）
3.天王ヶ谷38号横穴墓　袖部（奥壁側から）
4.天王ヶ谷38号横穴墓　玉類出土状況（南から）
5.天王ヶ谷39号横穴墓前庭　遺物出土状況（南から）
図版80　1.天王ヶ谷39号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷39号横穴墓　閉塞石出土状況(南上方から)
3.天王ヶ谷39号横穴墓　閉塞石出土状況(奥壁側から)
4.天王ヶ谷39号横穴墓　奥壁（南から）
5.天王ヶ谷39号横穴墓　袖部（奥壁側から）
6.天王ヶ谷39号横穴墓　短刀出土状況（西から）
7.天王ヶ谷39号横穴墓　土器出土状況（南から）
図版81　1.天王ヶ谷40号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷40号横穴墓　完掘状況（南から）
3.天王ヶ谷40号横穴墓　奥壁（南から）
4.天王ヶ谷40号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版82　1.天王ヶ谷41～43号横穴墓　完掘状況（南から）
2.天王ヶ谷41号横穴墓　閉塞石出土状況(奥壁側から)
3.天王ヶ谷41号横穴墓　奥壁（南から）
4.天王ヶ谷41号横穴墓　完掘状況（南から）
図版83　1.天王ヶ谷41号横穴墓　閉塞石出土状況(南上方から)
2.天王ヶ谷41号横穴墓　閉塞石出土（奥壁側から）
3.天王ヶ谷41号横穴墓　右側壁壁面調整痕(北東から)
4.天王ヶ谷41号横穴墓　左側壁壁面調整痕(北西から)
5.天王ヶ谷41号横穴墓　左側壁壁面調整痕細部（北西から）
6.天王ヶ谷41号横穴墓　遺物出土状況①（南から）
7.天王ヶ谷41号横穴墓　遺物出土状況②（東から）
8.天王ヶ谷41号横穴墓　遺物出土状況③（東から）
図版84　1.天王ヶ谷42号横穴墓　閉塞石出土（奥壁側から）
2.天王ヶ谷42号横穴墓　遺物出土状況①（北から）
3.天王ヶ谷42号横穴墓　遺物出土状況②（南から）
4.天王ヶ谷42号横穴墓　右側壁に描かれた絵画（南西から）
5.天王ヶ谷42号横穴墓　袖部（奥壁側から）
6.天王ヶ谷42号横穴墓　奥壁（南から）
図版85　1.天王ヶ谷43号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷43号横穴墓　遺物出土状況（北上方から）
3.天王ヶ谷43号横穴墓　遺物出土状況（北上方から）
4.天王ヶ谷44号横穴墓　出土状況（南西から）
図版86　1.天王ヶ谷44号横穴墓　完掘状況（南西から）
2.天王ヶ谷44号横穴墓　閉塞石出土状況(南西上方から)
3.天王ヶ谷44号横穴墓　棺台出土状況（南西から）
4.天王ヶ谷44号横穴墓　奥壁（南西から）
5.天王ヶ谷44号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版87　1.天王ヶ谷44号横穴墓　土器出土状況（南西から）
2.天王ヶ谷44号横穴墓　金属製品出土状況①（北東から）
3.天王ヶ谷44号横穴墓　金属製品出土状況②（南西から）
図版88　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群（45～54号横穴墓）全景（南東から）
2.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群（45～54号横穴墓）全景（南東から）
図版89　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群Ａ単位群(45～47号横穴墓）完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷45号横穴墓　完掘状況（東から）
3.天王ヶ谷45号横穴墓　遺物出土状況（東から）
図版90　1.天王ヶ谷46号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷46号横穴墓　奥壁（南東から）

図版90　3.天王ヶ谷47号横穴墓　完掘状況（南東から）
図版91　1.天王ヶ谷47号横穴墓再利用時　遺物出土状況（南東から）
2.天王ヶ谷47号横穴墓　遺物出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群Ｂ単位群(48～50号横穴墓）完掘状況（南東から）
4.天王ヶ谷48号横穴墓　完掘状況（南東から）
図版92　1.天王ヶ谷48号横穴墓　奥壁（東から）
2.天王ヶ谷49号横穴墓　完掘状況（南東から）
3.天王ヶ谷49号横穴墓　奥壁（南東から）
図版93　1.天王ヶ谷49号横穴墓　袖部（奥壁側から）
2.天王ヶ谷49号横穴墓　左側壁壁面調整痕(南西から)
3.天王ヶ谷49号横穴墓　天井付近壁面調整痕(南東から)
図版94　1.天王ヶ谷50号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷50号横穴墓　奥壁（南東から）
3.天王ヶ谷50号横穴墓　人骨出土状況（南東から）
4.天王ヶ谷50号横穴墓　土器出土状況（南東から）
図版95　1.天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群Ｃ単位群（51～54号横穴墓）全景（南東から）
2.天王ヶ谷51号横穴墓　完掘状況（南東から）
3.天王ヶ谷51号横穴墓　遺物出土状況（南東から）
図版96　1.天王ヶ谷51号横穴墓　人骨出土状況（南東から）
2.天王ヶ谷51号横穴墓　奥壁（南東から）
3.天王ヶ谷51号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版97　1.天王ヶ谷52号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷52号横穴墓　羨道遺物出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷52号横穴墓　奥壁（南東から）
4.天王ヶ谷52号横穴墓　遺物および敷石出土状況（南から）
図版98　1.天王ヶ谷52号横穴墓　天井付近壁面調整痕（南東から）
2.天王ヶ谷52号横穴墓　袖部（奥壁側から）
3.天王ヶ谷52号横穴墓　敷石出土状況（南東から）
図版99　1.天王ヶ谷52号横穴墓　耳環出土状況①（南から）
2.天王ヶ谷52号横穴墓　耳環出土状況②（南から）
3.天王ヶ谷52号横穴墓　左袖部付近遺物出土状況（南西から）
図版100　1.天王ヶ谷53号横穴墓　完掘状況（南東から）
2.天王ヶ谷53号横穴墓　羨道遺物出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷53号横穴墓　玄室完掘状況（南東から）
図版101　1.天王ヶ谷53号横穴墓　人骨出土状況（南東から）
2.天王ヶ谷53号横穴墓　土器出土状況①（北西から）
3.天王ヶ谷53号横穴墓　土器出土状況②（南東から）
図版102　1.天王ヶ谷53号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）
2.天王ヶ谷53号横穴墓　奥壁（南東から）
図版102　3.天王ヶ谷53号横穴墓　袖部（奥壁側から）
図版103　1.天王ヶ谷54号横穴墓　奥壁　（南東から）
2.天王ヶ谷54号横穴墓再利用時　遺物出土状況（南東から）
3.天王ヶ谷54号横穴墓再利用時　遺物出土状況（南東上方から）
図版104　1.天王ヶ谷54号横穴墓　遺物および敷石出土状況（南東から）
2.天王ヶ谷54号横穴墓　土器出土状況（北東から）
3.天王ヶ谷54号横穴墓　耳環出土状況（北東上方から）
図版105　1.天王ヶ谷３号横穴墓　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷６号横穴墓　出土遺物（集合）
3.天王ヶ谷７号横穴墓　出土遺物（集合）
図版106　天王ヶ谷３号横穴墓　出土遺物①
図版107　1.天王ヶ谷３号横穴墓　出土遺物②
2.天王ヶ谷３号横穴墓　出土遺物③
3.天王ヶ谷４号横穴墓　出土遺物
図版108　1.天王ヶ谷５号横穴墓　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷５号横穴墓再利用時　出土遺物①
図版109　1.天王ヶ谷５号横穴墓再利用時　出土遺物②
2.天王ヶ谷５号横穴墓　出土遺物①
図版110　天王ヶ谷５号横穴墓　出土遺物②
図版111　1.天王ヶ谷５号横穴墓　出土遺物③
2.天王ヶ谷５号横穴墓　出土遺物④
3.天王ヶ谷６号横穴墓　出土遺物①
図版112　1.天王ヶ谷６号横穴墓　出土遺物②
2.天王ヶ谷７号横穴墓　出土遺物
3.天王ヶ谷10号横穴墓　出土遺物①
図版113　天王ヶ谷10号横穴墓　出土遺物②
図版114　天王ヶ谷10号横穴墓　出土遺物③
図版115　天王ヶ谷10号横穴墓　出土遺物④
図版116　天王ヶ谷10号横穴墓　出土遺物（集合）
図版117　1.天王ヶ谷11号横穴墓　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷11号横穴墓　出土遺物
図版118　1.天王ヶ谷12号横穴墓　出土遺物
2.天王ヶ谷13号横穴墓　出土遺物①
図版119　天王ヶ谷13号横穴墓　出土遺物②
図版120　天王ヶ谷13号横穴墓　出土遺物③
図版121　天王ヶ谷13号横穴墓　出土遺物④
図版122　天王ヶ谷14号横穴墓　出土遺物①
図版123　1.天王ヶ谷14号横穴墓　出土遺物②
2.天王ヶ谷15号横穴墓　出土遺物①
図版124　天王ヶ谷15号横穴墓　出土遺物②
図版125　天王ヶ谷15号横穴墓　出土遺物③
図版126　1.天王ヶ谷15号横穴墓　出土遺物④
2.天王ヶ谷16号横穴墓　出土遺物①
図版127　天王ヶ谷16号横穴墓　出土遺物②

図版128 天王ヶ谷16号横穴墓　出土遺物③
図版129 1.天王ヶ谷16号横穴墓　出土遺物④
2.天王ヶ谷17号横穴墓　出土遺物①
図版130 1.天王ヶ谷16号横穴墓　出土遺物⑤
2.天王ヶ谷17号横穴墓　出土遺物②
図版131 天王ヶ谷17号横穴墓　出土遺物③
図版132 天王ヶ谷17号横穴墓　出土遺物④
図版133 1.天王ヶ谷18号横穴墓　出土遺物
2.天王ヶ谷17号横穴墓　出土遺物⑤
3.天王ヶ谷20号横穴墓　出土遺物
図版134 1.天王ヶ谷20号横穴墓前庭　出土遺物①
2.天王ヶ谷27号横穴墓　出土遺物①
3.天王ヶ谷27号横穴墓　出土遺物②
4.天王ヶ谷30号横穴墓　出土遺物
図版135 1.天王ヶ谷20号横穴墓前庭　出土遺物②
2.天王ヶ谷32号横穴墓前庭　出土遺物
3.天王ヶ谷34号横穴墓前庭　出土遺物
4.天王ヶ谷35号横穴墓　出土遺物
図版136 1.天王ヶ谷37号横穴墓　出土遺物①
2.天王ヶ谷37号横穴墓前庭　出土遺物②
3.天王ヶ谷38号横穴墓　出土遺物
図版137 天王ヶ谷39号横穴墓前庭　出土遺物
図版138 1.天王ヶ谷39号横穴墓前庭　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷39号横穴墓　出土遺物
3.天王ヶ谷43号横穴墓および前庭　出土遺物
図版139 1.天王ヶ谷41号横穴墓　出土遺物
2.天王ヶ谷42号横穴墓　出土遺物
図版140 1.天王ヶ谷44号横穴墓　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷44号横穴墓　出土遺物①
図版141 1.天王ヶ谷44号横穴墓　出土遺物②
2.天王ヶ谷44号横穴墓　出土遺物③
3.天王ヶ谷45号横穴墓　出土遺物
4.天王ヶ谷46号横穴墓前面崩落土　出土遺物
図版142 1.天王ヶ谷47号横穴墓再利用時　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷47号横穴墓再利用時　出土遺物
図版143 天王ヶ谷47号横穴墓　出土遺物
図版144 1.天王ヶ谷47号横穴墓　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷50号横穴墓　出土遺物①
図版145 天王ヶ谷50号横穴墓　出土遺物②
図版146 1.天王ヶ谷50号横穴墓　出土遺物③
2.天王ヶ谷51号横穴墓　出土遺物
3.天王ヶ谷52号横穴墓　出土遺物①
図版147 1.天王ヶ谷50号横穴墓　出土遺物（集合）
図版148 天王ヶ谷52号横穴墓　出土遺物②
図版149 1.天王ヶ谷53号横穴墓　出土遺物（集合）
2.天王ヶ谷53号横穴墓　出土遺物①
図版150 天王ヶ谷53号横穴墓　出土遺物②
図版151 天王ヶ谷53号横穴墓　出土遺物③
図版152 1.天王ヶ谷53号横穴墓　出土遺物③
2.天王ヶ谷54号横穴墓再利用時　出土遺物①
図版153 1.天王ヶ谷54号横穴墓再利用時　出土遺物②
2.天王ヶ谷54号横穴墓再利用時　出土遺物（集合）
3.天王ヶ谷54号横穴墓　出土遺物
4.天王ヶ谷54号横穴墓　出土遺物（集合）
図版154 天王ヶ谷横穴墓群　採集遺物
図版155 天王ヶ谷横穴墓群再利用時　出土遺物（集合）

第６章　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の評価

第１節　横穴墓の特徴と変遷

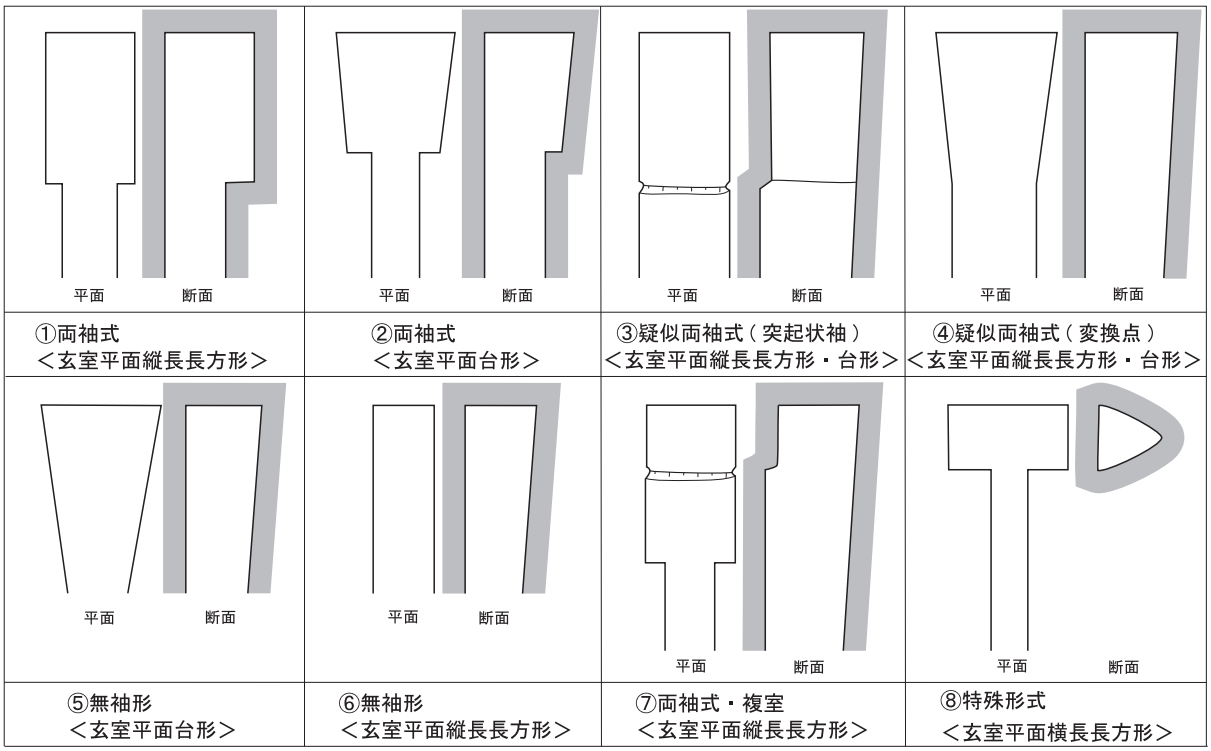
１　はじめに

第４・５章で報告したように、宇藤横穴墓群２支群13基、天王ヶ谷横穴墓群４支群55基の横穴墓を発掘調査した。これらの横穴墓は未開口のもの、副葬品や人骨が埋葬当時に近い状態で出土したものがあり、非常に重要な情報を有している。したがって、両横穴墓群の諸特徴を分析して評価することで、森町や遠江の歴史、ひいては静岡県、日本の歴史を今後考えていく上で重要な情報を提供できると考えることから、ここでは横穴墓の構造的特徴、副葬品の特徴、人骨の特徴をまとめたうえで、遠江の横穴墓などと比較して、最終的に両横穴墓群の造営意義について考えたい。

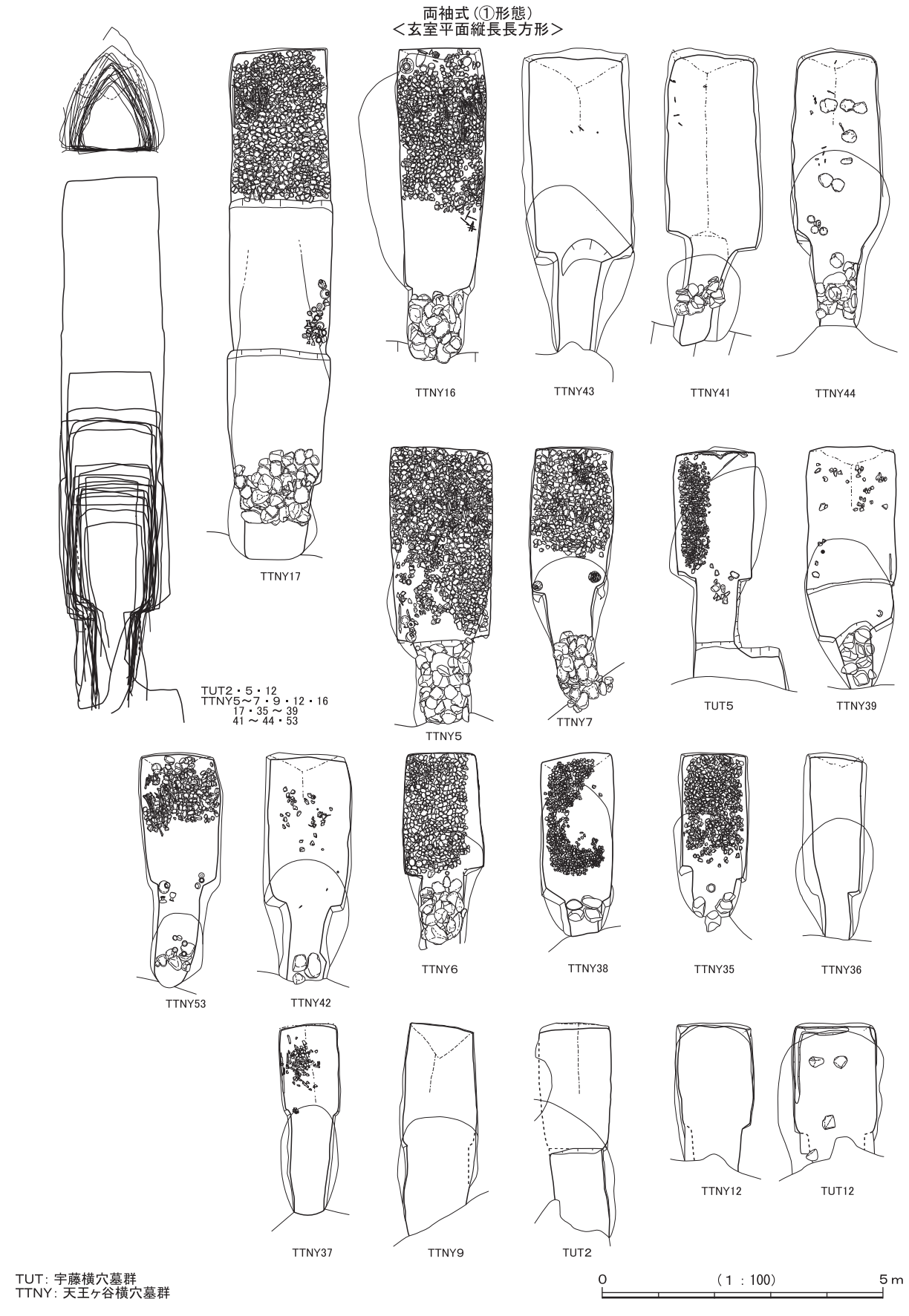
２　横穴墓の形態分類

（１）平面形（第228～232図）

第228図に示したように、これまで発掘調査された太田川流域の横穴墓は袖部の有無や玄室平面形態により、両袖式と無袖形に区分することができる。両袖式は玄室の平面形や袖部の形状により、４形態に区分できる。無袖形については玄室の平面形態により、縦長長方形と縦長の逆台形の２種類に区分することができる。また、特殊形態として、森町観音堂１・６号横穴墓のように両袖式で複室構造のものや森町観音堂13号墓や袋井市宇刈N52号墓のような横長長方形の平面が確認されるが数が少なく、特殊形態として認定する（大谷2001b）。



第228図　太田川流域の横穴墓の平面形態による分類



第229図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態①

横穴墓の分類　太田川流域の横穴墓を以下のように分類する。

①両袖式で玄室平面長方形の横穴墓　　②両袖式で玄室平面（逆）台形の横穴墓

③疑似両袖式で突起状袖を有する横穴墓

④疑似両袖式で側壁に変換点を設けて玄室と羨道を区分する横穴墓

⑤無袖形で玄室平面（逆）台形の横穴墓　　⑥無袖形で玄室平面長方形の横穴墓

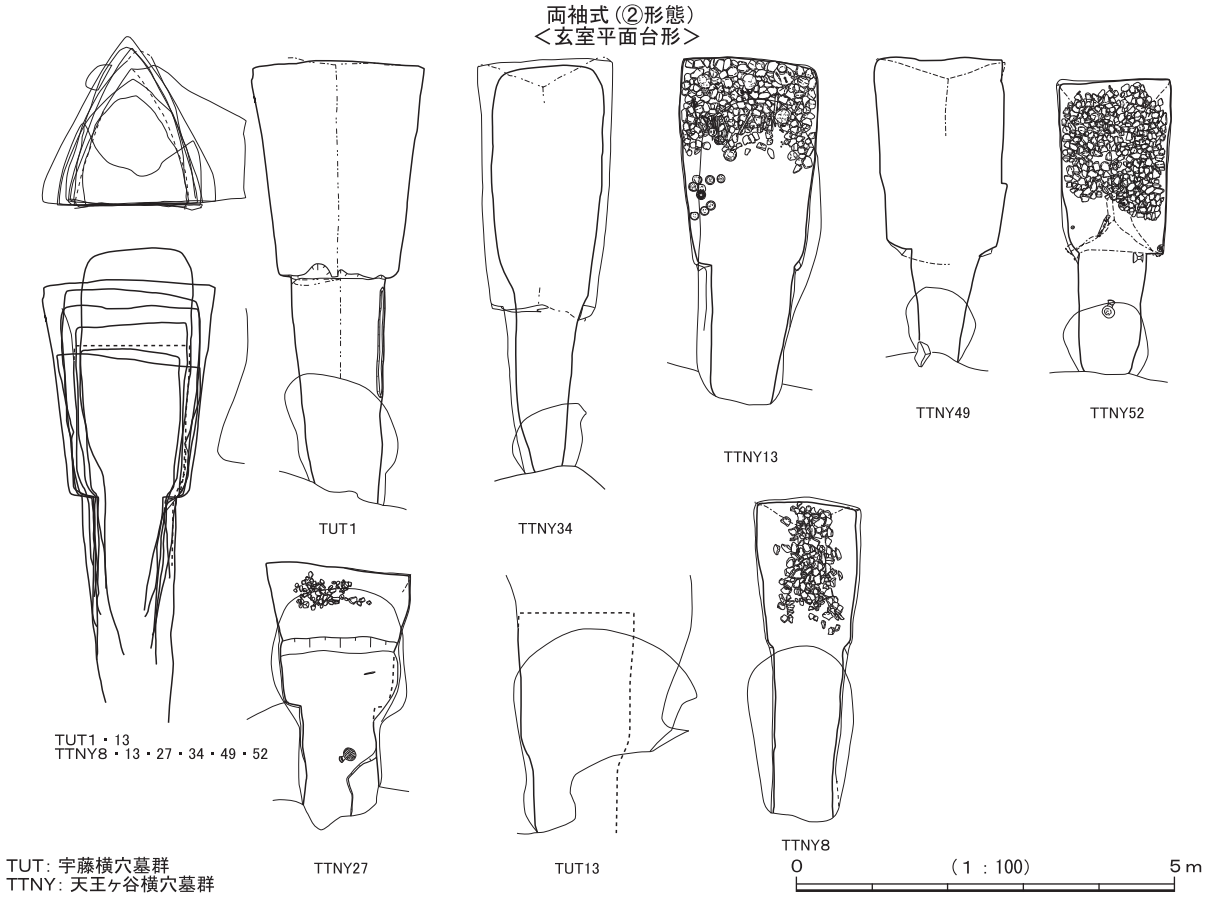
⑦両袖式で玄室内部に袖や突起状袖で区切って複室とする横穴墓　　⑧特殊形式

横穴墓形態の割合　宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群では、形態が判明する57基中、両袖式が28基（約５割）、疑似両袖式が15基（約２割５分）、無袖形が14基（約２割５分）であり、袖を有する横穴墓が75%、無袖形が25%である。

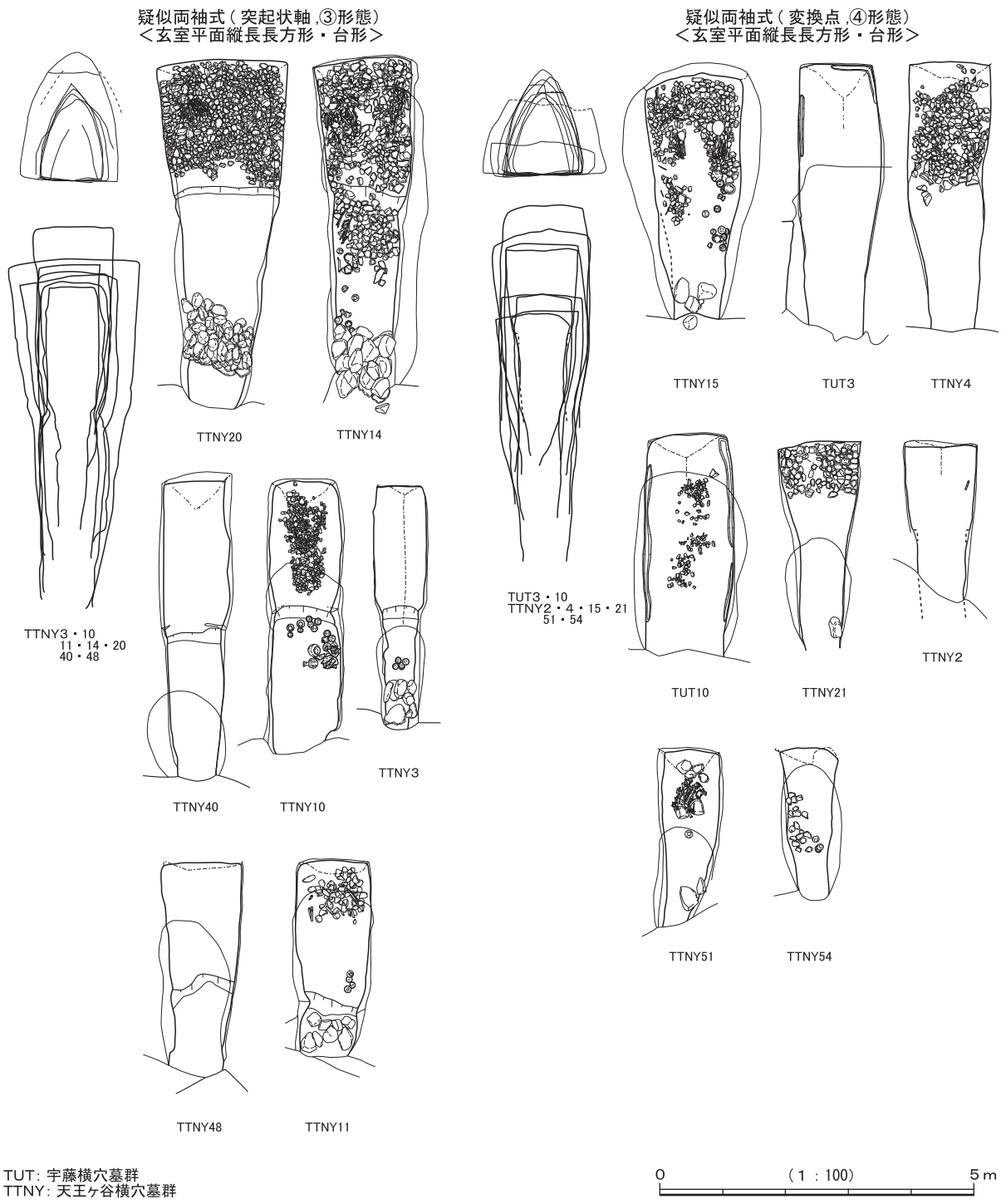
両袖式の特徴　両袖式は玄室平面長方形の横穴墓が20基と横穴墓全体の約４割を占める。平面（逆）台形の横穴墓は８基と全体の１割である。袖部（玄門）の幅が広いものが狭いものに比べて羨道が短い傾向にあることを確認できる。つまり、袖部の幅が狭くなるに従い、羨道の長さが長くなる傾向にある。

疑似両袖式の特徴　疑似両袖式では、側壁を山形に突起させる③形態が７基（約10%）、変換点を設ける④形態が８基（約15%）である。後者には横穴墓内が土砂で埋没したため突起状の袖（③形態）が失われたものが存在する可能性があるが、③形態はいずれも玄室と羨道との間に段差を設けるため、ここで挙げた側壁を屈曲させる（変換点で）玄室と羨道を区分する横穴墓には突起状袖は存在しなかった可能性が高い。

なお、今回の大きな調査成果の一つとして、突起状袖で羨道と玄室を区切る③形態の横穴墓が存在していることが判明したことであり、太田川流域の無袖形あるいは変換点で玄室と羨道を区切る横穴墓の



第230図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態②（両袖式・台形平面）



第231図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態③（疑似両袖式）

中に③形態の横穴墓が存在していた可能性が高いことが想定できるようになったことである。

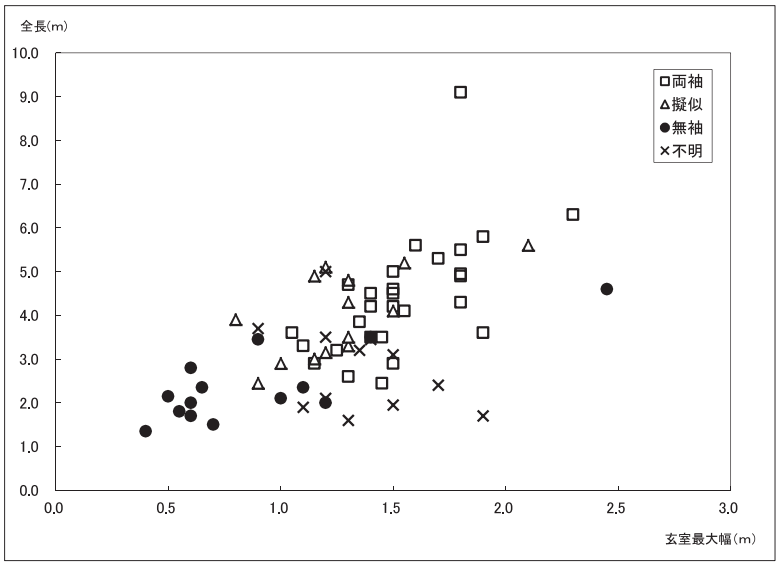
無袖形の特徴　無袖形は玄室平面（逆）台形と長方形の２者が存在し、前者には3.5mを超えるもの（天王ヶ谷28・50号墓）と2.5m以下の小型のものが確認できる。3.5mを超えるものについては変換点で玄室と羨道を区分する横穴墓であった可能性も残る。後者には3.5m前後の宇藤７号墓が確認できるが、2.5m以下の小型の横穴墓が７基と多く、天王ヶ谷29・30・55号墓は全長が1.5m以下のいわゆる「ミニ横穴墓」で、大人の伸展葬はほぼ不可能である。

なお、宇藤・天王ヶ谷両横穴墓には⑦・⑧形態の横穴墓は存在しない。

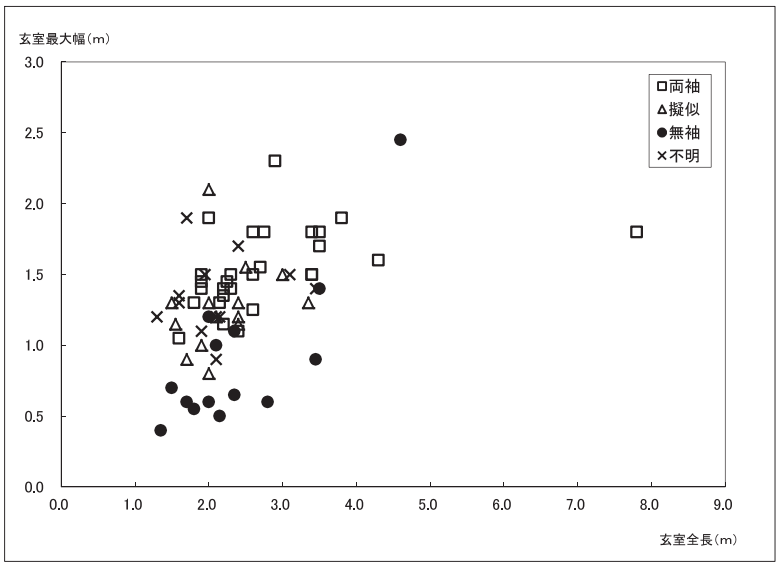
TUT：宇藤横穴墓群
TTNY：天王ヶ谷横穴墓群

0　（１：100）　５ｍ

第232図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の平面形態④



第233図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の横穴墓の形態別規模比較図①



第234図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の横穴墓の形態別規模比較図②

平面形態と規模　ここでは平面形態による分類に基づき、規模の比較を行う。第233図に全長と玄室幅、第234図に玄室長と玄室幅による散布図を示した。天王ヶ谷17号墓が全長9.1m、玄室長7.8mと格段に大きく、それ以外は全長６m、玄室幅2.0mにほぼ収まる。天王ヶ谷17号墓は玄室長だけであれば、遠江の横穴墓でも最大規模である。

両袖式が他の形態よりも規模が大きい傾向にあり、無袖形は大部分が全長３m、玄室幅1.5m以下のものである。これは時期的に後出する横穴墓が小型化する傾向にあることから、時期的な差異と考えることができる。

両袖式が横穴墓の規模からみた場合、やや優位な状況にある可能性が高いが、時期が下るにつれてその差異は小さくなった可能性が高い。

副葬品の面からも、天王ヶ谷５・16・17・44・52・53号墓のように両袖式が、天王ヶ谷10・51号墓のような疑似両袖式や宇藤７号墓や天王ヶ谷50号墓などの無袖形よりも遺物が種類や数量が豊富であることから、ある程度規模と副葬品に階層差が表れていた可能性が高い。

（２）横断面形

第229～232図に平面形態の分類に基づき、各分類の左側に奥壁の断面の形状を重ね合わせたものを図示した。宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群では奥壁が残存しているものすべてが尖頭アーチ形天井であり、ドーム形やアーチ形は確認できない。

横断面形態は基本的に直線的な二等辺三角形とやや丸みをもって立ち上がる二等辺三角形あるいは正三角形の横断面が確認できる。基本的には二等辺三角形が多いが、正三角形に近いものも存在している。正三角形に近いものは玄室平面形が台形の横穴墓に多い傾向にある。

太田川流域の横穴墓では、両者とも確認できるため近隣の横穴墓と同様の状況を示しているといえる。

（３）縦（主軸）断面形（第235図）

平面の形状を良好にとどめるものは多かったが、天井については崩落しているものが多く、検討に耐え得るものは10基程度にすぎない。以下、横穴墓の形態ごとの縦断面形態の特徴を示す。

両袖式　天王ヶ谷44号墓や天王ヶ谷16・17号墓など古い時期の天井が失われており、出現期の天井形態については明確ではない。袖部が明瞭な両袖式については、天王ヶ谷34・41・52号墓のように前壁を有する可能性が高いが、49・53号墓のように袖部の残存状況から段差があったとしても10㎝程度であった可能性が高いものもある。奥壁側から玄門に向って下る（下り天井）ものが多いが、41号墓のように水平に近いものがある。

疑似両袖式　袖部に突起を設けて袖とする疑似両袖式では40号墓の残存状況からみると段差は設けず、奥壁から下がってきた天井を玄室と羨道の境界部分で屈曲させることで玄室と羨道の天井を区分していた可能性が高い。天井は水平に近いものと、奥壁から玄門に向かい高さを低くする下り天井がある。

無袖形　3.5m以下の横穴墓であり、奥壁は直立あるいは内傾して立ち上がり、天井は奥壁からほぼ水平か開口部に向かってやや低くなる形状を示している。天井に段差を設ける意識は確認できない。

天井（主軸）断面形態による時期差　前壁を有する横穴墓が相対的に古く位置づけられる。中でも前壁の段差が大きいものが古い傾向にある可能性が高い。袖部が不明瞭になる疑似両袖式の横穴墓は前壁が失われている可能性が高く、また無袖形の天井は水平か下り天井であることから、羨道と玄室の間に段差（前壁）を設けるものが古く、天井が羨道まで区別のない下り天井や水平天井は新しい傾向にあることが想定できる。

（４）内部施設の特徴（第236～238図）

遠江の横穴墓群の内部施設には、敷石、棺台、棺座、造付石棺、箱形石棺、板石敷、内部施設なしの７者が確認できる（調査報告編第１分冊-第７図参照，井村2001，大谷2003b）が、宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群の横穴墓内の内部施設には敷石、棺台、棺座、内部施設なしの４者が確認できる。

敷石　68基中34基と50％を占める。敷石は太田川流域の横穴墓では最も一般的に確認できるものであることから、両横穴墓群も同じ傾向を示している。

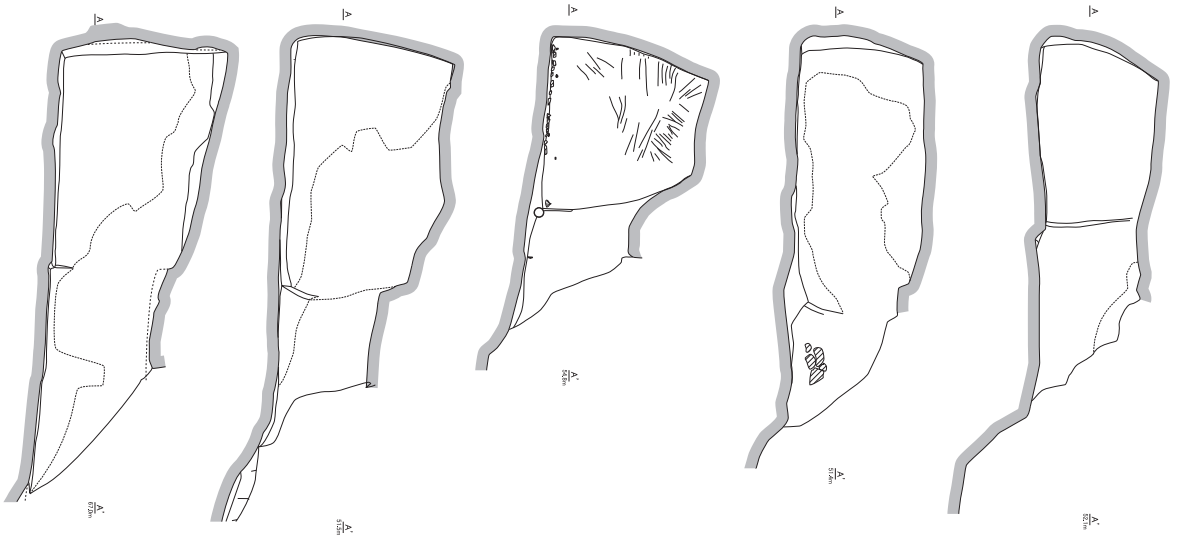
敷石は基本的に玄室内のみに行われているものが大部分で、羨道まで敷石が敷設されたのは天王ヶ谷14号墓のみである。当横穴墓は埋葬遺体数が７体と多く、玄室内に埋葬する場所が狭くなったため、埋葬場所を確保するため敷石を羨道まで拡張した可能性が高い。

敷石といってもすべてが同様に敷設されているわけではなく、玄室のほぼ全体に設置されるもの、玄室の一部に設置されるものが確認できる。後者はさらに、右側壁側に偏って設置されるもの、玄室中央のみに設置されるもの、玄室の奥側（を中心）に設置されるもの、玄室内に小礫が散在するものが確認できる。

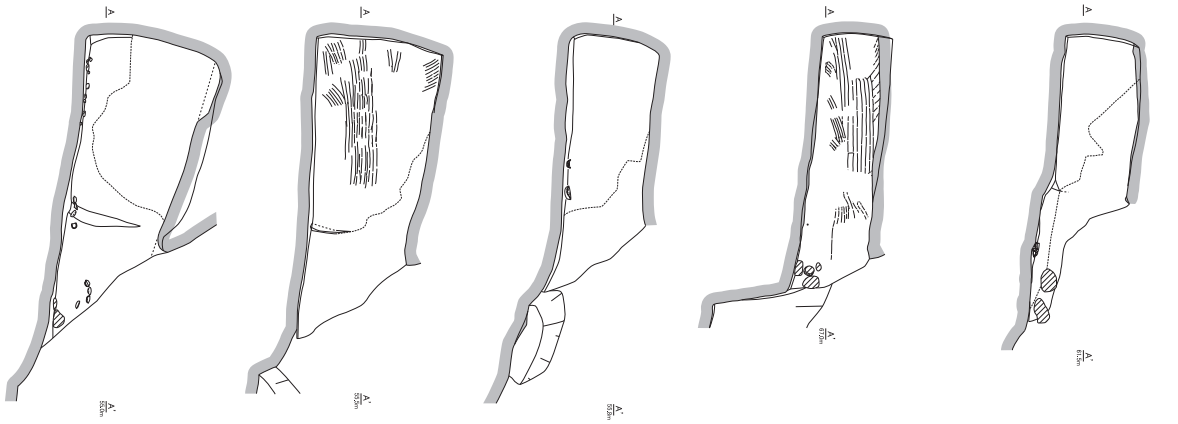
奥壁に接するように長さ１m以内のみの敷石や玄室中央に敷石が設置されるものがやや新しい傾向にあることから、敷石を全体あるいは１m以上設置するものが古い傾向にあり、敷石範囲が狭くなるものや玄室中央のみに設置するものへ変化した可能性がある。

なお、人骨が残存する横穴墓では、敷石上に人骨が納められており、敷石の範囲は遺体を埋葬する範囲と意識されていた可能性が高い。

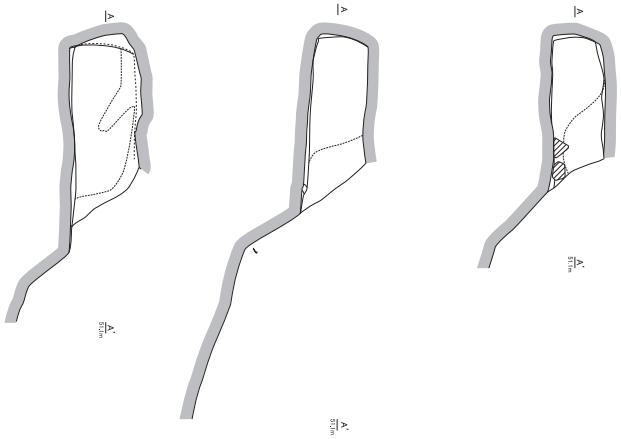
棺台　棺台は遺体を納めた木棺を置くために、河原石数個を長方形に設置するもので、宇藤12号墓、天王ヶ谷44・51号墓で確認できる。遠江の横穴式石室では棺台を設けるものはほとんど確認できないため横穴式石室の影響で用いられたわけではないことが想定できる。天王ヶ谷44号墓で確認できることから横穴墓の出現期から用いられた内部施設であるが、あまり採用されていない。３基とも前庭を共有し



宇藤1号墓（両）　天王ヶ谷 34 号墓（両）　天王ヶ谷 52 号墓（両）　天王ヶ谷 41 号墓（両）　天王ヶ谷 40 号墓（疑似）



天王ヶ谷 53 号墓（両）　天王ヶ谷 49 号墓（両）　天王ヶ谷 50 号墓（無）　宇藤7号墓（無）　天王ヶ谷3号墓（疑似）

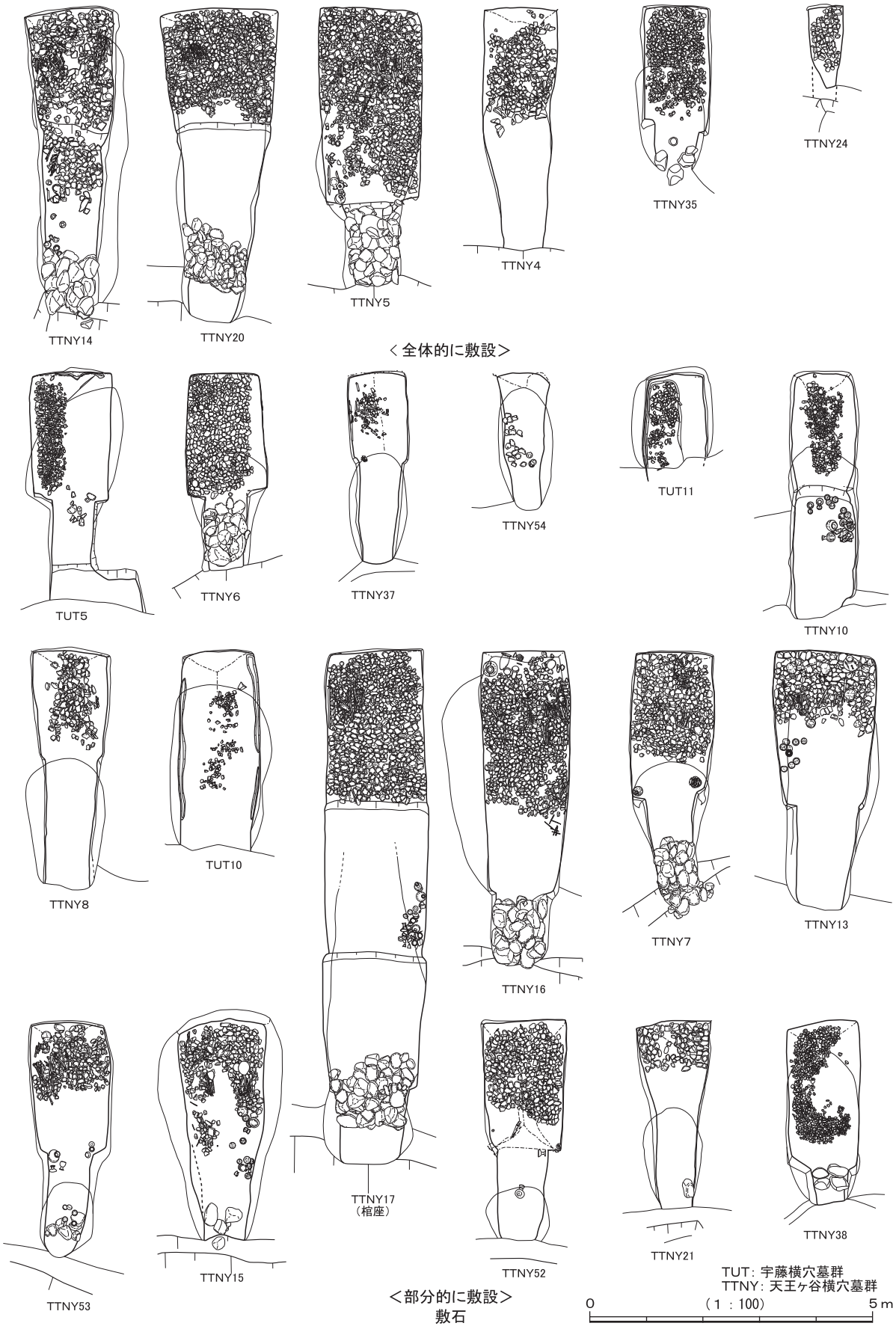


天王ヶ谷 31 号墓（無）　天王ヶ谷 32 号墓（無）　天王ヶ谷 33 号墓（無）

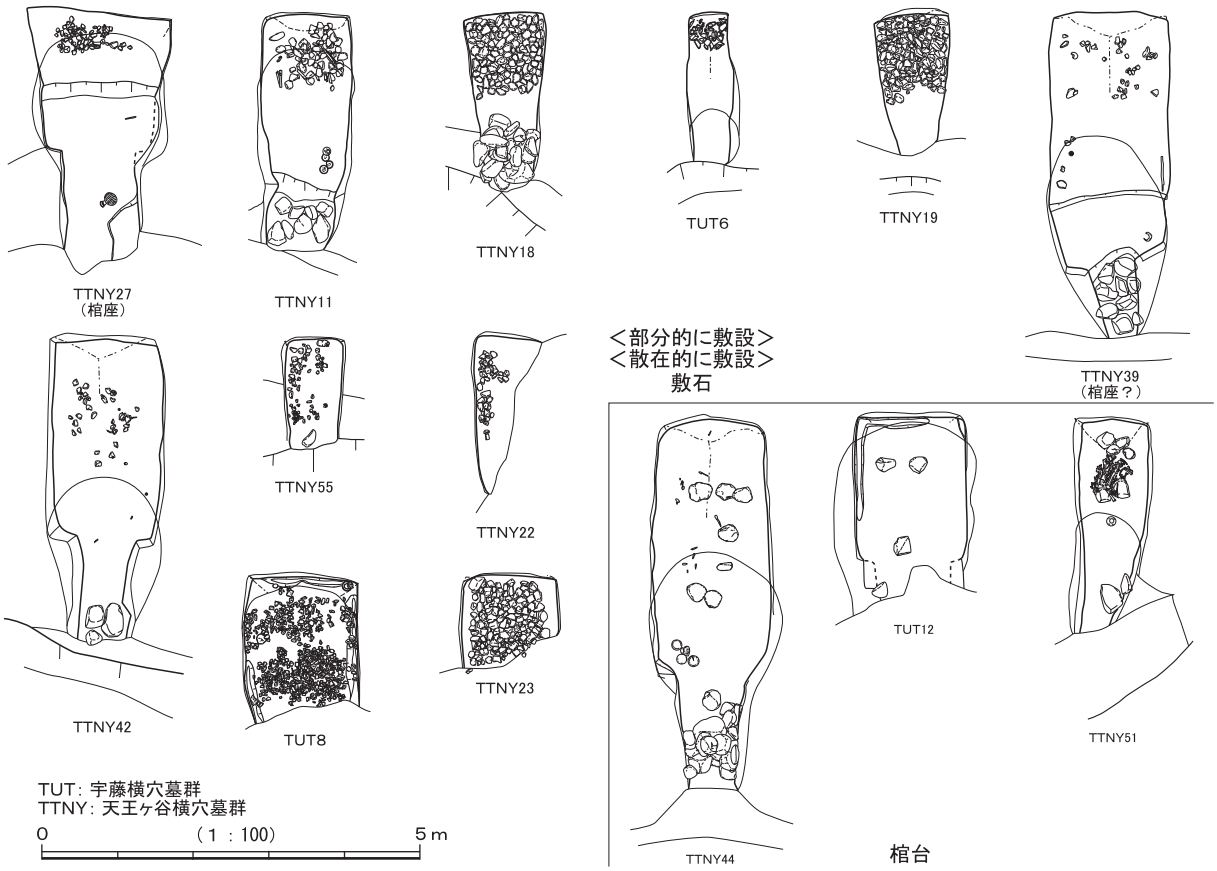
両＝両袖式
疑似＝疑似両袖式
無＝無袖式

0　（１：100）　５ｍ

第235図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の縦断面形態



第236図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の内部施設①



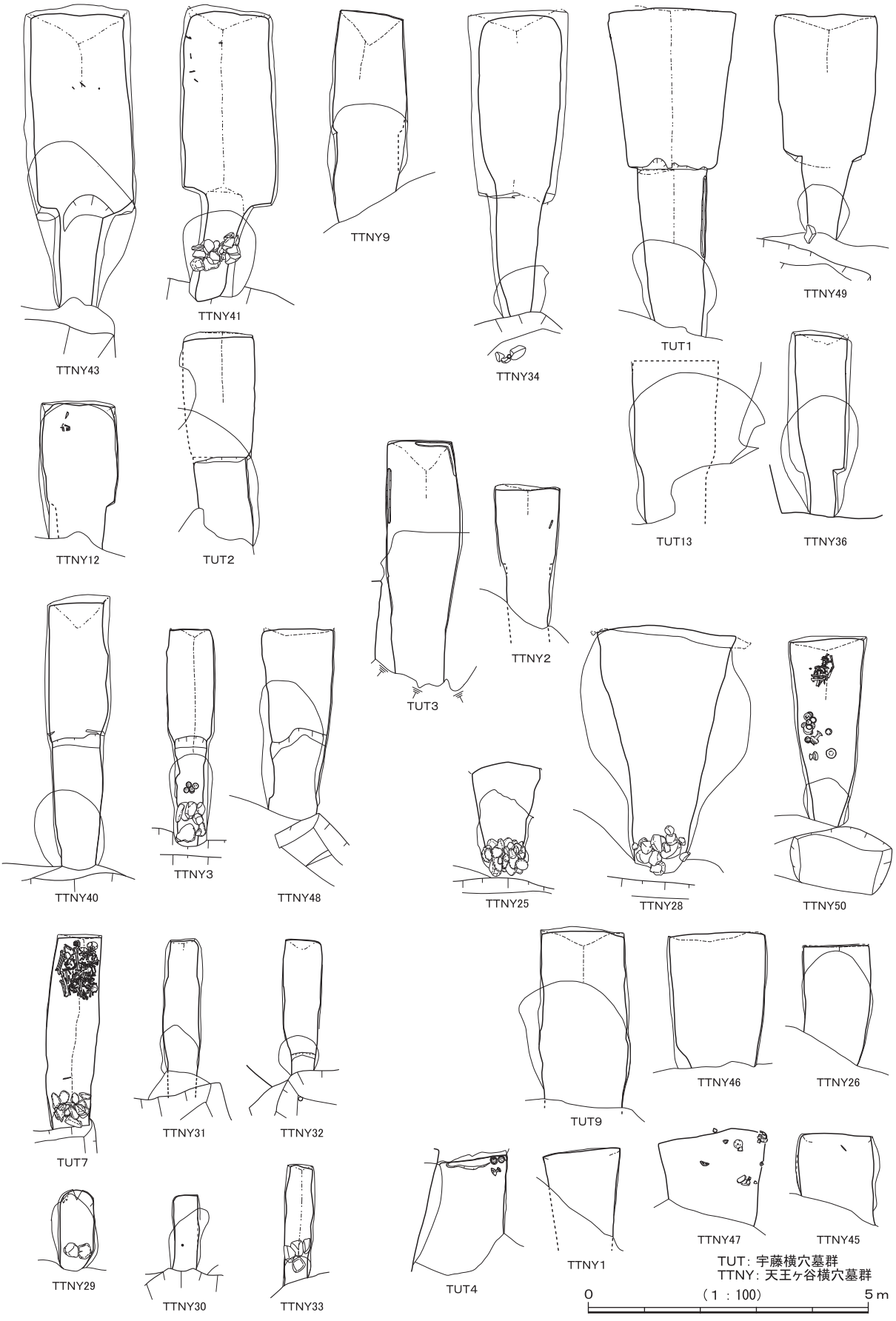
第237図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の内部施設②（敷石・棺台）

ていなかった（可能性が高い）ことから、両横穴墓群でもやや特殊な内部施設であった可能性がある。また、人骨が出土した天王ヶ谷51号墓では棺台の間に人骨２体分が落ち込むように出土しているため、木棺（木櫃）を用いて埋葬された可能性がある。単独で立地することや木棺が用いられた可能性が高いことなど、改葬を行いながらも敷石敷設の横穴墓と埋葬方法が異なる可能性がある。

棺座　棺座は単独では用いられておらず、敷石と組み合わされている。天王ヶ谷17・27号墓である。39号墓が棺座の可能性がある。17号墓は長大な玄室内に２回の段差を設けることで、最奥部（後室）を棺座とし、敷石を設置して遺体を埋葬している。27号墓は玄室内に段差を設けて、敷石を併せて用いている。39号墓も同様であった可能性がある。

内部施設なし　内部施設が確認されない横穴墓には、横穴墓開削当初から設置されていない横穴墓と後世の再利用時にかき出された可能性が高い横穴墓が存在する。後者は開口していたり、攪乱されていたり、博打穴として利用されたりしている宇藤１・２号墓や、天王ヶ谷34・36・41・43・48・49号墓などのやや大型の横穴墓である。これらは玄室内には段差が確認できないことから敷石が設置されていた可能性がある。

一方で、前者は人骨や遺物が地山の掘ったままの床面上から出土したものや、閉塞石が良好に残存し、未開口であった可能性が高い宇藤４・７号墓、天王ヶ谷３・25・29・30・33・50号墓などである。3.5ｍ以下の小型の横穴墓が多いこと、時期的に７世紀中葉（遠江Ⅳ期前半でも比較的新しい時期）以降の横穴墓に多いという特徴がある。幅が狭い小型の横穴墓内で内部施設を設置することが困難であることが要因と考えられるが、同じような大きさでも敷石が確認されるものもあり、作業の難しさだけが内部施設の採用条件ではなかったようである。



第238図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の内部施設③

（５）閉塞の特徴

宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群では、閉塞施設が残存していた横穴墓についてはすべて河原石を用いた円礫積み閉塞であった。天王ヶ谷53号墓や41号墓のように追葬にあたって土砂と河原石で閉塞していた可能性が高いものが一部に確認できる。

閉塞施設が失われているものについても、板を嵌め込んだような溝は確認できないことから板石（あるいは木板）による閉塞は行われなかった可能性が高い。

円礫積みの方法については、天王ヶ谷16・17号墓のように細長いラグビーボール形の河原石の長手（長軸）を横穴墓の主軸に平行させて積み上げるものと、その意識が低いものに区分することができる。

前者は①１～２列で横穴墓の内側に壁を造り直立に近く積み上げるものと、②山形に積み上げるものがある。①は天王ヶ谷３・33号墓のように小型の横穴墓、②は天王ヶ谷14・16・17・20号墓などの大型の横穴墓で確認できる。

３　前庭と単位群

（１）前庭の特徴（第239図，第85表）

遠江の横穴墓には、前面に横穴墓へ至る墓道や祭祀空間と想定される前庭（墓前域）が確認されている。前庭には単独で前庭を有するもの（単独前庭）と、複数の横穴墓で前庭を共有するもの（共有前庭）がある。

これまでの調査研究により、遠江における出現期の横穴墓（６世紀前半～中頃にかけて）は墓道を有するものである。６世紀後半になると前庭を形成するものが出現するが、単独で前庭を構築するもので

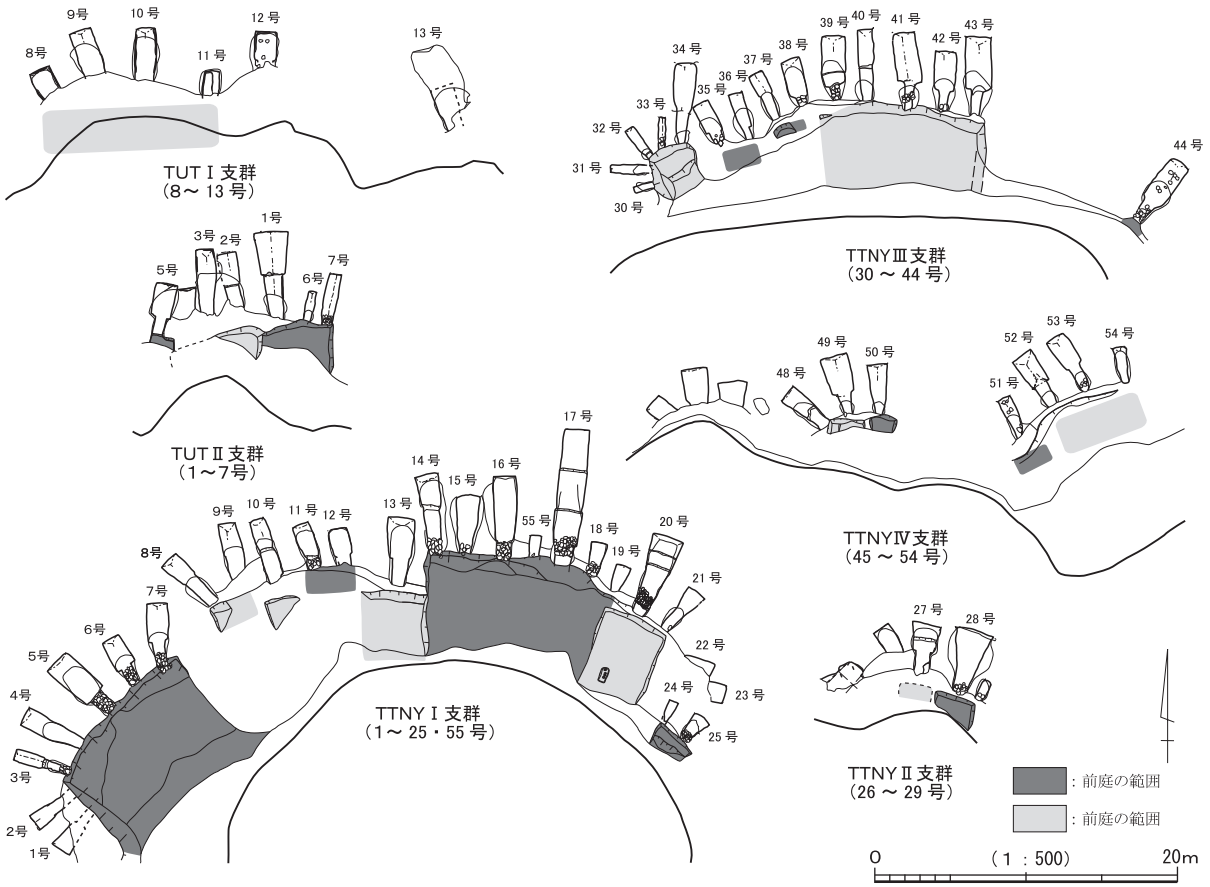
第85表　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の支群・単位群の概要

群	支群	単位群	基数	標高		前庭と開口部		時期				備考
				標高	標高差	高低差	平均	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	
宇藤	Ⅰ	A１	4	68.3～68.9	(0.6)	－	－					
		A２	1	70.1	－	－	－					
		B	1	70.0	－	－	－					
	Ⅱ	A１	1	64.25	－	0.05	(0.05)					
		A２	2	64.7～65.1	0.4	－	－					※３
		A３	1	65.95	－	(1.5)？	(1.5)					※３
		A４	3	66.2～66.6	0.4	0.95～1.0	0.9					
天王ヶ谷	Ⅰ	A	7	60.55～61.25	0.7	0.2～1.0	0.5					
		B１	2	62.6	0	(0.9)	(0.9)					
		B２	1	61.6	－	0.9	(0.9)					
		B３	2	61.35	0	－	－					B４と同一？
		B４	1	60.8	－	－	(1.0)					B３と同一？
		C	7	62.0～62.5	0.5	0.5～1.2	0.9					
		D	4	60.5～61.25	(0.75)	0.5～1.0	0.7					
		E	2	58.6～58.9	0.3	0.4～0.7	0.55					
	Ⅱ	A１	2	53.75～54.3	(0.55)	－	－					
		A２	2	53.55～53.7	0.15	1.1～1.3	1.2					
	Ⅲ	A	5	50.35～50.8	0.45	0.5～0.8	0.7					
		B１	2	50.6～50.8	0.2	－	－					
		B２	2	51.25～51.5	0.25	(0.7)	(0.7)					
		B３	5	50.75～51.3	0.55	0.3～0.7	0.55					※４
		C	1	50.3	－	０？	－					
	Ⅳ	A	3	54.4～54.9	0.5	－	－					
		B１	2	54.45～54.65	0.2	0.4～0.5	0.45					
		B２	1	55	－	0.4	－					
		C	4	54.0～54.5	0.5	－	－					２単位群か
合計	6	25	68									

単位(m)

築造　推定

※１　標高差＝単位群内の開口部の標高差。括弧内は開口部が失われているため残存部分での標高差。
※２　前庭の高低差＝単位群内の開口部と前庭の高低差の平均値。括弧内は単位群中１基しか確認できないもの。
※３　宇藤Ⅱ支群Ａ３単位群の前庭としたものがＡ２単位群の前庭の可能性がある。
※４　天王ヶ谷Ⅲ支群Ｂ３単位群は39・40号墓と41～43号墓の２単位群に区分できる可能性がある。
※５　天王ヶ谷Ⅳ支群Ｃ単位群は、51号墓と52～54号墓の２単位群に区分できる可能性がある。



第239図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の前庭の位置と共有関係

ある。この時期の前庭は基本的に横穴墓の玄室幅と同程度の幅のものが多い。６世紀末葉になると墓道を採用するものは菊川流域を除いて衰退し、単独で前庭を形成するものとともに複数の横穴墓で前庭を共有する共有前庭が出現すると考えられている（大谷2001b・2003b，松井2001a・b）。太田川流域では、墓道を有する横穴墓は確認されておらず、森町谷口横穴墓群（Ｅ－１群）で６世紀末葉の共有前庭が確認されている。

宇藤・天王ヶ谷の前庭　宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群では墓道は形成されておらず、前庭のみ確認した。大部分が複数（２～７基）の横穴墓で前庭を共有するものである。一方で、宇藤５・12・13号墓、天王ヶ谷10・44・50号墓（および51号墓が可能性が高い）については単独で前庭を有していた可能性が高い。なお、天王ヶ谷Ⅰ支群Ａ・Ｃ単位群や天王ヶ谷Ⅲ支群Ｂ３単位群は複数の単位群で構成される可能性があるため、確定的ではない。

単独前庭の変遷　単独前庭の横穴墓は宇藤５・12・13号墓、天王ヶ谷10・44・50号墓の確実な６基が確認できる。最も遡る天王ヶ谷44号墓は羨道の前面が崩落しているため確実に前庭とは認定できないものの羨道の開口部側がやや広がりを見せているため、前庭が形成されていた可能性が高い。この場合は、羨道と前庭との段差はほとんどなかった可能性が高い。袖部の形成が明瞭な宇藤５号墓も段差がほとんどない。一方で、後述するように共有前庭では段差が0.5m以上のものが多くなり、遠江Ⅳ期後半以降に位置づけられる可能性が高い無袖形の横穴墓では１ｍもの段差があるものが存在することから、前庭と開口部との段差が低いものから高いものへ変化したことは明らかである。したがって、宇藤５や天王ヶ谷44から天王ヶ谷10や50号墓へ、単独前庭も高低差が低いものから高いものへ変化した可能性が高い。

共有前庭の変遷　天王ヶ谷Ⅰ支群Ａ単位群（１～７）ではその中心に位置する５号墓は前庭との段差

は0.4mである一方で、前庭の南壁面に開削された１・２号墓は0.8～1.0mと高低差が大きくなる。したがって、時期が新しくなるについて、前庭との高低差が大きくなる可能性が高い。

前庭の変遷　天王ヶ谷横穴墓群で最初期の横穴墓である44号墓が単独前庭である可能性が高いことから、両横穴墓群では単独前庭がまず出現し、つづく遠江Ⅲ期末葉には共有前庭が出現し、遠江Ⅳ期後半まで共有前庭が主体を占めつつも、単独前庭も併存していた可能性が高い。

前庭と開口部との高低差　宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群では、単独で前庭を形成する宇藤５号墓や天王ヶ谷44号墓は前庭と開口部にほとんど段差がない。一方で、これ以外の単独前庭や共有前庭には0.2～1.3mの高低差が確認できる。共有前庭はすべてが高低差を有している。

しかし、共有前庭を採用する横穴墓群でも前庭と開口部に段差がない横穴墓群も確認できる。森町谷口横穴墓群Ｅ－１単位群であり、前庭と開口部に段差がない。開口部と前庭との間の高低差がないものは、天王ヶ谷44号墓が遠江Ⅲ期後葉、同じく谷口Ｅ－１群でも遠江Ⅲ期後葉に位置づけられる。一方で、谷口横穴墓群では遠江Ⅲ期末葉以降、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群でも遠江Ⅲ期末葉以降に形成された横穴墓に伴う単独・共有前庭は開口部との境に高低差が確認できることから、高低差が創出されるのが７世紀前半であることが判明する。そして、７世紀後半以降に位置づけられる可能性が高い小型の横穴墓では0.8～1.3mもあることから、時期が新しくなるにつれて、高低差が大きくなる可能性が高い。

なお、それぞれの共有前庭で中心に位置する、あるいは中心的な存在である、天王ヶ谷５・16・17・20・34号墓などは、共有する前庭の中では高低差が少ないという特徴が確認できる。高低差が高くなるほど新しくなる可能性が高いことから、前庭の中心に位置する横穴墓は、それぞれの単位群の中で古い可能性が高いことが判明する。

前庭と開口部の高低差の意味　前庭と開口部に高低差が出現するのは、伸展葬（肉付きのある遺体）ではなく、白骨化された改葬骨を納めていたことが一因である可能性が高い。重い遺体を抱えて横穴墓内に進入する必要がなくなり、白骨化した人骨や遺物をもって内部へ進入することとなり、軽くなったためであると考える。また、遺体を高い位置に埋葬しようとする意識の表れと想定できる。

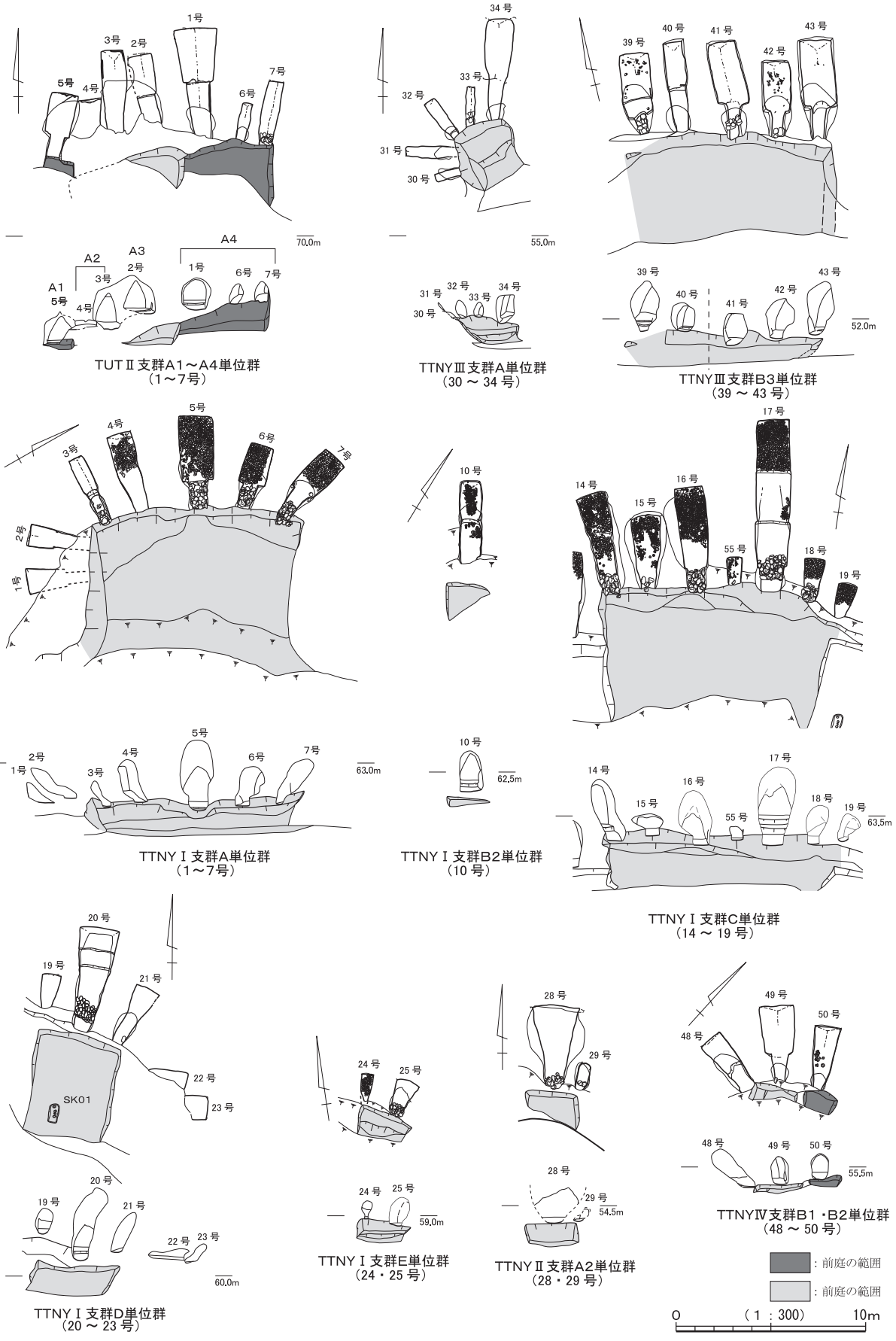
遺体を高い位置に納めようとする意識について、直接的に関連しているかどうか今後の調査研究が必要であるが、千葉県内の横穴墓に玄室内に２m以上も段差を設ける「高檀式」と呼称される横穴墓（西原2010など）が確認されており、横穴墓を構築する集団の中に遺体をより高い位置に埋葬しようとする意識をもつ集団が存在していたと想定できる。今後はこうした遺体をより高位に埋葬しようとする集団間の関連について検討して行く必要があろう。

太田川流域の横穴墓群での情報共有　太田川流域の森町谷口横穴墓群、藪内横穴墓群（森町教委1996）、観音堂横穴墓群（内藤・遠藤ほか1979）でも開口部と前庭との間に段差が確認できることから、太田川流域の横穴墓は形態、壁面の調整方法、前庭の構造が非常に類似しており、情報交換が活発に行われていた可能性が高いといえよう。

（２）前庭からみた単位群について（第240図，第85表）

前庭の構造と単位群　横穴墓群を構築した集団内の関係や単位群のあり方を示すため、前庭の共有関係の認定については、慎重を期す必要がある。

これまでは横穴墓同士が近接しており、前庭を共有しているように見えれば共有前庭として認定されていた。しかし、それぞれの共有前庭とされた横穴墓同士を観察すると、開口部の床面に１m以上の高低差があるものまで単純に共有前庭と認定していることがあった（大谷2003b）。宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の調査では、隣接して築かれた前庭の壁面が、崩落して、共有前庭を有するように見えるものがあることがわかった。天王ヶ谷Ⅰ支群Ｃ・Ｄ単位群のように、Ｄ単位群の前庭がより深く掘削されていたた



第240図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の前庭と開口部の関係

めＣ・Ｄ単位群が区分可能であったが、Ｄ単位群の前庭がもっと高い位置にあった場合、同一の共有前庭を有すると誤認する可能性もある。しかし、Ｃ・Ｄ単位群は開口部の高さに１ｍ以上の高低差があることから、単位群の認定にあたっては、隣接する横穴墓同士の開口部の高低差の確認が必要となる。では、どの程度の標高差までが同一の共有前庭にあるのか。

宇藤、天王ヶ谷横穴墓群で前庭を共有することが確実な単位群内での開口部の標高差は、宇藤Ⅱ支群Ａ４単位群で0.4m、天王ヶ谷Ⅰ支群Ａ単位群で0.7m、Ｃ単位群で0.5m、Ｄ単位群で0.55m、Ⅲ支群Ａ単位群で0.5m、Ⅳ支群Ｂ１単位群で0.2mである。一方で、隣接して同一単位群に見える横穴墓、たとえば宇藤Ⅱ支群２～４号墓では1.2m、天王ヶ谷Ⅰ支群８～12号墓では、８・９号墓と10～12号墓の間に１～1.3m、天王ヶ谷Ⅰ支群Ｃ単位群とＤ単位群との間に1.3mの標高差がある。

つまり、遠江の他の事例の検討を勘案して（大谷2003b）、前庭を共有すると判断する場合は開口部の標高差が0.5m以内で、１ｍを超える場合には別の単位群と想定したほうが良い（大谷2003b）。0.5～1.0mの場合は個別の判断によることになるが、おおむね0.7m程度までが許容範囲であろう。

この判断基準に基づき、宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群の単位群を認定したのが第23・85表であり、宇藤横穴墓群はⅡ支群７単位群、天王ヶ谷横穴墓群はⅣ支群19支群に区分できる。前庭の共有・非共有から、１基単独で単位群を形成するもの、２～７基で単位群を形成するものがあるが、２～５基で単位群を形成するものが多いといえる。

古墳時代後期後半以降、同一家族による累代的な築造と想定されることが多いが、宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群の場合、７世紀前半に築造が開始された横穴墓が多く、８世紀前半まで開削された横穴墓は多くはないため、５～７基で構成される単位群は単一家系による累代的な築造とは考え難い。すぐに明らかにはできないが、同一単位群中でも同時期に築造されたものがあることから、注意が必要である。

内部施設からみた単独前庭の特異性　内部施設の報告でも記述したように棺台を設置する横穴墓（宇藤12号墓，天王ヶ谷44・51号墓）は単独で前庭を有していた可能性が高く、他の敷石を設置する横穴墓を構築した集団とは何らかの性格差があった可能性がある。敷石を設置する築造集団の中に棺台を設置する集団が混在し、後者は連続的に横穴墓を築造しなかった可能性がある。

４　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の変遷過程

（１）宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の横穴墓の変遷（第241～243図）

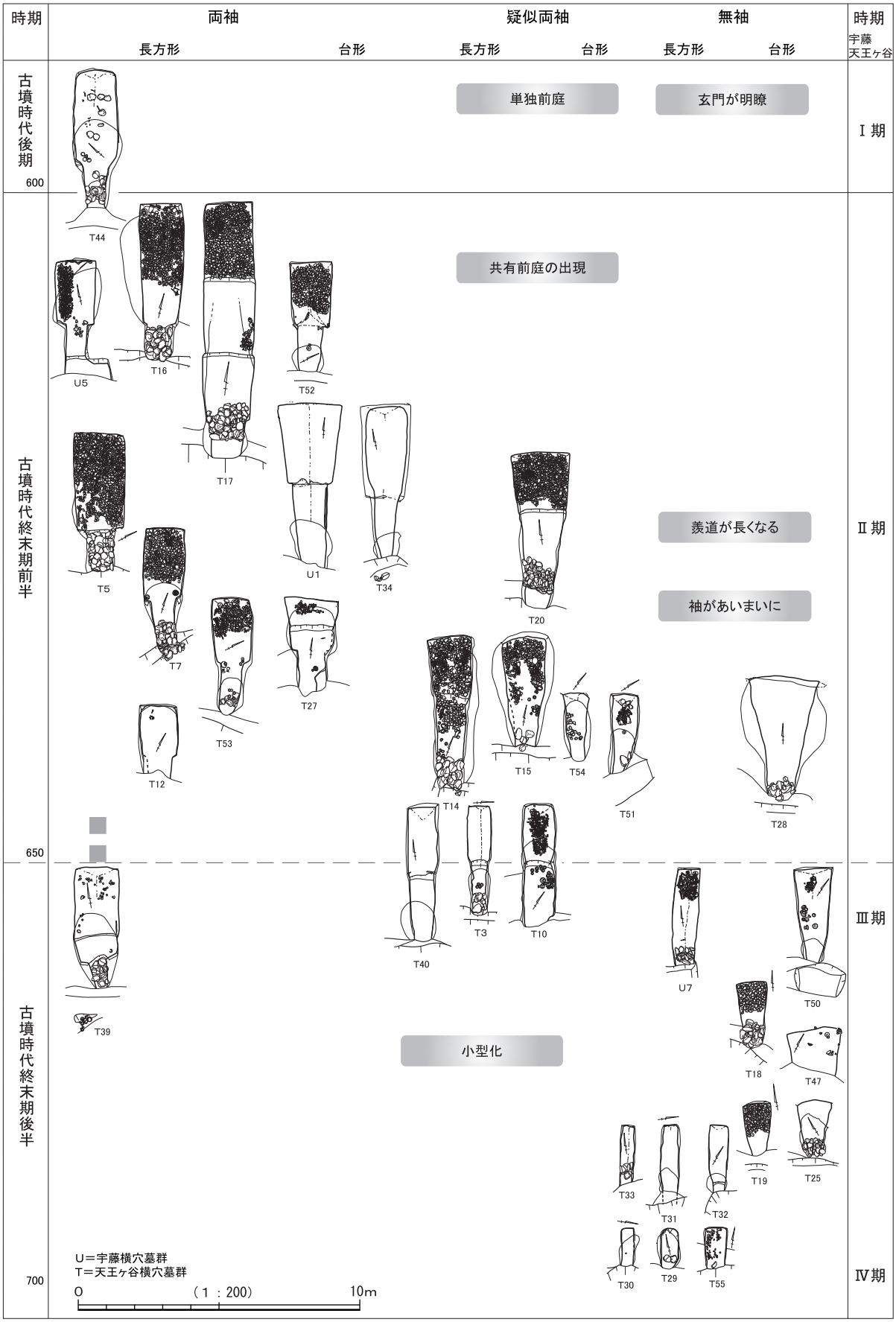
上述した平面形態を基本として、宇藤、天王ヶ谷横穴墓群の変遷について考えておきたい。

当横穴墓群から出土した土器や遺物から、最も古いものは遠江Ⅲ期後半（TK209型式併行期，６世紀末～７世紀初頭）で、最も新しいものは遠江Ⅴ期前半（８世紀初頭～前半）であった。ここでは、土器を中心として時期区分を行いたい。

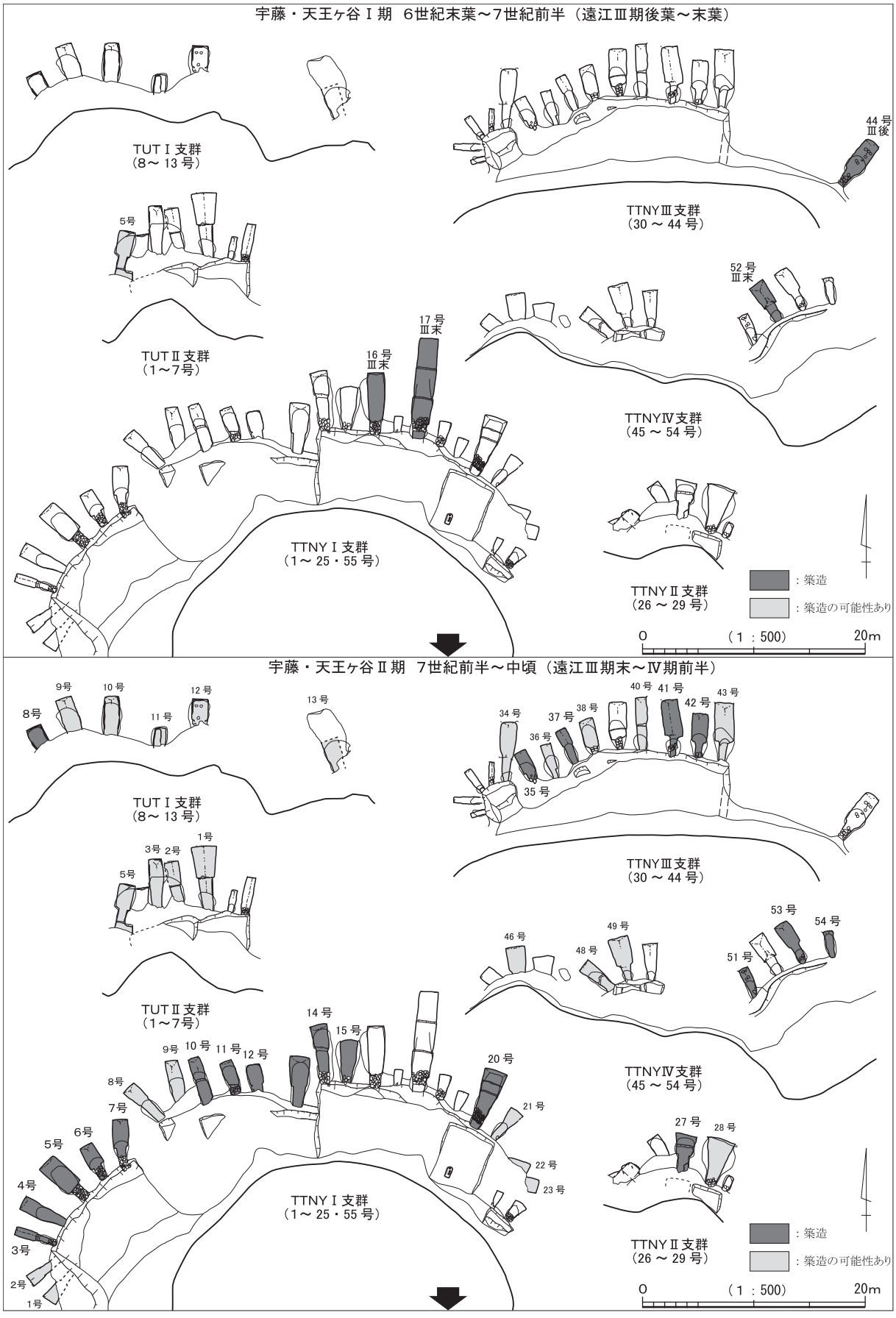
宇藤・天王ヶ谷Ⅰ期を遠江Ⅲ期後葉～末葉（６世紀末～７世紀第１四半期）、Ⅱ期を遠江Ⅳ期前半（７世紀前葉～中葉）、Ⅲ期を遠江Ⅳ期後半～末葉（７世紀後半～末）、Ⅳ期を遠江Ⅴ期前半（８世紀初頭～前半）とする。

宇藤・天王ヶ谷Ⅰ期（横穴墓の出現期）　両横穴墓群の中で最も遡るのは、遠江Ⅲ期後葉に位置づけられる天王ヶ谷44号墓である。森地域で同時期の横穴墓は谷口Ｅ－１号墓であり、森地域内では最初期の横穴墓である。森地域内の横穴墓の成立は、尖頭アーチ形天井で縦長長方形の存在が確認されている北部九州、豊前地方からの影響により成立したと想定されている（大谷2001b，松井2001a・b）。

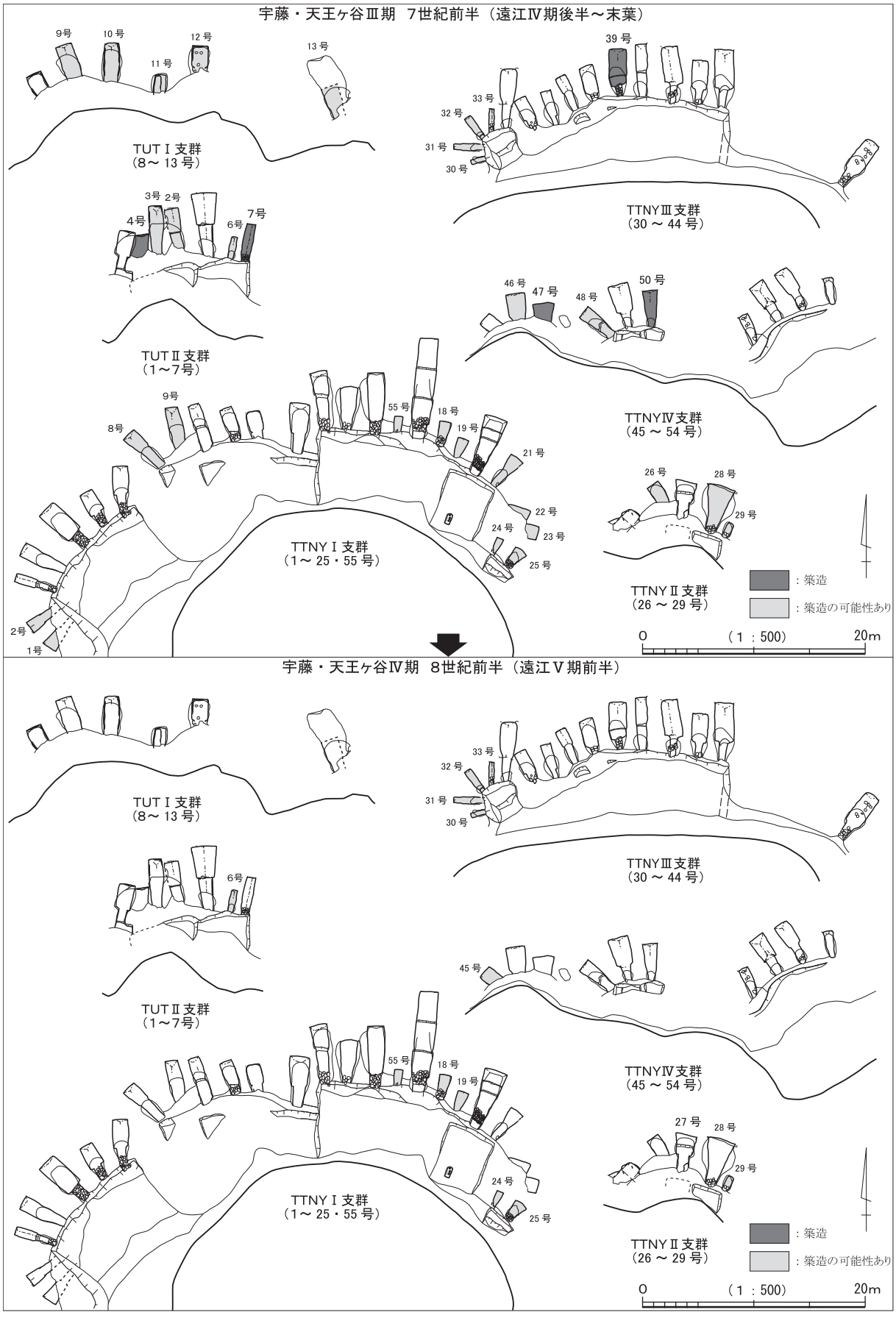
天王ヶ谷44号墓と確実に同時期に位置づけられる横穴墓はなく、続く遠江Ⅲ期末葉に天王ヶ谷16・17・52号墓が築造された可能性が高い。また、前庭との段差がほとんどない宇藤５号墓がこの時期かあるいは44号墓と同時期の築造の可能性がある。この時期に宇藤Ⅱ支群、天王ヶ谷Ⅲ支群、天王ヶ谷Ⅳ支



第241図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群変遷図①



第242図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群変遷図②



第243図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群変遷図③

群など複数の支群で築造が開始されている。この段階では両袖式のみで、袖部の幅が広いものである。

宇藤・天王ヶ谷Ⅱ期（横穴墓の盛期）　遠江Ⅳ期前半に至ると、活発に横穴墓が築造され、最も築造数が多い時期にあたる。すべての支群で築造が行われている。文殊堂古墳群は５号墳がこの時期まで追葬が行われていた可能性があるものの、文殊堂古墳群では古墳の築造は終了している。副葬遺物をみても、円田丘陵では古墳と横穴墓との大差はなく、埋葬施設による階層差がほとんど確認できない段階である。

Ⅱ期にはⅠ期と同様袖部が明瞭な両袖式が確認できるとともに、時期が新しくなる（７世紀中葉）につれて、疑似両袖式や無袖形が出現する。また、両袖式、疑似両袖式ともに羨道長が玄室長と１：１程度まで長くなる傾向が確認できる。

宇藤・天王ヶ谷Ⅲ期（横穴墓の衰退期）　遠江Ⅳ期後半になると、築造数も減少する（註１）。両袖式がほとんど確認できなくなり、疑似両袖式、無袖形が主体となる。横穴墓に規模はⅡ期と比較し、かなり小型化した可能性が高い。また、内部施設をもたないものが増加した可能性が高い。各支群ともに数基が築造された可能性が高いが、Ⅱ期に比べれば築造数は激減している。

宇藤・天王ヶ谷Ⅳ期（横穴墓の終焉）　遠江Ⅴ期前半まで確実に埋葬が行われたのは、天王ヶ谷45・47号墓のみであり、追葬が行われた可能性が高い。これ以外では副葬品が出土していないことから時期を特定できないが、２ｍ未満の小型の横穴墓（天王ヶ谷29・30号墓）がこの時期に築造された可能性がある。２ｍを超えるような横穴墓はⅢ期までの築造であり、Ⅳ期までは継続しなかった可能性が高い。各支群ともに１基程度が築造された可能性があるが、Ⅳ期には全く築造が行われなかった可能性も考慮しておきたい。

以上、宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群のおおよその変遷過程について述べた。袖部が明瞭で羨道が短い両袖式から羨道が長く袖部の幅が狭くなる横穴墓、袖部が不明瞭な疑似両袖式へ変化し、最終的に無袖形が主体を占めるようになる。また、時期が新しくなるにつれて、玄室規模が小さくなると想定できる。

５　掘削痕からみた横穴墓壁面の最終調整の特徴

（１）宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の掘削痕の特徴（第244図）

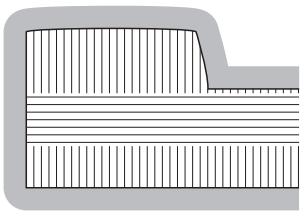
掘削痕の残る横穴墓　宇藤横穴墓群13基、天王ヶ谷横穴墓群55基のうち掘削痕（最終調整痕）が残存していたのは、宇藤横穴墓群１基、天王ヶ谷横穴墓群10基程であるが、多くが部分的な残存に留まり、全体的な掘削が想定できるのは天王ヶ谷49・52号墓と宇藤７号墓の３基のみである。

掘削痕の特徴　天王ヶ谷49・52号墓の残存状況が良好である。両横穴墓ともに上部を縦・斜め方向、中央を横方向、下部を縦方向に調整している。この他の４ｍを超えるような大型の横穴墓でも部分的に調整痕が確認でき、49・52号墓の調整と同様の特徴を有している。つまり、大型横穴墓の最終調整は、上部は天井から下に向かって縦方向（垂直）あるいは斜めに削り、中央部は横方向に削る。下部は縦方向あるいは斜め方向に削る方法（以下，Ｂ調整とする）であったと想定できる。

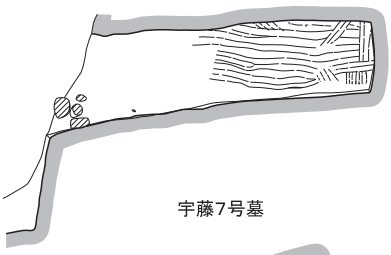
また、小型の横穴墓は、宇藤７号墓の事例から、上部は斜めに、下部は横方向に調整している。立つことができない天井が低い横穴墓の中では、大型の横穴墓で確認された下部の縦方向の調整を行うことが困難であったため横方向の調整のみを行い、最終的な床面近くの縦方向の調整を省略した可能性が高い。したがって、小型の横穴墓も大型の横穴墓と同じ原理で壁面の最終調整が行われた可能性が高い（Ｂ調整）。

（２）遠江の横穴墓における最終調整痕との比較

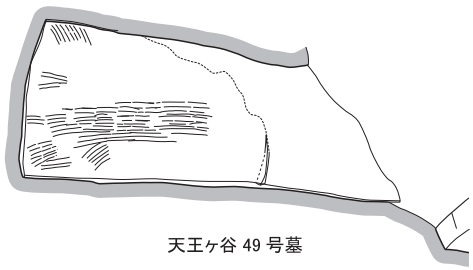
掘削痕の分類　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の掘削痕の特徴については天井付近を縦（床面に対



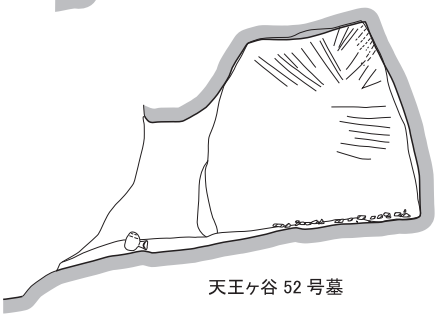
掘削痕　縦＋横＋縦方向（B調整）模式図



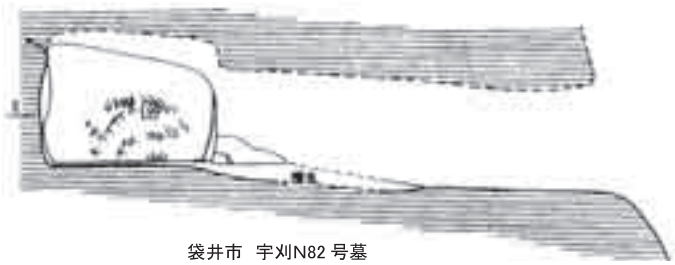
宇藤7号墓



天王ヶ谷 49 号墓

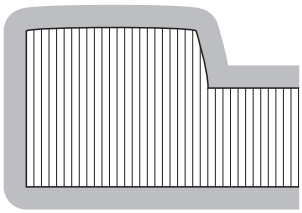


天王ヶ谷 52 号墓



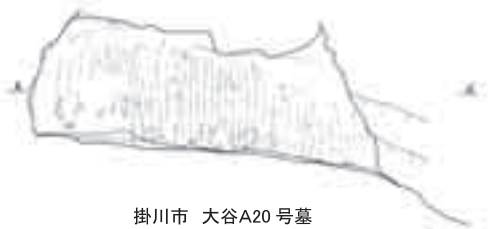
袋井市　宇刈N82 号墓

袋井市　宇刈N83 号墓



掘削痕　縦方向（A調整）模式図

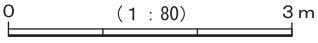
掛川市　大谷代A24 号墓



掛川市　大谷A20 号墓

菊川市　東平尾しいでの1号墓

御前崎市　南谷A1号墓



第244図　遠江における横穴墓の掘削痕

して垂直あるいは斜め）方向、中央を横方向（床面に対して平行)、床面近くを縦（あるいは斜め）方向に掘削する横穴墓が多いことが判明した。この調整方法を縦横縦の調整（Ｂ調整）とする。

一方で、遠江の横穴墓には縦（あるいは斜め）方向の調整のみを行う（Ａ調整）横穴墓も存在する（大谷2001b)。全国的にみると、Ａ調整を行う横穴墓が多いように感じられるが、その傾向や分布の特徴についての検討はなされていない。

以下では、遠江における両者の事例とその特徴について簡単にみておきたい。

縦横縦の調整（Ｂ調整）を行う横穴墓　宇藤７号墓、天王ヶ谷49・52号墓以外では、袋井市春岡横穴墓群、道ヶ谷横穴墓群、森町観音堂横穴墓群、掛川市楠ヶ谷横穴墓群などで確認されている（大谷2001b，註２)。いずれも横穴墓の横断面が尖頭アーチ形を採用する地域の横穴墓である。横穴墓形態と掘削方法が組み合わされていた可能性が高いことが判明し、これらの横穴墓群間は横穴墓構築に対する形態以外の細かい情報まで共有していたことが判明する。

縦調整のみ（Ａ調整）を行う横穴墓　一方、筆者も報告に関わった掛川市大谷Ａ20号墓（静岡埋文研2000）では、天井から床面まで一直線に縦方向に削り取られている。また、掛川市（旧大東町）大谷代Ａ24号墓（静岡県考古学会2001）でも床面近くは斜め方向であるが、基本的にＡ調整である。さらに、菊川市東平尾しいでの１号墓（静岡県考古学会2001）も縦方向の調整が確認できるＡ調整である。この３者はいずれも宇藤・天王ヶ谷横穴墓群と同様の尖頭アーチ形天井の横穴墓であるが、その壁面調整原理は共有していない。また、平面形態も東平尾しいでの１号墓は正方形に近いもので、大谷Ａ20号墓は横長長方形であり、太田川流域の横穴墓形態とは異なる。

また、天井形態は異なるが、御前崎市南谷横穴墓群（静岡県考古学会2001）などでも縦調整のみを実施している。菊川流域ではＡ調整が一般的であった可能性が高い。

調整痕からみた遠江の横穴墓　横穴墓は壁面が崩落していることが多く、また古い時期の調査では記録がないものがあるためすべてを比較することは困難であるが、上述したようにＡ調整と、Ｂ調整が存在する。全国的にみた場合、Ａ調整が一般的である可能性が高い中で、尖頭アーチ形天井の太田川流域の横穴墓（宇藤・天王ヶ谷，春岡）や原野谷川中流域の横穴墓（楠ヶ谷）にＢ調整が存在しており、排他的かどうかは今後の調査を俟って検討しなければならないが、太田川流域と原野谷川中流域の地域的特徴がある。つまり、太田川流域、原野谷川中下流域の尖頭アーチ形の横穴墓の築造者集団は形態的な情報だけではなく、最終調整の情報までを共有する非常に緊密性の強い（紐帯の強い）集団であったことが想定できる。一方で、逆川流域や菊川流域に確認される尖頭アーチ形の横穴墓築造集団とは形態的な情報を共有していた可能性があるが、細かな部分までは情報共有していなかった可能性が高いだろう。

他地域での類例　尖頭アーチ形天井は豊前や出雲など多地域で確認されているが、このうち出雲の三刀屋町の太田２号墓が上部を斜め、中央を横方向に掘削している（大谷晃2001-図１）ことから、Ｂ調整と想定できる。したがって、横穴墓形態とともに掘削方法も類似している。遠江と出雲の直接的な関係は現状では窺えないが、尖頭アーチ形天井形態の横穴墓の各地への伝播とともに掘削方法についても伝播していた可能性が想定できる。

第２節　副葬品からみた特徴

１　須恵器・土師器の特徴

（１）須恵器と土師器の割合（第245・246図，第86表）

須恵器と土師器の割合については、宇藤横穴墓群は残存状況が良好でないことが要因であるが、土師器は小片１点のみで、それ以外は須恵器である。天王ヶ谷横穴墓群では、178点の出土土器の75％が須恵器（134点）である。須恵器の割合が多いが、土師器（44点，25％）も一定量副葬されている。

（２）須恵器の器種構成について（第245・246図，第86表）

須恵器の副葬器種について　宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群においては、杯類（杯H蓋・杯H，返蓋・無台杯，摘蓋・有台杯）、無蓋長脚高杯、無蓋短脚高杯、蓋付短頸壺、脚付長頸壺、平瓶、フラスコ瓶、提瓶、坩が出土した。一方、瑞は全く出土していないことは注目に値する。瑞が供給されなかったのか、あるいは当横穴墓群では瑞を利用した祭祀や副葬が行われなかった可能性もある。

副葬器種の割合　これらの器種の中で杯類を主体とし、平瓶が多く出土している。その他の器種は少なく２～５基で出土するのみである。ほぼ同時期に形成された浜松市浜北区大屋敷Ｃ古墳群（静岡埋文研2004b）も同様の器種が副葬され、杯類が主体であることは同様であるが、杯類以外の数量が両横穴墓群と比較すると多い。宇藤・天王ヶ谷横穴墓群築造集団への須恵器の供給量が少なかった可能性が高いが、中でも壺瓶類の供給が少なかったといえる。

（３）土師器の器種構成について

土師器の副葬について　土師器については、土器が出土した横穴墓すべてに副葬されていたわけではなく、天王ヶ谷３・５・６・13～16、50、52～54号墓であり、宇藤４号墓（註３）、天王ヶ谷７・10・17・44号墓は須恵器が複数個体埋葬されているものの、土師器は１点も副葬されていないという違いがある。

土師器の副葬器種　杯（註４）、高杯、脚付盌、鉢、把手付鉢、鉄鉢形鉢、壺、甕が出土した。

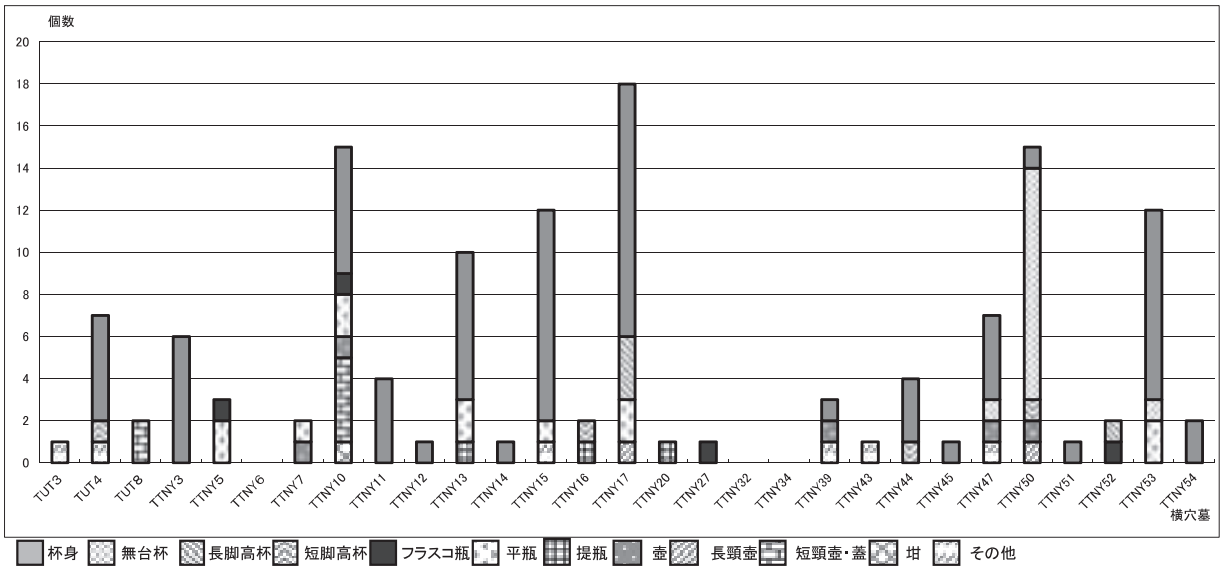
なお、遠江の集落遺跡で多く出土する大型台付甕は確認されない。大型台付甕は古墳に副葬される物品ではないと位置づけられていたのであろうか。

土師器の副葬の意味　天王ヶ谷５・６・14・16号墓については杯

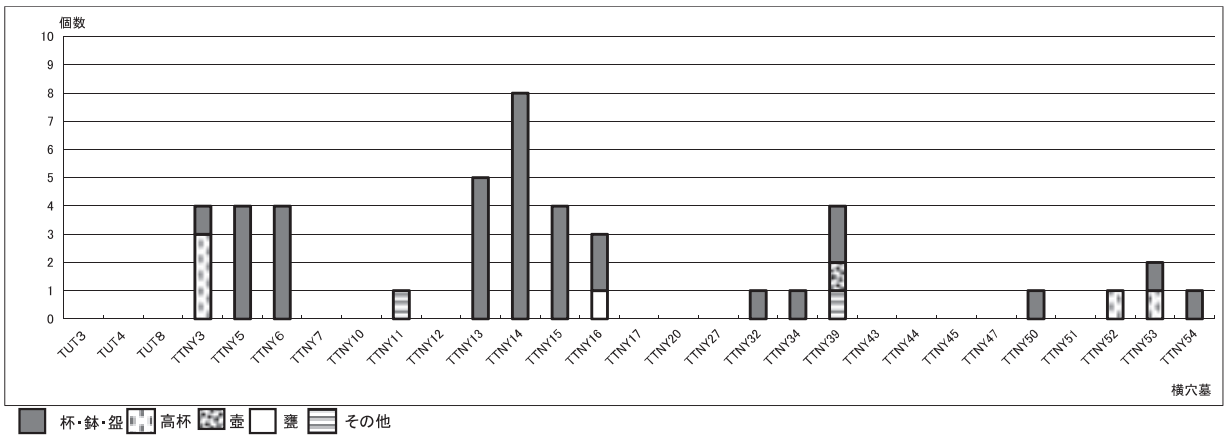
第86表　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土須恵器・土師器の器種と数量

群	横穴墓	須恵器														土師器					合計
		杯①	杯②	杯③	長脚高杯	短脚高杯	フラスコ瓶	平瓶	提瓶	壺	長頸壺	短頸壺	坩	その他	杯・鉢・盌	高杯	壺	甕	その他		
宇藤	３号墓													1							1
	４号墓	4		1		1								1							7
	８号墓											2									2
天王ヶ谷	３号墓	6													1	3					10
	５号墓						1	2							4						7
	６号墓														4						4
	７号墓							1		1											2
	10号墓	6					1	2		1		4	1								15
	11号墓	4																		1	5
	12号墓	1																			1
	13号墓	7						2	1						5						15
	14号墓	1													8						9
	15号墓	10						1						1	4						16
	16号墓					1			1						2				1		5
	17号墓	12			3			2			1										18
	20号墓								1												1
	27号墓						1														1
	32号墓														1						1
	34号墓														1						1
	39号墓	1								1				1	2		1		1		7
	43号墓													1							1
	44号墓	3				1															4
	45号墓			1																	1
	47号墓		1	4						1				1							7
	50号墓	1	11			1				1	1				1						16
	51号墓	1																			1
	52号墓				1		1									1					3
	53号墓	8	1	1				2							1	1					14
	54号墓	2													1						3
合計		67	13	7	4	4	4	12	3	5	2	6	1	6	35	5	1	1	2		178

※杯①=杯(H)身(杯H)　杯②=返蓋・無台杯
　杯③=有台杯・摘蓋　短頸壺=短頸壺・短頸壺蓋



第245図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土須恵器の器種と数量



第246図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土土師器の器種と数量

類が主体に土師器が副葬されているが、これらの横穴墓は須恵器杯類が副葬されていないか少ないため、須恵器杯類の代用品の可能性がある。一方で、13・15号墓は須恵器杯類・土師器杯類も副葬されており、上記の想定は成り立たないが、須恵器の副葬品の量が多い天王ヶ谷10・17号墓には１点も土師器はないことから、杯類に関しては必要量を確保するために土師器で補った可能性を想定したい。

一方で土師器にしかない形態のミガキ調整する鉄鉢形鉢や杯、把手付鉢、甕等の器種は必要性に応じて副葬されていた可能性がある。

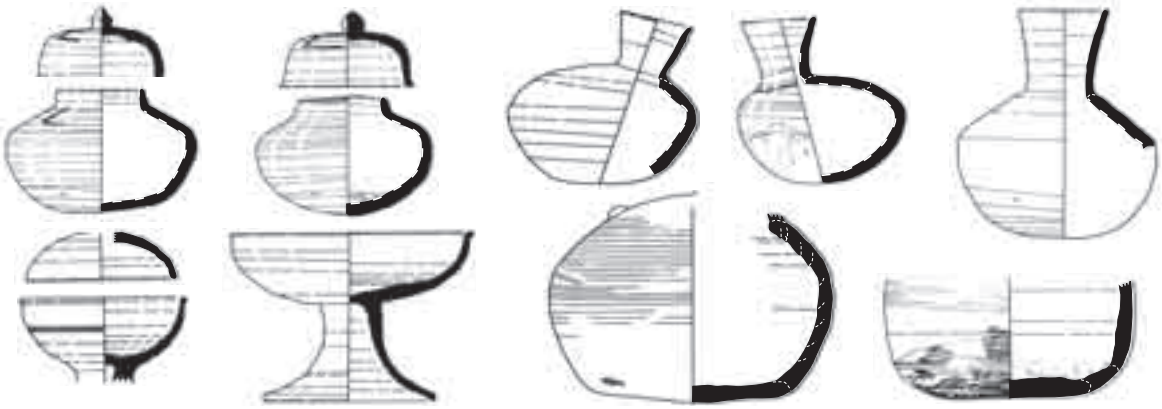
なお、土師器の副葬量が多い横穴墓は天王ヶ谷Ⅰ支群Ａ単位群、Ｃ単位群に纏まっており、土師器を副葬することに意味付けを行っていた（意義を見出していた）集団である可能性もある。

（４）須恵器の産地について（第247・248図，第87表）

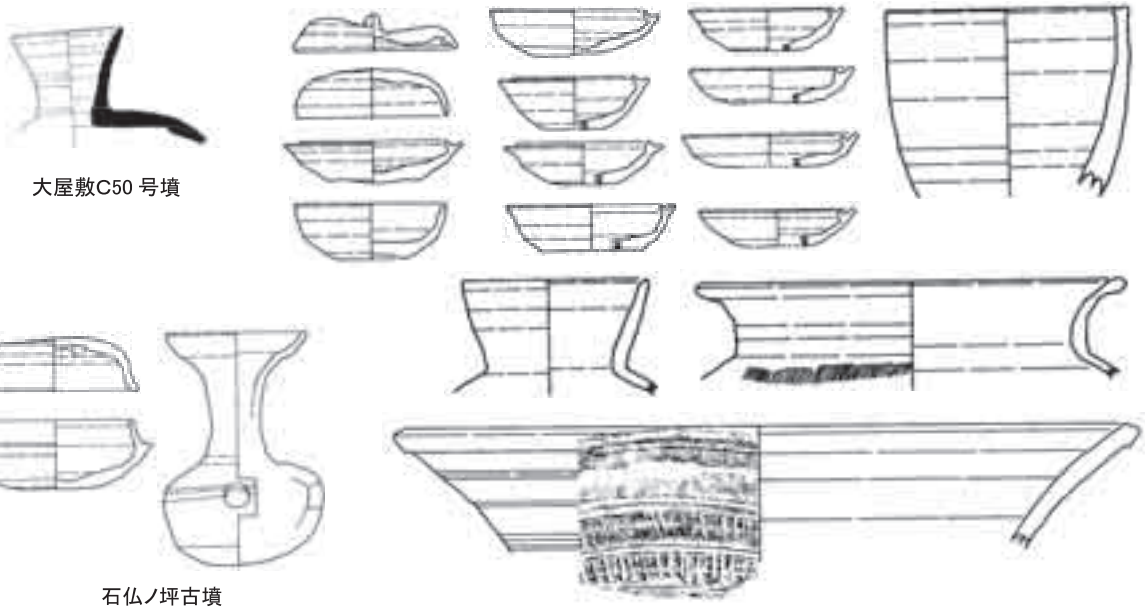
宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群から出土した須恵器のうち、色調・胎土や形態的特徴から湖西産が多数を占めるが、明らかに湖西産ではない、別の産地であるものがある。

湖西産以外の須恵器　湖西産以外で、同様の胎土や色調を呈する須恵器を第247図に示した。それらは森町森地区の丘陵斜面に所在する森山古窯群産（註５）と推測する須恵器である（註６）。

これらの器種は、杯蓋、短頸壺、短頸壺蓋、坩、平瓶、高杯、広口壺であり、白色の砂を胎土に含み、



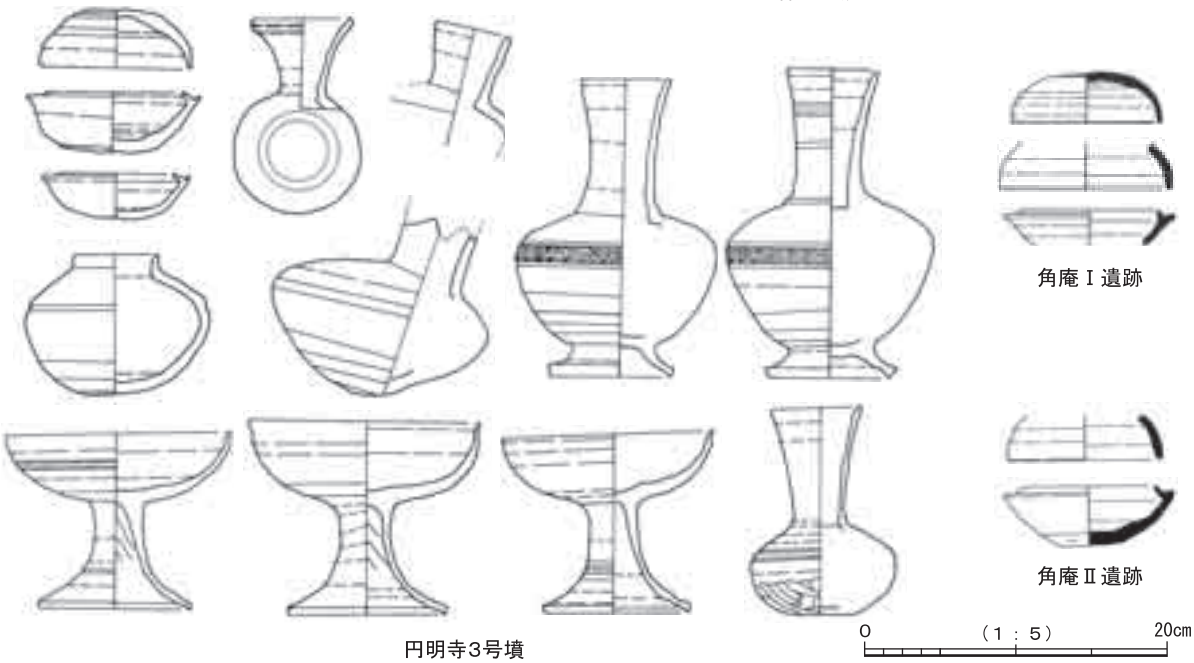
天王ヶ谷横穴墓群



大屋敷C50 号墳

石仏ノ坪古墳

森山古窯



角庵Ⅰ遺跡

角庵Ⅱ遺跡

円明寺3号墳

0　（1：5）　20cm

第247図　森山古窯群産須恵器集成図

第87表　森山古窯群産須恵器出土遺跡地名および出土器種

遺跡名	所在地	杯	高杯	平瓶	壺	横瓶	短頸	長頸	甕	その他	数	時期	備考	文献
森山古窯	森町	■	■	■	■	■	■	■	■	鉢		7CL	森山古窯群	森町史1998
西金谷古窯									■			7CL		
角庵Ⅰ遺跡	掛川市	■										7CE		静岡県埋文センター2012
角庵Ⅱ遺跡		■										7CE		
谷口横穴墓群	森町	■	■	■			■					6CL		森町教委1996
薮内横穴墓群		■	■	■								7C		
観音堂横穴墓群		■	■	■			■	■				6C末		森町史編さん委1998
菖蒲ヶ谷８号墳		■										6C末		
円明寺３号墳		■	■	■			■	■				7CE		
石仏ノ坪古墳		■	■	■						壺		TK209		
天王ヶ谷５号墓				■							2	7CE		本書
天王ヶ谷10号墓				■	■		■			坩	6	7CL		
天王ヶ谷39号墓		■		？							2	7CE	平瓶か	
天王ヶ谷50号墓			■								1	7CL		
天王ヶ谷52号墓			■								1	6C末？		
大屋敷C50号墳	浜松市浜北区			■							1	7CE～		静文研2004b

時期　C＝世紀　E＝前半、L＝後半　6C末＝６世紀末～７世紀前半

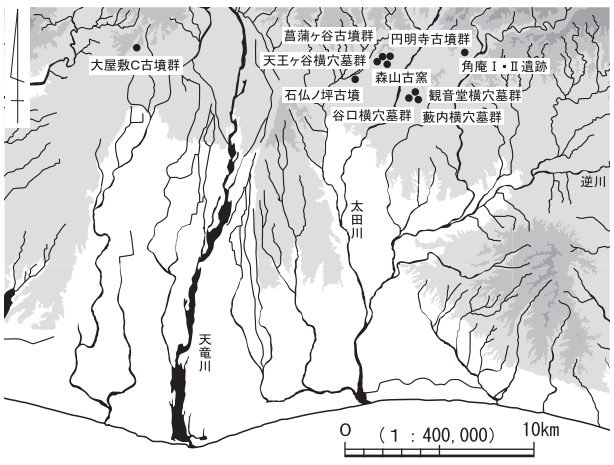
断面の色調がセピア（暗赤褐色）を呈する。表面は（黒みがかった）赤灰色、赤褐色、黒褐色に発色しているものが多い。湖西産に比べ厚手のものが多い。また、平瓶の成形技法（平底や風船技法の利用方法）や高杯の口縁部の形態、カキメ調整の多用など湖西窯とは異なる特徴を有する。

天王ヶ谷横穴墓群と森山古窯群との距離は３㎞以内であり、近接する菖蒲ヶ谷８号墳でも供給を受けていることから、やはり森山古窯群産の製品である可能性が高い。

森町森山古窯群生産品　森山古窯群は現状で森山古窯と西金谷古窯の２基が確認されている。調査されたことがないため詳細は不明確であるが、森山古窯は、杯身・杯蓋、甕を中心に、高杯・平瓶・横瓶・長頸壺・鉢が焼成されている。西金谷古窯では甕が採集されている（森町史編さん委1998）。

森山古窯群は杯類・甕を中心に多器種を生産している。特定器種に特化しているわけではなさそうで、さまざまな形態を焼成していた可能性が高い。

分布範囲　森山古窯群と想定される須恵器について、森町教育委員会によれば、いずれも森町内の円明寺３号墳、菖蒲ヶ谷８号墳、観音堂６号横穴墓などに類似する製品が確認できるという（森町史編さん委1998）。また、筆者が報告書を作成した古墳群や遺跡の資料を確認すると、浜松市浜北区の大屋敷C50号墳出土平瓶（静岡埋文研2004b）や角庵Ⅰ・Ⅱ遺跡出土杯蓋・杯身（静岡埋文センター2012）に確認できる。このことから少なくとも森山古窯群産須恵器は、西は天竜川平野北部から東は掛川市の原野谷川上流域まで流通していた可能性が高い。これは天竜川平野北岸から豊岡を抜け、森を通り掛川へ抜ける交通ルート上に分布しているといえ、このルート沿いに供給が行われた可能性が高い。裏返せば、このルート上にある集団間での交流があったことが想定できる。



第248図　森山古窯群産須恵器出土遺跡分布図

ただし、森山古窯群産須恵器が確認された遺跡や古墳群・横穴墓群についても湖西産須恵器が圧倒的多数を占めており、それを補う形で流通していた可能性が高い（森町史編さん委1998）。

副葬の特徴　また、大屋敷C50号墳は１点のみであったが、天王ヶ谷10号墓は蓋付短頸壺２組、平瓶など６点、天王ヶ谷５号墓は平瓶２点が副葬されている。須恵器が副葬された横穴墓は多いが、

森山古窯群産須恵器を副葬する横穴墓は多くなく、供給された数量は少ないものの、特定の横穴墓の築造集団が入手あるいは供給されていた可能性が高いといえる。

また、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群では、上述したように湖西産須恵器は壺瓶類等の供給量が少なかったようで、森山古窯群からは壺瓶類や高杯を中心に供給を受けていた可能性が高い。

森山古窯群産須恵器のヘラ記号　天王ヶ谷10号墓からは総数６点の森山古窯群産須恵器が出土しているが、このうち短頸壺１、短頸壺蓋２、平瓶１点の４点に「Ｌ」字形のヘラ記号が刻まれていた。また、50号墓出土の高杯の杯部や10号墓出土の壺の頸部外面、５号墓出土平瓶と思われる壺瓶類の底部に格子のヘラ記号が刻まれている。このようなＬ字形や格子のヘラ記号があり、須恵器の断面が白色砂を含むセピア系の色調であった場合は、森山古窯群産との比較が必要であろう。

２　武器の特徴

（１）副葬された武器からみた宇藤・天王ヶ谷横穴墓群（第250図）

副葬された武器の種類　宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群から出土した武器の種類は大刀、短刀、鉄鏃、弓両頭金具であり、金銅装の装具で飾られた装飾付大刀や、金銅装で飾られたあるいは鉄製の馬具も出土していない。

また、武器が出土している横穴墓でも出土数は多くなく、大刀１点、鉄鏃10点未満、弓両頭金具数点である。古墳時代当初の状態を保持している、大型の横穴墓である天王ヶ谷５・14～17・52・53号墓などであり、盗掘を受けた横穴墓に遺物があったと仮定しても武器が多量に副葬されていたと想定できない。第256図に示した、両横穴墓群に近在する林５号墳などの武器の出土量と比較した場合、その差は歴然とし、当横穴墓群は決して武器の副葬量が豊富とは言えない。

武器の副葬の種類や数量からすれば、両横穴墓群の築造集団は軍事色が薄い集団だった可能性が高い。

武器副葬横穴墓と被葬者の性別　女性のみが出土した天王ヶ谷７・20号墓や、成人女性と子供の組み合わせの天王ヶ谷51号墓では鉄鏃は出土していない。一方で、成人男性が出土した宇藤７号墓、天王ヶ谷13・14号墓では刀子のみで大刀や鉄鏃等の武器は出土していない。

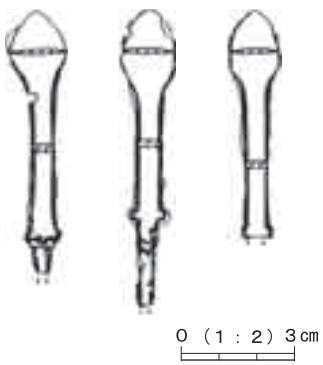
これらの事例からは、清家章氏の研究による女性に鉄鏃を伴うものが少ない傾向と合致する（清家1996）。一方で、男性が埋葬された横穴墓にも鉄鏃を伴わないものが確認できることから、鉄鏃の副葬については、男性だからといって必ず副葬されるような一般的なものではなかったことが明らかとなる。

（２）鉄鏃の特徴（第249図）

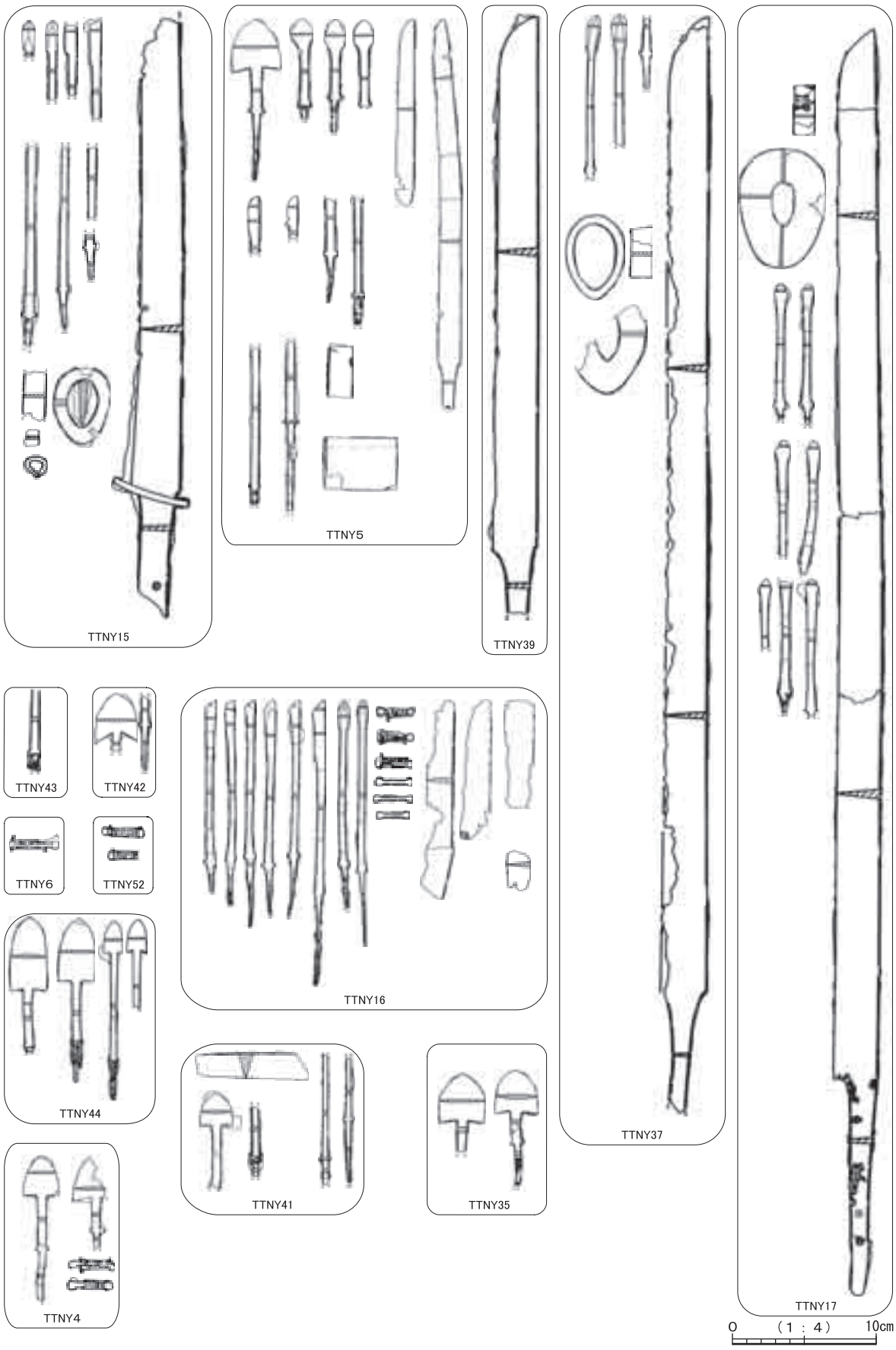
特異な形態　天王ヶ谷５号墓から出土した短頸尖根式あるいは平根式に類する鉄鏃３点（第249図）は、圭頭式あるいは撫関三角形式とするような形状を示し、太田川流域をはじめ遠江では類例を見ない形態の鉄鏃である。また、鏃身が非常に薄い特徴がある。また、長頸式鉄鏃の茎関は、通常たたき出す一方で、天王ヶ谷５・41号墓のものは鉄棒に針金を巻き付けるあるいは、針金で補強したような痕跡が確認できる。

このような特徴的な形態や、特徴的な茎関の形成からみると、近隣に鉄鏃を生産するような工房が存在していた可能性がある。

鉄鏃副葬の特徴　天王ヶ谷横穴墓群では上述したとおり副葬された武器は少なく、鉄鏃の数量も多くない。しかし、副葬された鉄鏃の数量に特徴的な点があるためここに記しておきたい。



第249図　天王ヶ谷５号横穴墓出土の特異な鉄鏃



第250図　天王ヶ谷横穴墓群出土の武器

天王ヶ谷44号墓では若干の形態差はあるものの長三角形式２点と腸抉三角形式２点、天王ヶ谷15号墓では柳葉式２点、片刃箭式２点、天王ヶ谷37号墓では柳葉式２点、天王ヶ谷16号墓では柳葉式２点、天王ヶ谷35号墓では三角形式２点の副葬が確認できる。天王ヶ谷４号墓では腸抉の有無はあるが三角形式２点の副葬である。

したがって、鉄鏃を副葬するにあたり、特定の形式を２本を１組として副葬した可能性があることを明記しておきたい。同形態の鉄鏃２点を一組で副葬する事例は弥生時代終末期から確認できるようであり、当横穴墓群でもそのような志向があった可能性がある。

３　紡錘車と砥石

（１）紡錘車を副葬する古墳時代後期～終末期の古墳・横穴墓について（第88表）

天王ヶ谷横穴墓群では20・30号墓から紡錘車が１点ずつ出土した。20号墓では耳環２点、刀子、紡錘車１点、30号墓では紡錘車１点のみの副葬という、いずれも副葬遺物が少ない中で紡錘車が副葬されており、紡錘車を副葬するという強い意志があったことは明白である。

紡錘車の分布の特徴　紡錘車は古墳や横穴墓から一般的に出土する遺物ではなく、2001年に作成されたデータベース（静岡県考古学会2001）を確認する限りでは、遠江・駿河・伊豆の横穴墓ではこれまでに出土していないようである。したがって、天王ヶ谷20・30号墓例が駿河・伊豆の横穴墓を含めて県内の横穴墓からの初出土である。

横穴墓や古墳データベース（三河古墳研究会2001）をもとに古墳時代後期～終末期の東海地方の古墳・横穴墓で紡錘車が出土したものを集成したのが第88表である。東海４県の調査・確認された古墳・横穴墓約5500基中35古墳からの出土であり、出土数は１％以下である。三重県14古墳、愛知県６古墳、

第88表　東海地方の紡錘車出土遺跡地名表（古墳時代後期～終末期）

古墳名	県	市町村	墳形	規模	埋葬	全長	幅	材質	副葬品
下中島２	三重	伊賀市	円	16	横石	11.2	2.2		玉類・耳環・馬具・鉄鏃・鉾・紡錘車・須恵器
下中島３		伊賀市	－	－	横石	4.3	1.4		玉類・耳環・刀子・鉄鏃・紡錘車・須恵器
上野新都市86-SX１		伊賀市	円	11	木直			石	玉類・鉄鏃・刀子・紡錘車・須恵器・釘
勝地大坪１		伊賀市	円	12	横石	8.3	1.5		鉄鏃・刀子・紡錘車・須恵器
中村３		名張市	円	11	横石	5	1.8		紡錘車・須恵器・土師器
河田Ａ－４		多気町	円	30	木直				刀子・鉄鏃・紡錘車・鎹・須恵器
河田Ａ－６		多気町	円	30	木直				玉類・馬具・鉄鏃・紡錘車・須恵器
河田Ｂ－１		多気町	円	18	木直				玉類・耳環・刀子・紡錘車・須恵器
河田Ｂ－６		多気町	円	21	木直				玉類・耳環・鉄鏃・紡錘車３・砥石１・須恵器
河田Ｃ－12		多気町	円	14.5	木直				耳環・刀子・紡錘車・須恵器
曽祢崎１		明和町	円	13	木直				刀子・鉄鏃・紡錘車・須恵器
曽祢崎３		明和町	後円？	21+	木直				玉類・馬具・大刀・鉄鏃・紡錘車・土錘・鉄鐸ほか
常光坊谷４		松阪市	円	17.5	木直			石	玉類・大刀・鉄鏃・刀子・紡錘車・須恵器
山添２		松阪市	円	18	木直			石	捩環頭大刀・馬具・斧・石製紡錘車・砥石ほか
船来山O19	岐阜	本巣市	円	13	横石	6.3	1.7	石	耳環・耳環・馬具・大刀・鉄鏃・鑿・砥石ほか
上城田寺２		岐阜市	円	11	横石	6.9	1.6		玉類・耳環・短刀・刀子・鉄鏃・紡錘車・須恵器
山の前１		各務原市	円	14	横石	6	2		玉類・紡錘車・須恵器
杉ヶ洞１		関市	円	17	横石	9.6	1.9	石	耳環・鉄鏃・鎌・紡錘車・金銅製環金具・須恵器ほか
次郎兵衛塚１		可児市	方	3.8	横石	1.7	0.8	鉄	手斧・紡錘車・須恵器
浅井６	愛知	一宮市	円	24	横石	6.40+	1.4		紡錘車・須恵器
山崎		武豊町	－	－	横石	6.2+	1.7	鉄	馬具・鉄鏃・鎌・鉄製紡錘車２・須恵器ほか
岩長ST05		豊田市	円	10.1	横石	4+	1.5	鉄	玉類・耳環・鉄製紡錘車・須恵器
豊田大塚		豊田市	円	37.8	横石	8.7	2.47	石	馬具・胡ロク・大刀・刀子・鉄鏃・紡錘車・須恵器ほか
城山５		豊川市	円	8.5	小石槨	2.05	0.9+	石？	紡錘車・須恵器
段林古墳群		新城市	古墳	－	－	－	－	石	紡錘車・耳環・大刀・鉄鏃
瓦屋西Ｂ３	静岡	浜松市	後円	28.1	木室	3.2	1	土	象嵌装大刀・鈴・土製紡錘車・斧・鎌・須恵器ほか
地蔵平B11		浜松市	円	10.3	横石	4.3+	1.1	石	玉類・刀子・鉄鏃・紡錘車
大門大塚		袋井市	円	26	横石	3.8	1.6	石	トンボ玉・耳環・馬具・鹿角装大刀・剣・鉄鏃ほか
天王ヶ谷20		森町	横穴墓	－	横穴墓	5.6	2.1	石	耳環・刀子・石製紡錘車；(前庭)須恵器
天王ヶ谷30		森町	横穴墓	－	横穴墓	1.35	0.4	石	石製紡錘車
板沢６		富士市	円	9.9	横石	7.55	1.26		耳環・大刀・鉄鏃・両頭金具・紡錘車・須恵器ほか
室ヶ谷３		静岡市	円？	－	横石	8.3	1.58	石	圭頭大刀・大刀・馬具・刀子・鉄鏃・須恵器ほか
比奈G-40 (かぐや姫)		富士市	円	15	横石	9.3	1.25	鉄	玉類・刀子・鉄鏃・両頭金具・鉄製紡錘車ほか
石川２		沼津市	円	9	横石	5.2	1.4	鉄	玉類・馬具・大刀・鉄鏃・刀子・鉄製紡錘車ほか
塚畑		伊東市	円？	18	横石	4.8	1.4		耳環・大刀・鉄鏃・紡錘車・鈴・鉄製小環ほか

岐阜県５古墳、静岡県10古墳である。静岡県の調査例が非常に多いにもかかわらず三重県に多い特徴がある。また、出土数は少ないながら、三重県多気町河田古墳群に５古墳、下中島古墳群・曽谷崎古墳群で２基など、やや集中する傾向にある。天王ヶ谷横穴墓群も２基とやや集中する。河田古墳群は５基から出土しているが、複数の埋葬施設から出土しており、紡錘車を副葬することへの意識が強い。

近畿地方では、横穴式石室研究会が集成した資料による（横穴式石室研究会2007）と、42古墳から紡錘車が出土している。東海同様に均等な分布を示すわけではなく、地域的な分布の差異があり、播磨や奈良県南部（葛城市寺口周辺）に集中する傾向がある点が興味深い。奈良県南部では、さまざまな手工業生産との関係が想定される寺口忍海古墳群に４基確認できる。

このように紡錘車が特定古墳群や地域に集中する傾向からすれば、紡錘車を副葬する古墳が複数存在する古墳の築造集団は専門的に紡績を行う集団であったと評価してもよいと考える。

天王ヶ谷横穴墓群の手工業生産　副葬遺物が少ない中で紡錘車を副葬すること、地域内にも紡錘車を副葬するような風習は確認されないことから、紡錘車をどうしても副葬する必要性、したいという欲求があったと判断すれば、紡績を行うことを職業にしていたと想定できるだろう。また、紡績と関連する機織については機織具が出土していないことから布などを生産する機織を行っていたかどうかの判断はできないが、天王ヶ谷20・30号墓の被葬者が紡織を行っていた可能性も頭の片隅に留めておく必要がある。

（２）砥石を副葬する古墳時代後期～終末期の古墳・横穴墓について（第89表）

紡錘車と並んで、特徴的な副葬品として天王ヶ谷42号墓から出土した砥石がある。砥石も古墳から出土することは少ない。

砥石の分布の特徴　東海地方の古墳時代後期～終末期の古墳・横穴墓では5500基中40基から出土している（静岡県考古学会2001，三河古墳研究会2001）。紡錘車同様、均等に分布するわけではなく、三重と静岡に多い。同一古墳（横穴墓）群に集中する傾向があり、三重県河田古墳群、岐阜県本巣市船来山古墳群、磐田市押越古墳群、菊川市大淵ヶ谷横穴墓群・富士市（旧富士川町）谷津原古墳群、同船津古墳群で複数の古墳から出土している。

近畿地方では、横穴式石室研究会が集成した資料による（横穴式石室研究会2007）と、18基である。東海同様、特定地域に集中する傾向がある。大和に12基と集中する。なかでも天理市石峰古墳群２基、同龍王山古墳群２基、寺口忍海古墳群（３基）とそれに近在する大和二塚古墳と、同一の古墳群から出土する傾向にある。

天王ヶ谷横穴墓群では１点のみの出土であり、鉄器生産との関連性を結びつけるのは慎重にしなければならないが、天王ヶ谷５号墓で特異な形態の鉄鏃が出土していること関連して、天王ヶ谷横穴墓群築造集団の周辺で小規模な鉄器生産が行われており、その関連で砥石が副葬されたと想定しておきたい。

また、天王ヶ谷42号墓では鉄製耳環２点が出土しており、非常に特異な交流関係を有していた可能性があり、42号墓から出土した砥石から鉄器生産に関わっていた可能性を想定したが、そうした活動による交流により鉄製耳環を入手した、あるいは自ら生産した可能性もある。

紡錘車との共伴関係　紡錘車と砥石が出土し、東海・近畿地方の類例を調べていく中で、両者はどちらも数千基の古墳の中の数十基から出土しているだけであるにもかかわらず、意外と同一古墳内で共伴する事例や、同一の群集墳中の別々の古墳から出土していることが判明した。

東海地方では、三重県多気町河田古墳群、三重県松阪市山添２号墳、岐阜県本巣市船来山古墳群、天王ヶ谷横穴墓群、静岡県静岡市（旧由比町）室ヶ谷３号墳である。近畿地方にも同様の傾向が確認でき、奈良県寺口忍海古墳群、大阪府南河内町一須賀古墳群、牛石７号墳などで共伴している。また、九州で

第89表　東海地方における砥石出土遺跡地名表

	県	市町村名	墳形	規模	分類	全長	最大幅	紡錘車	副葬品
勝地大坪２	三重	伊賀市	円	12	横石	7	1.3	○	馬具・大刀・鉄鏃・両頭金具・砥石ほか
尻矢３		名張市	円	12	竪石				刀子・鉄鏃・砥石・鎌・須恵器・土師器
平田35		安濃町	方	12	木直				玉類・剣・鉄鏃・鑿・鋤・斧・砥石ほか
八重田19		松阪市	方	10	木直				剣・鉄鏃・ヤリガンナ・鎌・砥石・須恵器
山添２		松阪市	円	18	木直			●	捩環頭大刀・馬具・斧・石製紡錘車・砥石ほか
河田Ｂ－６		多気町	円	21	木直			●	玉類・耳環・鉄鏃・紡錘車３・砥石１・須恵器
河田Ｃ－11		多気町	円	14.5	木直			○	耳環・刀子・鉄鏃・砥石・須恵器・土師器
天保１		松阪市	円	15	横石	6.8	3.8		鉄槍・鉄鏃・砥石・鉄鑿・錐・馬具・釵子
丸山３		伊勢市	円	8.2	横石	5.2+	－		玉類・大刀・鉄鏃・砥石・須恵器
墳之越２	岐阜	池田町	円	－	横石	10.85	0.95		玉類・耳環・馬具・鉄鏃・鍬・砥石・銅釧ほか
船来山O19		本巣市	円	13	横石	6.3	1.7	●	耳環・耳環・馬具・大刀・鉄鏃・鑿・砥石ほか
船来山N142		本巣市	－	－	横石	6.2+	2.3	○	馬具・円頭大刀・大刀・鉄鏃・斧・砥石ほか
船来山O150		本巣市	円	14	横石	2.6+	1.15+	○	玉類・大刀・鉄鏃・鎌・砥石・須恵器ほか
船来山S109		本巣市	円	13	横石	5.1	1.5	○	玉類・鉄鏃・刀子・砥石・須恵器・土師器
塚穴１		美濃市	円	12	横石	7.3	1.7		大刀・鉄鏃・砥石・須恵器・土師器
山洞３	愛知	豊田市	－	－	横石	3.1+	1		大刀・鉄鏃・砥石・須恵器
亀山２		岡崎市	円	－	横石	－	－		馬具・大刀・刀子・砥石・須恵器・土師器
滝の平Ｂ３		豊橋市	円	10	横石	5.35+	1.05		玉類・刀子・鉄鏃・砥石・須恵器
雲岩寺古墳群	静岡	浜松市	－	－	横石	－	－		砥石
半田山C17		浜松市	円	9.7	横石	2.9	0.9		耳環・玉類・刀子・鉄鏃・砥石・須恵器ほか
押越３		磐田市	円	15	横石	6.8	1.9		玉類・大刀・鉄鏃・砥石・須恵器
押越６		磐田市	円？	10	横石	6.3	1.5		耳環・大刀・鉄鏃・刀子・砥石・須恵器ほか
高尾向山５		袋井市	円	12	木室	4.2	1.59		玉類・鉄鏃・刀子・砥石・須恵器
天王ヶ谷42号		森町	－	－	横穴墓	4.1	1.55	○	耳環・鉄鏃・砥石
茶屋辻A17		掛川市	－	－	横穴墓	2.8	2.5		刀子・砥石
矢崎Ａ２		掛川市	－	－	横穴墓	5.3	3.1		刀子・砥石
本村Ｅ２		掛川市	－	－	横穴墓	1.1	2.0		玉類・砥石・鉄鏃・刀子
西宮浦２		菊川市	－	－	横穴墓	4.5	3.2		耳環・玉類・大刀・砥石・須恵器
大淵ヶ谷Ｂ７		菊川市	－	－	横穴墓	2.7	3.0		玉類・大刀・砥石・砥石・須恵器・土師器
大淵ヶ谷Ｃ２		菊川市	－	－	横穴墓	4.5	2.4		砥石
大寄Ｃ５		牧之原市	－	－	横穴墓	4.8	2.3		刀子・砥石
水掛渡Ｂ４		島田市	－	－	横石	2.93+	－		耳環・大刀・刀子・鉄鏃・砥石
平城８		静岡市	方？	7	横石	3.7	0.7		須恵器・土師器
室ヶ谷３		静岡市	－	－	横石	8.3	1.6	●	圭頭大刀・大刀・馬具・刀子・鉄鏃・須恵器ほか
谷津原１		富士市	－	－	横石	－	－		単竜環頭大刀・大刀・銅釧・砥石・須恵器
谷津原９		富士市	－	－	横石	5.05	0.6		短刀・刀子・砥石
中里K-79 (道東)		富士市	－	－	横石	5.4	1.61		玉類・大刀・銅碗・砥石
船津Ｌ-62		富士市	－	－	横石	6.3	1.75		玉類・馬具・鉄鏃・刀子・砥石・須恵器ほか
船津Ｌ-202		富士市	円	22.5	横石	12.5	1.4		大刀・玉類・鉄鏃・刀子・砥石・須恵器
井出丸山		沼津市	－	－	横石	6.0	1.17		玉類・耳環・砥石・須恵器
木負峰		沼津市	－	－	横石	－	－		玉類・大刀・鉄鏃・砥石・須恵器・土師器

※紡錘車の共伴関係　●＝共伴　○＝同一の群集墳から出土

も福岡県行橋市竹並横穴墓群で砥石と紡錘車が多数出土しており、同一横穴墓内では共伴しないようであるがやはり同一横穴墓群に副葬されていることが確認できることは興味深い。

紡錘車と砥石は手工業生産の作業過程において直接的な関係は少ないと考えられるが、両方とも少ない遺物であるにもかかわらず、同一古墳や同一群集墳から共伴する理由は何か。

現段階では、簡単に証明することは困難であるが、本章第４節で述べるように手工業生産を行う集団が、紡績や鉄器の研磨作業などを含めた手工業生産を総合的に行っていた可能性を示唆している可能性がある。

なお、後述するが、人骨の特徴からみた場合、海女や漁労、航海など技術を保有する被葬者も存在することから、天王ヶ谷横穴墓群は、さまざまな技術を有する集団が築造した横穴墓群であった可能性が高い。

第３節　人骨からみた宇藤・天王ヶ谷横穴墓群造営集団の特徴

１　遺体の埋葬方法について

（１）遺体埋葬の方法（第251図）

宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の埋葬方法　人骨調査の結果、宇藤横穴墓群２基、天王ヶ谷横穴群23基の計25基の横穴墓から総数64人（最小個体数）以上の人骨が出土した（註７）。これらの人骨の出土状況をみると、伸展の状態で埋葬された人骨はなく、頭蓋骨の付近に大腿骨をはじめとする上・下半身の骨がまとめられていることが多い（第251図）。また、宇藤７号墓・天王ヶ谷51号墓のように複数分の人骨が纏められた状態で出土した。さらに、天王ヶ谷14号墓では玄室右側壁側に埋葬された遺体はあたかも伸展葬のような状態に見えるが、上下が反転していたり、左右が逆転したりしている。このような人骨を伸展葬に見せかける人骨配置は神奈川県内の古墳や横穴墓でも確認できるようであり、「疑似伸展葬」（柏木2010など）と呼ばれ、各地域で行われていた可能性がある。

片山一道氏の現地および取上げ後の人骨調査の結果、一体も１次葬つまり埋葬したままの状態で保たれた人骨は確認できず、何らかの形で現在の位置に人為的に移動し、集骨した状況（改葬骨）であることが確認された（自然科学分析・人骨調査編参照）。したがって、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群では改葬が一般的な埋葬方法であった可能性が高いことが判明した。

改葬の方法　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群での改葬の方法には主に２種類がある。①頭蓋骨の顎を下にして立て正面を開口部へ向け、その付近に残りの骨を集骨する。②頭蓋骨を①と同じように置くが、あたかも伸展葬のような状態（「疑似伸展葬」）を作り出す。①・②ともに複数をまとめる場合と単

第90表　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の人骨出土横穴墓とその特徴

群	横穴墓	全長	玄室		玄室面積	成人			未成人			不明	最小個体数
			長	幅		男性	女性	不明	男性	女性	不明		
宇藤	5	3.50	2.25	1.45	2.95+							○	1
	7	3.45	3.45	0.90	3.10	●			○		●		3
天王ヶ谷	2	3.00±	1.55	1.15	1.60±							○	1
	3	3.90	2.00	0.80	1.50							○	1
	4	4.30	2.40	1.30	3.10							○	1
	5	4.95	3.50	1.80	6.15			●●●●●			●●●		8
	6	3.50	2.20	1.40	2.90							○	1
	7	4.60	2.60	1.50	3.65		●						1
	8	4.20±	1.90	1.40	2.40			●					1
	9	3.85+	2.20	1.35	2.80							○	1
	11	3.15+	2.40	1.20	2.60			●●●					3
	12	2.60+	1.80	1.30	2.20							○○○	3
	13	4.90±	2.75	1.80	4.40	○	●●				●	○	5
	14	5.20	2.50	1.55	3.40	●○					●	○○○○	7
	15	4.10±	3.00	1.50	3.90	○○					●●		4
	16	5.60	4.30	1.60	6.00	●●	●○						4
	17	9.10	7.80	1.80	13.40			●●			○		3
	20	5.6	2.00	2.10	3.80		●						1
	37	3.4±	1.60	1.05	1.60			●●●●					4
	42	4.1	2.70	1.55	4.05							○	1
	50	3.50±	3.50±	1.40	3.15±	○	○						2
	51	2.90+	1.90	1.00	1.70		●				●		2
	52	4.20±	2.30	1.50	3.20							○○	2
	53	4.50+	2.30	1.40	3.10	●	●				●		3
	54	2.45+	1.70	0.90	1.35							○	1
小計						10	9	15	1	0	11	18	64
合計						34			12			18	

●確定　○未確定

※本表で示したのは、あくまでも最小個体数であり、各横穴墓での被葬者の性別や年齢構成については完全に古墳時代当初の実態を示しているわけではない。

第251図　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の人骨出土状況

体の場合があった可能性が高い。①の代表的なものは天王ヶ谷13・15・20号墓、②の代表的なものは天王ヶ谷14・16・53号墓が挙げられる。同一単位群の天王ヶ谷14～17号墓でも①・②が混在しており、埋葬を行う際の何らかの違いがあったと考えられるが、改葬に変わりはなく、大きな意識の違いではないと想定する。

小型（ミニ）横穴墓の埋葬　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群では宇藤７号墓を注目しなければならない。これまでの調査では、全長２m程度の横穴墓が確認された場合、人骨が出土しなければ複葬ではなく単葬と考えていた。しかし、伸展葬が可能な3.5m近くある宇藤７号墓では奥壁側から３体の人骨が出土した。宇藤７号墓は玄室幅が狭く、通常の伸展葬の埋葬を２回行うことはほぼ不可能であり、２m以下の小型の横穴墓に通じる。したがって、小型横穴墓でも、７号墓と同じような方法をとれば複数遺体の埋葬が可能であり、今後小型の横穴墓の埋葬者数の評価にあたっては注意が必要である。

大型横穴墓と小型横穴墓の関係　宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群でも、宇藤横穴墓群Ⅱ支群Ａ４単位群や、天王ヶ谷横穴墓群Ⅲ支群Ａ単位群のように大型横穴墓と小型横穴墓が前庭を共有する。このような大小の横穴墓が組み合わされ、小型の横穴墓に改葬骨が納められたと想定される場合、大型の横穴墓に伸展埋葬し白骨化させた後で、小型の横穴墓に改葬したと考えられることが多い（池上2000など）。

しかし、大型の横穴墓と小型の横穴墓の組合せである、天王ヶ谷Ⅰ支群Ｃ単位群（14～19・55号墓）では、大型の横穴墓４基（14～17号墓）ですべて改葬骨が納められている。したがって、当横穴墓では大型の横穴墓が１次葬・白骨化のための横穴墓で、小型の横穴墓が改葬骨を納めた横穴墓ではないことが判明する。他の横穴墓群の埋葬方法の評価にあたっても注意が必要である。

どこで白骨化させたのか？　大型の横穴墓が１次葬で白骨化のための横穴墓ではないとした場合、どこで白骨化されたのか？つまり白骨化するまでどこに保管（埋葬）されていたのか？

人骨調査の結果、多く人骨に動物による咬痕（自然科学分析・人骨調査編第２章－第７・10表に「咬痕」と記述）が確認できる。残された歯の形状からネズミやイヌなどの小動物の咬痕である可能性が高い。遺体がどこかの密閉された施設内に置かれていたとすればネズミが齧ることはあったであろうが、イヌの侵入は考え難い。イヌが荒らすことができる状態は、どこかの１次埋葬場所に土葬されていれば可能であろう。あるいは遺体を置き白骨化させる場所があり開放されていた可能性もあるが、この可能性は低いのではなかろうか。横穴墓の前庭などでは遺体を埋葬できるような大きな土坑は確認されていないことから、横穴墓造営集団が居住した集落近くに一旦土葬していた可能性が高いのではないかと考えている。一時的な仮埋葬の場所、永遠の埋葬場所のような考えがあった可能性もある。

かたづけ行為と改葬の見極め　宇藤横穴群、天王ヶ谷横穴群の調査結果からもう一度横穴式石室、横穴の遺体配置状況を検討し直す必要がある。

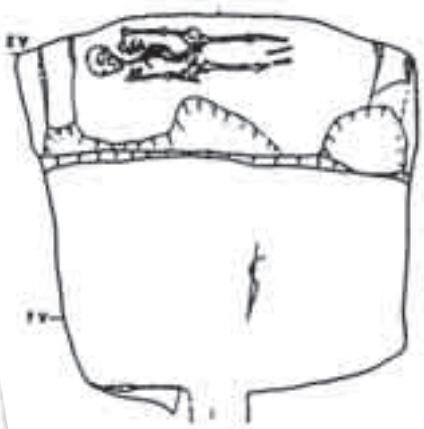
現状では、人骨がまとめられて出土した場合かたづけ行為が行われたと通例考えているが、宇藤７号墓や天王ヶ谷51号墓のように伸展葬がなく複数体の人骨が混在していることなどを考慮すれば、集骨された状態＝「かたづけ行為」ではない可能性、改葬骨である可能性も考慮して調査を進める必要がある。

（２）遠江における横穴系埋葬施設の遺体の埋葬方法について（第252図）

宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群の事例のように、７世紀には改葬が遠江社会の中で一般化していたのかを確認するため、遠江の他の古墳や横穴墓の埋葬事例をみておきたい。

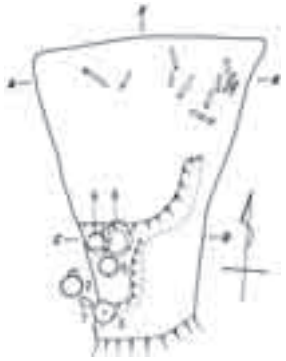
遠江では古墳が造営された土地の基盤の土壌は酸性度が強いこと、攪乱を受けた古墳が多いこととも相俟ってか、横穴式石室での人骨の出土状況が良好なものがない。また、横穴式木室は攪乱されたものは少ないが、人骨が出土することは少ない。そうした状況の中、磐田市明ヶ島29号墳で確認され、木室内に伸展葬された状態で火化されていたことが想定されている（第252図，磐田市教委2003）。

磐田市　明ヶ島 29 号墳



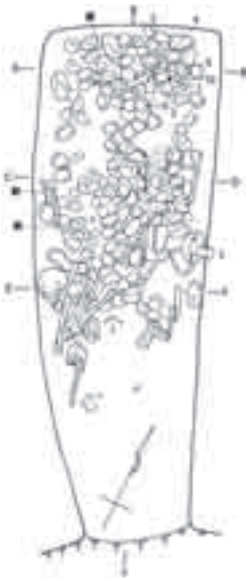
掛川市　丈山1号墓

掛川市　矢崎B5号墓



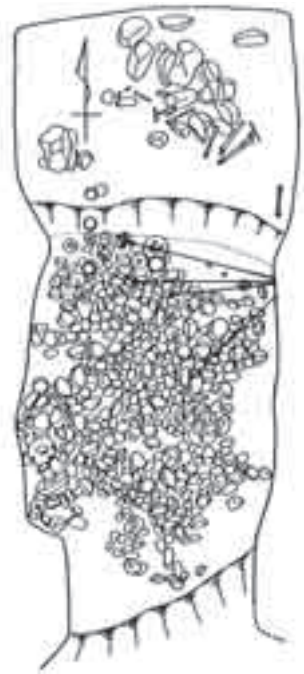
森町　谷口ＥⅡ４号墓

森町　谷口A3号墓

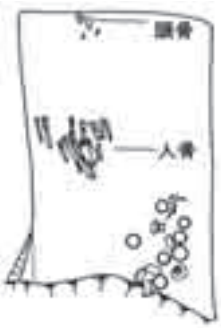


森町　藪内1号墓

森町　観音堂 11 号墓

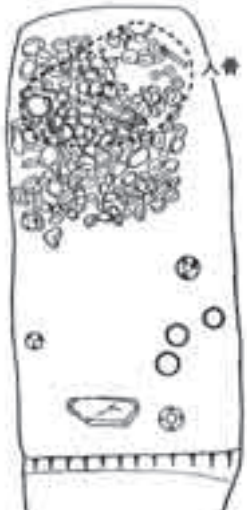


森町　観音堂6号墓

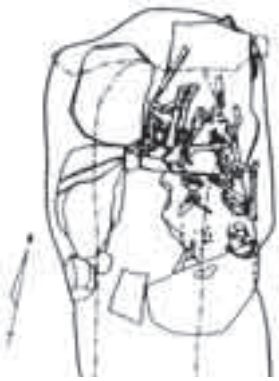


森町　観音堂 16 号墓

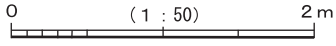
森町　観音堂 18 号墓



森町　観音堂 12 号墓



菊川市　山本A11 号墓



第252図　遠江における人骨出土状況

一方、横穴墓では多数の横穴墓で人骨が出土しており、比較の対象となる。明ヶ島29号墳同様掛川市丈山横穴墓や同矢崎Ｂ５号墓で伸展葬が行われている。一方、森町谷口横穴墓群、藪内横穴墓群、観音堂横穴墓群では伸展葬が確認できないことから、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群同様改葬骨が納められた可能性が高い。また、掛川市岩谷Ｃ５号墓、菊川市山本11号墓、菊川市宇藤横穴墓群（静岡県考古学会2001）などで集骨された状態の人骨が確認されている。これらは改葬骨が納められた可能性が高い。

伸展葬と改葬　遠江の横穴墓では伸展葬と改葬の違いが確認できるが、この差は時期差と考えられる。明ヶ島29号墳、丈山横穴墓、岩谷Ｃ５号墓ともに遠江Ⅲ期中葉～後葉、６世紀後半～７世紀初頭に位置づけられる。一方で、改葬骨が確認されたのは、いずれも遠江Ⅲ期末葉、７世紀前半以降のものが大部分である。したがって、遠江（特に中・東遠江）では伸展葬も残存していた可能性も排除できないが、７世紀以降改葬が一般化した可能性が高く（大谷2001b）、６世紀から７世紀にかけて、埋葬観念の大きな変化が起こった可能性が高いことが判明する。

ただし、全国的に改葬が一般化していたかについては、今後の比較検討が必要である。神奈川県内の事例では、伸展葬、疑似伸展葬・改葬が併存していたようであり（柏木2010）、埋葬方法は地域の実情に合わせて選択されていた可能性が高い。

（３）改葬骨とした場合の大きな課題

宇藤・天王ヶ谷横穴墓群をはじめ、遠江の７世紀～８世紀初頭の横穴墓では改葬が一般化していた可能性が高いが、ここで大きな問題が発生する。人骨に動物の咬痕が確認されたことから宇藤・天王ヶ谷横穴墓群築造集団では動物が接触しやすい横穴墓以外で白骨化が行われた可能性が高い。このように横穴墓以外で白骨化させるための第１次埋葬あるいは遺体の保管が行われた場合、①横穴墓の掘削時期と死亡時期が必ずしも一致しないこと、横穴墓や古墳が事前に造られたのか死後造られたのかの問題。死後でも直後に造られたのか、白骨化が終わった段階で造られたのか。②横穴墓内に埋葬された遺体数だけ埋葬（追葬）が行われたかどうか。宇藤７号墓や天王ヶ谷14号墓で推測したように一度に複数の遺体を同時に改葬した可能性もあること。③副葬品はいつの時点での副葬品なのか。死亡時の場合もあれば、埋葬時の儀礼に伴うものや改葬時の副葬品の可能性がある（註８）。

こうした問題点をはらんでいることを念頭に入れて今後検討していく必要があろう。宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群の調査では、この点について問題を提起するのみで、解決に至る道筋をつけることはできなかった。今後の大きな課題である。

（４）横穴墓の規模と埋葬数の関係

宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群ともに天王ヶ谷14号墓を除いて、玄室内に遺体を埋葬していることから玄室規模で比較する。天王ヶ谷横穴墓群での事例をみると、玄室規模が２ｍ以下の横穴墓では、最小個体数で１～４体、２～３ｍで１～７体、３ｍ以上で３～８体である（第90表参照）。

したがって、２ｍを下回る横穴墓については、埋葬数が少なくなる傾向にある。一方、２ｍを超える横穴墓については、16・17号墓のように４ｍを超えるものについても３～４体程度であり、大型の横穴墓の埋葬人数が単純に多いとは言えない。２ｍ以下のものについては埋葬数が減少し、２ｍ以上のものについては、横穴墓群ごとに異なっていた可能性が高い。

２　埋葬された遺体の特徴

（１）人骨の特徴から見た宇藤・天王ヶ谷横穴群に埋葬された人々の活動

職掌の推定　片山一道・大藪由美子両氏の人骨調査の結果、天王ヶ谷51号墓から出土した人骨（51-1

号人骨，女性，熟年）と16号墓から出土した人骨（16-2号人骨，男性，壮年）には外耳道（外）骨腫が認められた。また、森町谷口Ａ３号墓から出土した左側頭骨（No. 58）に外耳道骨腫が確認されている（森町教委1996：166-183頁）。

この外耳道骨腫は炎症性刺激により形成されることもあるとされることから、類例の少ない現状ではこの可能性も排除できないが、一般的に冷水での水泳習慣や素潜り（ダイビング）による冷水刺激と関係があり、海人（海士，海女）の職業病の一つであるという（吉岡1996-182頁）。

結果として今後の調査が俟たれるが、天王ヶ谷51号墓や谷口Ａ３号墓に埋葬された女性は海女であった可能性もある。一方、天王ヶ谷16号墓の男性骨は海人の可能性も考えられるが、頻繁に耳に水が入るような川や海での漁業や川の往来や航海を行うことを職業としていた可能性がある。

屈強な身体　人骨鑑定の結果、宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群出土の成人では骨が太いという特徴が確認され、肉体労働を行うような活動をしていた可能性が高いことが判明した。両横穴墓群の築造集団は副葬品の多寡や奢侈品が少ないことから階層性はそれほど高くない集団の墓地と考えられるが、人骨も肉体労働を行うような一般的な成員であることを物語っているといえよう。

（２）身長と病気

身長　宇藤７号墓出土の成人男性骨は身長164㎝である。一方で、天王ヶ谷横穴墓群出土の成人の男性骨はこの遺体よりは一回りか二回り小さかった可能性が高い（自然科学分析・人骨調査編第２章参照）。

宇藤７号墓の男性が両横穴墓群に埋葬された中では背が高く、それ以外は高くても160㎝には達しない程度の身長であった可能性が高いことが判明した。150～160㎝の間ぐらいが平均身長であったと想定できるという。女性はさらに低く、140～150㎝ぐらいであったと想定できる。

病気　死亡原因の特定となるような病気の症状は確認できないが、虫歯の痕跡が確認できるものが多い。現代と同じように古墳時代の宇藤・天王ヶ谷横穴墓群を築いた集団も虫歯に悩まされていた可能性が高い。

また、天王ヶ谷20号墓の女性の上腕骨には骨折し治癒した痕跡が残されている。

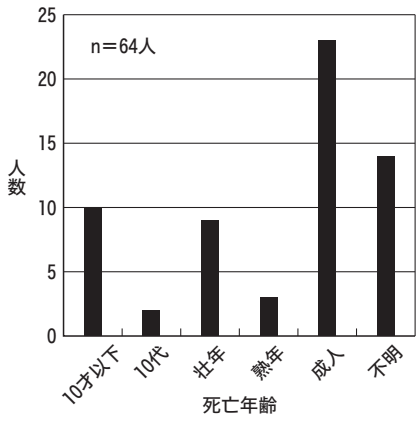
出産　寛骨が残存する人骨が少ないため分析できた個体は少ないが、天王ヶ谷16・51号墓の女性に出産痕が確認できる。

なお、天王ヶ谷51号墓の女性については女性家長の可能性を想定したが、家長となるような女性も出産していることから、清家章氏が想定したように、女性家長も出産することが推奨されていた可能性が高いといえよう（清家2009）。

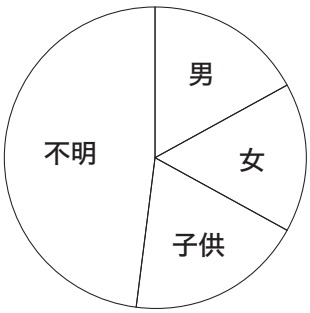
（３）死亡年齢と性別

最小個体数で64体が出土しているが、死亡年齢や性別が判明したものは少ないため、ここで示すのはあくまでも傾向である点に留意願いたい。

死亡年齢　死亡年齢について乳歯が存在し、第二次成長期以降に発達がみられる特徴がないなど幼児や小児が埋葬されていたことが判明した。実際の幼児や小児の死亡者数はもっと多かったと考えられる。つづく、10-20歳の人骨も幼児・小児よりも少ないが埋葬される。64体中最も多いのは壮年である。20-40前後の年齢であるが、なかでも壮年後半に死亡した可能性が高いものが多い。



第253図　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群出土人骨の死亡年齢別出土数



第254図　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群
出土人骨の性別別出土数

熟年も数は少なくなるが存在している。老年（60歳以上）については確認できないが、若干含まれていた可能性が高い。宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群に埋葬された集団の死亡年齢については、子供の埋葬数も多く、近世以前の死亡年齢の特徴と合致している（註９）。

性別　埋葬された性別については、成人についてはおおよそ半々であり、どちらかの性別が優先的に埋葬されたとはいえない。

また、人骨の出土状態からみた場合、天王ヶ谷13・16号墓では女性骨が中心にあり、隅角近くに男性骨が埋葬されるような状況にあり、必ずしも男性が重視されていたとは言えない状況にある。

３　埋葬された人々の関係

（１）埋葬人骨の組合せからみた被葬者の関係

同一の横穴墓群から複数の人骨が出土した横穴墓が、14基確認でき、それぞれ最小個体数は２～８体である。第91表に現状の最低個体数から想定される成人性別の組合せと子供の有無についてまとめた。性別や年齢が不明なものが半数以上に上ること、またあくまでも最小埋葬人数でありより多くの遺体が埋葬されていた可能性が高いことから、以下に記載することはあくまでも現状での想定であることに留意願いたい。

想定される被葬者の関係　宇藤７号墓・天王ヶ谷51号墓は非常に残りがよく、遺体も１箇所にまとめられた状態であることから、現状で想定される遺体数であった可能性が高い。宇藤７号墓は、成人男性１体、10–20代１人、10歳以下１人である。これらの頭蓋骨には前頭縫合が完全になされない特徴が確認できる。一方、天王ヶ谷横穴墓群の人骨ではそれが確認できないことから、この地域の身体的な特徴ではない。したがって、宇藤７号墓については血縁関係にあった可能性が高い、年齢差が20歳以上あるため、父親と子供二人とみられるが、兄弟関係にある３人が、時を隔てて死亡し、同一横穴墓へ埋葬された可能性もある。

天王ヶ谷51号墓は２体で、１人が成人女性、１人が子供（7–10歳）である。こちらは女性には出産痕が確認できるため子供を産んでいた可能性が高く、この二人は年齢差もあることから母親と子供１人と想定するか、あるいは時を隔ててなくなった姉弟の可能性がある。

また、天王ヶ谷20号墓は、他の人骨が消失した可能性も排除できないが、熟年の女性１人、天王ヶ谷７号墓も女性１～２名である可能性が高い。

一方で、成人男性と成人女性が組み合わされた可能性が高い横穴墓は天王ヶ谷13・16・50・53号墓がある。また、成人＋子供という組み合わせの横穴墓の中にも成人男性＋成人女性の組合せがある可能性が高い。成人男性＋成人女性の組合せからは、現代的視点に立てば、夫婦と考えられるが、近畿地方の事例（清家2002）からは、古墳時代後期に至っても兄弟が埋葬された事例も確認されているため、その可能性も考慮しておきたい。

第91表　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の被葬者の年齢性別による組合関係

分類	横穴墓	横穴墓数
成人男性＋成人女性＋子供	TN13?・TN53	2
成人男性＋成人女性のみ	TN16？・TN50?	2
成人男性のみ		0
成人女性のみ	TN7・TN20	2
成人のみ	TN8・TN11・TN37	3
成人男性＋子供	UT7	1
成人女性＋子供	TN51	1
成人＋子供	TN5？・TN14？・TN15・TN17	4
子供のみ		0
不明	UT5・TN2・３・４・６・９・12・42・52・54	10
合計		25

TN＝天王ヶ谷横穴墓群　UT＝宇藤横穴墓群

なお、成人男性のみの組合せと子供だけの組合せは両横穴墓群では確認できない。

したがって、子供だけの埋葬がないことから、子供の死を契機に横穴墓が築造されたのではないことが判明するが、埋葬された遺体の関係は宇藤７号墓・天王ヶ谷51号墓の事例からは親子あるいは兄弟、成人男女が埋葬された天王ヶ谷13・16号墓などの事例からは夫婦（とその子供）あるいは兄弟（とその子供）という関係が想定できる。

したがって、九州地方など多くの出土人骨から導き出された、田中良之氏らによる古墳時代後期以降、夫婦とその子供（基本モデルⅢ）が埋葬されたとする説（田中1995）については、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群では完全には成立していなかったか、あるいは近畿地方と同じように（清家2002）兄弟原理（基本モデルⅠ）が継続していた可能性が高いことが判明した。また、天王ヶ谷20・51号墓のように成人女性が主となる横穴墓が確認できることから女性家長の存在も想定できる。つまり、清家章氏が想定したよう（清家2009）に、非首長層である宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の築造集団は男系世襲に移行しつつも双系（双分）的な社会構造であった可能性が高い。

遠江の事例　すべての事例を検証したわけではないが、人骨の残存状況がある程度良好な菊川市宇藤横穴墓群の分析でも、男性のみの埋葬が認められた。また、磐田市明ヶ島29号墳も成人女性（熟年）と12–20歳の男性であり、横穴式木室であることから埋葬の時期差をそれほど想定できないこと、年齢差があることから、母親とその子供の可能性を想定した（大谷2008）。

したがって、検討した事例は少ないものの、遠江においても夫婦とその子供という埋葬パターン（基本モデルⅢ）は、古墳時代には完全には成立していなかった可能性が高い（大谷2008・2010）。遠江における首長墓と想定されるような古墳からの人骨の出土は確認されないため首長層と非首長層で社会構造が異なっていたのか、あるいは同一であったかのかは今後検証していかなければならないが、遠江では非首長層においては宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の事例と同じように、清家章氏が指摘するように（清家2009）６世紀後半～８世紀初頭までは父系社会に移行しつつも双系的な社会構成であった可能性が高い。

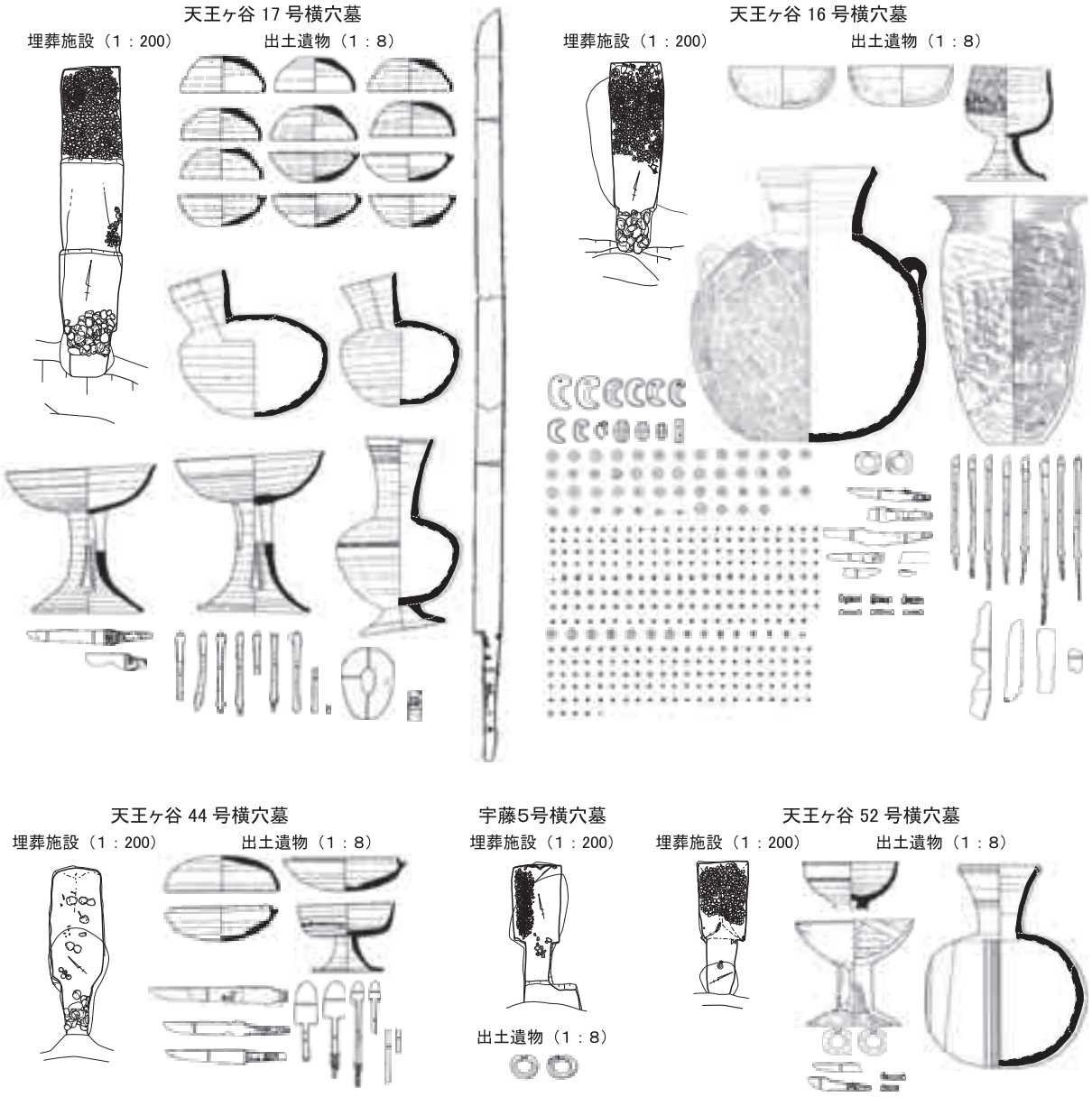
第４節　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群の特質

１　円田丘陵における古墳と横穴墓

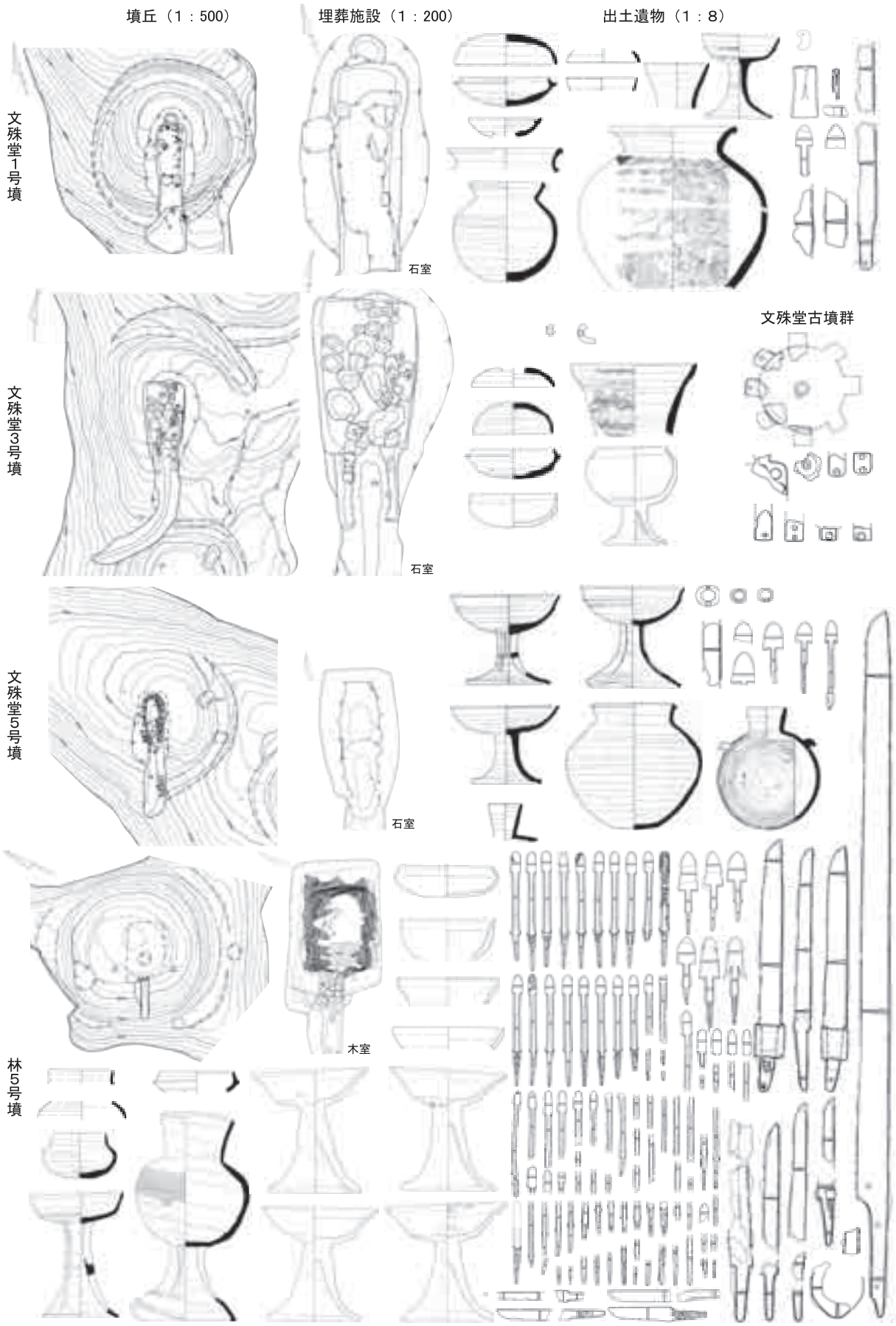
（１）円田丘陵の古墳と横穴墓（第255～257図）

森町の円田丘陵には、文殊堂古墳群、林古墳群、宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群、宇藤蓮台古墳群が古墳時代中期以降築造され、弥生時代には中期中葉～後期後葉まで方形周溝墓や土器棺墓が築かれており、当丘陵は弥生～古墳時代までは基本的に墓所であった。

円田丘陵における古墳は中期中葉（５世紀前半）に文殊堂古墳群の形成が始まり、中期後葉（５世紀後半）を中心に後期前半（６世紀前半）まで継続的に古墳が築造されるが、古墳時代後期中葉ごろの古墳が確認できず、続く後期後葉に古墳の造営が再開する。須恵器にして１型式前後の時期差があるが、文殊堂古墳群（１・３・５号墳）が横穴式石室、林５号墳が横穴式木室、宇藤蓮台３号墳が横穴式石室、



第255図　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の出現期の横穴墓の規模と副葬遺物



第256図　文殊堂古墳群と林５号墳の埋葬施設と副葬品

宇藤・天王ヶ谷横穴墓群が横穴墓であり、遠江で確認される古墳時代後期～終末期の主要な埋葬施設が一つの場所に近接して築造されている。それぞれが指呼の位置にあるが、同一箇所に別の埋葬形態が混在するわけではない。しかし同時期には、林５号墳、文殊堂古墳群、宇藤蓮台３号墳、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群が形成されており、それぞれの築造集団が別の築造集団を意識していたと想定する。

横穴墓と古墳の階層構造　同時期に存在した横穴式石室、横穴式木室、横穴墓であるが、どのような差異があったのかを確認するために、文殊堂古墳群、林５号墳、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の埋葬施設と副葬遺物を比較したのが第255・256図である。文殊堂古墳群は盗掘等による攪乱により埋葬施設の残存状況が不良であるが、同古墳群から出土したとされる金銅装馬具（雲珠・鐘形杏葉か轡）は、１・３号墳のどちらかに伴うものと想定できる。したがって、金銅装馬具を副葬するのは文殊堂古墳群のみである。林５号墳は鉄鏃の副葬量は多いものの、金銅製品は出土していない。文殊堂古墳群や林５号墳の築造に近い時期である天王ヶ谷44号墓や天王ヶ谷16・17・52号墓、宇藤５号墓などは林５号墳と比較すると副葬品の量が少ないことは否めない。天王ヶ谷16・17号墓は文殊堂古墳群の石室規模よりも横穴墓の規模が大きいが、副葬遺物からみれば、下位に位置づけられる。

したがって、副葬品の内容からすれば、文殊堂古墳群（小首長）→林５号墳→天王ヶ谷横穴墓群（宇藤横穴墓群）という階層構造であった可能性が高い。つまり、同一の丘陵上に造営されながらも、階層差をもって埋葬施設が導入されていたといえる（註10）。

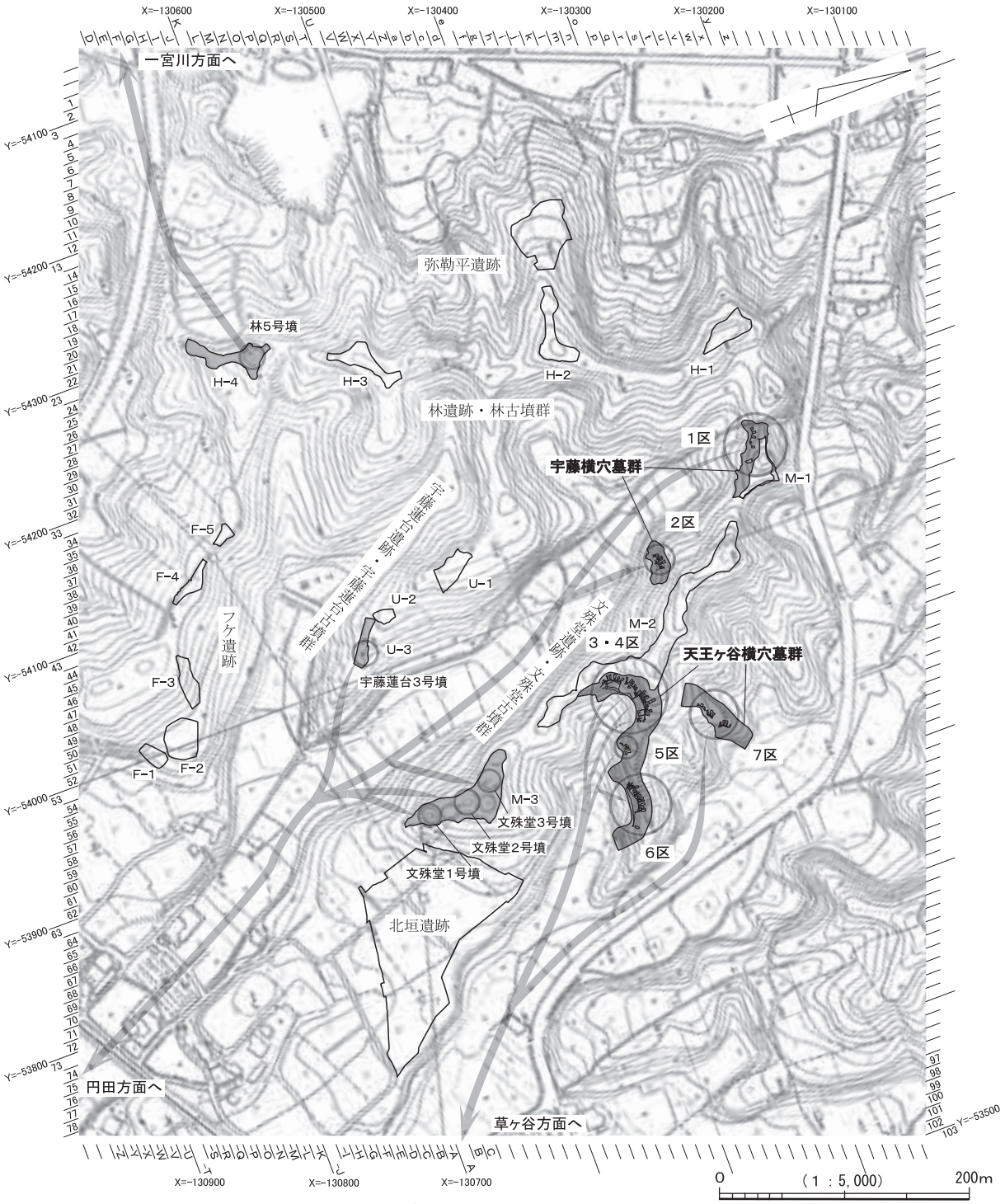
横穴式石室は、ほぼ遠江Ⅲ期後葉～末葉に築造されたと想定される。いずれも破壊が著しく比較が難しいが文殊堂１・３号墳が石室規模が大きかった可能性が高く、横穴式石室内でも階層差があった可能性があるが、横穴墓と比較すると、横穴式石室の方が階層的にはやや上位にあった可能性が高い。

墓道の復原と古墳・横穴墓の関係　円田丘陵の横穴墓と古墳群の墓道の復原を行ったうえで、文殊堂古墳群、林古墳群、天王ヶ谷横穴墓群、宇藤横穴墓群の関係を見ておきたい。円田丘陵は文殊堂古墳群が築造された東側の尾根と林古墳群が築造された西側の尾根の間に谷が広がっており、この谷は「宇藤の谷」と呼ばれている。東側の尾根の先端部分に文殊堂古墳群、それから続く尾根から東西に派生する小尾根の南面する斜面に宇藤横穴墓群（西側）、天王ヶ谷横穴墓群（東側）が築造されている。東側の尾根に位置する３者は、お互いにある程度の距離をもって存在しており、それぞれの墓域という意識があった可能性が高い。そして西側の尾根上に林古墳群が位置する。

円田丘陵では古墳時代後期後半にまず林５号墳が西側の尾根上に築造されたと想定できる（第257図）。墓道は西南へ向けており、その意識は一宮川流域にあったと想定できる。宇藤蓮台３号墳は「宇藤の谷」の入口に向かって墓道を伸ばしていたと想定できる。文殊堂古墳群は、丘陵の先端部にあるが墓道を南南西に伸ばし、「宇藤の谷」入り口方面に意識があったと想定できる。宇藤横穴墓群は「宇藤の谷」へ向かう谷筋に向かって墓道を伸ばしていたと想定する。天王ヶ谷横穴墓群は「宇藤の谷」は一切見えないため、谷の入り口方面、南東へ向かって墓道を伸ばしていたと想定できる。したがって、天王ヶ谷横穴墓群は草ヶ谷方面へ意識が向けられていた可能性が高い。ここで重要となってくるのが宇藤横穴墓群と文殊堂古墳群の墓道が一致していたと考えられることである。墓道が共有されることや立地状況、階層差などからみれば宇藤横穴墓群はまさに文殊堂古墳群築造集団の影響下にあった可能性が高い。

また、ここまで宇藤横穴墓群と天王ヶ谷横穴墓群を纏めて検討の対象としてきたが、墓道が向かう方向＝墓道へ向かう場所から考えると、隣接した場所に横穴墓を築造しながらも、関係性はやや薄く、集落は全く別に営まれていた可能性を想定しておくべきかもしれない。

したがって、円田丘陵に築造され、それぞれがある程度の関係を有しながらも、独立した集団が墳墓を築造していた可能性が高い。一方で、宇藤横穴墓群は成立当初は文殊堂古墳群の影響下にあった可能性がある。



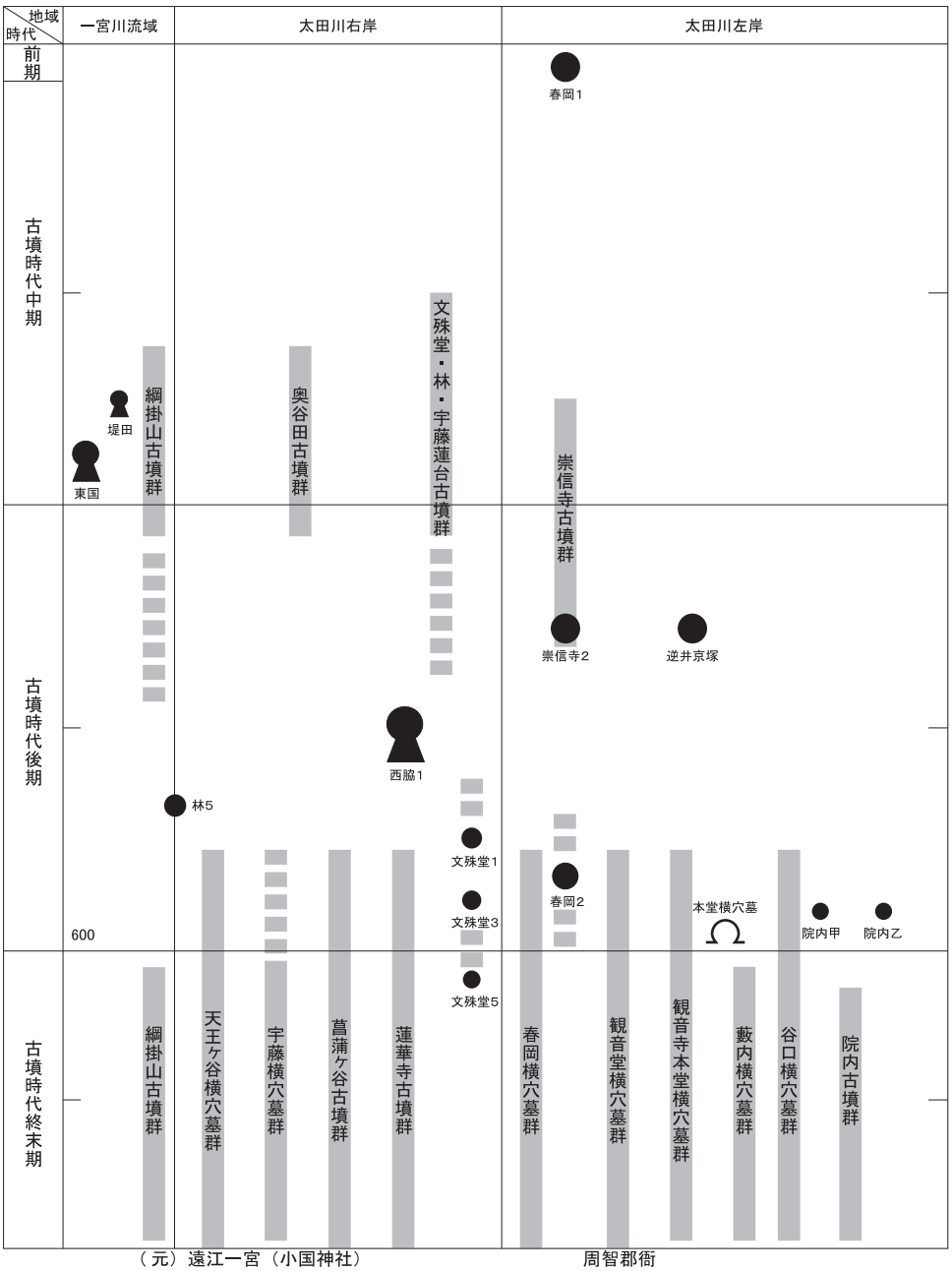
第257図　円田丘陵の古墳と横穴墓における墓道の復原

２　太田川中流域における宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の位置づけ

ここでは、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群が築造される時期的な特徴を見ておきたい。太田川左岸と右岸、一宮川流域に区分して時期的な変遷を見ておきたい。

古墳時代前期（３世紀後半～４世紀後半）　古墳時代前期初頭には弥生時代から続く方形周溝墓が確認されているが、古墳の築造は活発ではない。袋井市春岡所在の春岡１号墳が前期中葉～後葉にかけて築造されたと想定できる。この時期の主体は松林山古墳や寺谷銚子塚古墳などの磐田原台地の古墳群であった（中嶋ほか2002）。

古墳時代中期（４世紀後半～６世紀初頭）　古墳時代中期前半の古墳も明確ではなく、円田丘陵に隣接する草ヶ谷丘陵で中屋敷１号墳が築造された可能性がある（静岡埋文研2011）。中期中葉以降古墳の造営が活発化するようで、文殊堂古墳群を皮切りに中期後葉～古墳時代後期初頭まで宇藤蓮台古墳群、林古墳群、太田川中流域（以下，森町域の古墳をいう場合は中流域をとる）左岸の崇信寺古墳群、一宮川流域の綱掛山古墳群などで古墳が築造される。



第258図　太田川流域（森町域）における古墳の動向

この段階に、甲冑を保有するような古墳は文殊堂古墳群や林古墳群で造営される。また、前方後円墳である堤田古墳は一宮川に面する尾根上、東国古墳は太田川に面する丘陵上に築造されており、太田川右岸と一宮川流域に有力な古

墳が造営されていたようである。

古墳時代後期（６世紀～７世紀初頭）　後期前半になると初期群集墳の築造が衰退したようで中期に比べると築造数は激減したと考えられる。この段階では、太田川左岸に横穴式石室が採用され、金銅装馬具が出土した崇信寺10号墳や馬鐸が出土した逆井京塚古墳が築造され、有力古墳は中期段階とは異なり、太田川左岸で確認できる。なかでも崇信寺10号墳は遠江でも早い時期に横穴式石室を採用することや金銅装馬具することなどから、この地域の首長墓と想定できる。

つづく、後期後葉になると、古墳の築造が再び増加しはじめ、太田川左岸の袋井市春岡２号墳、森町院内甲・乙墳、太田川右岸の西脇１号墳、文殊堂古墳群、林５号墳など太田川の両岸で古墳の築造が行われる。また、古墳の造営とは若干遅れて、また原野谷川・逆川流域や菊川流域における横穴墓の出現よりも遅れて、天王ヶ谷横穴墓群をはじめ太田川流域で横穴墓が出現する。横穴墓の出現は遠江内部からの影響ではなく、この段階に北部九州の豊前地方から新たに伝播した形態を採用して、成立したと想定されている（大谷晃2001，松井2001b）。天王ヶ谷横穴墓群や谷口横穴墓群、観音寺本堂横穴墓群など複数の横穴墓群で同時期に同形態の横穴墓が出現しており、複数の集団が北部九州地方と関係があったことが想定できる。太田川流域（森町域）の横穴墓が成立する一連の歴史的脈絡の中で天王ヶ谷横穴墓群、宇藤横穴墓群は成立した可能性が高い。

観音寺本堂横穴墓群は双龍環頭大刀や頭椎大刀、金銅装馬具を副葬するなど当地域では有力な横穴墓と想定できる。太田川流域でも、有力な横穴墓が存在しており、一概に横穴墓が階層的に下位にあったとすることはできない。また、金銅装馬具や装飾付大刀を副葬する古墳・横穴墓は太田川の両岸にある程度の距離をもって併存していた可能性が高い。

この段階で横穴式石室である西脇１号墳が太田川右岸地域に出現している可能性が高い。それまでの前方後円墳である堤田古墳、東国古墳は一宮川に面する丘陵上に築造されており、当該期にそれまで築造されたことのない前方後円墳が太田川右岸域に築造された意義は大きいといえ、これ以降横穴式石室や横穴墓の築造が活発化することや、西脇１号墳の近隣に森山古窯群が築窯されることについての要因がこうした前方後円墳の築造＝畿内王権との新たな関係がうまれた＝と関係していると考える。

古墳時代終末期（７世紀～８世紀初頭）　古墳時代終末期になると、装飾付大刀や金銅装馬具の副葬は減少したと想定でき、明確な小地域内の首長墓は確認できなくなるようである。

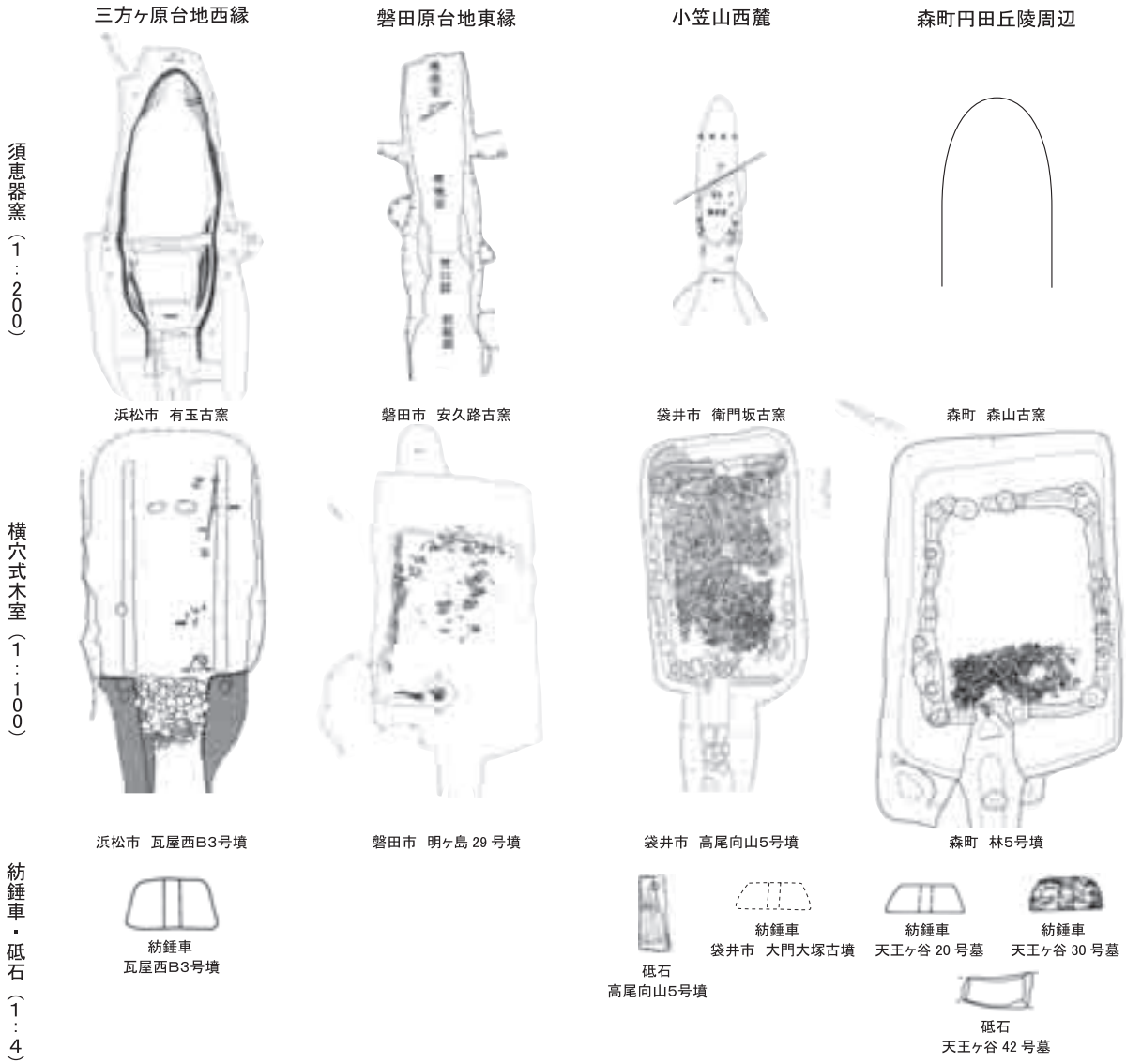
太田川右岸域では、森町円田丘陵に横穴墓が集中するのみであり、基本的には横穴式石室が築造される地帯となっている。太田川左岸域では横穴墓群と古墳群が併存して、８世紀初頭まで古墳・横穴墓の造営を継続している。

この古墳・横穴墓は遠江Ⅳ期前半（７世紀前半～中頃）に盛期を迎え、遠江Ⅳ期後半以降は築造数が減少しており、宇藤・天王ヶ谷横穴墓群も同様に時期的変遷をたどっている。横穴墓の成立・盛期・衰退・終焉ともに太田川流域の古墳群・横穴墓群の動向と軌を一にしていたといえよう。

３　森町円田丘陵周辺における古墳時代後期後半～終末期の特質

ここまで、横穴墓の形態、副葬品などから宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の特徴について考えてきたが、最後に宇藤・天王ヶ谷横穴墓群から出土した遺物と、太田川流域における古墳や生産遺跡の動向から宇藤・天王ヶ谷横穴墓群が造営された円田地域周辺の特徴と意義について考えたい。

上述したように、森町域には７世紀代に森山古窯群に須恵器生産が移植され、操業が開始される。この窯は森町域を中心に、森から磐田市豊岡地区を抜け、天竜川平野北側の浜北北麓古墳群や、森から掛川へ抜けるルート沿いの集団へ須恵器を供給していたことが想定できるようになった。また、天王ヶ谷横穴墓群の出土遺物の分析からは、紡錘車２点の出土から紡績を行っていた被葬者が含まれていると推



第259図　遠江における手工業生産と古墳

定するとともに、特殊な鉄鏃や砥石の出土から鉄器生産への関与を想定した。さらに、円田丘陵に築造された林５号墳は横穴式木室であるが、横穴式木室は鉄器生産との関連が想定されている（柴田1983，田村2006・2008，松井1996など）。つまり、円田丘陵周辺には６世紀後半以降、窯業、鉄器（鍛冶）生産、紡績などの手工業生産が存在していたことが想定できる。それまでにこの地域ではみられなかった技術が総合的に導入されていた可能性が高い。

古墳時代後期になると、畿内王権は自らの領域内で独占していた技術を公開し、各地への技術移転を図ったとされている（菱田2004・2007）。遠江では６世紀前半以降、窯業生産など手工業生産が開始される。西遠江では、三方原台地に浜松市有玉古窯群（浜松市教委2004）が形成され、浜松市瓦屋西Ｂ３号墳（浜松市教委1991）などで横穴式木室が築造される。この地域では瓦屋西Ｂ３号墳や地蔵平Ｂ11号墳で紡錘車が出土する。中遠江では、甑塚古墳（磐田市史編さん委1992）が築造される６世紀前半に安久路古窯（磐田市史編さん委1992）が操業され、６世紀前半～後半に横穴式木室を採用する明ヶ島古墳群（磐田市教委2003）が築造される。さらに、小笠山丘陵でも、大門大塚古墳（袋井市教委1987）が形

成される時期に、衛門坂古窯群（袋井市教委1989）が形成され、やや遅れて高尾向山古墳群（袋井市教委1996）で横穴式木室が形成される。大門大塚古墳で石製紡錘車、高尾向山５号墳（横穴式木室）で砥石が出土している。磐田原台地東部では現状では窯業生産や横穴式木室が展開する時期に紡錘車や砥石の副葬は確認できないが、須恵器窯が導入された３地域に鉄器生産と関連すると想定される横穴式木室(註11)、そして紡錘車の副葬から想定される紡錘（紡織の可能性もある）の３技術の存在が想定できる。

これらの地域に若干遅れるものの、森町の太田川右岸のおおよそ３㎞の範囲に、紡錘車、砥石が出土した天王ヶ谷横穴墓群、森山古窯群が位置しており、さまざまな手工業生産技術の存在が想定できる（註12)。また、林５号墳は鍛冶技術との関連が想定される横穴式木室である。

したがって、手工業技術導入は若干時期差があったと考えられるが、さまざまな種類の手工業生産が太田川右岸域に６世紀後半～末葉以降に導入されていた可能性が高い。この時期以前は、本節２項で概観したように有力古墳の造営は太田川左岸の方にあり、古墳の造営が不活発な地域であった。こうした地域にさまざまな技術が導入され、それを行った集団あるいは統括した集団が円田丘陵や太田川右岸の丘陵地に古墳を築いたのであろうか。

このように須恵器生産、横穴式木室、紡錘の技術が同じような地域に導入されていることは非常に興味深い。太田川右岸域は、三方原台地東淵、磐田原台地東縁、小笠山丘陵より１・２段階遅れての各技術の導入が行われた可能性が高いこと、横穴式木室は小笠山や磐田原台地東縁の関係が強いことが想定できる（田村2006・2008）ことから、横穴式木室のネットワークも構築されていた可能性が高い（註13)。遠江におけるさまざまな手工業技術の総合的な導入の１次的な段階が磐田原台地東縁や小笠山丘陵であるとすれば、森町域の太田川右岸への技術導入は２次的な導入といえるのではなかろうか。

こうした太田川右岸域への手工業技術の導入と関連してか、６世紀末葉以降、円田丘陵でも文殊堂古墳群で金銅装馬具が出土する古墳が出現するとともに、森町域でも観音寺本堂横穴墓群、院内甲・乙墳など複数の古墳・横穴墓に副葬されている。

したがって、今後さらなる検証が必要となるが、宇藤、天王ヶ谷横穴墓群は６支群に区分でき、それぞれが集落や血縁関係を異にしていた可能性があるとともに、職業についても鉄器生産関係、紡錘関係、あるいは須恵器生産に関わるような人々が埋葬された墓域であった可能性が想定できる（註14)。さらに、人骨調査の結果から海女、漁業、航海に関係するような職掌をもつ集団の存在も想定できる。

太田川右岸、森町域への手工業生産技術の移転は、手工業生産の導入期に装飾付大刀や金銅装馬具の副葬が増加することから、畿内王権の政策によっていた可能性があるとともに、手工業技術を保有する集団の移植を含めて考えてみる必要があろう。横穴墓の導入は、形態的な特徴から想定される北部九州からの一部の移植も含めて考えてみる必要があろう。

また、畿内王権による、こうした手工業生産技術の移転はミヤケを中心に行われた可能性が想定される（菱田2004・2007）が、円田丘陵周辺にはミヤケの存在は想定されていない。また、律令期の周智郡衙は太田川がより大きな平野部にむかって南下する太田川中流域と下流域の境の、飯田丘陵の南西端近くにある稲荷領家遺跡か春岡遺跡と想定されており、現状では円田丘陵周辺に畿内王権により設置されたミヤケの存在は想定しにくい。一方で、円田地域内の森町大城戸遺跡には現在の森町宮代に移転する前の小国神社が存在していた可能性が想定されており（森町史編さん委1998)、円田地域はのちに遠江一宮が置かれた場所である可能性が高いことから、畿内王権との関係が継続していた地域と想定できる。

このように宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の発掘調査により、両横穴墓群の築造集団が、須恵器、紡錘（紡織)、鉄器生産などの手工業生産に関わっており、また森山古窯群が近在することから、さまざまな手工業生産がこの地域に存在していた可能性が想定できたことは重要な成果である。

註

1　遠江Ⅳ期後半に位置づけられる土器や遺物が出土した横穴墓は少ないが、規模や袖部の形状からみるとこの時期に位置づけられると想定できる横穴墓がある。

2　図化されていない森町観音堂横穴墓群については、発掘調査に参加された足立順司氏、掛川市楠ヶ谷横穴墓群については発掘調査を担当した戸塚和美氏、井村広巳氏に御教示を得た。袋井市春岡横穴墓群については、『静岡県の横穴墓』にて確認し、発掘調査を担当した松井一明氏、白澤崇氏に御教示を得た。明記して深謝します。

3　宇藤５号墓の覆土中より土師器小片が出土しており、近接している４号墓からの落ち込みの可能性がある。

4　杯と鉢については、椀形態が多く判別し難いが、基本的に内面の調整方法によりナデ調整を行うものを杯、内面のケズリ調整を行うものを鉢とした。ただし、５号墓の箱形のもの、39号墓の深椀形のものについてはナデ調整が行われているが鉢とした。

5　森町森山古窯群については、森山古窯、西金谷古窯が発見されており、同一の古窯群と想定されている。この２基などの数基で構成される可能性が高い。

6　森山古窯群産須恵器については、森山古窯採集資料と、その生産品である可能性が高い菖蒲ヶ谷古墳群や円明寺古墳群、観音堂横穴墓群、石仏ノ坪古墳の資料については森町教育委員会の協力により実見し、天王ヶ谷横穴墓群出土のこれらの須恵器が森山古窯群産である可能性が高いことを確認した。また、資料整理中であるが、第二東名高速道路の建設に先立って調査した浜松市浜北区高根山古墳群中にも森山古窯群産と想定できる須恵器があることを、足立順司氏によりご教示を得た。

7　第３節で記述する内容については、片山一道・大藪由美子氏の人骨鑑定の意見を参考にしているが、その結果を受けて報告者である大谷の責任で記述するものであり、両先生には責任がないことを明記しておきたい。

8　現状では出土遺物を総合的に判断して妥当な時期を掘削時期としている。当横穴墓群の変遷についてもこの姿勢で行っている。

9　片山一道先生の御教授による。

10　横穴式石室、横穴式木室、横穴墓の３者が存在する地域であり、その階層的関係を考えるには非常に重要な事例となる。円田丘陵の古墳群では石室→木室→横穴墓という関係であったが、掛川市長谷周辺では木室と横穴墓が確認される地域では、宇洞ヶ谷横穴墓→堀ノ内13号墓という関係が確認でき、必ずしも横穴墓が下位に位置づけられるわけではない（鈴木一有2001）。
　横穴墓の階層的位置づけが低いと決めつけるのではなく、地域ごとに詳細な分析が必要である。

11　遠江の場合、横穴式木室が所在する地域に窯業遺跡が所在することは、横穴式木室築造者集団が鉄器生産だけではなく、窯業生産や他の手工業生産とのかかわりがあった可能性が想定できる。

12　横穴式木室が導入された地域は、これ以外に磐田市（旧豊岡村）上神増Ｅ３号墳（静岡埋文研2010）、掛川市堀ノ内13号墳である。両者の近在には須恵器窯は確認されていない。一方、砥石は、前者では近在の押越３・６号墳で出土している。後者の近くには現状では砥石出土古墳も確認されていない。横穴式木室の拡散は、鉄製技術を保有する集団あるいはさまざまな手工業技術を保有する集団が拡散し、遠江の各小地域の手工業生産体制に組み込まれ、その技術を広めていた可能性もある。

13　中遠江は、鉄製内湾楕円形鏡板付轡の集中的な存在から、鍛冶技術や馬匹生産が行われていた地域と想定されている（鈴木一有2004）が、まさにこうした技術基盤がある地域に新しい技術が持ち込まれた可能性も高いといえようか。

14　須恵器窯と鉄器生産が同時期に導入された可能性が高い地域には、静岡県内では藤枝市域がある。衣原古窯群、入野高岸古窯が確認され、さらに衣原古窯群では鉄器生産に使用する木炭を生産する木炭窯が確認され、近くで鉄器生産が行われていた可能性がある。この地域でも藤枝市（旧岡部町）板沢６号墳から紡錘車が出土している。鉄製紡錘車とミヤケとの関連は想定されるが（東村2005）、石製紡錘車であり、一概にミヤケとの関連で導入されたとは言えないが、須恵器生産や鉄器生産とともにさまざまな手工業技術が各地に移植された可能性は高いといえるのではなかろうか。

第７章　結　語

報告書を閉めるにあたり、宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群の特徴をまとめて結語としたい。

築造単位（支群と単位群）　宇藤横穴墓群２支群７単位群、天王ヶ谷横穴墓群４支群19単位群以上に区分することができる。立地状況や墓道の分析からは、両横穴墓群の築造者集団は別の集団であった可能性が高い。ただし、後述するように横穴墓の形態的特徴などは酷似しており、情報共有するような近い関係はあったと想定できる。

横穴墓の特徴　横穴墓の断面形態は、太田川流域に特徴的な尖頭アーチ形天井である。横穴墓の平面形態は６形態に区分でき、いずれも太田川流域でこれまで確認されている形態である。両袖式が半数を占め、疑似両袖式、無袖形も存在する。

内部施設の特徴　内部施設は、敷石が34基と主体的な位置を占める。棺台が３基、棺座＋敷石３基、現状で内部施設なしが31基である。現状で内部施設がないが大型の横穴墓については築造当初は敷石を採用していた可能性が高い。一方、４ｍ以下の横穴墓については本来内部施設が伴わない可能性が高い。採用された内部施設は太田川流域の横穴墓の特徴と合致している。

なお、棺台を採用した３基はいずれも単独で単位群を構成するもので、敷石を設置するものが複数で単位群を構成することは異なる。同一集団でもやや埋葬習慣などを異にする集団であった可能性がある。

掘削痕　横穴墓の壁面に残存する掘削痕（最終壁面調整痕）は、天井部付近を縦方向、中央を横方向、下部を縦方向に削る調整方法を採用している。この調整方法は太田川流域に尖頭アーチ形の横穴墓では共有していることから、太田川流域の横穴墓は平面形態や調整方法など様々な面で情報共有していた可能性が高いことが判明する。

横穴墓の変遷　天王ヶ谷44号墓が太田川流域の横穴墓の出現と同時期（遠江Ⅲ期後葉，６世紀末葉）に北部九州（豊前地方）の横穴墓の影響を受けて築造される。つづく遠江Ⅳ期前半に横穴墓の築造の最盛期を迎え、遠江Ⅳ期後半には衰退傾向となり、遠江Ⅴ期前半には小型の横穴墓を除いて築造は終了していた可能性が高い。形態的な変遷をみると、両袖式で袖部の幅が広く、羨道長が玄室長と比較して短いものから、時期が下るにつれて袖部の幅が狭く、羨道が玄室長よりも長くなる両袖式、袖部自体があいまいになり羨道が玄室よりも長い疑似両袖式、無袖式へと変化する。また、時期が下るにしたがい、規模が縮小する傾向があり、最終段階には２ｍを下回る横穴墓が築造されたと考えられる。両横穴墓群の横穴墓形態の変遷過程は太田川流域の横穴墓の変遷と合致している。

森山窯産須恵器　森町森山窯産の特徴を有する須恵器が、天王ヶ谷５・10・39・50・52号墓で出土した。森町史編纂段階では、円明寺古墳群や観音堂横穴墓群で森山窯産須恵器が出土していることが想定されているが、天王ヶ谷横穴墓群のほか、天竜川を超えた大屋敷Ｃ古墳群や、森町域から一丘陵超えた原野谷川中流域の掛川市角庵Ⅰ・Ⅱ遺跡でも出土している。したがって、東は掛川市の原野谷川中流域、西は天竜川流域の浜北北麓古墳群にまで供給されていた可能性がある。

耳環　耳環は少なくとも３種類があることが確認できた。中実の銅芯に銀箔を被せ、その上にアマルガムで鍍金する「中実銅芯銀張鍍金」耳環と、中空の銅芯にアマルガムで鍍金する「中空銅芯鍍金」耳環、全国的に見ても非常に特殊な鉄製（鉄無垢）耳環である。前者は古墳時代において一般的な技法であり（渡辺1997）であり、「中空銅芯鍍金」も数は少ないが、一定量は確認できるものである。鉄製（鉄地錫張の可能性がある）耳環は非常に珍しく、遠江での事例はない。また、全国的にみても稀有な遺物であると想定でき、特異な流通（鍛冶技術の交流か）により入手した可能性が高い。

鉄製武器の副葬　宇藤横穴墓群では大刀や鉄鏃など武器は出土していない。天王ヶ谷横穴墓群では、大刀・短刀が５・17・37号墓など５基からの出土であり、鉄鏃も５・15～17・35などに限られる。本数も10本以下であり、武器の副葬は少ない。弓両頭金具は、４・６・16・52号墓の４基で出土しているが、横穴墓数にすれば少ない。したがって、両横穴墓群ともに軍事色が薄い。つまり、両横穴墓群は軍事を主体として編成されたわけではなく、軍事以外の特徴を有する集団が築造したと想定できる。

なお、両横穴墓群では装飾付大刀、装飾付馬具・鉄製馬具を含めていわゆる「威信財」が一切出土していない点は注目できる。この点からみれば特筆すべき小首長が存在しておらず、階層的にはそれほど上下差のない集団であった可能性が高い。

農工具の副葬がない　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群では、刀子を除いて農工具は一切出土していない。遠江の後期古墳から農工具が出土することはそれほど多くないが、68基を調査したにもかかわらず一切出土していないことは、両横穴墓群築造者集団の性格を示しているようで興味深い。

砥石　天王ヶ谷42号墓で出土した。覆土中からの出土であり、開口していた横穴墓であるため、古墳時代以降の遺物である可能性も残るが、古墳に伴うものとして考えたい。

紡錘車　天王ヶ谷20・30号墓で出土している。遠江の横穴墓では紡錘車が出土したことなく、天王ヶ谷の２例が初出土となった。少ない副葬品ながら紡錘車を副葬している点は、紡績あるいは紡織に携わっていた可能性を示している可能性が高い。

遺体の埋葬方法　宇藤・天王ヶ谷両横穴墓群では伸展埋葬はなく、すべてが改葬骨であった。遠江の事例を併せて検討すると、６世紀末葉～７世紀前半に埋葬方法の転換が起こり、遠江では改葬が一般的になっていた可能性があることがわかった。

被葬者の関係　各横穴墓群に埋葬された人骨の性別や年齢から、両横穴墓群では夫婦とその子供・孫（基本モデルⅢ）の存在も想定できるが、父親（母親）と子供あるいは年の離れた兄弟姉妹の埋葬などが想定できる組合せもあるため、基本モデルⅢが常態化していなかったと想定した。また、これまでの研究により（田中1995，清家2002・2009）父系社会に移行しつつあったと想定できるが、女性家長の存在も想定できることから、双系的な社会集団であった可能性を想定した。

宇藤・天王ヶ谷横穴墓群築造者集団の特質　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群が所在する円田地域周辺は、同時期に横穴式石室、横穴式木室、横穴墓と遠江で確認される古墳時代後期の埋葬施設が混在する地域として重要である。第６章でも仮説を提示したように大胆な想定をし、横穴式木室が鉄鍛冶関連、横穴墓から出土した紡錘車が紡錘・機織、同じく砥石や鉄製耳環が鍛冶関連、近在する森山古窯群が窯業関連とすれば、森地域（特に太田川右岸の丘陵地帯周辺）にいろいろな種類の手工業生産が移殖され、それらを直接担う集団が古墳や横穴墓を築造した可能性が高いといえるのではなかろうか。それを統括するのが金銅装馬具を副葬した可能性が高い文殊堂古墳群や、前方後円墳である西脇１号墳であった可能性もある。

宇藤・天王ヶ谷横穴墓群が、太田川右岸では圧倒的な数の多さを誇る点は、こうした手工業生産に関連して重要視された結果、横穴墓の築造ができた家族が増加したと想定できるのではなかろうか。

さいごにー今後の課題ー　宇藤・天王ヶ谷横穴墓群の発掘調査はこのような大きな成果をもたらすとともに、考古学的な課題も多く孕んでいる。①古墳時代後期後半以降の埋葬方法、②横穴墓や古墳に埋葬された被葬者の関係と社会構造、③古墳・横穴墓造営集団の社会的な編成や性格差、④古くから議論されている横穴墓と横穴式石室の性格差、⑤横穴墓と築造集団の居住場所の関係、などである。

本報告では上記の課題の一部について、宇藤横穴墓群、天王ヶ谷横穴墓群の調査成果から想定できる点を挙げたに過ぎず、今後遠江全体あるいは日本列島全体の歴史的、社会的位置づけを検討していく必要がある。最後に検討課題を挙げて終わりとしたい。

参 考 文 献

【報告書・市町史等】

磐田市教育委員会　2003 『東部土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
磐田市史編さん委員会　1992 『磐田市史』資料編　磐田市
内藤晃・遠藤才文ほか　1979 『観音堂横穴群』 日本楽器製造株式会社
静岡縣　1930 『静岡縣史』 1
静岡県埋蔵文化財センター　2012 『角庵Ⅰ遺跡・角庵Ⅱ遺跡』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　1998 『高見丘Ⅲ・Ⅳ遺跡』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2000 『大谷横穴群』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2004a 『寺山古墳群』（豊岡村－１）
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2004b 『大屋敷Ｃ古墳群・大屋敷１号窯』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2004c 『森町睦実の遺跡』（森町－１）
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2006 『森町円田丘陵の遺跡』（森町－２）
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008a 『森町円田丘陵の古墳群』（森町－３）
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008b 『大屋敷Ａ古墳群』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2009 『片瀬遺跡・綱掛山古墳群』（森町－４）
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2010 『合代島丘陵の古墳群』（豊岡村－３）
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2011 『弥勒平遺跡・中屋敷遺跡』（森町－５）
豊岡村教育委員会　1983 『押越・社山古墳群調査報告書』
浜松市教育委員会　1991 『瓦屋西古墳群』
浜松市教育委員会　2004 『有玉古窯』
袋井市教育委員会　1987 『大門大塚古墳』
袋井市教育委員会　1989 『衛門坂古窯』
袋井市教育委員会　1994 『山田原遺跡群』
袋井市教育委員会　1996 『高尾向山遺跡Ⅱ』
森町教育委員会　1988 『善千鳥遺跡確認調査報告書』（静岡県周智郡森町）
森町教育委員会　1991 『涼松・朝日平・西峠水戸ヶ谷東峠遺跡』（静岡県周智郡森町）
森町教育委員会　1996 『森町飯田の遺跡』（静岡県周智郡森町）
森町教育委員会　1998 『奥谷田Ⅰ・Ⅱ遺跡』（静岡県周智郡森町）
森町教育委員会　2007 『町内遺跡試掘・確認調査報告書』（静岡県周智郡森町）
森町史編さん委員会　1998 『森町史』資料編１　考古　静岡県周智郡森町
森町史編さん室・社会教育課文化振興係　1999 『図説森町史』 静岡県周智郡森町

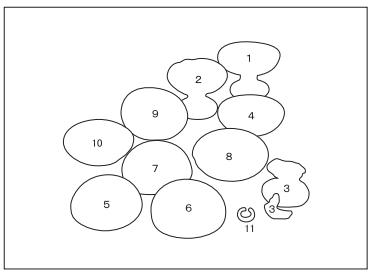
【論文等】

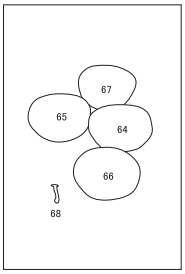
足立順司　1981 「群集墳に関する覚え書き－東遠江の例－」『群集墳と横穴墓』 静岡県考古学会
足立順司　1998 「古代末期の地方経塚」『森町史』 資料編
池上　悟　2000 「東海横穴墓の受容と展開」『日本の横穴墓』 雄山閣
池上　悟　2004 『日本横穴墓の形成と展開』 雄山閣
井鍋誉之　2003 「静岡県内の飾り弓について」『研究紀要』10号　静岡県埋蔵文化財調査研究所
井村広巳　2001 「遠江における横穴墓の埋葬施設の検討」『静岡県考古学研究』34号　静岡県考古学会
大谷晃二　2001 「西日本の横穴墓」『静岡県の横穴墓』 静岡県考古学会
大谷宏治　2001a 「階層構造からみた横穴墓」『東海の横穴墓』 静岡県考古学会
大谷宏治　2001b 「遠江における横穴墓研究ノート②」『静岡県考古学研究』33号　静岡県考古学会
大谷宏治　2003a 「遠江・駿河・伊豆における古墳時代後期の鉄鏃の変遷とその意義」『研究紀要』10号
静岡県埋蔵文化財調査研究所
大谷宏治　2003b 「遠江における横穴墓研究ノート①」『関西大学考古学研究室五拾周年記念考古学論集』
関西大学
大谷宏治　2004a 「結語－寺山古墳群の位置づけ」『寺山古墳群』 静岡県埋蔵文化財調査研究所
大谷宏治　2004b 「大屋敷Ｃ古墳群の評価」『大屋敷Ｃ古墳群・大屋敷１号窯』 静岡県埋蔵文化財調査研究所
大谷宏治　2008 「遠江の横穴墓からみた家族・社会の変化」『東海の古墳風景』
大谷宏治　2010 「東海東部の横穴墓と古墳」『横穴墓と古墳』 東北・関東前方後円墳研究会
小畑早苗・近藤美紀　2001 「横穴式石室用語の定義」『東海の後期古墳を考える』
東海考古学フォーラム三河大会実行委員会
柏木善治　2010 「古墳時代後期～終末期の横穴墓と古墳」『横穴墓と古墳』 東北・関東前方後円墳研究会
静岡県教育委員会　1983 『遠江の横穴群』

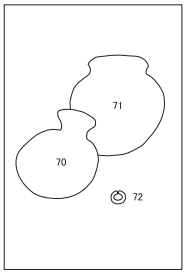
静岡県考古学会　2001 『東海の横穴墓』
静岡県考古学会　2003 『静岡県の横穴式石室』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2003 『研究紀要』10号　特集：古墳時代後期の鉄鏃
柴田　稔　1983 「横穴式木芯粘土室の基礎的研究」『考古学雑誌』68巻４号
鈴木一有　1998 「後論」『宇藤坂古墳群』 浜松市文化協会
鈴木一有　2000a 「遠江における横穴式石室の系譜」『浜松市博物館報』13　浜松市博物館
鈴木一有　2000b 「三方原古墳群における群集墳の構造」『東海地方における群集墳の築造モデル』 三河古墳研究会
鈴木一有　2001 「東海地方後期古墳の特質」『東海の後期古墳を考える』 東海考古学フォーラム三河大会実行委員会
鈴木一有　2003 「東海東部の横穴式石室にみる地域圏の形成」『静岡県の横穴式石室』 静岡県考古学会
鈴木一有　2004 「中ノ郷古墳出土遺物の検討」『三河考古』17号
鈴木一有　2008 『四つ池古墳群』 浜松市文化振興財団
鈴木敏則　1988 「遠江の横穴式石室」『転機』２号　転機刊行会
鈴木敏則　1991 「横穴式木室雑考」『三河考古』４号　三河考古談話会
鈴木敏則　2001 「湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅　補遺・論考編』 東海土器研究会
鈴木敏則　2004 「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』 浜松市教育委員会
清家　章　1996 「副葬品と被葬者の性別」『雪野山古墳の研究』 大阪大学考古学研究室
清家　章　2002 「近畿古墳時代の埋葬原理」『考古学研究』49巻１号　考古学研究会
清家　章　2009 「古墳時代における父系化の過程」『考古学研究』56巻３号　考古学研究会
田代健二　2001 「豊前地方の横穴墓について」『九州の横穴墓と地下式横穴墓』 九州前方後円墳研究会
田代健二　2005 「横穴墓の成立過程」『古文化談叢』53号　古文化談話会
田中良之　1995 『古墳時代親族構造の研究』 柏書房
田辺昭三　1966 『陶邑古窯址群』 平安学園考古学クラブ
田辺昭三　1981 『須恵器大成』 角川書店
田村隆太郎　2001 「長福寺１号墳の研究　考察」『静岡県考古学研究』33号　静岡県考古学会
田村隆太郎　2003a 「中遠江における横穴系埋葬施設の展開」『静岡県の横穴式石室』 静岡県考古学会
田村隆太郎　2003b 「副葬鏃群への指向」『研究紀要』10号　静岡県埋蔵文化財調査研究所
田村隆太郎　2006 「遠江の横穴式木室と土器の副葬」『研究紀要』12号　静岡県埋蔵文化財調査研究所
田村隆太郎　2008 「東海の横穴式木室と葬送」『東海の古墳風景』（季刊考古学・別冊16）　雄山閣
田村隆太郎・鈴木一有ほか　2001 「遠江長福寺１号墳の研究」『静岡県考古学研究』33号
田村隆太郎　2008 「東海の横穴式木室と葬送」『東海の古墳風景』（季刊考古学・別冊16）　雄山閣
近つ飛鳥博物館　2005 『年代のものさし－陶邑の須恵器－』
東海古墳文化研究会　2006 『東海の馬具と飾大刀』
中嶋郁夫・大谷宏治・田村隆太郎　2002 「遠江」『古墳時代中期の大型墳と小型墳』
西澤正晴　2000 「遠江における古墳の終末」『古墳の終末』 三河古墳研究会
西原崇浩　2010 「千葉県の横穴墓と古墳」『横穴墓と古墳』 東北・関東前方後円墳研究会
橋口達也　1993 「横穴墓発生過程についての覚書」『古文化談叢』30　古文化談話会
花田勝弘　2001 「横穴墓の成立と展開」『九州の横穴墓と地下式横穴墓』 九州前方後円墳研究会
東村淳子　2005 「律令国家形成期における鉄製紡錘車の導入と紡織体制」『洛北史学』７号　洛北史学会（京都府立大学）
菱田哲郎　2004 「古墳時代中・後期の手工業生産と王権」『文化の多様性と比較考古学』 考古学研究会
菱田哲郎　2007 『古代日本　国家形成の考古学』 京都大学学術出版会
松井一明　1989 「宮口古窯跡群と清ヶ谷古窯跡群における須恵器・陶器生産についての一考察」『静岡県の窯業遺跡』
静岡県教育委員会
松井一明　1995 「遺物について」『坂尻遺跡－遺物・統括編－』 袋井市教育委員会
松井一明　1996 「高尾向山遺跡の横穴式木室墳について」『高尾向山遺跡Ⅱ』 袋井市教育委員会
松井一明　1997 「遠江における横穴群の地域色と古墳時代後期の交通路について」『八幡山横穴群』 袋井市教育委員会
松井一明　2001a 「横穴墓の開始と終末」『東海の横穴墓』 静岡県考古学会
松井一明　2001b 「遠江における横穴墓の伝播と展開」『静岡県考古学研究』33号　静岡県考古学会
松井一明　2004 「袋井の群集墳と横穴墓を考える『地蔵ヶ谷古墳群・横穴群』
丸杉俊一郎　2007 「井通遺跡出土土器の検討」『井通遺跡』本文編２　静岡県埋蔵文化財調査研究所
三河古墳研究会編　2001 「東海の後期古墳データベース」（CD-R）『東海の後期古墳を考える』
東海考古学フォーラム三河大会実行委員会
水野正好　1970 「群集墳と古墳の終焉」『古代の日本』５　角川書店
村上久和　1991 「九州周辺の横穴墓」『大分考古』４号
横穴式石室研究会　2007 「横穴式石室集成」『近畿の横穴式石室』
吉岡郁夫　1996 「横穴古墳群等出土の人骨」『森町飯田の遺跡』 森町教育委員会
和田晴吾　1992 「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』５　近畿Ⅰ　角川書店
渡辺智恵美　1997 「耳環小考」『創立30周年記念誌1967～1997』 元興寺文化財研究所

このほかにも多くの論文・報告書を参考にさせていただきましたが、紙幅の関係で割愛しました。ご容赦ください。

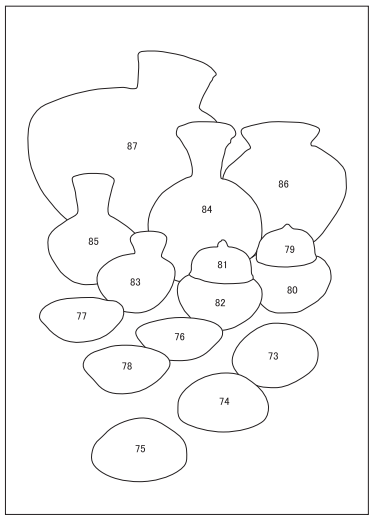
図　版



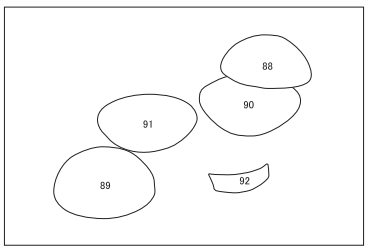




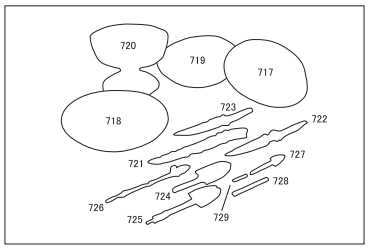
図版 105



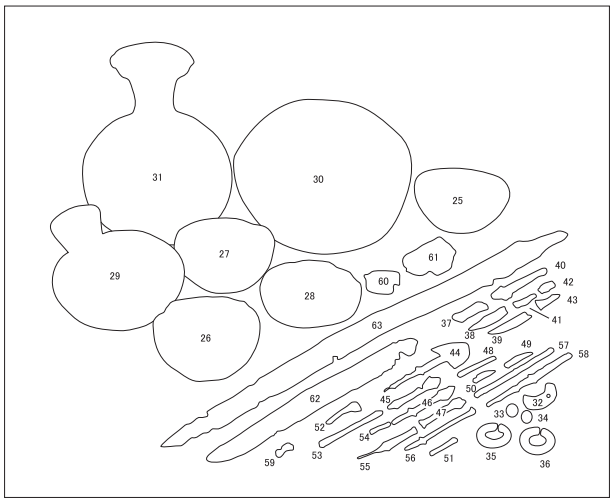
図版 116



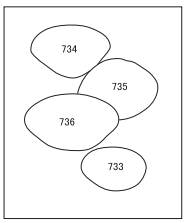
図版 117-1



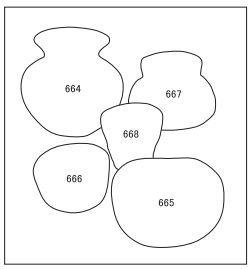
図版 140-1



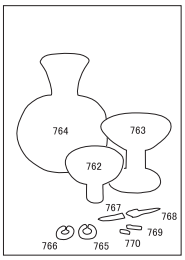
図版 108-1



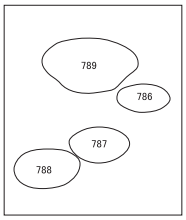
図版 142-1



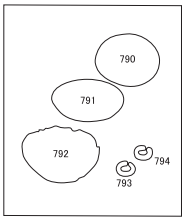
図版 138-1



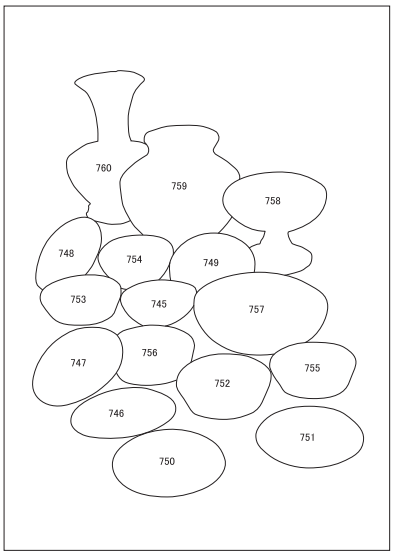
図版 148-7



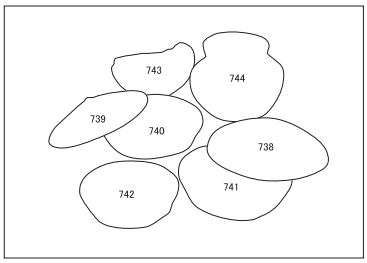
図版 153-3



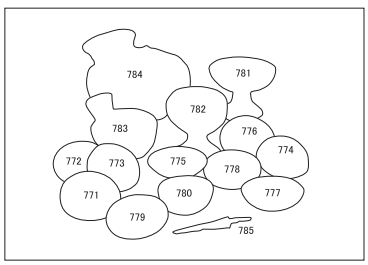
図版 153-4



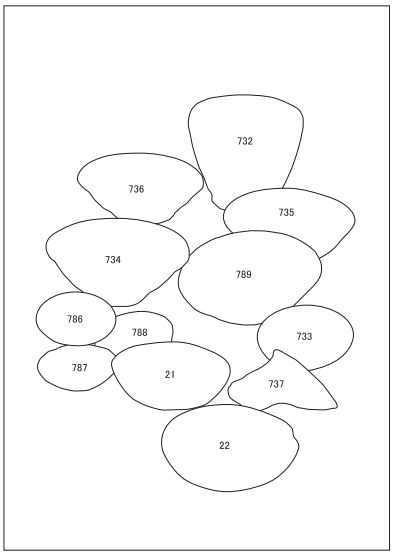
図版 147



図版 144-1



図版 149-1



図版 155

別図３　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群出土遺物図版集合写真掲載遺物番号

1. 宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群　遠景（南から）

図版2　宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群

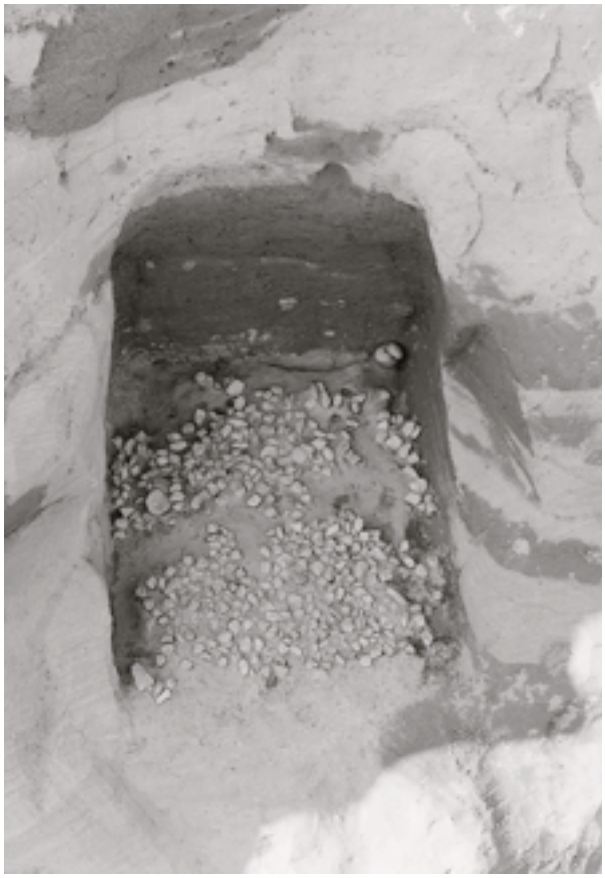
1．宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群　全景（完掘状況，南西上空から）

2．宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群　全景（完掘状況，南東上空から）

1．宇藤横穴墓群　遠景（南から）　奥がⅠ支群，手前がⅡ支群

2．宇藤横穴墓群　Ⅰ支群（８～ 13 号横穴墓）全景（南から）

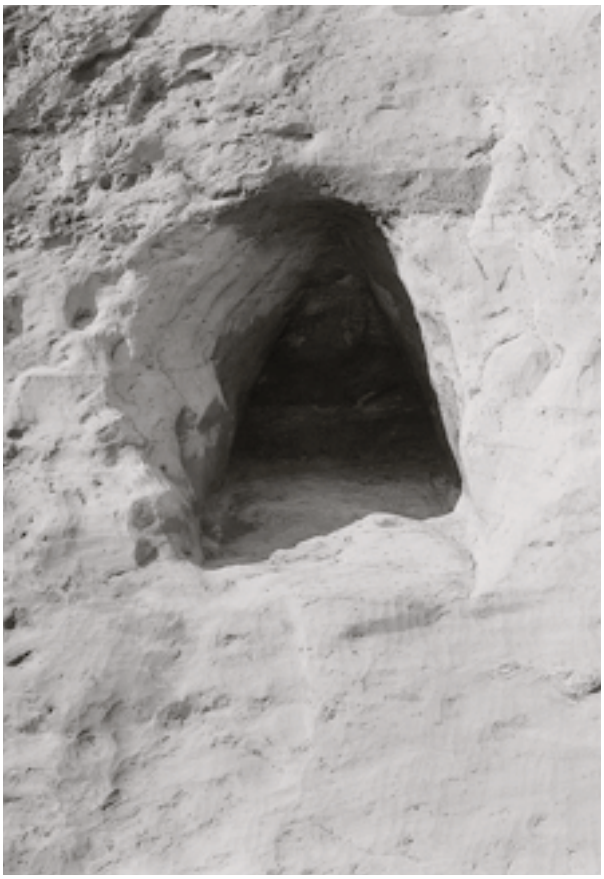
図版4　宇藤8・9号横穴墓



1. 宇藤8号横穴墓　遺物および敷石検出状況（南から）

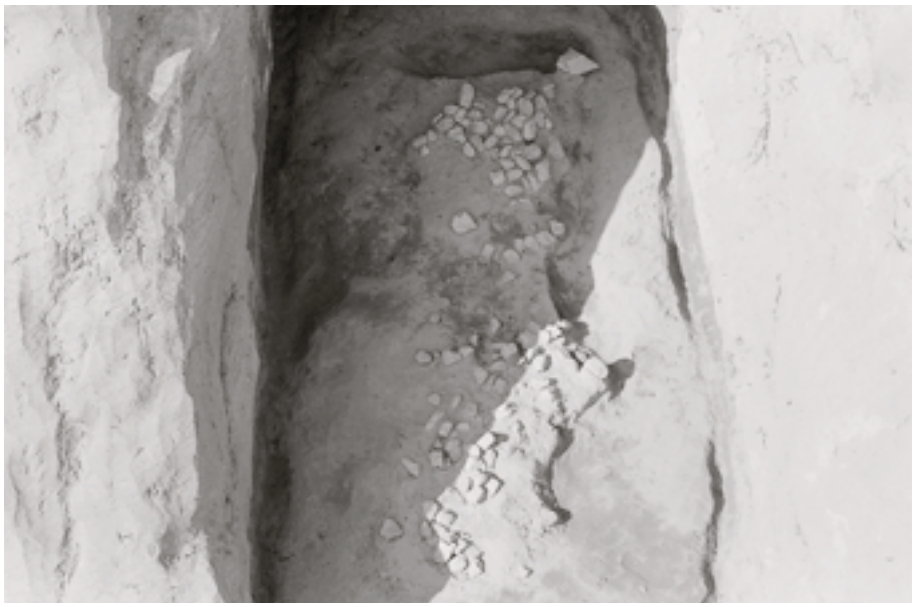
2. 宇藤8号横穴墓　完掘状況（南から）

3. 宇藤8号横穴墓　土器出土状況（南西から）



4. 宇藤9号横穴墓　完掘状況（南から）

1. 宇藤 10 号横穴墓　完掘状況
（南西から）



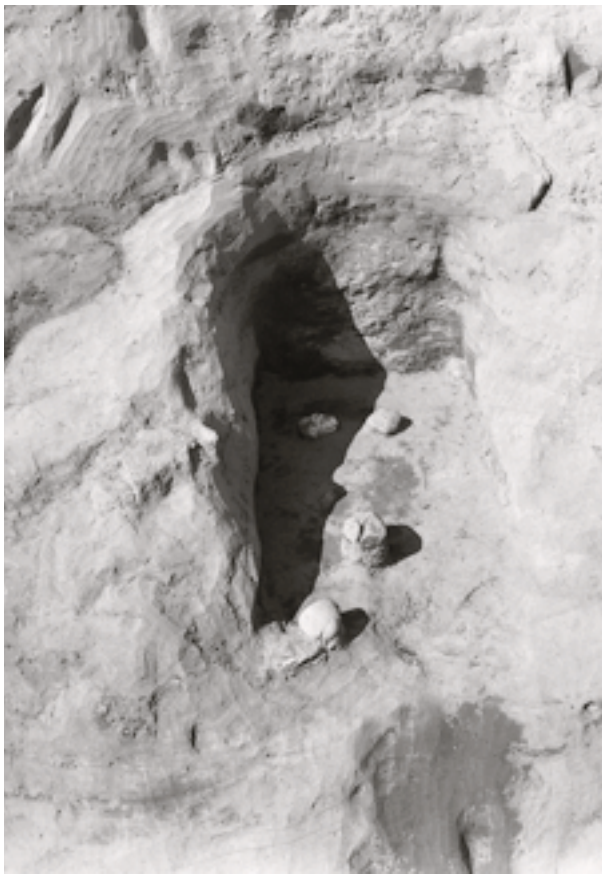
2. 宇藤 10 号横穴墓
敷石出土状況（南西から）

3. 宇藤 13 号横穴墓　完掘状況
（南から）

図版6　宇藤 11・12 号横穴墓

1. 宇藤 11 号横穴墓　完掘状況（南西から）

2. 宇藤 11 号横穴墓　敷石出土状況（南西から）



3. 宇藤 12 号横穴墓　完掘状況①（南西から）

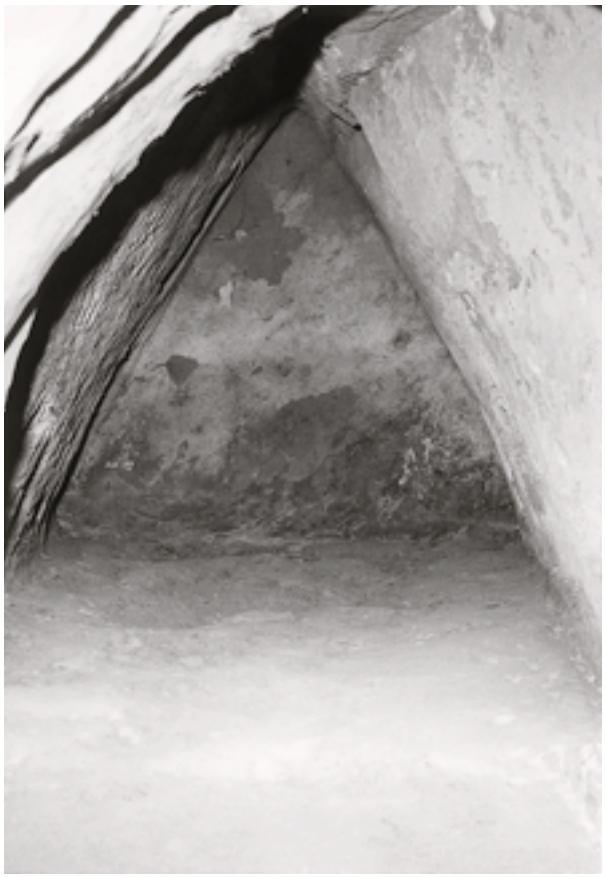
4. 宇藤 12 号横穴墓　完掘状況②（南西から）

1. 宇藤横穴墓群　Ⅱ支群（1～7号横穴墓）遠景（南から）

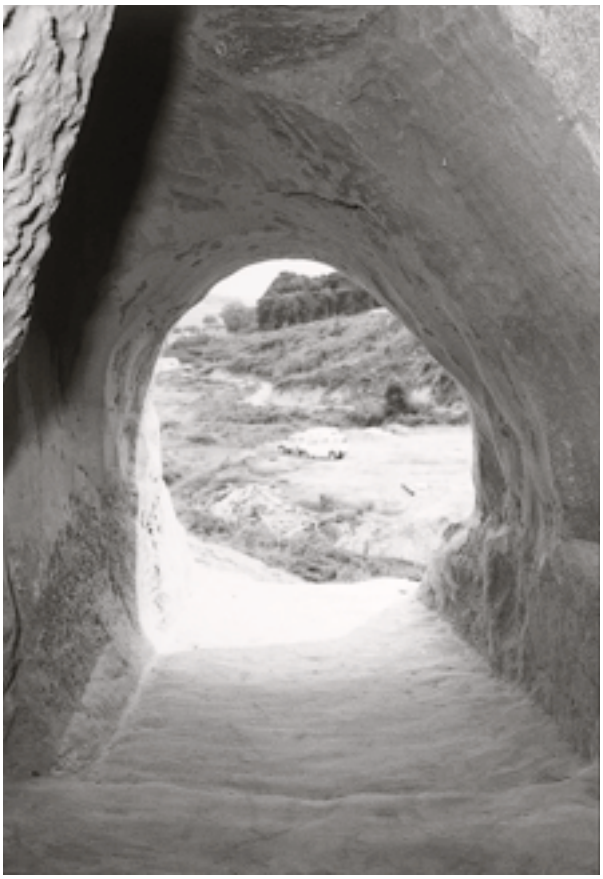
2. 宇藤横穴墓群　Ⅱ支群（1～7号横穴墓）全景（南から）

図版8　宇藤1・6・7号横穴墓

1. 宇藤1・6・7号墓共有前庭（南西から）



2. 宇藤1号横穴墓　玄室および奥壁（南から）



3. 宇藤1号横穴墓　袖部（奥壁側から）

1. 宇藤2～4号横穴墓　前庭完掘状況（南から）

2. 宇藤2号横穴墓　完掘状況（南から）

図版 10　宇藤2〜4号横穴墓

1. 宇藤3号横穴墓　完掘状況（南から）

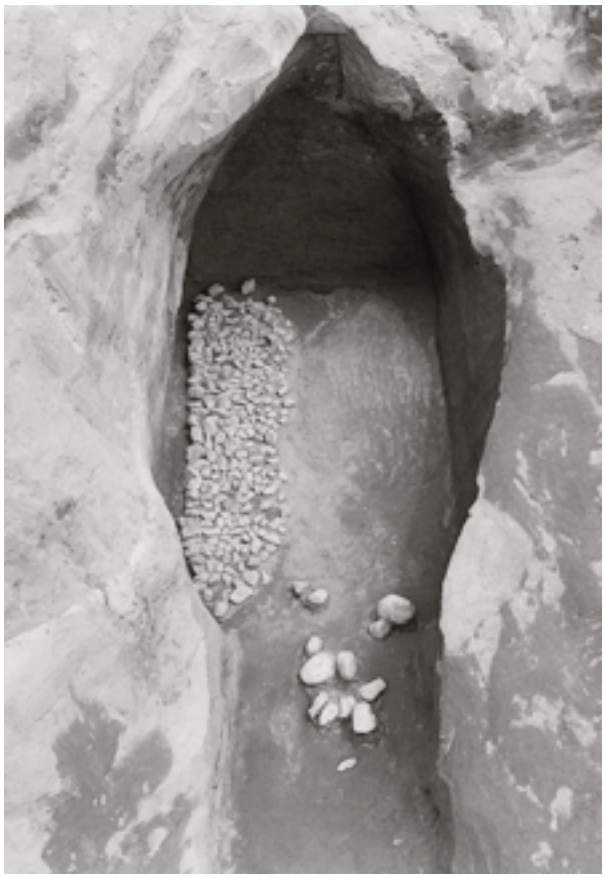
2. 宇藤2・3号横穴墓　完掘状況（南から）

3. 宇藤4号横穴墓　完掘状況（南から）

4. 宇藤4号横穴墓　遺物出土状況（南から）

5. 宇藤4号横穴墓　遺物出土状況（東から）

1. 宇藤5号横穴墓　完掘状況（南から）



2. 宇藤5号横穴墓　完掘状況（南から）

3. 宇藤5号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）

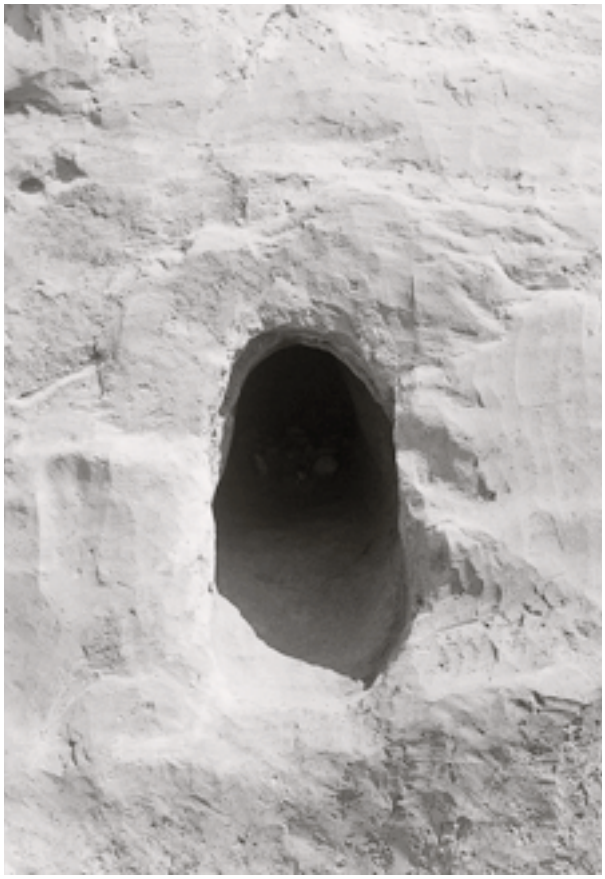
4. 宇藤5号横穴墓　遺物出土状況（東から）

図版 12　宇藤5号横穴墓

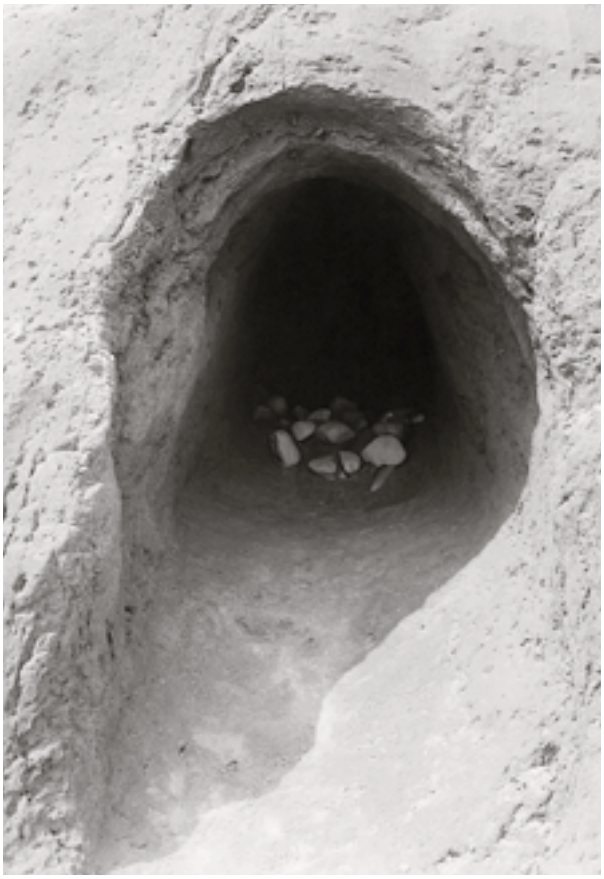
1. 宇藤5号横穴墓
敷石検出状況（東から）

2. 宇藤5号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

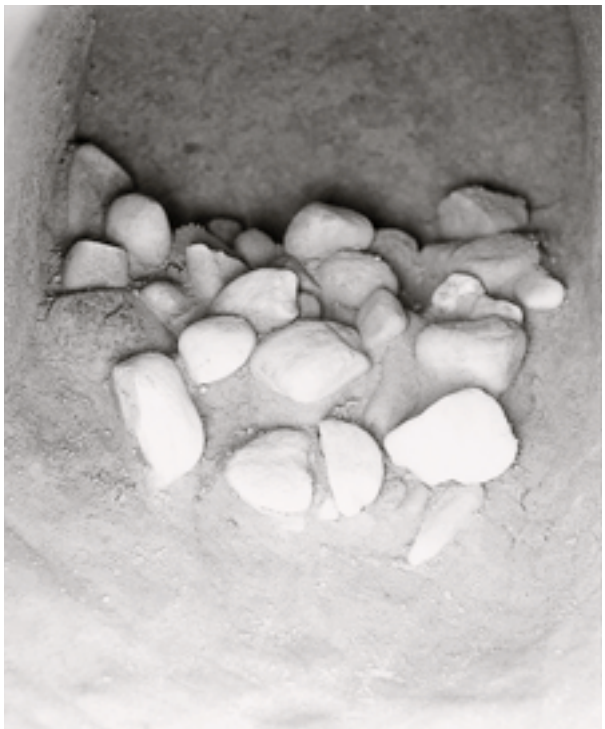
3. 宇藤5号横穴墓　完掘状況
（南から）



1. 宇藤6号横穴墓　完掘状況①（南から）



2. 宇藤6号横穴墓　完掘状況②（南から）



3. 宇藤6号横穴墓　敷石出土状況（南から）

4. 宇藤6号横穴墓　完掘状況③（敷石除去後，南から）

図版 14　宇藤7号横穴墓

1. 宇藤7号横穴墓　出土状況
（南から）

2. 宇藤7号横穴墓　閉塞石
出土状況（南から）

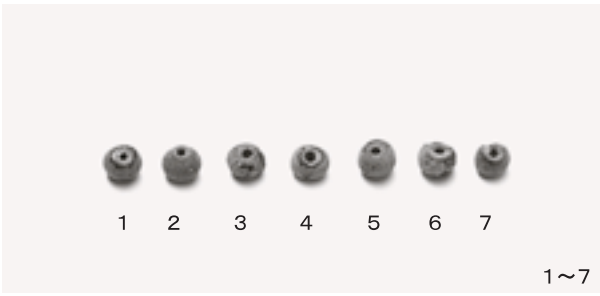
3. 宇藤7号横穴墓　完掘状況
（南から）

1. 宇藤7号横穴墓　人骨出土状況（南から）

2. 宇藤7号横穴墓　人骨出土状況（天井除去後，南から）

3. 宇藤7号横穴墓　遺物出土状況（南から）

図版 16　宇藤1・8号横穴墓



1～7

8

9

1. 宇藤8号横穴墓　出土遺物①

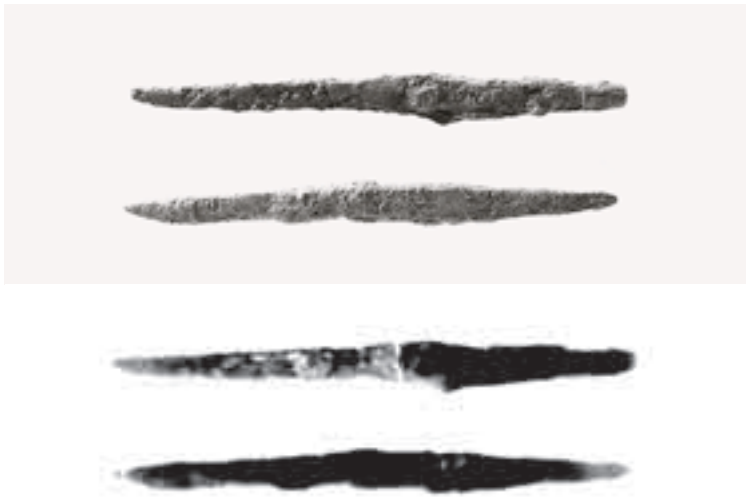
2. 宇藤8号横穴墓　出土遺物②（集合）　遺物番号は第1分冊別図2にあり

22

3. 宇藤1号横穴墓　出土遺物

10

1. 宇藤 10 号横穴墓　出土遺物



23・24

2. 宇藤7号横穴墓　出土遺物

21

20

3. 宇藤3号横穴墓　出土遺物

11　12

11　12

11・12

4. 宇藤5号横穴墓　出土遺物

13

19

5. 宇藤4号横穴墓　出土遺物①

図版 18　宇藤4号横穴墓

1. 宇藤4号横穴墓　出土遺物②

2. 宇藤4号横穴墓　出土遺物③（集合）

1. 天王ヶ谷横穴墓群　遠景（南西から）

2. 天王ヶ谷横穴墓群Ⅳ支群　遠景（南西から）

図版 20　天王ヶ谷横穴墓群

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ～Ⅲ支群　遠景（南西から）　文殊堂4号墳墳頂から

2. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群（1～ 25 号横穴墓）全景（南から）　文殊堂4号墳墳頂から

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群A単位群（1～7号横穴墓）全景（南東から）

2. 天王ヶ谷1・2号横穴墓　完掘状況（北東から）

図版 22　天王ヶ谷1～7号横穴墓

1. 天王ヶ谷1号横穴墓　完掘状況（北東から）

2. 天王ヶ谷2号横穴墓　完掘状況（北東から）

3. 天王ヶ谷3～7号横穴墓　完掘状況（南東から）

1. 天王ヶ谷3号横穴墓　完掘状況（東から）

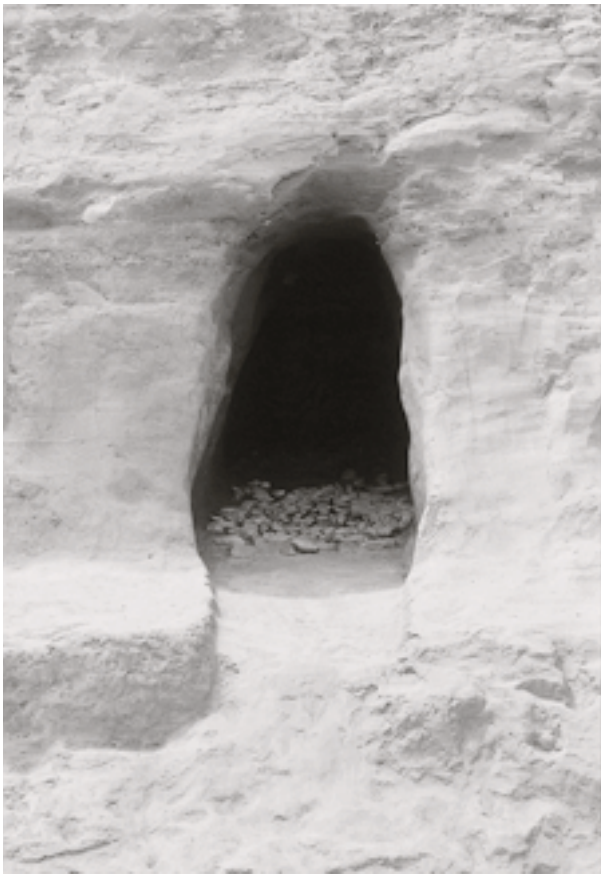
2. 天王ヶ谷3号横穴墓　奥壁（東から）

3. 天王ヶ谷3号横穴墓　閉塞石出土状況（東上方から）

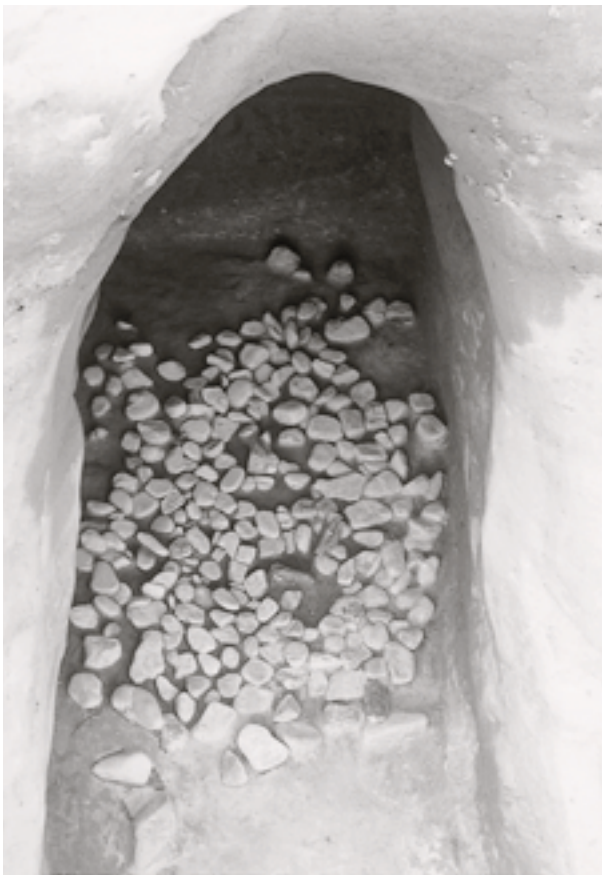
4. 天王ヶ谷3号横穴墓　閉塞石出土状況（東から）

図版 24　天王ヶ谷3・4号横穴墓

1. 天王ヶ谷3号横穴墓　遺物出土状況（東上方から）



2. 天王ヶ谷4号横穴墓　完掘状況（東から）



3. 天王ヶ谷4号横穴墓　敷石および人骨出土状況（東から）

4. 天王ヶ谷4号横穴墓　金属製品出土状況（北から）

1. 天王ヶ谷4号横穴墓　奥壁（東から）

2. 天王ヶ谷4号横穴墓　袖部（奥壁側から）

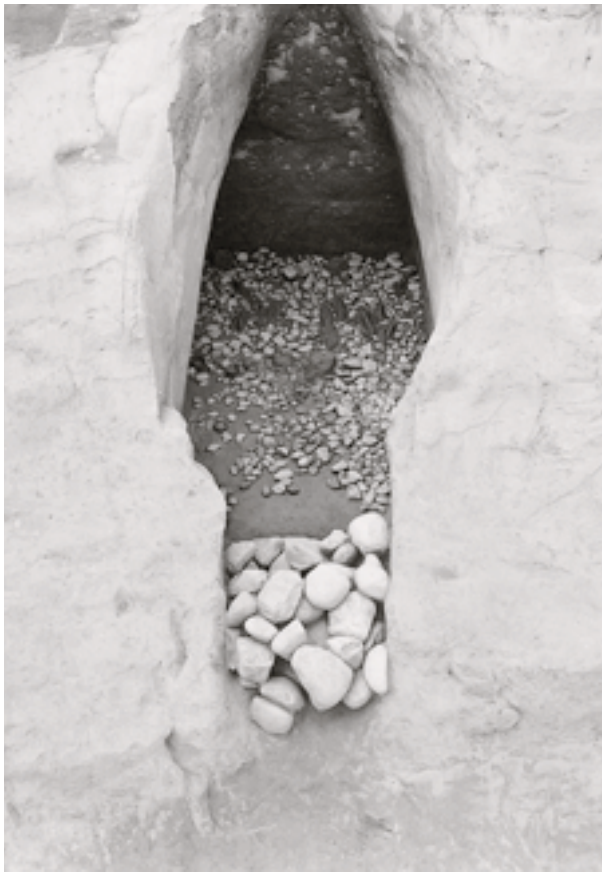
3. 天王ヶ谷5号横穴墓再利用時　遺物および人骨出土状況（南東から）

図版 26　天王ヶ谷5号横穴墓

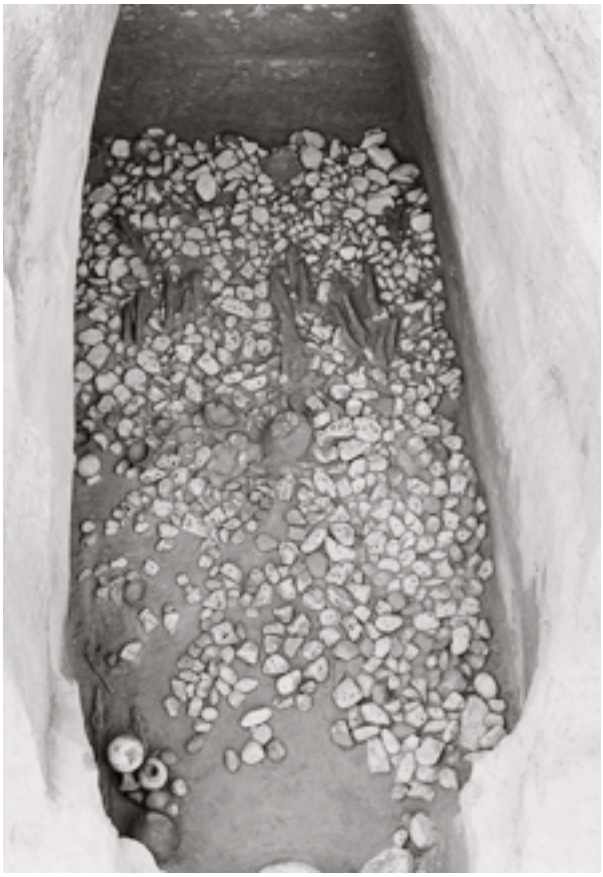
1. 天王ヶ谷5号横穴墓　奥壁
（南東から）

2. 天王ヶ谷5号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

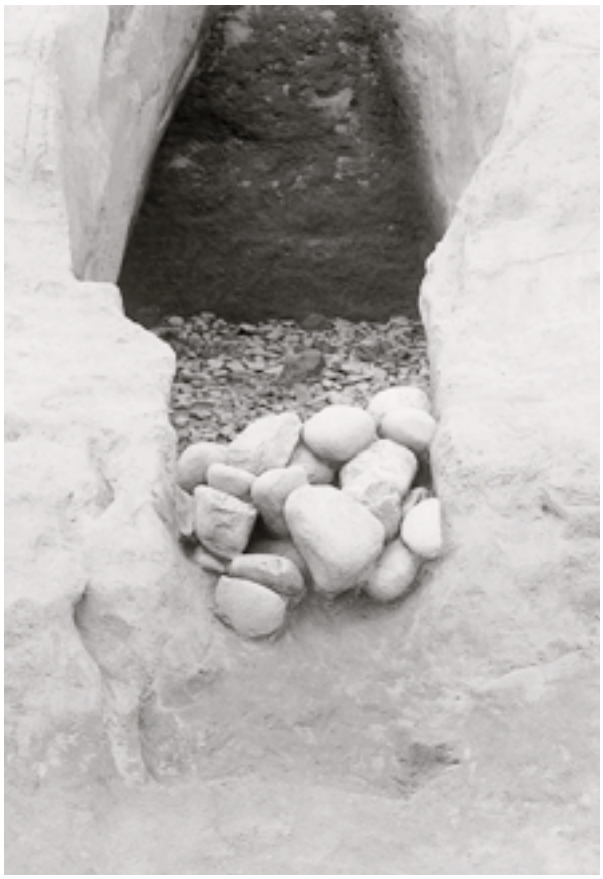
3. 天王ヶ谷5号横穴墓
遺物および人骨出土状況
（南東から）



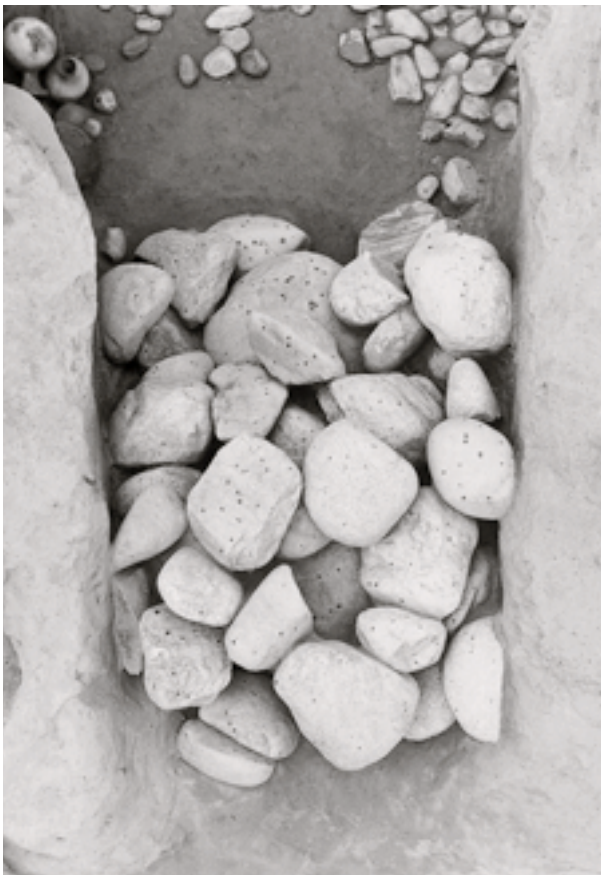
1. 天王ヶ谷5号横穴墓　完掘状況（南東から）



2. 天王ヶ谷5号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南東から）



3. 天王ヶ谷5号横穴墓　閉塞石出土状況（南東から）

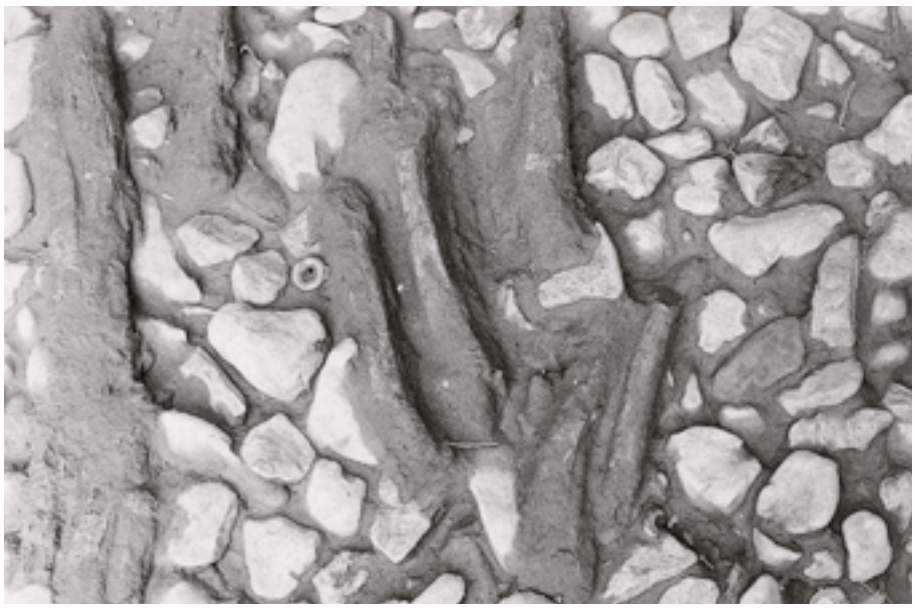


4. 天王ヶ谷5号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）

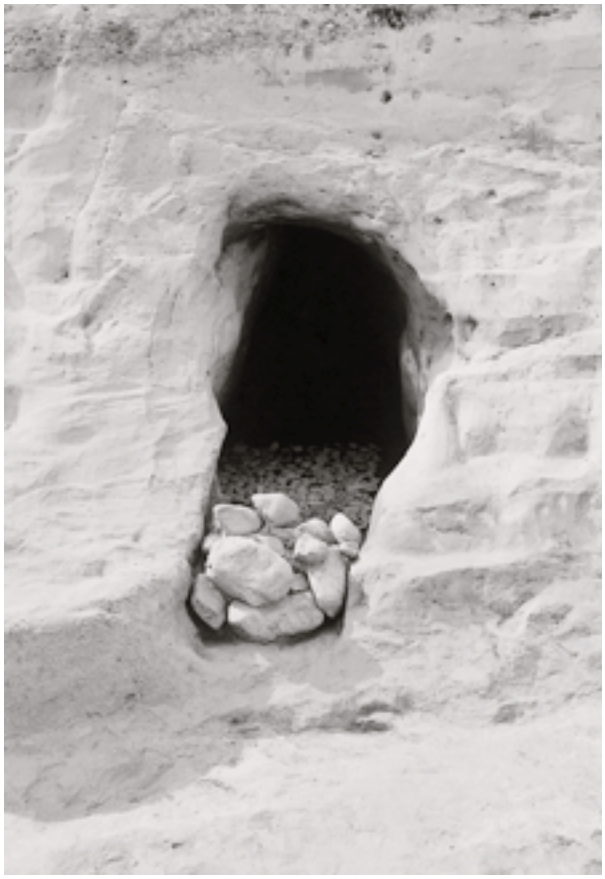
図版 28　天王ヶ谷5号横穴墓

1. 天王ヶ谷5号横穴墓
右側壁側遺物出土状況
（北西から）

2. 天王ヶ谷5号横穴墓
玄室中央部遺物出土状況
（東から）



3. 天王ヶ谷5号横穴墓
左側壁側耳環出土状況
（東から）



1. 天王ヶ谷6号横穴墓　完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷6号横穴墓　閉塞石出土状況（南東から）

3. 天王ヶ谷6号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）

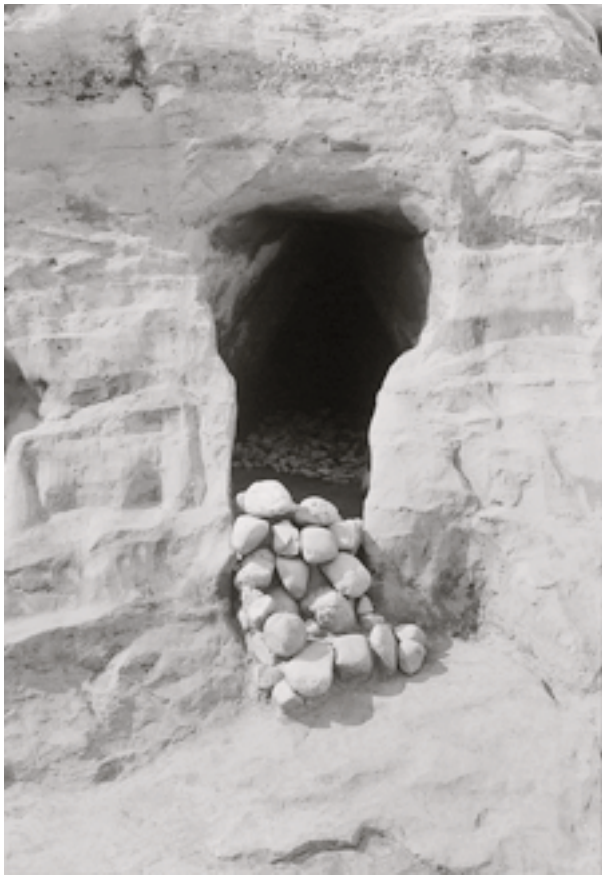
4. 天王ヶ谷6号横穴墓　遺物および敷石出土状況（南東から）

図版 30　天王ヶ谷6号横穴墓

1. 天王ヶ谷6号横穴墓
遺物出土状況（南東から）

2. 天王ヶ谷6号横穴墓
奥壁（南東から）

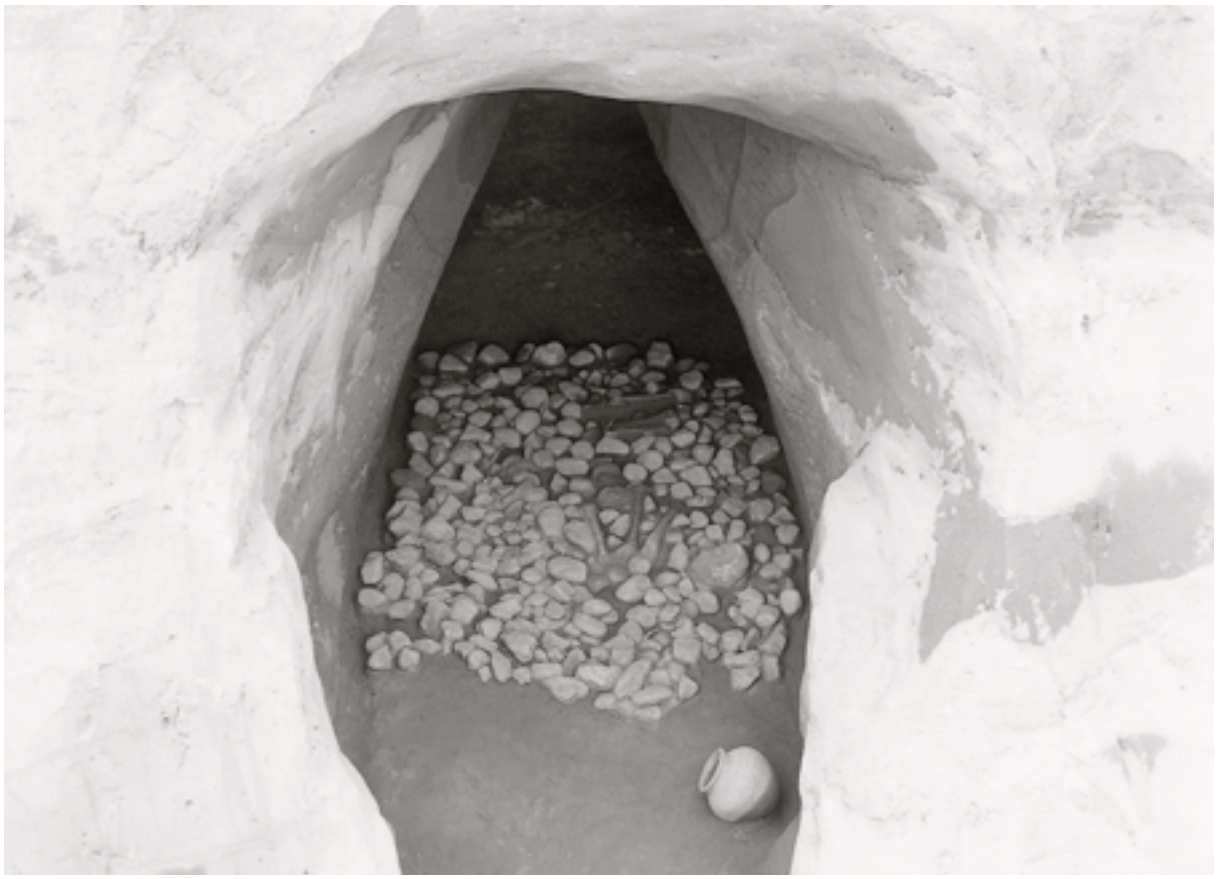
3. 天王ヶ谷6号横穴墓
袖部（奥壁側から）



1. 天王ヶ谷7号横穴墓　完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷7号横穴墓　閉塞石出土状況（南東から）

3. 天王ヶ谷7号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）



4. 天王ヶ谷7号横穴墓　遺物および人骨出土状況（南東から）

図版 32　天王ヶ谷7号横穴墓

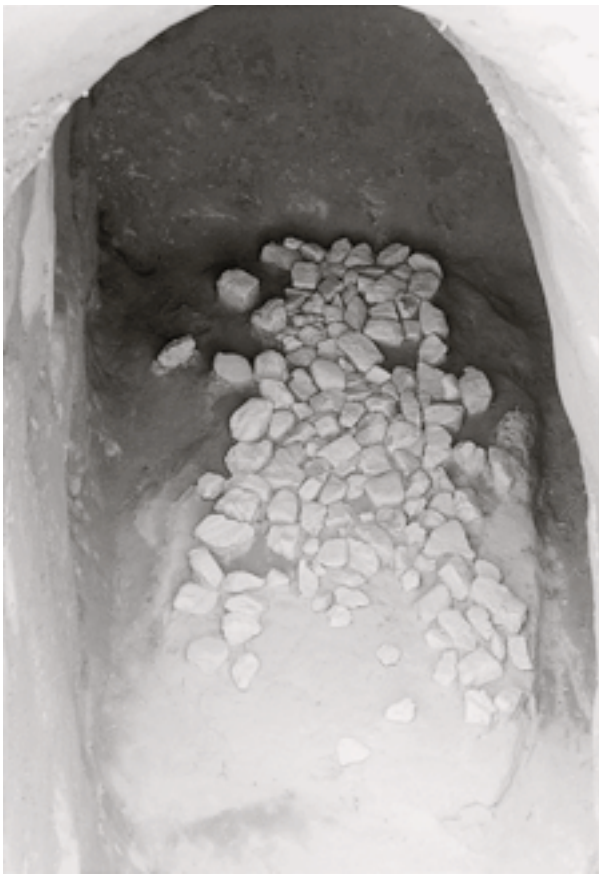
1. 天王ヶ谷7号横穴墓
人骨出土状況（南東から）

2. 天王ヶ谷7号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

3. 天王ヶ谷7号横穴墓　奥壁
（南東から）

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群B単位群（8～ 13 号横穴墓）全景（南東から）

2. 天王ヶ谷8号横穴墓　完掘状況（南東から）



3. 天王ヶ谷8号横穴墓　敷石出土状況（南東から）

図版 34　天王ヶ谷8・9号横穴墓

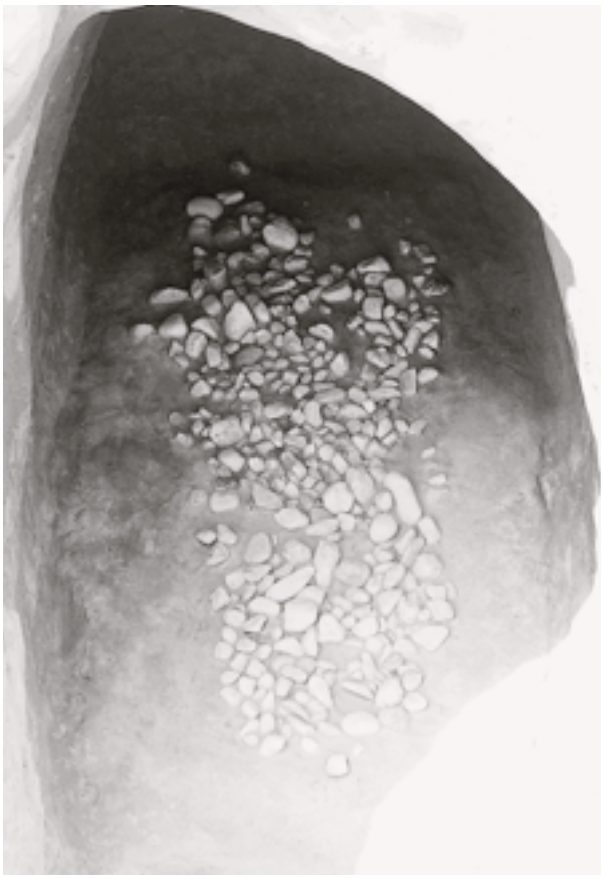
1. 天王ヶ谷8号横穴墓　奥壁
（南東から）

2. 天王ヶ谷9号横穴墓
完掘状況（南東から）

3. 天王ヶ谷9号横穴墓　奥壁
（南東から）

1. 天王ヶ谷 10・11 号横穴墓　完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 10 号横穴墓　完掘状況（南東から）



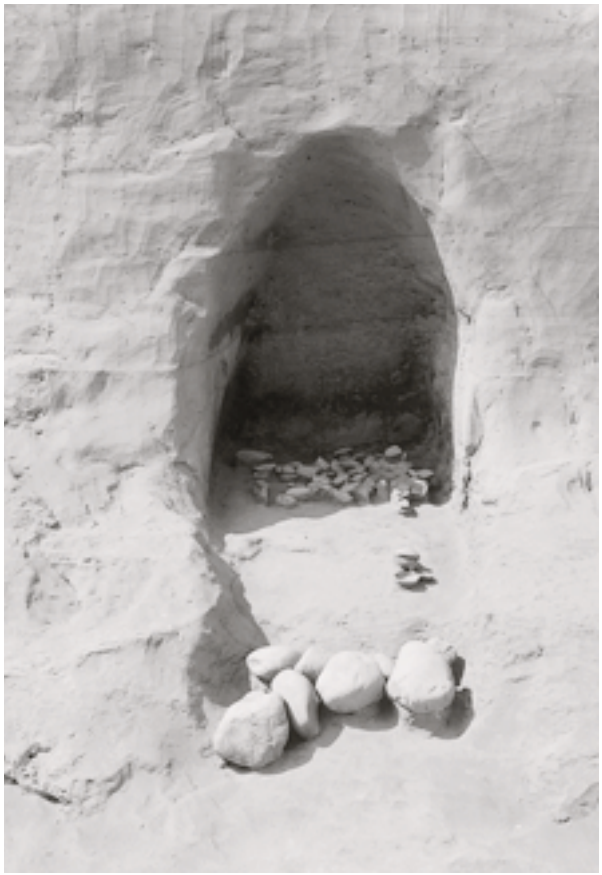
3. 天王ヶ谷 10 号横穴墓　敷石出土状況（南東から）

図版 36　天王ヶ谷 10 号横穴墓

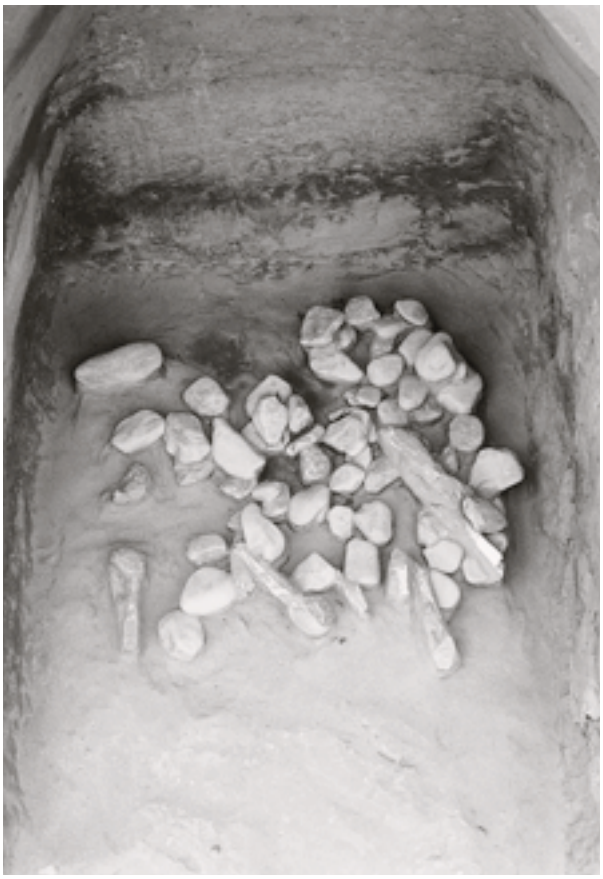
1. 天王ヶ谷 10 号横穴墓　奥壁
（南東から）

2. 天王ヶ谷 10 号横穴墓
遺物出土状況
（南東上方から）

3. 天王ヶ谷 10 号横穴墓
遺物出土状況（南東から）



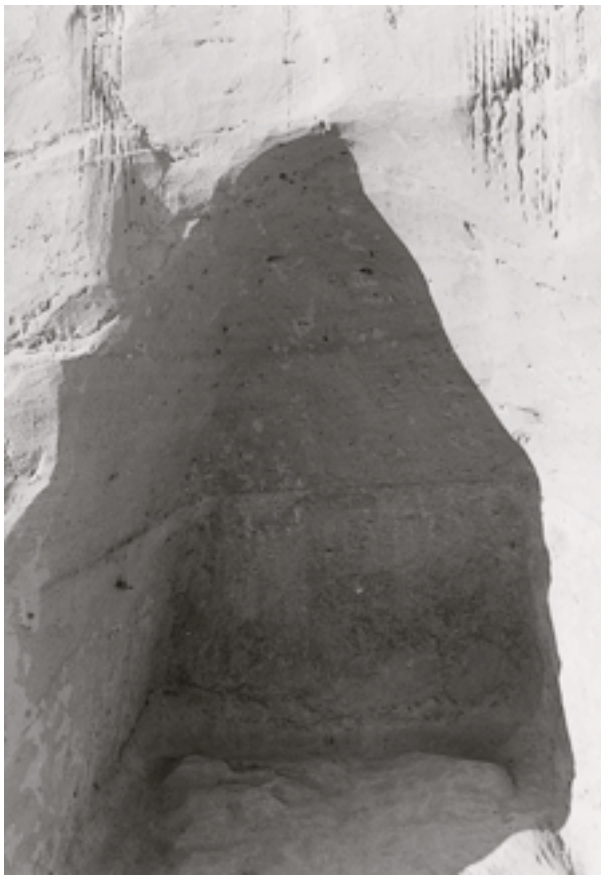
1. 天王ヶ谷 11 号横穴墓　完掘状況（南東から）



2. 天王ヶ谷 11 号横穴墓　人骨および敷石出土状況（南東から）

3. 天王ヶ谷 11 号横穴墓　閉塞石出土状況（南東上方から）

4. 天王ヶ谷 11 号横穴墓　遺物出土状況（南東上方から）



5. 天王ヶ谷 11 号横穴墓　奥壁（南東から）

図版 38　天王ヶ谷 12・13 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 12 号横穴墓　完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 12 号横穴墓　人骨出土状況（南東から）

3. 天王ヶ谷 13 号横穴墓　完掘状況（南から）

1. 天王ヶ谷 13 号横穴墓
完掘状況（南から）

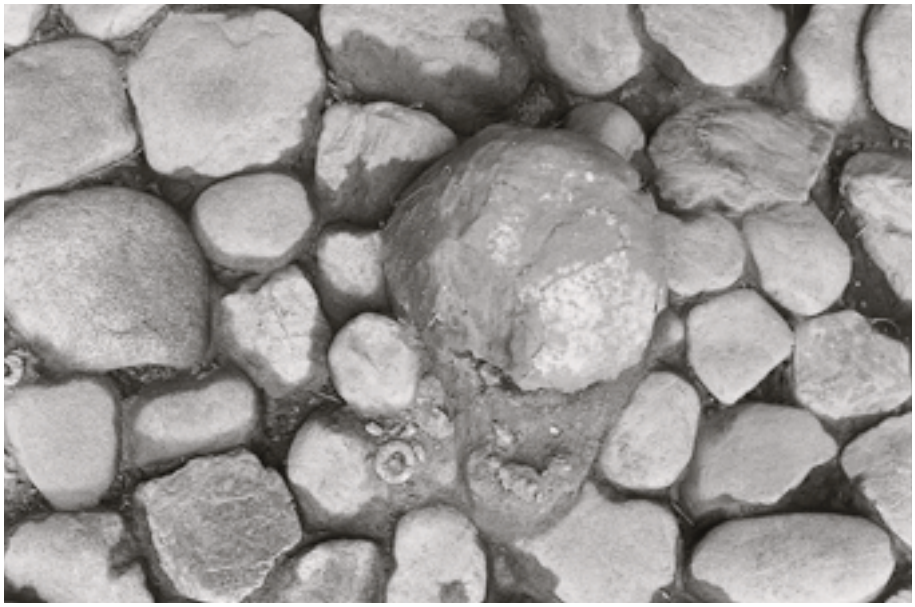
2. 天王ヶ谷 13 号横穴墓
遺物出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 13 号横穴墓
敷石出土状況（南から）

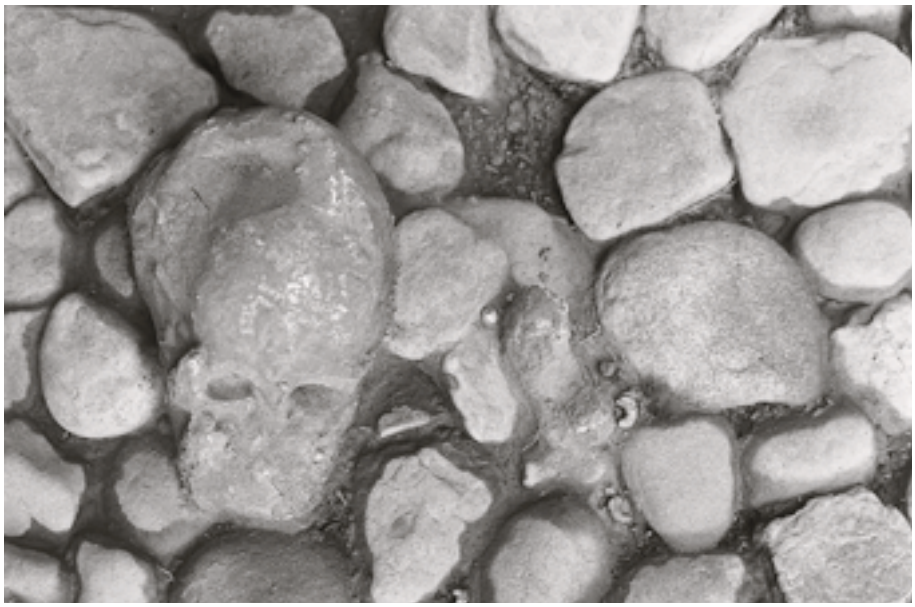
図版 40　天王ヶ谷 13 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 13 号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）

2. 天王ヶ谷 13 号横穴墓　人骨および遺物出土状況細部（中央～右側壁，南から）



1. 天王ヶ谷 13 号横穴墓
中央頭蓋骨周辺
遺物出土状況（南から）



2. 天王ヶ谷 13 号横穴墓
右側壁側頭蓋骨周辺
遺物出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 13 号横穴墓
左側壁側頭蓋骨周辺
遺物出土状況（南から）

図版 42　天王ヶ谷 13 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 13 号横穴墓
右側壁遺物出土状況
（南から）

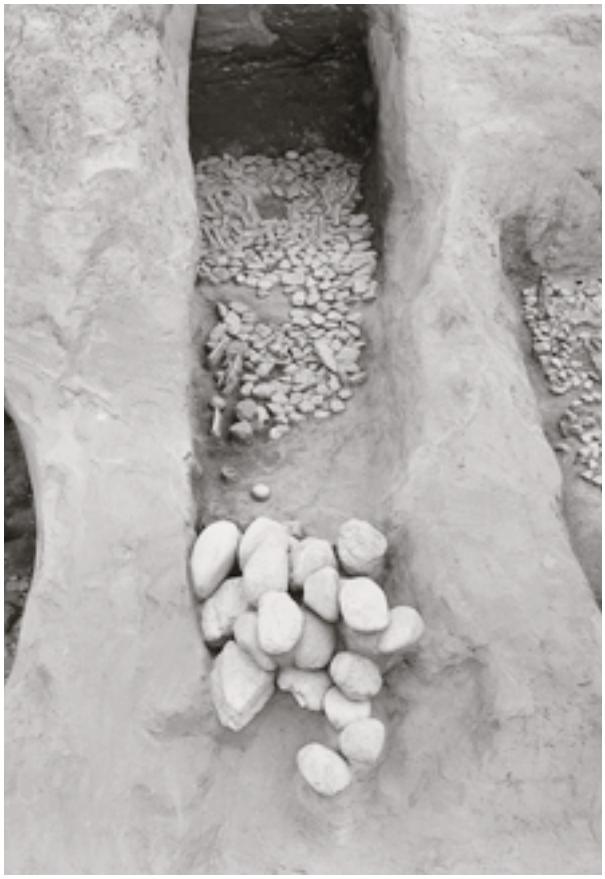
2. 天王ヶ谷 13 号横穴墓　奥壁
（南から）

3. 天王ヶ谷 13 号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

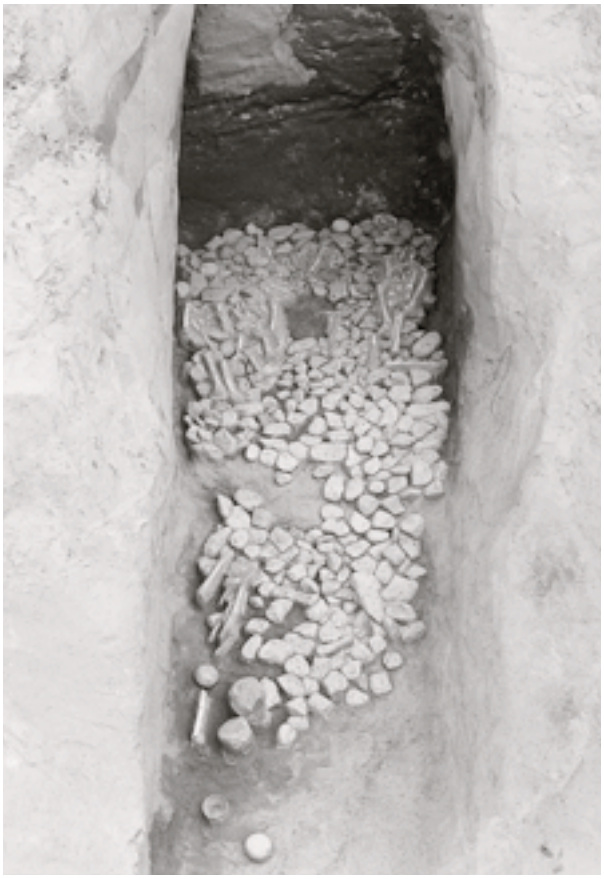
1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群C～E単位群（14 ～ 25 号横穴墓）全景（南から）　55 号横穴墓は撮影後発見

2. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群C単位群（14 ～ 19 号横穴墓）全景（南から）　55 号横穴墓は撮影後発見

図版 44　天王ヶ谷 14 号横穴墓



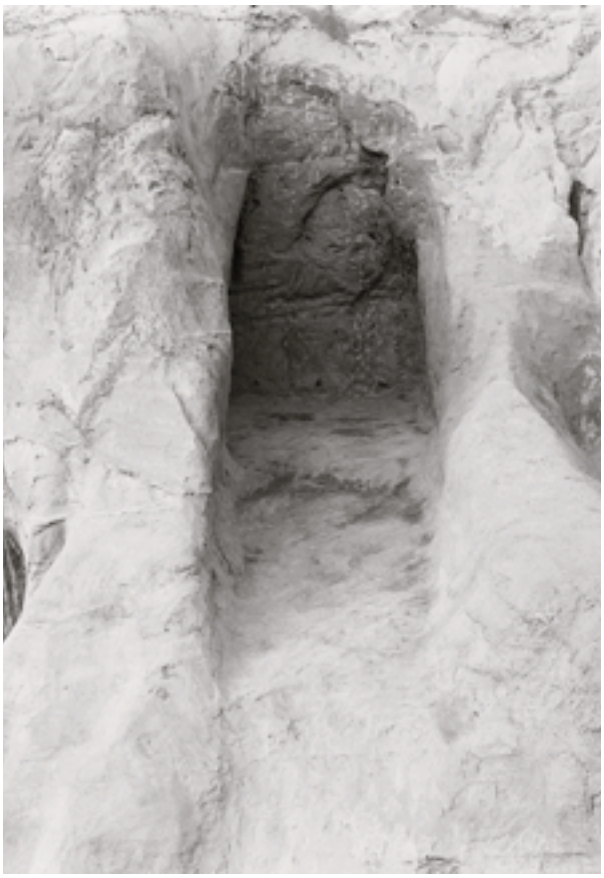
1. 天王ヶ谷 14 号横穴墓　完掘状況（南から）



2. 天王ヶ谷 14 号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 14 号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）

4. 天王ヶ谷 14 号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）



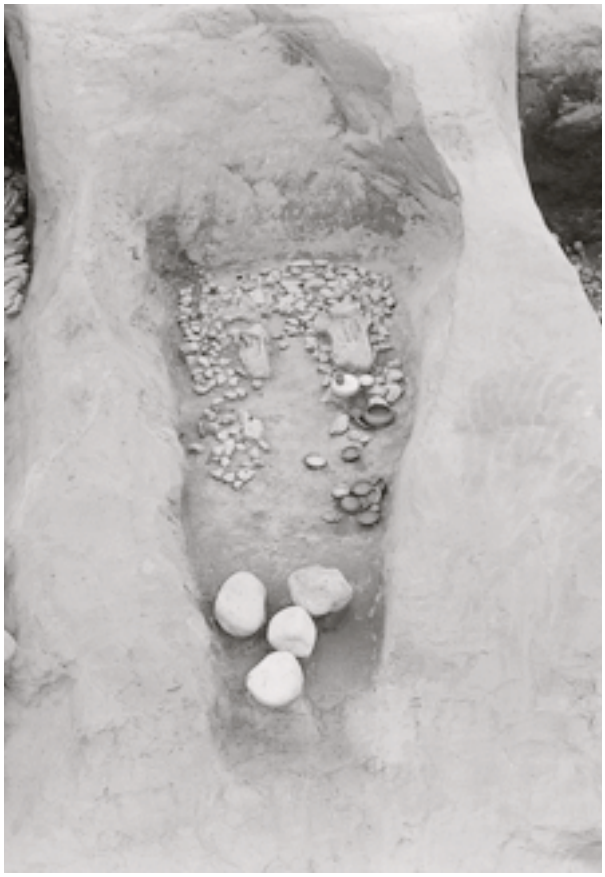
5. 天王ヶ谷 14 号横穴墓　完掘状況（敷石除去後，南から）

1. 天王ヶ谷 14 号横穴墓
人骨出土状況①
（玄室右側壁側，南から）

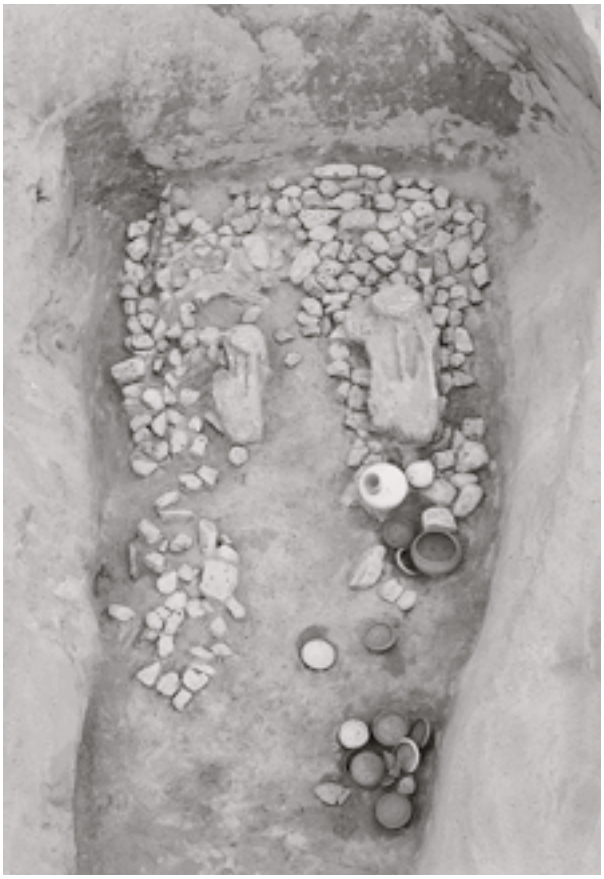
2. 天王ヶ谷 14 号横穴墓
人骨出土状況②
（玄室左側壁側，南から）

3. 天王ヶ谷 14 号横穴墓
遺物出土状況（東から）

図版 46　天王ヶ谷 15 号横穴墓



1. 天王ヶ谷 15 号横穴墓　完掘状況（南から）



2. 天王ヶ谷 15 号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 15 号横穴墓　人骨出土状況（南から）

4. 天王ヶ谷 15 号横穴墓　遺物出土状況（南から）

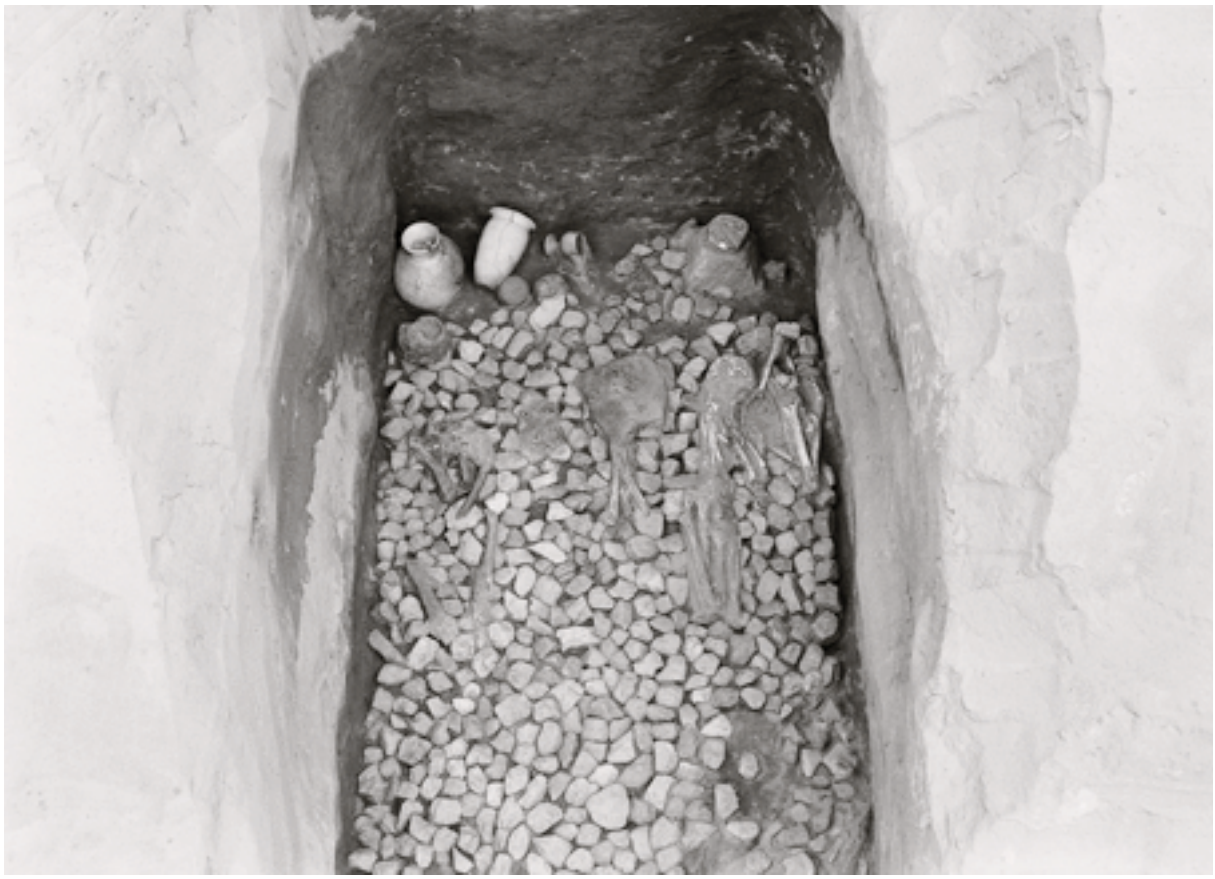
1. 天王ヶ谷 15 号横穴墓
左側壁遺物出土状況
（南西から）

2. 天王ヶ谷 15 号横穴墓
右側壁南側遺物出土状況
（東から）

3. 天王ヶ谷 15 号横穴墓
右側壁北側遺物出土状況
（東から）

図版 48　天王ヶ谷 16 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 16 号横穴墓　完掘状況（南から）



2. 天王ヶ谷 16 号横穴墓　人骨および遺物出土状況（南から）

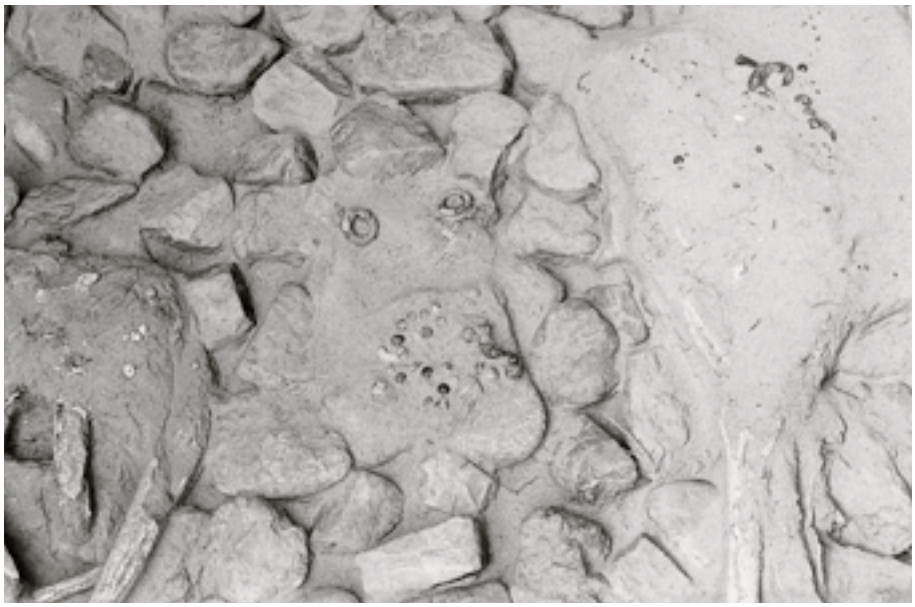
1. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
左側壁人骨出土状況
（南から）

2. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
右側壁人骨出土状況
（南から）

3. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
刀子ほか出土状況
（西から）

図版 50　天王ヶ谷 16 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
鉄鏃出土状況（北西から）



2. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
玉類および耳環出土状況
（南から）

3. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
奥壁左隅角土器出土状況
（南東から）

1. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
閉塞石出土状況
（南上方から）

2. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
閉塞石出土状況（南から）

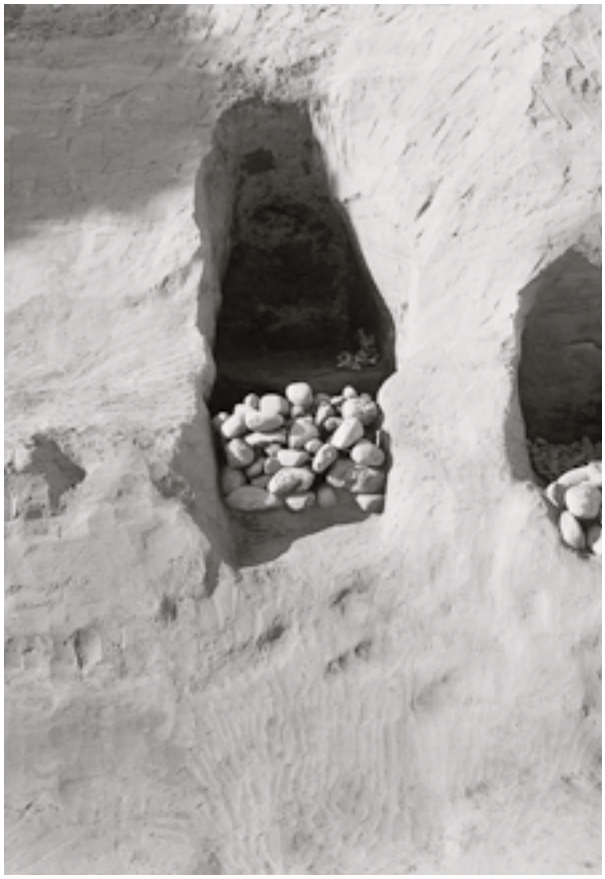
3. 天王ヶ谷 16 号横穴墓
閉塞石出土状況
（奥壁側から）

図版 52　天王ヶ谷 16・55 号横穴墓

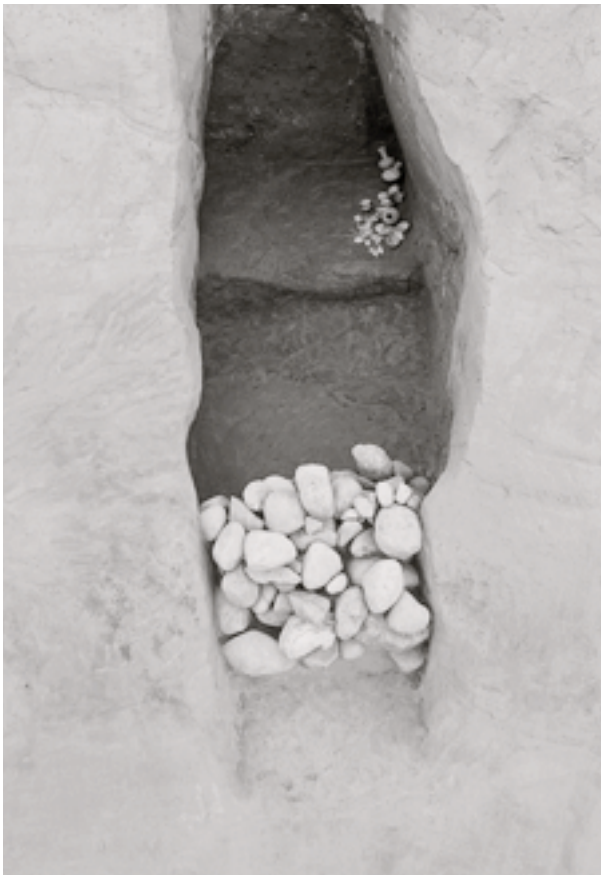
1. 天王ヶ谷 16 号横穴墓　奥壁
（南から）

2. 天王ヶ谷 16 号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

3. 天王ヶ谷 55 号横穴墓
完掘状況（南から）



1. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）



2. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　遺物および閉塞石出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）

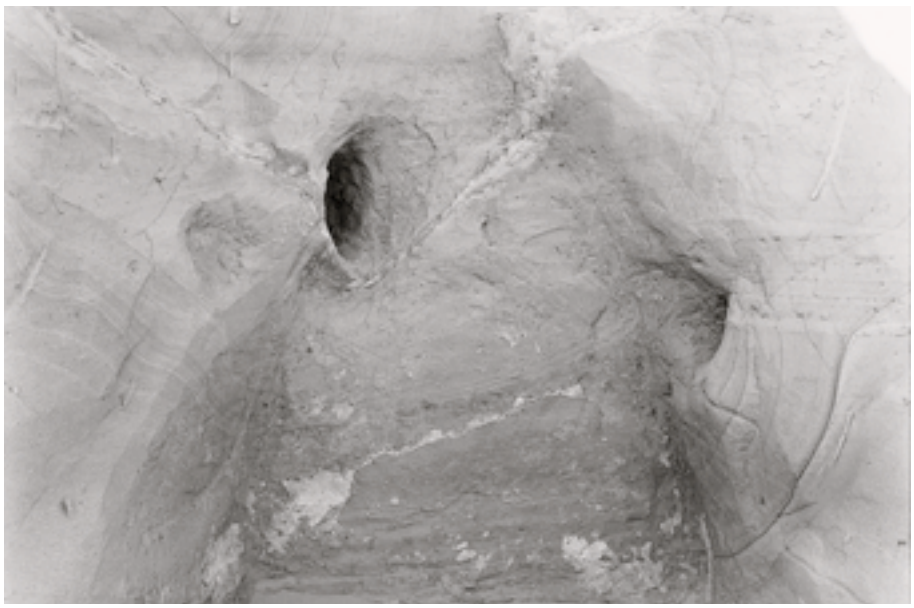
4. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　閉塞石出土状況（奥壁側から）

5. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　完掘状況（南から）

図版 54　天王ヶ谷 17 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 17 号横穴墓
玄室後室（南から）

2. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　袖部
（奥壁側から）



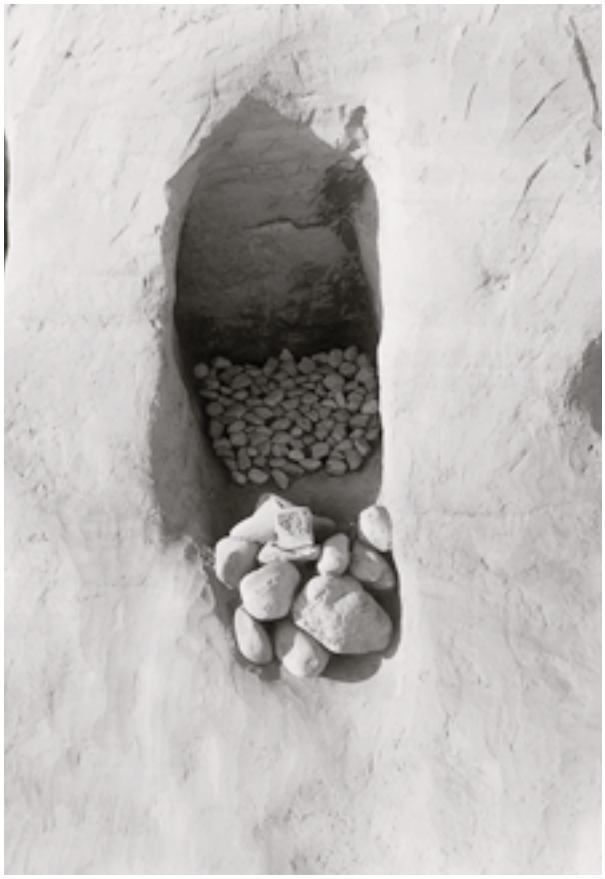
3. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　奥壁
（南から）

1. 天王ヶ谷 17 号横穴墓
土器出土状況①（西から）

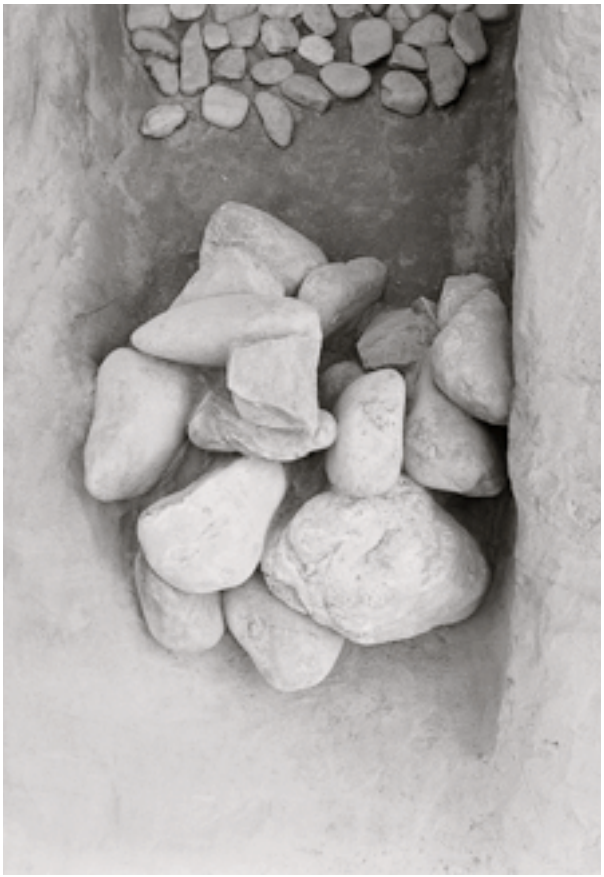
2. 天王ヶ谷 17 号横穴墓
土器出土状況②（南から）

3. 天王ヶ谷 17 号横穴墓
人骨および大刀出土状況
（東から）

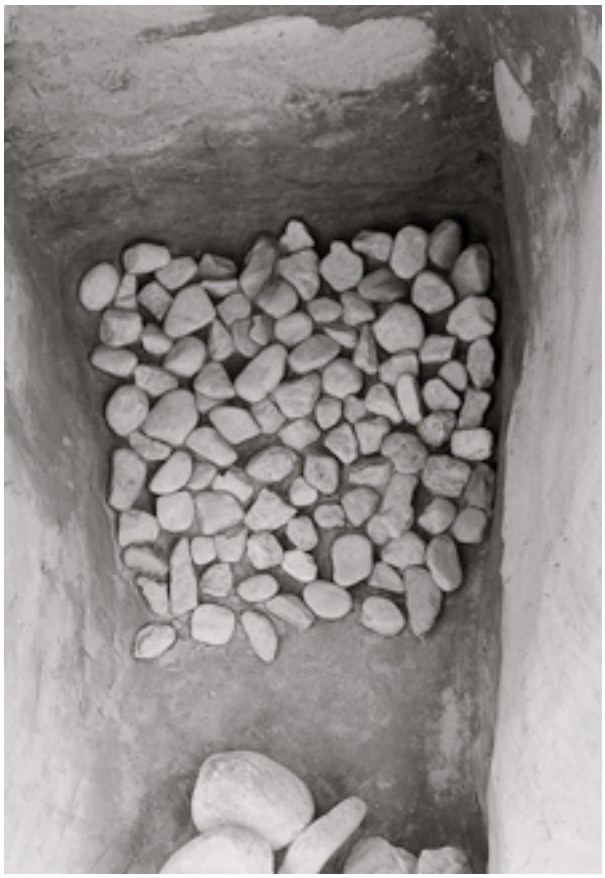
図版 56　天王ヶ谷 18 号横穴墓



1. 天王ヶ谷 18 号横穴墓　完掘状況（南から）

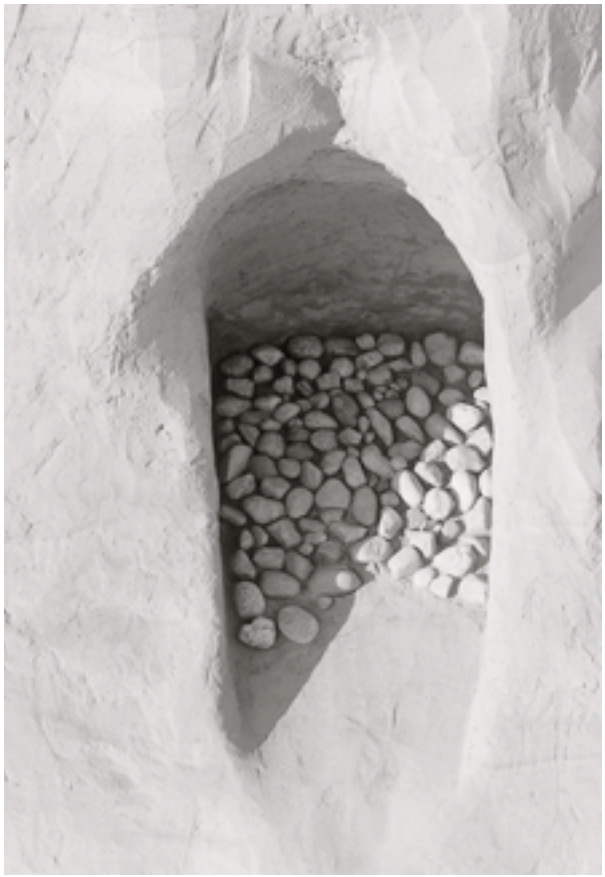


2. 天王ヶ谷 18 号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）



3. 天王ヶ谷 18 号横穴墓　敷石出土状況（南上方から）

4. 天王ヶ谷 18 号横穴墓　奥壁（南から）



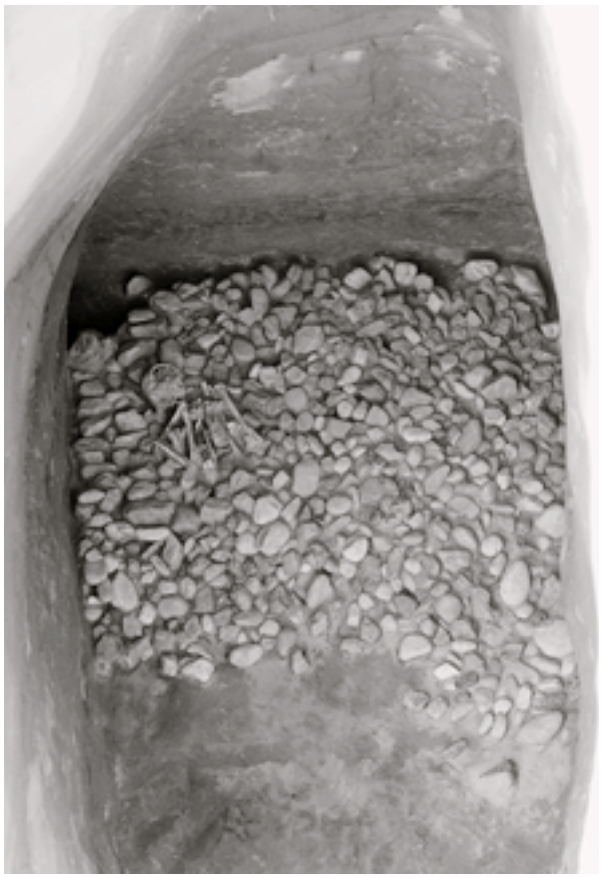
1. 天王ヶ谷 19 号横穴墓　完掘状況（南から）

2. 天王ヶ谷 19 号横穴墓　完掘状況（敷石除去後，南から）

3. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群D単位群（20 ～ 23 号横穴墓）全景（南から）

図版 58　天王ヶ谷 20・21 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 20・21 号横穴墓　完掘状況（南から）



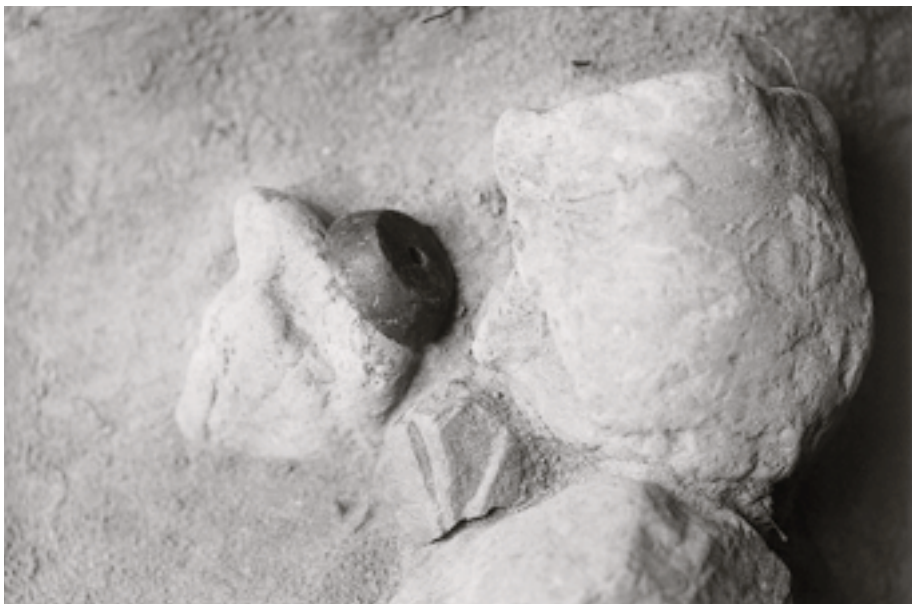
2. 天王ヶ谷 20 号横穴墓　人骨および敷石状況（南から）

3. 天王ヶ谷 20 号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）

4. 天王ヶ谷 20 号横穴墓　閉塞石出土状況（奥壁側から）

1. 天王ヶ谷 20 号横穴墓
人骨出土状況（南から）

2. 天王ヶ谷 20 号横穴墓
頭蓋骨周辺遺物出土状況
（南から）



3. 天王ヶ谷 20 号横穴墓
紡錘車出土状況（東から）

図版 60　天王ヶ谷 20 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 20 号横穴墓
前庭出土状況（西から）

2. 天王ヶ谷 20 号横穴墓
完掘状況
（敷石除去後，南から）

3. 天王ヶ谷 20 号横穴墓　奥壁
（南から）

1. 天王ヶ谷 21 号横穴墓
完掘状況（南西から）

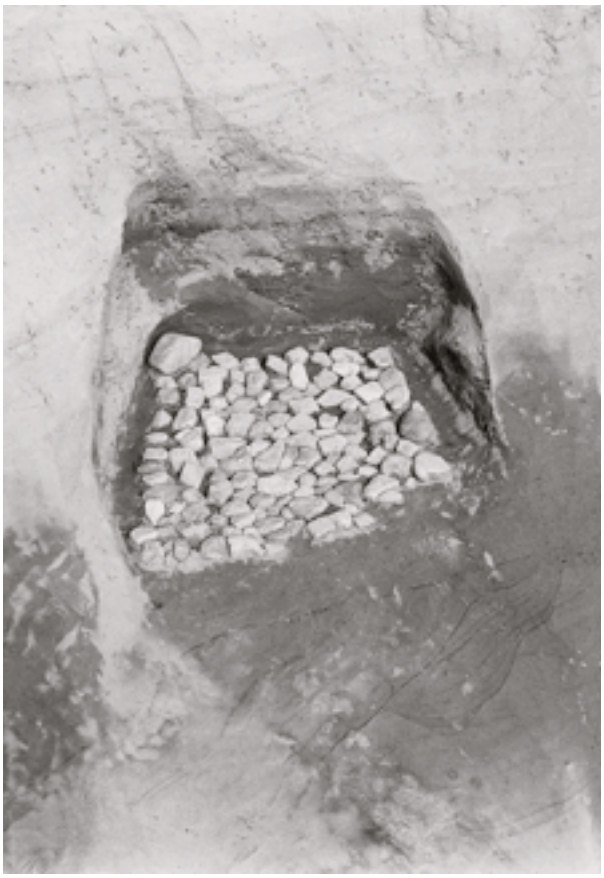
2. 天王ヶ谷 21 号横穴墓
敷石出土状況（南西から）

3. 天王ヶ谷 21 号横穴墓　奥壁
（南西から）

図版 62　天王ヶ谷 22・23 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 22・23 号横穴墓　完掘状況（西から）

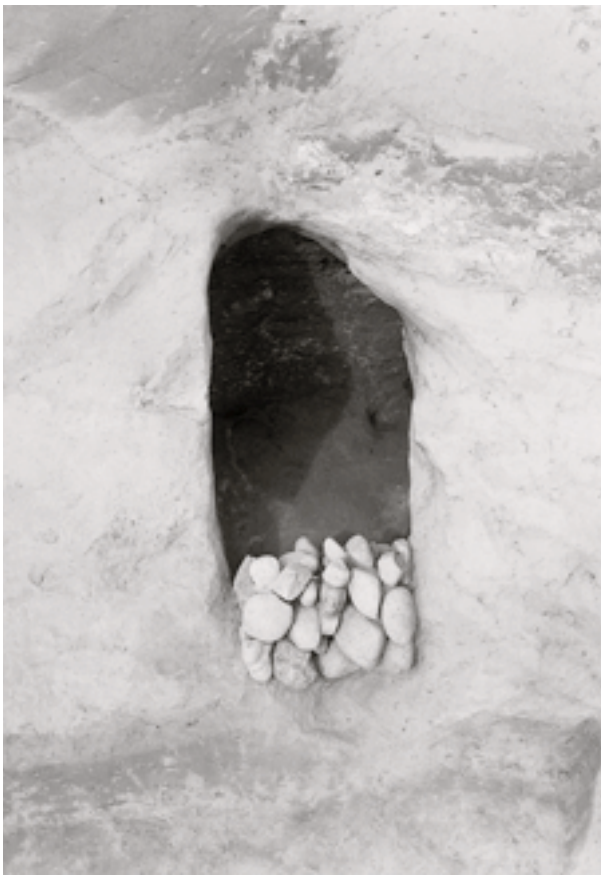
2. 天王ヶ谷 22 号横穴墓　完掘状況（西から）



3. 天王ヶ谷 23 号横穴墓　完掘状況（西から）

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅰ支群E単位群（24・25 号横穴墓） 全景（南から）

2. 天王ヶ谷 24 号横穴墓　完掘状況（南から）



3. 天王ヶ谷 25 号横穴墓　完掘状況（南西から）

図版 64　天王ヶ谷 25 号横穴墓・SK01

1. 天王ヶ谷 25 号横穴墓　奥壁
（南から）

2. 天王ヶ谷 25 号横穴墓
閉塞石出土状況
（南西上方から）

3. 天王ヶ谷横穴墓群　SK01
出土状況（東から）

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅱ支群（26 ～ 29 号横穴墓・SX01）全景（南から）

2. 天王ヶ谷 26 号横穴墓　完掘状況（南東から）

3. 天王ヶ谷 26 号横穴墓　奥壁（南東から）

図版 66　天王ヶ谷 27 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 27 号横穴墓
　完掘状況（南から）

2. 天王ヶ谷 27 号横穴墓
　遺物出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 27 号横穴墓
　敷石出土状況（南から）

1. 天王ヶ谷 27 号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

2. 天王ヶ谷 27 号横穴墓　奥壁
（南から）

3. 天王ヶ谷 28・29 号横穴墓
完掘状況（南から）

図版 68　天王ヶ谷 28・29 号横穴墓・SX01

1. 天王ヶ谷 28 号横穴墓
閉塞石出土状況
（南上方から）

2. 天王ヶ谷 29 号横穴墓
完掘状況（南から）

3. 天王ヶ谷横穴墓群　SX01
完掘状況（南東から）

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群（30 ～ 44 号横穴墓）全景（南西から）

2. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群A･B単位群（30 ～ 43 号横穴墓）全景（南から）

図版 70　天王ヶ谷 30 ～ 34 号横穴墓

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群A単位群（30 ～ 34 号横穴墓）全景（南東から）

2. 天王ヶ谷 30・31 号横穴墓　完掘状況（東から）

1. 天王ヶ谷 30 号横穴墓　完掘状況（東から）

3. 天王ヶ谷 31 号横穴墓　完掘状況（東から）

2. 天王ヶ谷 30 号横穴墓　紡錘車出土状況（東から）

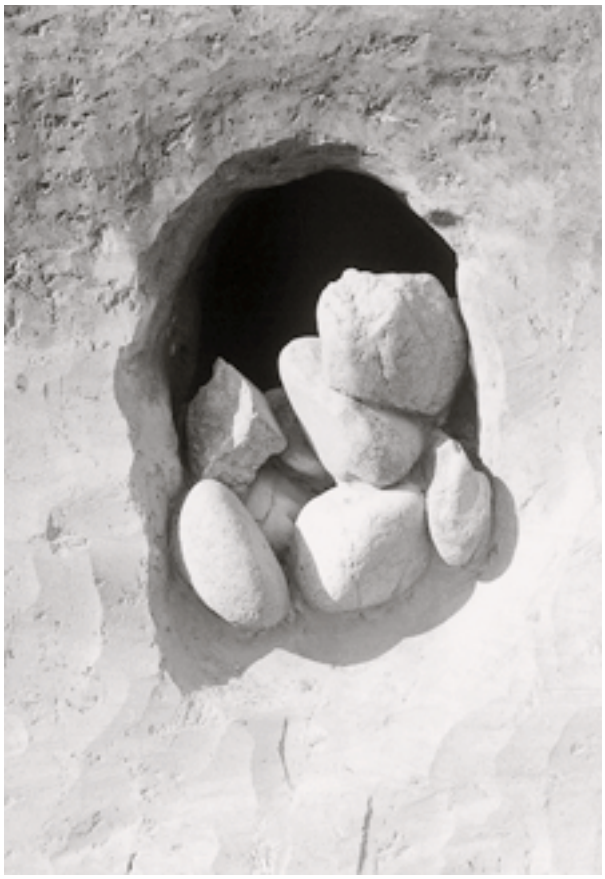
4.32 号横穴墓前庭　北西隅角遺物出土状況（南東から）

5. 天王ヶ谷 31 号横穴墓　奥壁（東から）

図版 72　天王ヶ谷 30 ～ 34 号横穴墓

1.32 号横穴墓前庭　北西隅角遺物出土状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 32 号横穴墓　完掘状況（南東から）

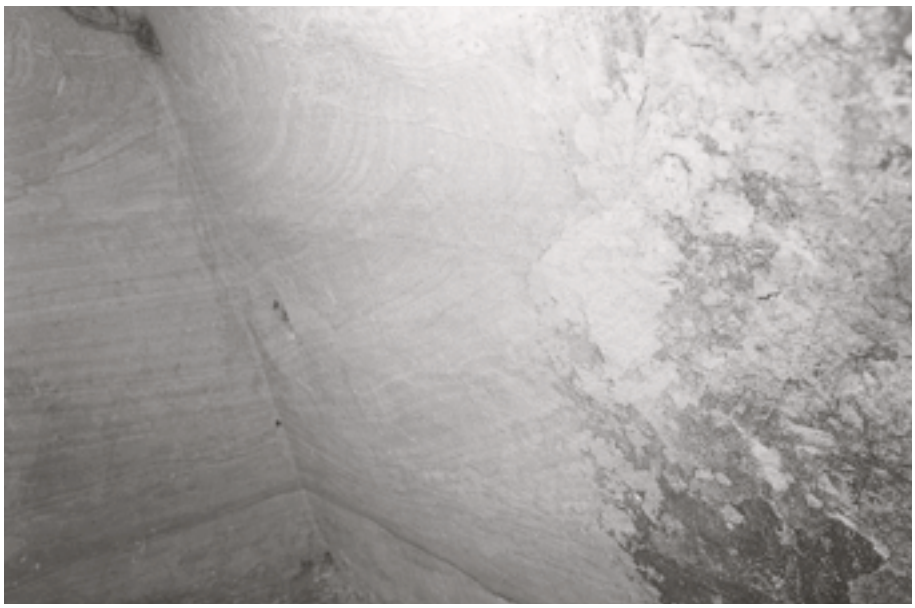


3. 天王ヶ谷 33 号横穴墓　閉塞石出土状況（南から）

4. 天王ヶ谷 33 号横穴墓　完掘状況（南から）

1. 天王ヶ谷 34 号横穴墓
完掘状況（南から）

2. 天王ヶ谷 34 号横穴墓前庭
遺物出土状況（南から）



3. 天王ヶ谷 34 号横穴墓
左側壁に残る壁面調整痕
（南西から）

図版 74　天王ヶ谷 34 号横穴墓

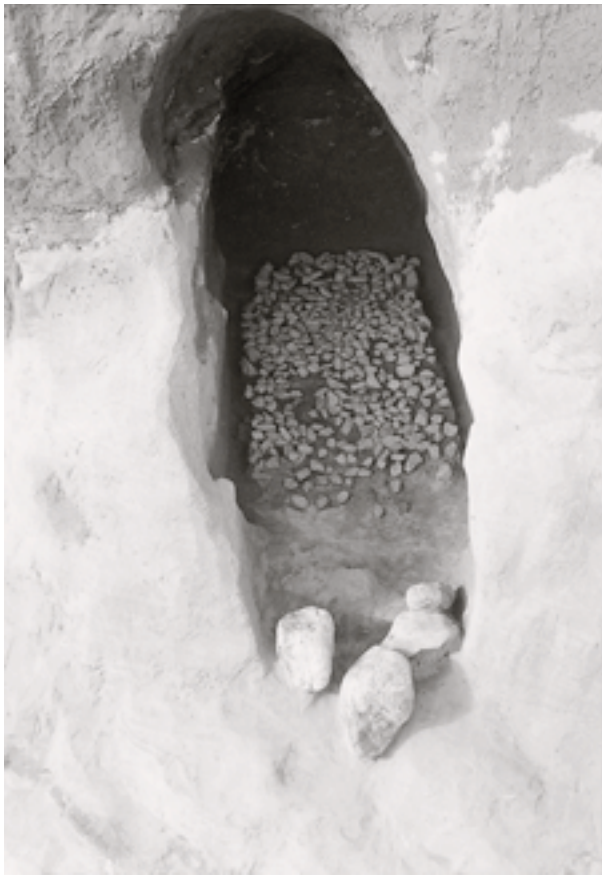
1. 天王ヶ谷 34 号横穴墓　奥壁（南から）

2. 天王ヶ谷 34 号横穴墓　袖部（奥壁側から）

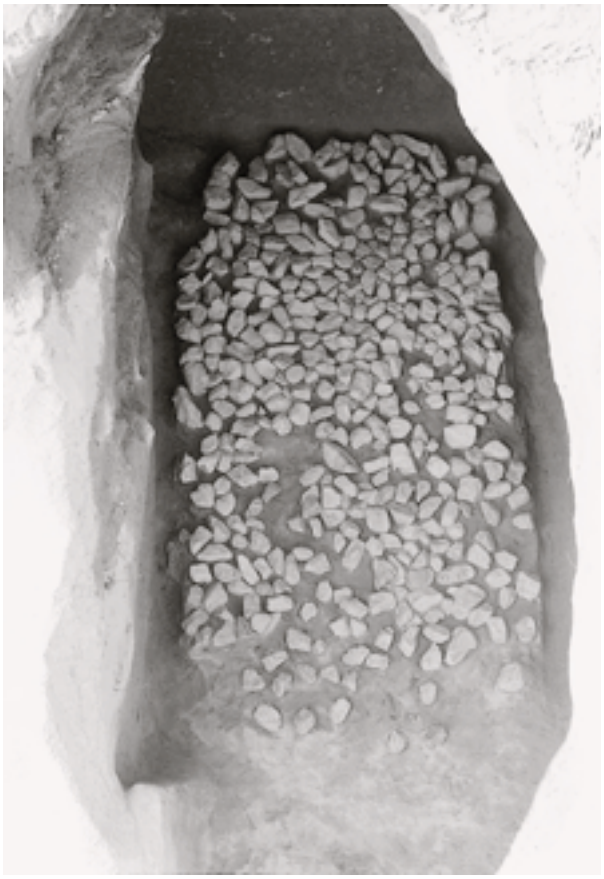
1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群B単位群（35 ～ 40 号横穴墓）全景（南から）

2. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅲ支群B1・B2単位群（35 ～ 38 号横穴墓） 完掘状況（南から）

図版 76　天王ヶ谷 35 号横穴墓



1. 天王ヶ谷 35 号横穴墓　完掘状況（南から）



2. 天王ヶ谷 35 号横穴墓　敷石出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 35 号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）

5. 天王ヶ谷 35 号横穴墓　奥壁（南から）

4. 天王ヶ谷 35 号横穴墓　遺物出土状況（東から）

6. 天王ヶ谷 35 号横穴墓　袖部（奥壁側から）

1. 天王ヶ谷 36 号横穴墓　完掘状況（東から）

2. 天王ヶ谷 36 号横穴墓　玄門（奥壁側から）

3. 天王ヶ谷 36 号横穴墓　奥壁（南から）

4. 天王ヶ谷 37 号横穴墓　完掘状況（南から）

5. 天王ヶ谷 37 号横穴墓　人骨および敷石出土状況（南から）

図版 78　天王ヶ谷 37 ～ 40 号横穴墓

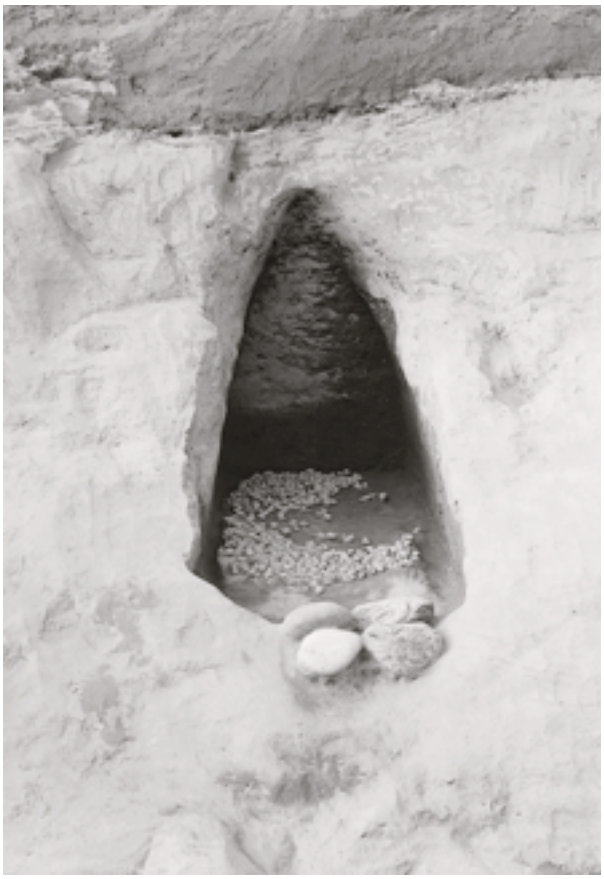
1. 天王ヶ谷 37 号横穴墓　遺物出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 37 号横穴墓　袖部（奥壁側から）

2. 天王ヶ谷 37 号横穴墓　敷石出土状況（南から）

4. 天王ヶ谷 37 号横穴墓　奥壁（南から）

5. 天王ヶ谷 38 ～ 40 号横穴墓　完掘状況（南から）



6. 天王ヶ谷 38 号横穴墓　完掘状況（南から）

1. 天王ヶ谷 38 号横穴墓　完掘状況（南から）

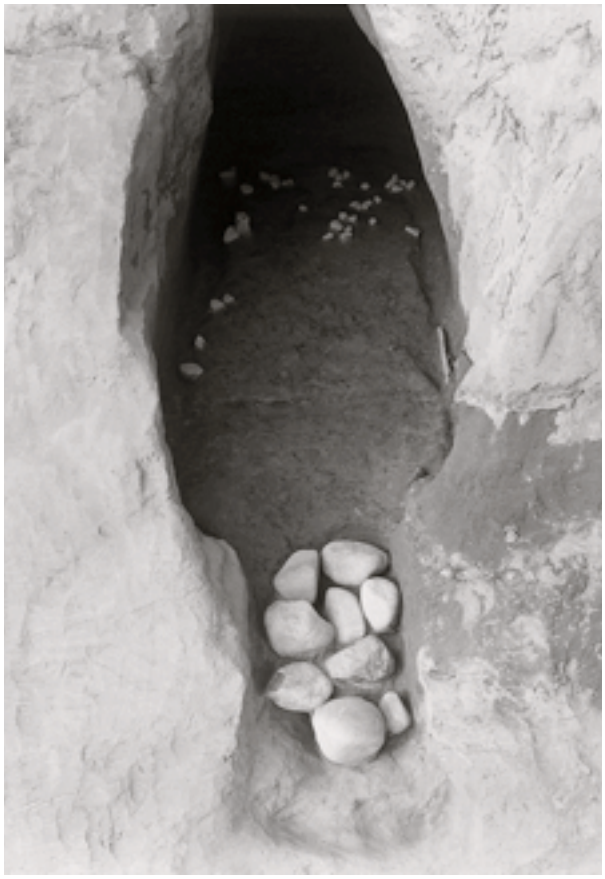
2. 天王ヶ谷 38 号横穴墓　奥壁（南から）

4. 天王ヶ谷 38 号横穴墓　玉類出土状況（南から）

3. 天王ヶ谷 38 号横穴墓　袖部（奥壁側から）

5. 天王ヶ谷 39 号横穴墓前庭　遺物出土状況（南から）

図版 80　天王ヶ谷 39 号横穴墓



1. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　完掘状況（南から）

2. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）

3. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　閉塞石出土状況（奥壁側から）

4. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　奥壁（南から）

6. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　短刀出土状況（西から）

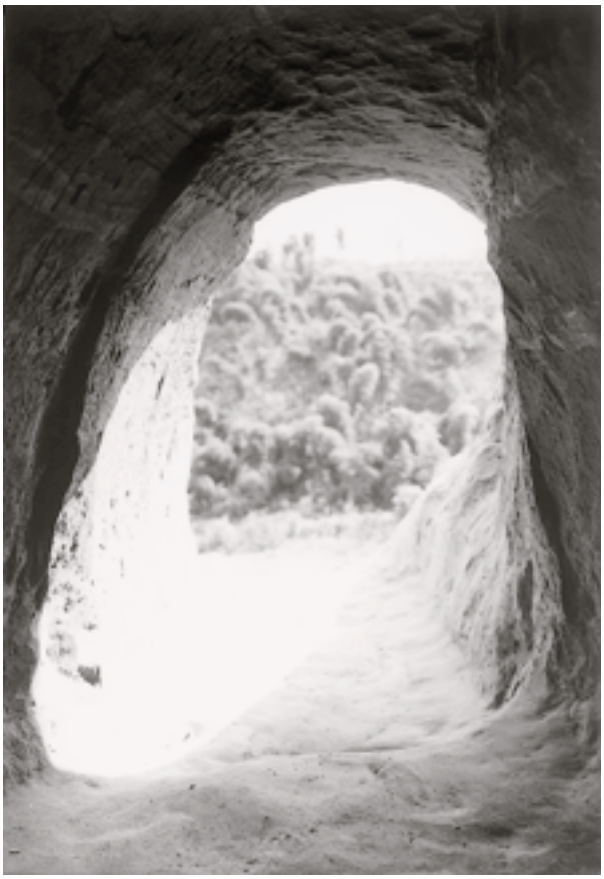
5. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　袖部（奥壁側から）

7. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　土器出土状況（南から）

1. 天王ヶ谷 40 号横穴墓　完掘状況（南から）

2. 天王ヶ谷 40 号横穴墓　完掘状況（南から）

3. 天王ヶ谷 40 号横穴墓　奥壁（南から）

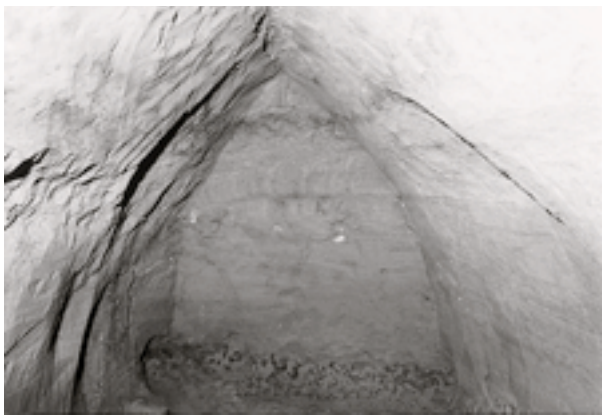


4. 天王ヶ谷 40 号横穴墓　袖部（奥壁側から）

図版 82　天王ヶ谷 41 ～ 43 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 41 ～ 43 号横穴墓　完掘状況（南から）

2. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　閉塞石出土状況（奥壁側から）



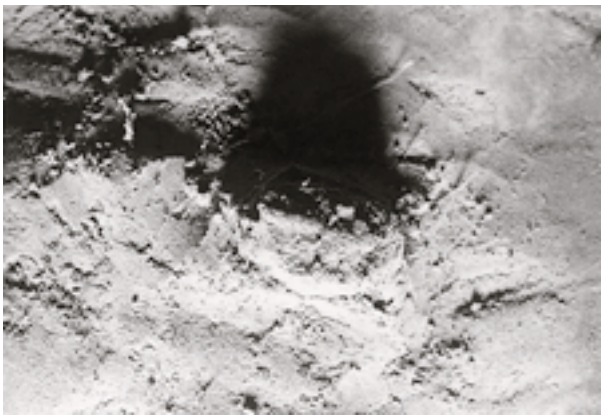
3. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　奥壁（南から）

4. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　完掘状況（南から）

1. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　閉塞石出土状況（南上方から）

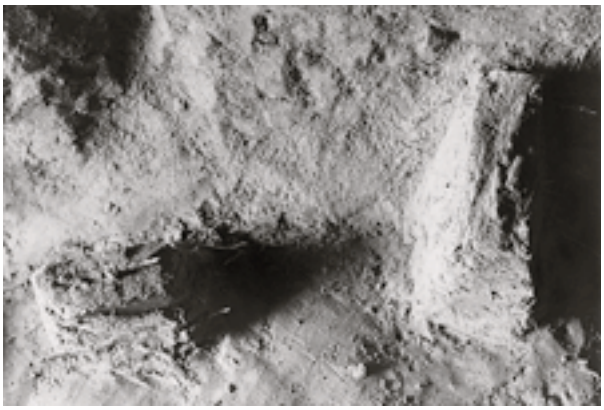
5. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　左側壁壁面調整痕細部（北西から）

2. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　閉塞石出土（奥壁側から）

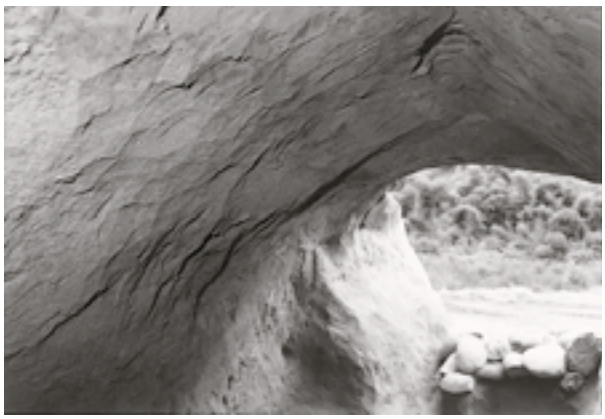


6. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　遺物出土状況①（南から）

3. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　右側壁壁面調整痕（北東から）



7. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　遺物出土状況②（東から）



4. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　左側壁壁面調整痕（北西から）

8. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　遺物出土状況③（東から）

図版 84　天王ヶ谷 42 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 42 号横穴墓　閉塞石出土（奥壁側から）

2. 天王ヶ谷 42 号横穴墓　遺物出土状況①（北から）

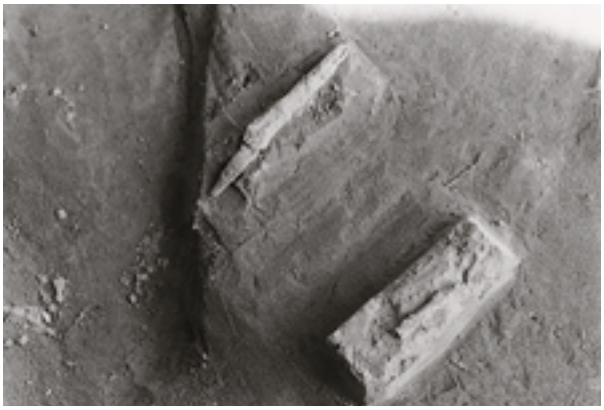
3. 天王ヶ谷 42 号横穴墓　遺物出土状況②（南から）

4. 天王ヶ谷 42 号横穴墓　右側壁に描かれた絵画（南西から）

5. 天王ヶ谷 42 号横穴墓　袖部（奥壁側から）

6. 天王ヶ谷 42 号横穴墓　奥壁（南から）

1. 天王ヶ谷 43 号横穴墓　完掘状況（南東から）

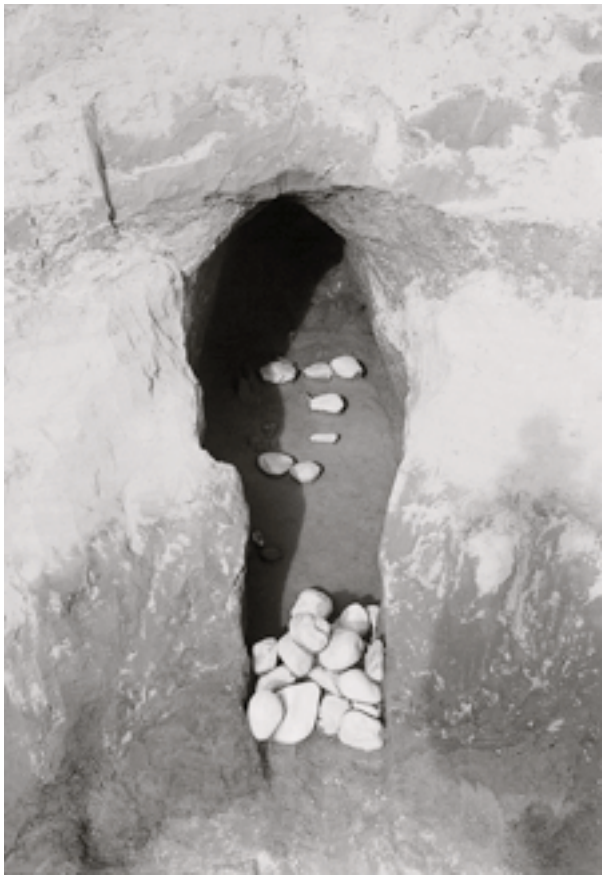


2. 天王ヶ谷 43 号横穴墓　遺物出土状況（北上方から）

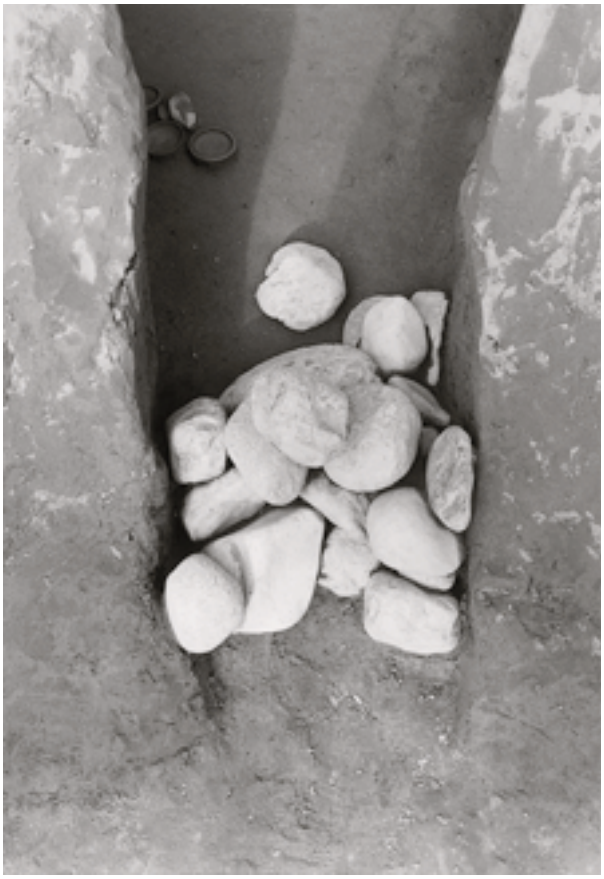
3. 天王ヶ谷 43 号横穴墓　遺物出土状況（北上方から）

4. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　出土状況（南西から）

図版 86　天王ヶ谷 44 号横穴墓



1. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　完掘状況（南西から）

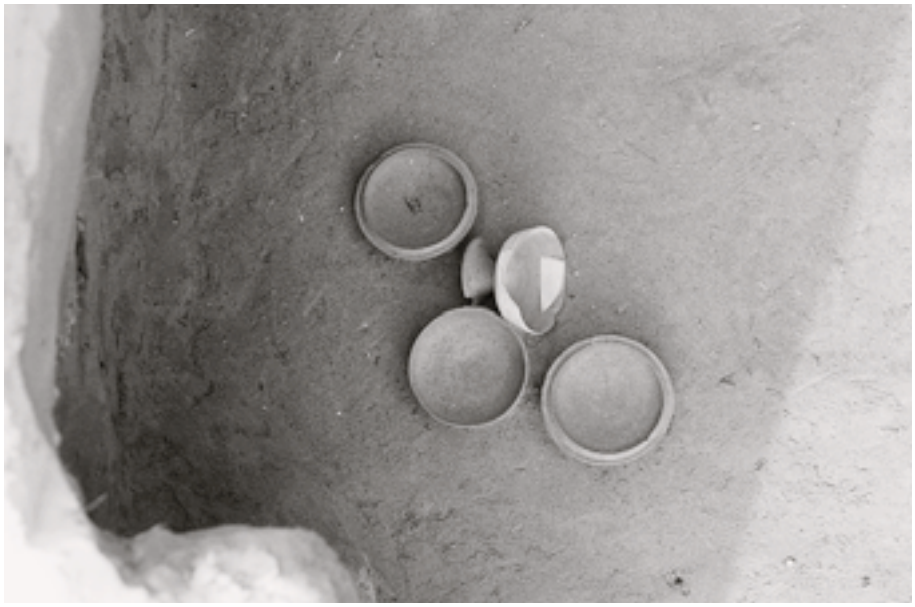


2. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　閉塞石出土状況（南西上方から）

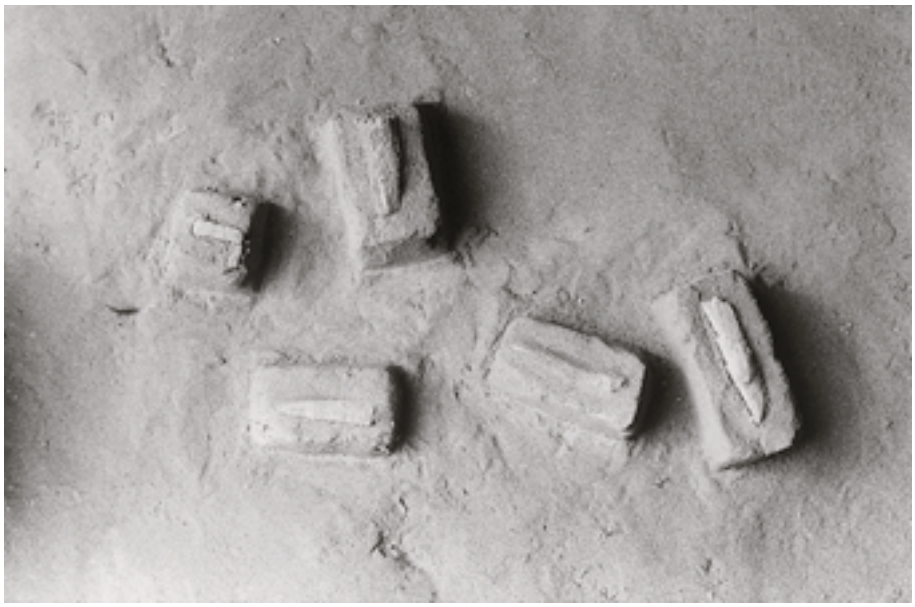
3. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　棺台出土状況（南西から）

4. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　奥壁（南西から）

5. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　袖部（奥壁側から）



1. 天王ヶ谷 44 号横穴墓
土器出土状況（南西から）



2. 天王ヶ谷 44 号横穴墓
金属製品出土状況①
（北東から）

3. 天王ヶ谷 44 号横穴墓
金属製品出土状況②
（南西から）

図版 88　天王ヶ谷横穴墓群Ⅳ支群

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群（45 ～ 54 号横穴墓）全景（南東から）

2. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群（45 ～ 54 号横穴墓）全景（南東から）

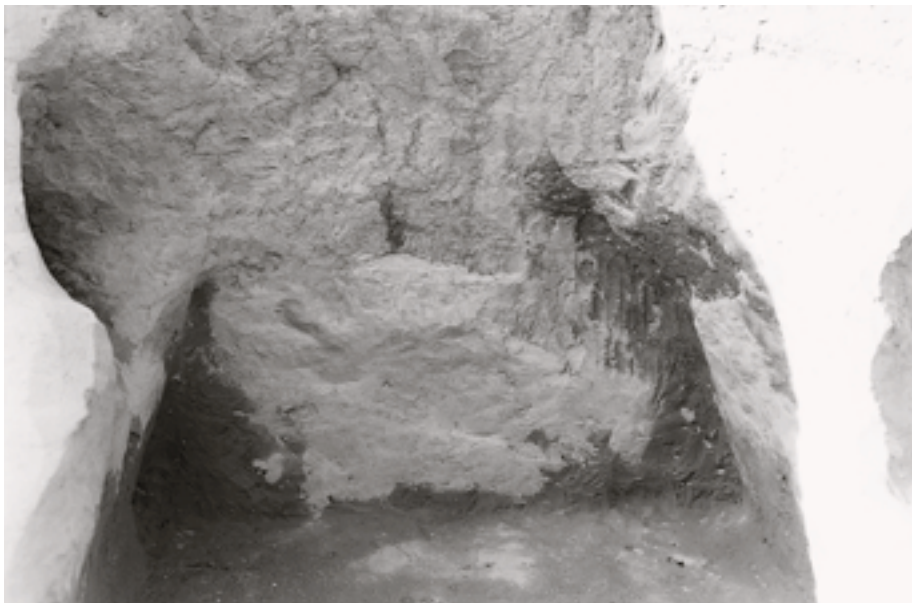
1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群A単位群（45 ～ 47 号横穴墓）完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 45 号横穴墓　完掘状況（東から）

3. 天王ヶ谷 45 号横穴墓　遺物出土状況（東から）

図版 90　天王ヶ谷 46・47 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 46 号横穴墓
完掘状況（南東から）



2. 天王ヶ谷 46 号横穴墓
奥壁（南東から）

3. 天王ヶ谷 47 号横穴墓
完掘状況（南東から）

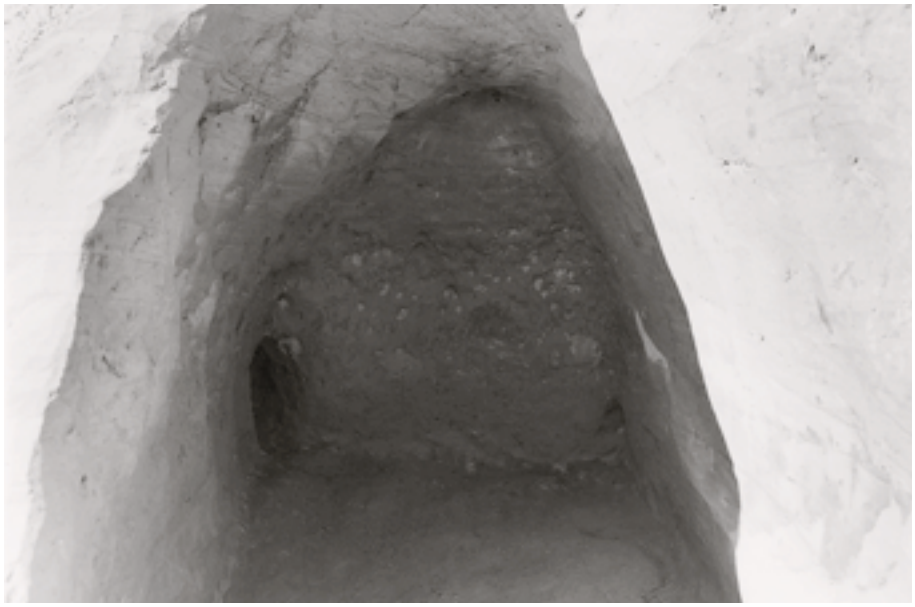
1. 天王ヶ谷 47 号横穴墓再利用時　遺物出土状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 47 号横穴墓　遺物出土状況（南東から）

4. 天王ヶ谷 48 号横穴墓　完掘状況（南東から）

3. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群B単位群（48 ～ 50 号横穴墓）完掘状況（南東から）

図版 92　天王ヶ谷 48・49 号横穴墓



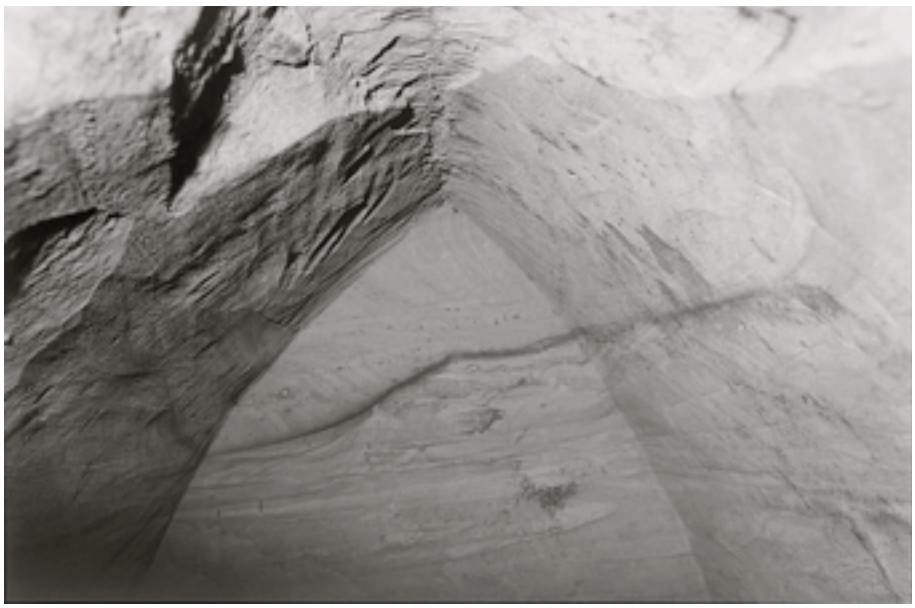
1. 天王ヶ谷 48 号横穴墓
奥壁（東から）

2. 天王ヶ谷 49 号横穴墓
完掘状況（南東から）

3. 天王ヶ谷 49 号横穴墓
奥壁（南東から）

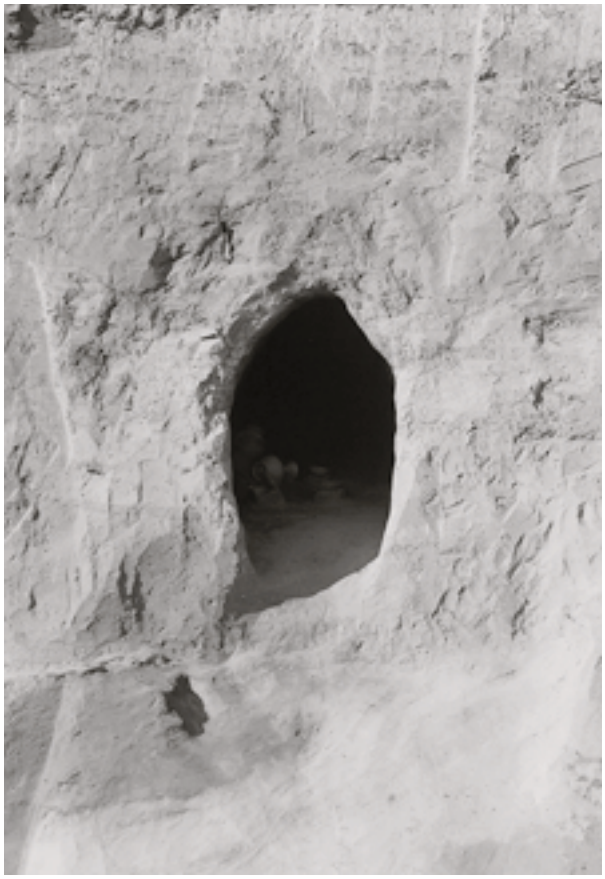
1. 天王ヶ谷 49 号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

2. 天王ヶ谷 49 号横穴墓
左側壁壁面調整痕
（南西から）



3. 天王ヶ谷 49 号横穴墓
天井付近壁面調整痕
（南東から）

図版 94　天王ヶ谷 50 号横穴墓



1. 天王ヶ谷 50 号横穴墓　完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 50 号横穴墓　奥壁（南東から）

3. 天王ヶ谷 50 号横穴墓　人骨出土状況（南東から）

4. 天王ヶ谷 50 号横穴墓　土器出土状況（南東から）

1. 天王ヶ谷横穴墓群　Ⅳ支群C単位群（51 ～ 54 号横穴墓）全景（南東から）

2. 天王ヶ谷 51 号横穴墓　完掘状況（南東から）

3. 天王ヶ谷 51 号横穴墓　遺物出土状況（南東から）

図版 96　天王ヶ谷 51 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 51 号横穴墓
人骨出土状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 51 号横穴墓
奥壁（南東から）

3. 天王ヶ谷 51 号横穴墓
袖部（奥壁側から）

1. 天王ヶ谷 52 号横穴墓　完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 52 号横穴墓　羨道遺物出土状況（南東から）

3. 天王ヶ谷 52 号横穴墓　奥壁（南東から）

4. 天王ヶ谷 52 号横穴墓　遺物および敷石出土状況（南から）

図版 98　天王ヶ谷 52 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 52 号横穴墓
天井付近壁面調整痕
（南東から）

2. 天王ヶ谷 52 号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

3. 天王ヶ谷 52 号横穴墓
敷石出土状況（南東から）

1. 天王ヶ谷 52 号横穴墓
耳環出土状況①（南から）

2. 天王ヶ谷 52 号横穴墓
耳環出土状況②（南から）

3. 天王ヶ谷 52 号横穴墓
左袖部付近遺物出土状況
（南西から）

図版 100　天王ヶ谷 53 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　完掘状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　羨道遺物出土状況（南東から）

3. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　玄室完掘状況（南東から）

1. 天王ヶ谷 53 号横穴墓
人骨出土状況（南東から）

2. 天王ヶ谷 53 号横穴墓
土器出土状況①
（北西から）

3. 天王ヶ谷 53 号横穴墓
土器出土状況②
（南東から）

図版 102　天王ヶ谷 53 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 53 号横穴墓
閉塞石出土状況
（南東上方から）

2. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　奥壁
（南東から）

3. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　袖部
（奥壁側から）

1. 天王ヶ谷 54 号横穴墓　奥壁
（南東から）

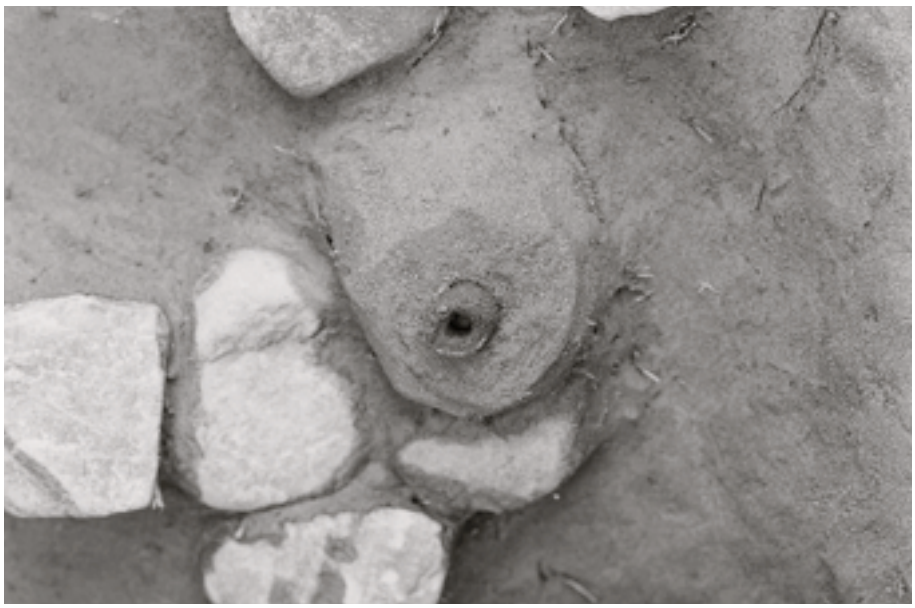
2. 天王ヶ谷 54 号横穴墓
再利用時　遺物出土状況
（南東から）

3. 天王ヶ谷 54 号横穴墓
再利用時　遺物出土状況
（南東上方から）

図版 104　天王ヶ谷 54 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 54 号横穴墓
遺物および敷石出土状況
（南東から）

2. 天王ヶ谷 54 号横穴墓
土器出土状況（北東から）



3. 天王ヶ谷 54 号横穴墓
耳環出土状況
（北東上方から）

1. 天王ヶ谷3号横穴墓　出土遺物（集合）　遺物番号は別図３にあり

2. 天王ヶ谷6号横穴墓　出土遺物（集合）　遺物番号は別図３にあり

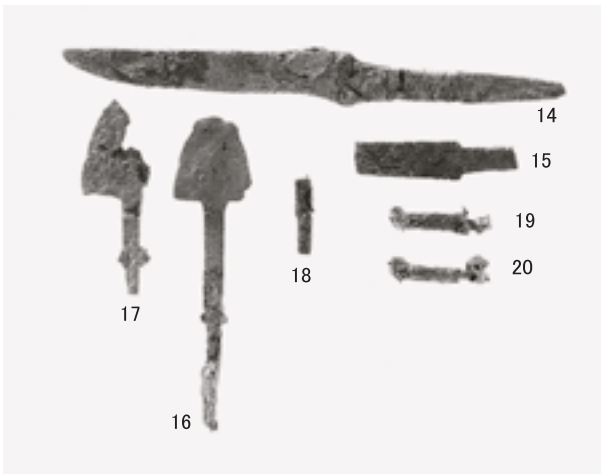
3. 天王ヶ谷7号横穴墓　出土遺物（集合）　遺物番号は別図３にあり

図版 106　天王ヶ谷3号横穴墓

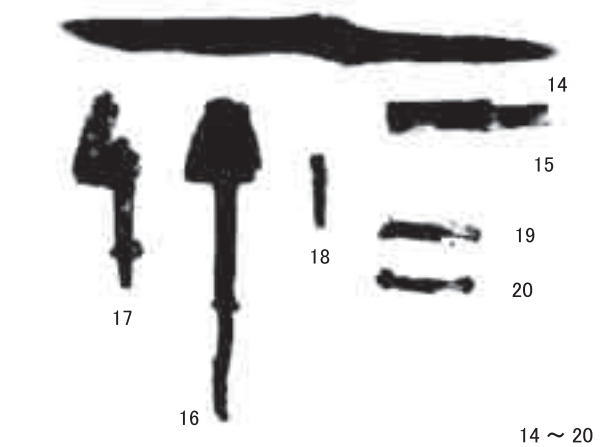
天王ヶ谷3号横穴墓　出土遺物①

1. 天王ヶ谷3号横穴墓　出土遺物②

2. 天王ヶ谷3号横穴墓　出土遺物③



12・13



14 ～ 20

3. 天王ヶ谷4号横穴墓　出土遺物

図版 108　天王ヶ谷5号横穴墓・5号横穴墓再利用時

1. 天王ヶ谷5号横穴墓　出土遺物（集合）

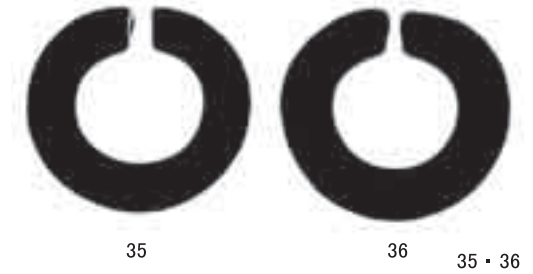
遺物番号は別図３にあり

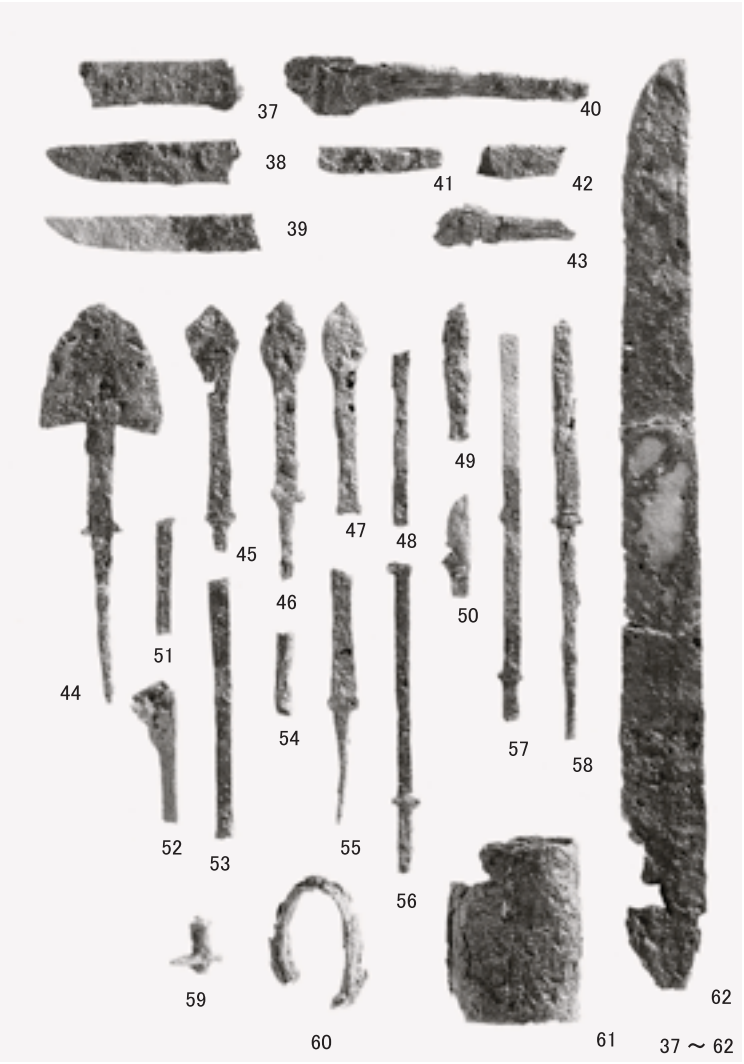
2. 天王ヶ谷5号横穴墓再利用時　出土遺物①

1. 天王ヶ谷5号横穴墓再利用時　出土遺物②

2. 天王ヶ谷5号横穴墓　出土遺物①

図版 110　天王ヶ谷5号横穴墓





天王ヶ谷5号横穴墓　出土遺物②

1. 天王ヶ谷5号横穴墓　出土遺物③

2. 天王ヶ谷5号横穴墓　出土遺物④

3. 天王ヶ谷6号横穴墓　出土遺物①

図版 112　天王ヶ谷6・7・10 号横穴墓

66

67

1. 天王ヶ谷6号横穴墓　出土遺物②

71

70

72

2. 天王ヶ谷7号横穴墓　出土遺物

74

73

75

3. 天王ヶ谷 10 号横穴墓　出土遺物①

76

77

79

80

78

79・80

81

天王ヶ谷 10 号横穴墓　出土遺物②

図版 114　天王ヶ谷 10 号横穴墓

82

81・82

85

83

ヘラ記号 86

86

天王ヶ谷 10 号横穴墓　出土遺物③

天王ヶ谷 10 号横穴墓　出土遺物④

図版 116　天王ヶ谷 10 号横穴墓

天王ヶ谷 10 号横穴墓　出土遺物（集合）

遺物番号は別図３にあり

1. 天王ヶ谷 11 号横穴墓　出土遺物（集合）

遺物番号は別図 3 にあり

88

90

89

91

92

2. 天王ヶ谷 11 号横穴墓　出土遺物

図版 118　天王ヶ谷 12・13 号横穴墓

93

1. 天王ヶ谷 12 号横穴墓　出土遺物

94

95

98

101

100

96

97

99

104

2. 天王ヶ谷 13 号横穴墓　出土遺物①

102

103

105

109 ～ 111

107

106

天王ヶ谷 13 号横穴墓　出土遺物②

図版 120　天王ヶ谷 13 号横穴墓

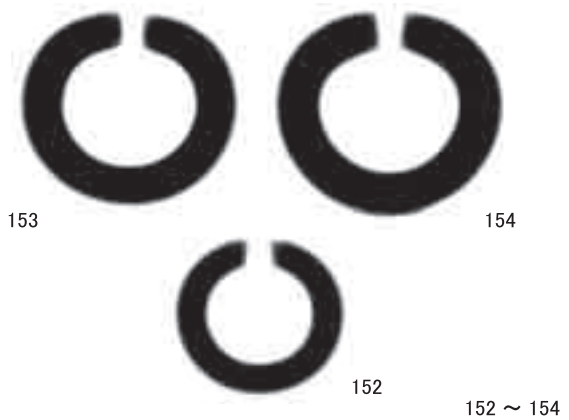
108

109 ～ 151

天王ヶ谷 13 号横穴墓　出土遺物③

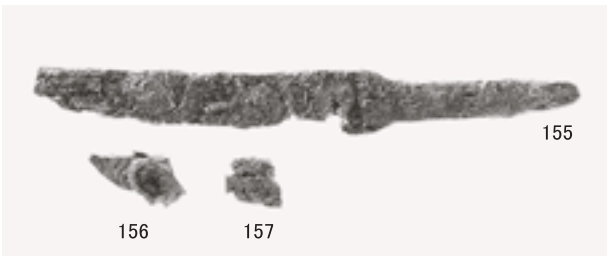
108

153
154
152



153
154
152

152 ～ 154



155
156
157

155
156

155 ～ 157

天王ヶ谷 13 号横穴墓　出土遺物④

図版 122　天王ヶ谷 14 号横穴墓

158

159

162

165

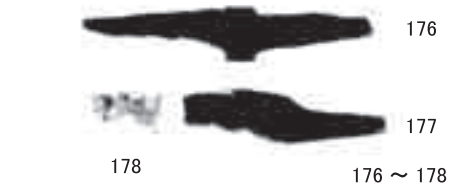
160

164

161

163

天王ヶ谷 14 号横穴墓　出土遺物①



176 ～ 178

167 ～ 175

1. 天王ヶ谷 14 号横穴墓　出土遺物②

2. 天王ヶ谷 15 号横穴墓　出土遺物①

図版 124　天王ヶ谷 15 号横穴墓

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

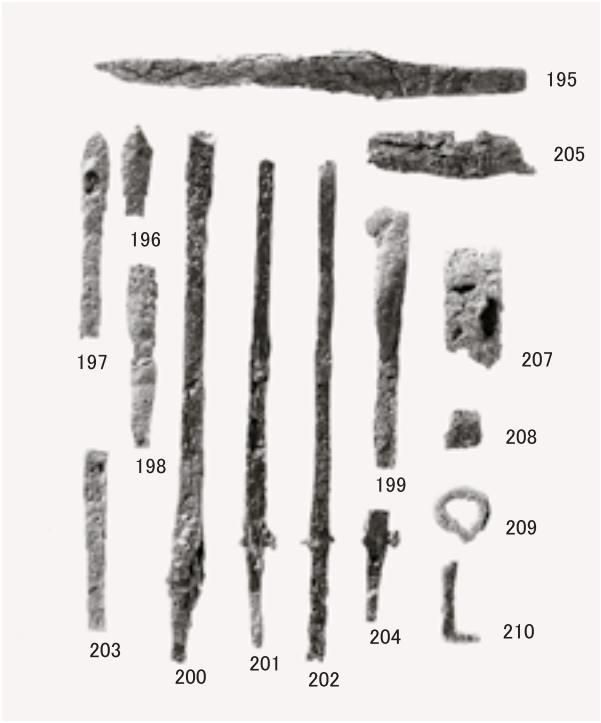
天王ヶ谷 15 号横穴墓　出土遺物②

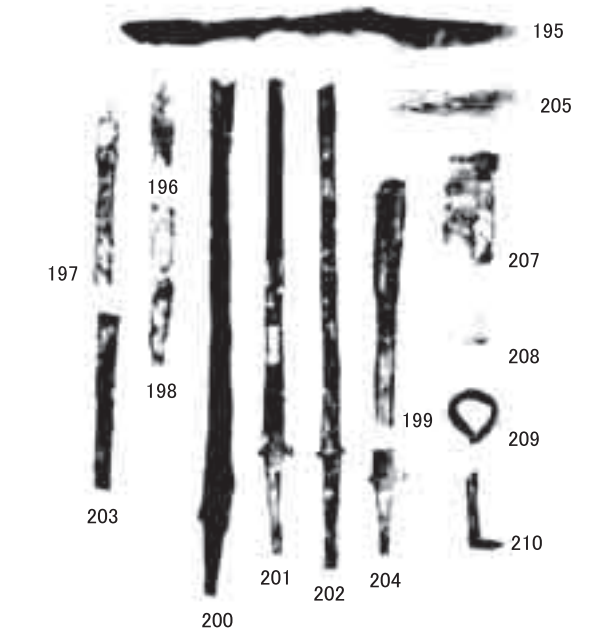
190

191

192

194





195 ～ 205・207 ～ 210

211 の鍔

天王ヶ谷 15 号横穴墓　出土遺物③

図版 126　天王ヶ谷 15・16 号横穴墓

211

1. 天王ヶ谷 15 号横穴墓　出土遺物④

212

213

214

216

2. 天王ヶ谷 16 号横穴墓　出土遺物①

215

584

585

279 ～ 366

584

585

584・585

391 ～ 453

天王ヶ谷 16 号横穴墓　出土遺物②

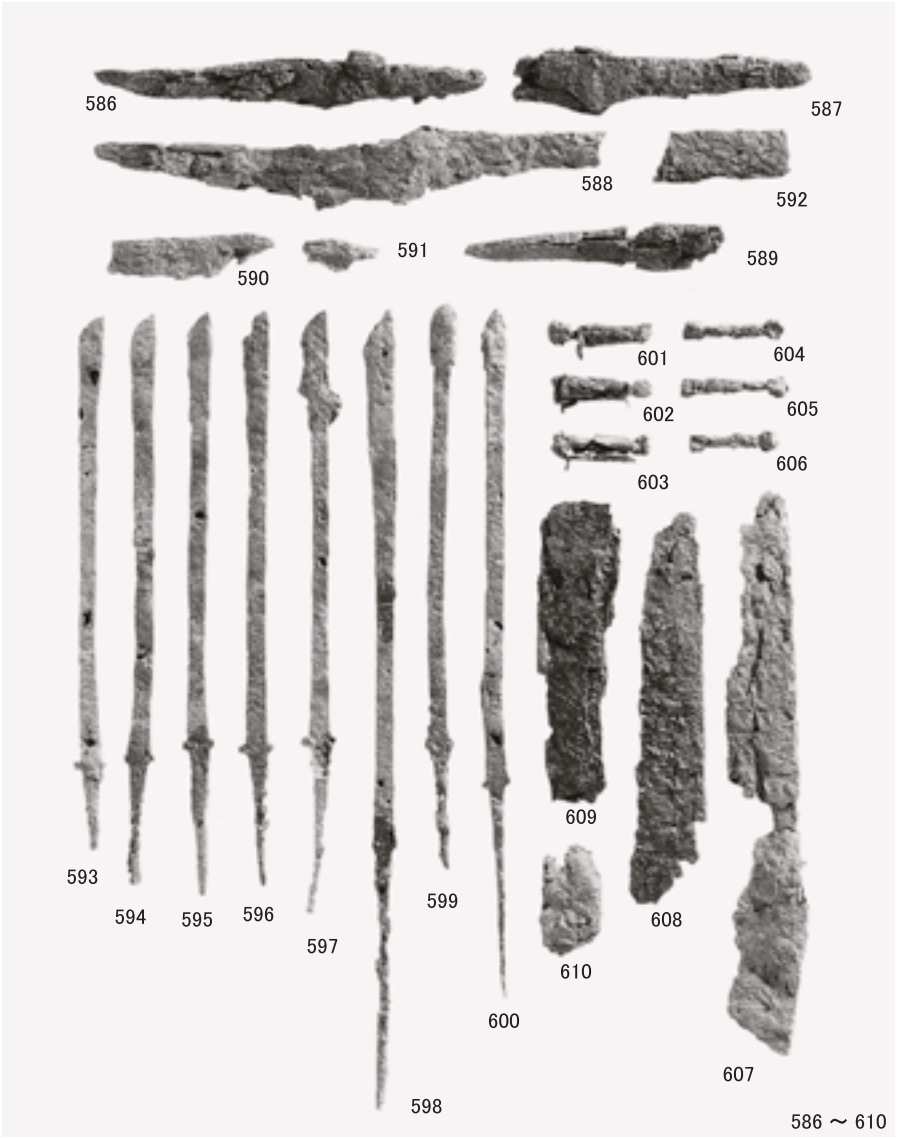
図版 128　天王ヶ谷 16 号横穴墓

215

230 ～ 278

279 ～ 453

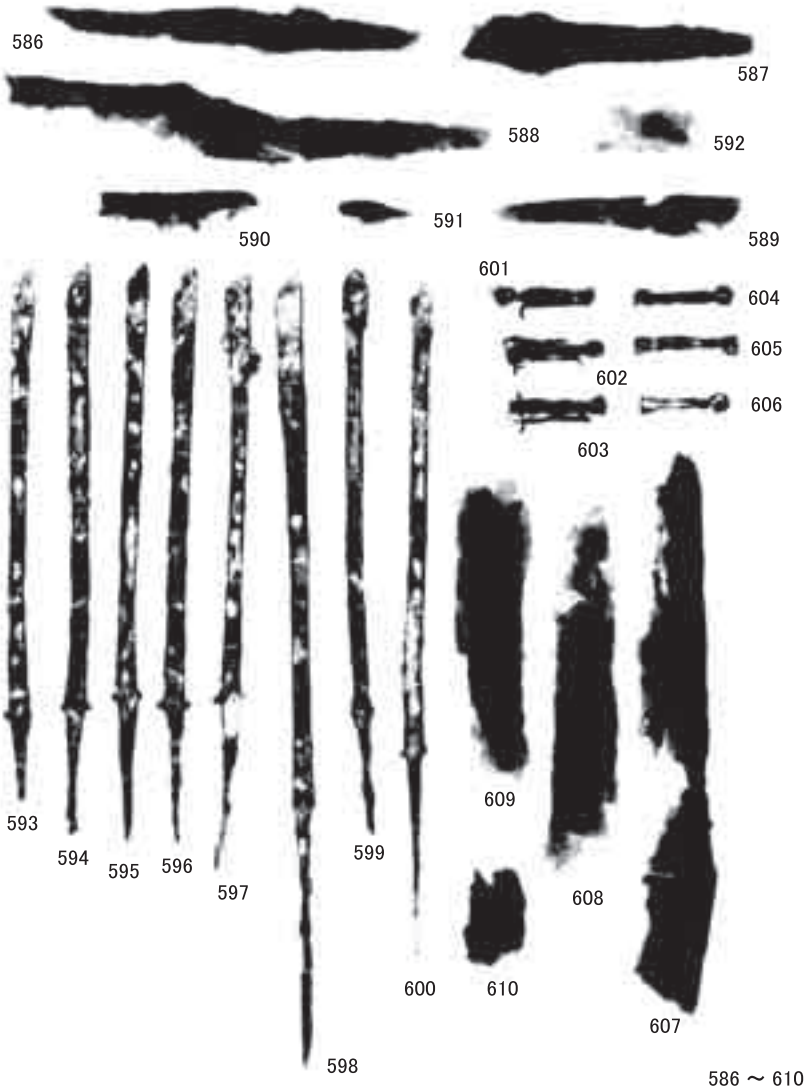
天王ヶ谷 16 号横穴墓　出土遺物③



1. 天王ヶ谷 16 号横穴墓　出土遺物④

2. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　出土遺物①

図版 130　天王ヶ谷 16・17 号横穴墓



1. 天王ヶ谷 16 号横穴墓　出土遺物⑤

2. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　出土遺物②

611

612

613

614

615

616

617

618

619

621

天王ヶ谷 17 号横穴墓　出土遺物③

図版 132　天王ヶ谷 17 号横穴墓群

620

622

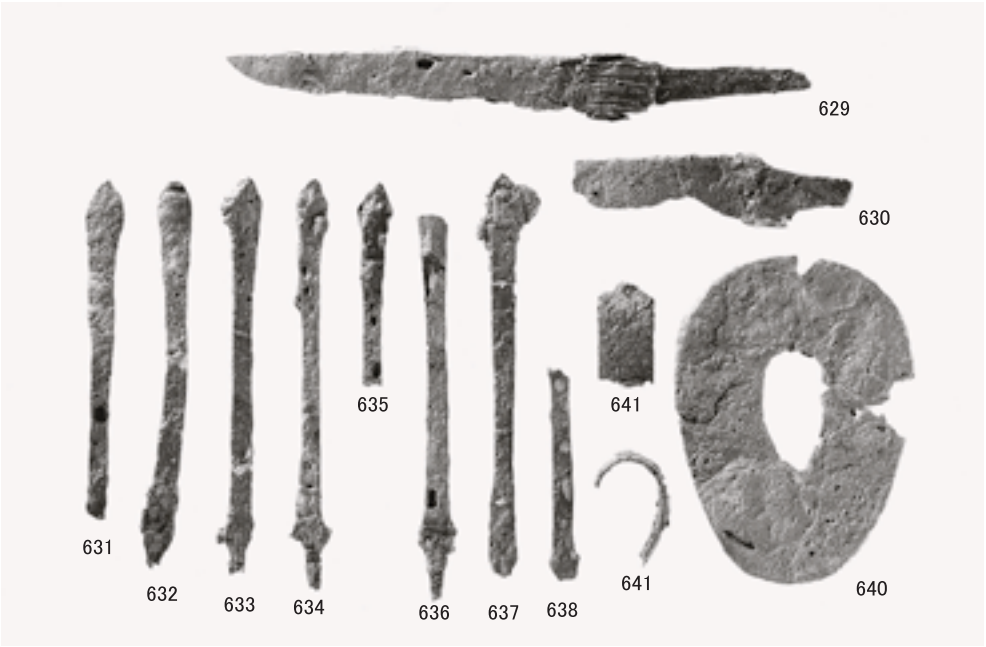
627

626

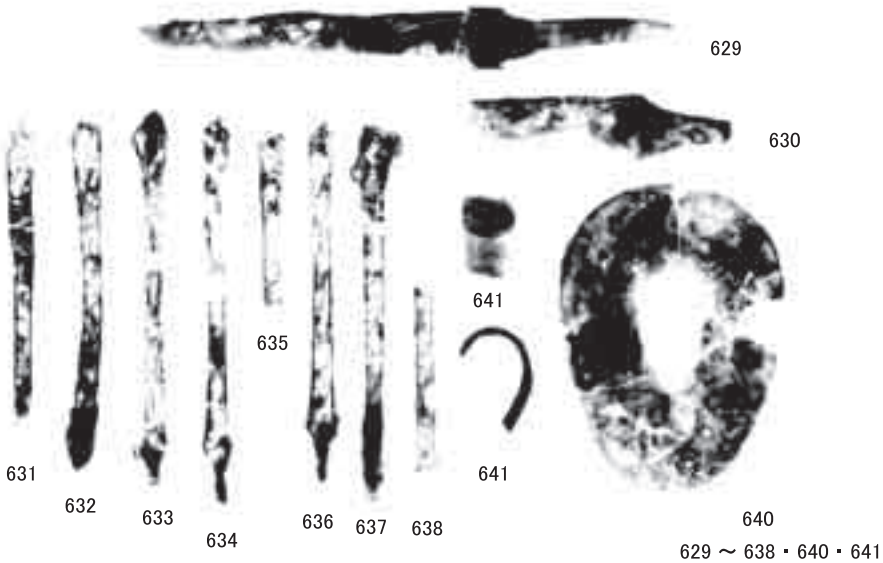
628

625

天王ヶ谷 17 号横穴墓　出土遺物④

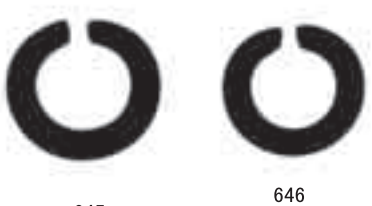


1. 天王ヶ谷 18 号
横穴墓
出土遺物



629 ～ 638・640・641

2. 天王ヶ谷 17 号横穴墓　出土遺物⑤



645・646

3. 天王ヶ谷 20 号横穴墓　出土遺物

図版 134　天王ヶ谷 20・27・30 号横穴墓

644

1. 天王ヶ谷 20 号横穴墓前庭　出土遺物①

649

2. 天王ヶ谷 27 号横穴墓　出土遺物①

650

3. 天王ヶ谷 27 号横穴墓　出土遺物②

651

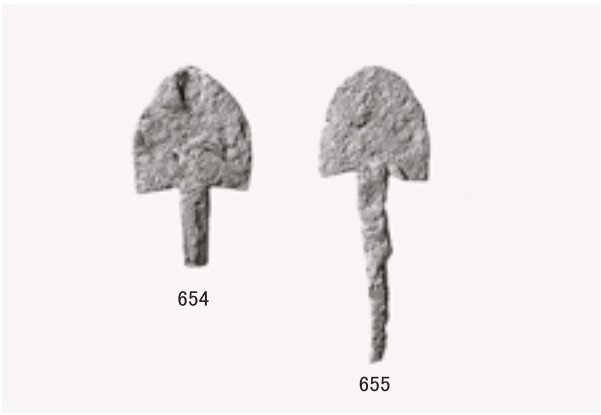
4. 天王ヶ谷 30 号横穴墓　出土遺物

644

1. 天王ヶ谷 20 号横穴墓前庭　出土遺物②

652

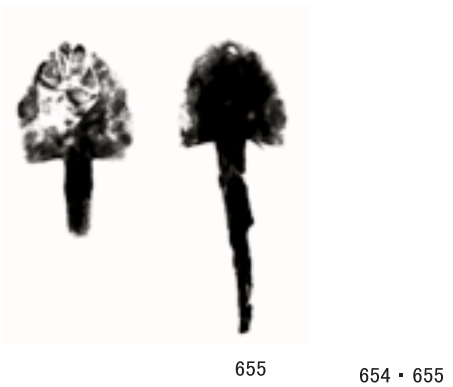
2. 天王ヶ谷 32 号横穴墓前庭　出土遺物


654

655

653

3. 天王ヶ谷 34 号横穴墓前庭　出土遺物

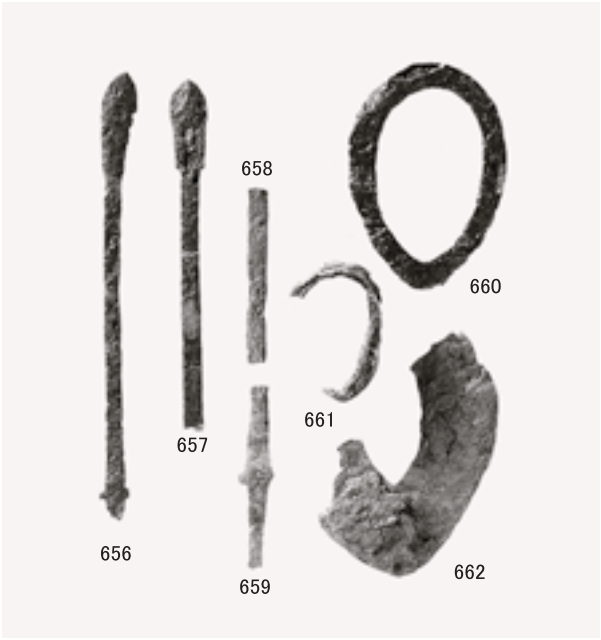

655

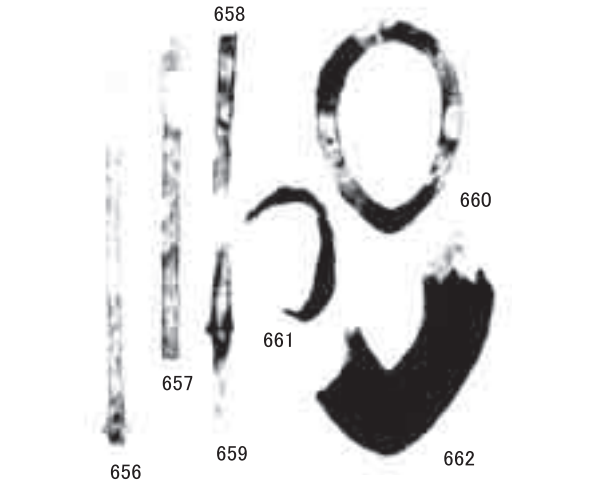
654・655

4. 天王ヶ谷 35 号横穴墓　出土遺物

図版 136　天王ヶ谷 37・38 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 37 号横穴墓　出土遺物①





656 ～ 662

2. 天王ヶ谷 37 号横穴墓前庭　出土遺物②

3. 天王ヶ谷 38 号横穴墓　出土遺物

664

665

668

666

667

天王ヶ谷 39 号横穴墓前庭　出土遺物

図版 138　天王ヶ谷 39・43 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 39 号横穴墓前庭　出土遺物（集合）

遺物番号は
別図３にあり

713

714

687

690

689

715

716

688

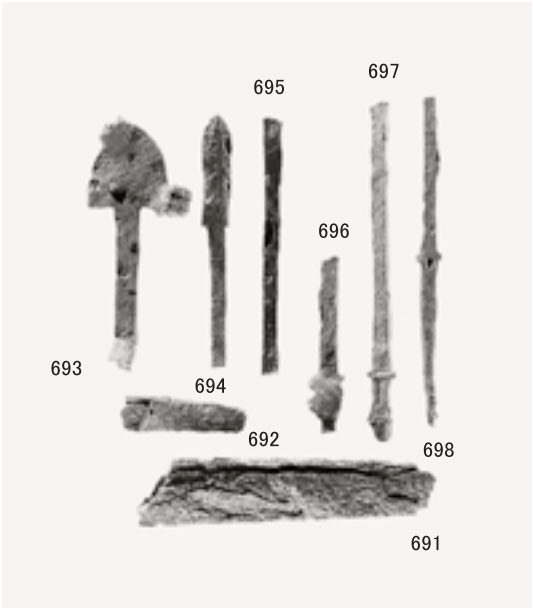
715

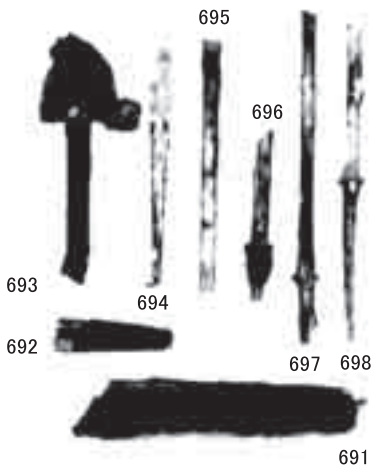
716

715・716

3. 天王ヶ谷 43 号横穴墓および前庭　出土遺物

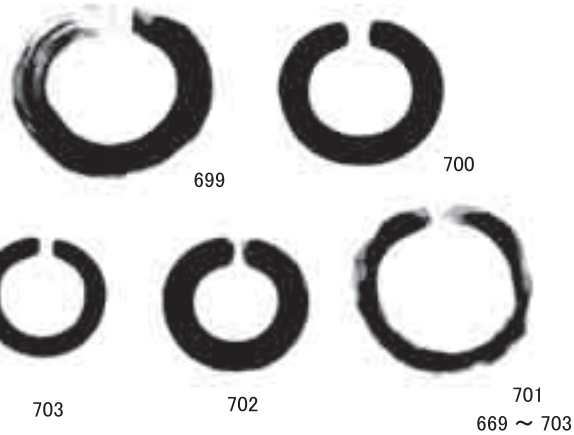
2. 天王ヶ谷 39 号横穴墓　出土遺物



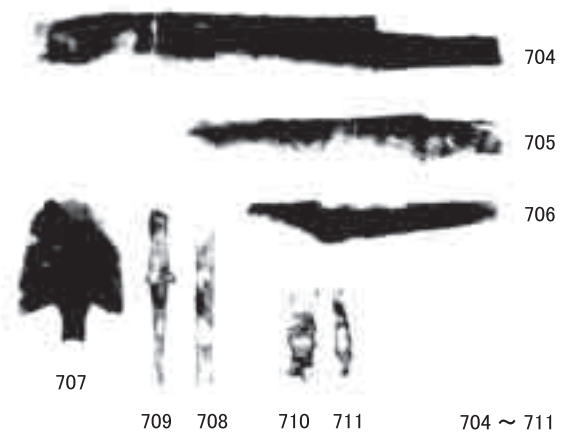


691 ～ 698

1. 天王ヶ谷 41 号横穴墓　出土遺物



669 ～ 703

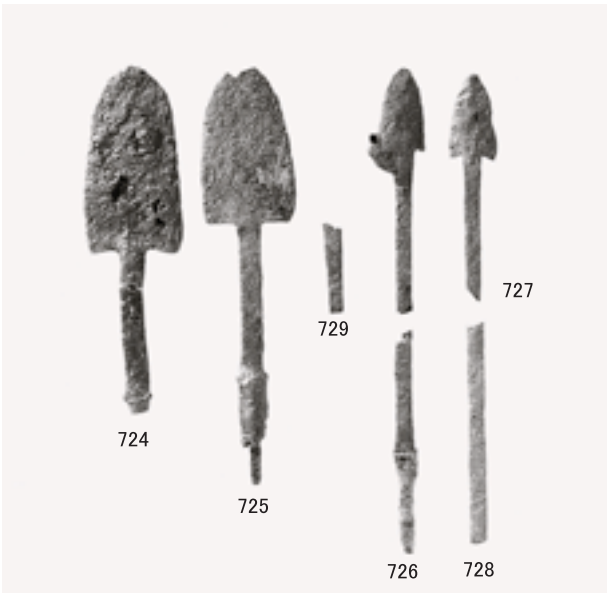


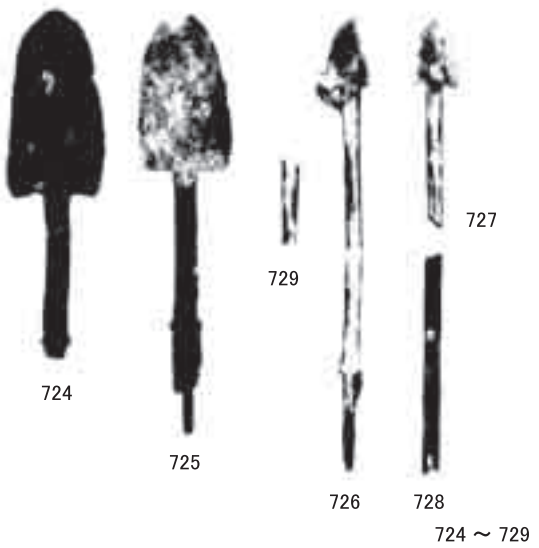
704 ～ 711

2. 天王ヶ谷 42 号横穴墓　出土遺物

図版 140　天王ヶ谷 44 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　出土遺物（集合）　　遺物番号は別図３にあり





2. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　出土遺物①

717

719

720

1. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　出土遺物②

718

2. 天王ヶ谷 44 号横穴墓　出土遺物③

730

731

3. 天王ヶ谷 45 号横穴墓　出土遺物

732

4. 天王ヶ谷 46 号横穴墓前面崩落土　出土遺物

図版 142　天王ヶ谷 47 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 47 号横穴墓再利用時　出土遺物（集合）　※

734

733

735

737

736

2. 天王ヶ谷 47 号横穴墓再利用時　出土遺物

※遺物番号は別図３にあり

738

739

742

740

741

744

743

天王ヶ谷 47 号横穴墓　出土遺物

図版 144　天王ヶ谷 47・50 号横穴墓

1. 天王ヶ谷 47 号横穴墓　出土遺物（集合）

遺物番号は別図３にあり

2. 天王ヶ谷 50 号横穴墓　出土遺物①

751

756

752

757

753

754

755

743

天王ヶ谷 50 号横穴墓　出土遺物②

図版 146　天王ヶ谷 50 ～ 52 号横穴墓

760

761

2. 天王ヶ谷 51 号横穴墓　出土遺物

764

759

1. 天王ヶ谷 50 号横穴墓　出土遺物③

762

3. 天王ヶ谷 52 号横穴墓　出土遺物①

天王ヶ谷 50 号横穴墓　出土遺物（集合）

遺物番号は別図３にあり

図版 148　天王ヶ谷 52 号横穴墓

763

765

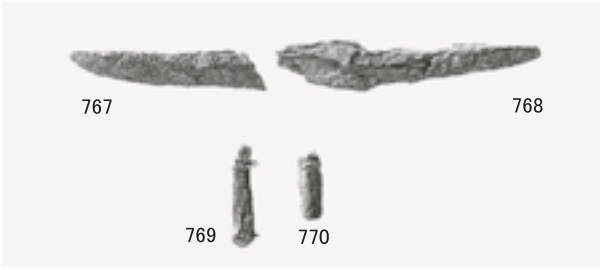
766

765

766

765・766

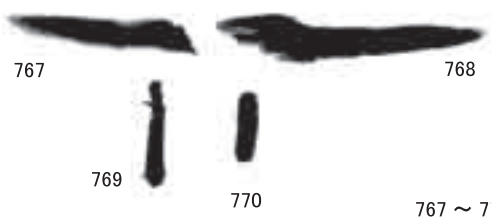
遺物番号は別図３にあり


767

768

769

770


767

768

769

770

767 ～ 770

天王ヶ谷 52 号横穴墓　出土遺物②

1. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　出土遺物（集合）　　遺物番号は別図３にあり

2. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　出土遺物①

図版 150　天王ヶ谷 53 号横穴墓

774

775

776

777

778

779

780

天王ヶ谷 53 号横穴墓　出土遺物②

天王ヶ谷 53 号横穴墓　出土遺物③

図版 152　天王ヶ谷 53・54 号横穴墓

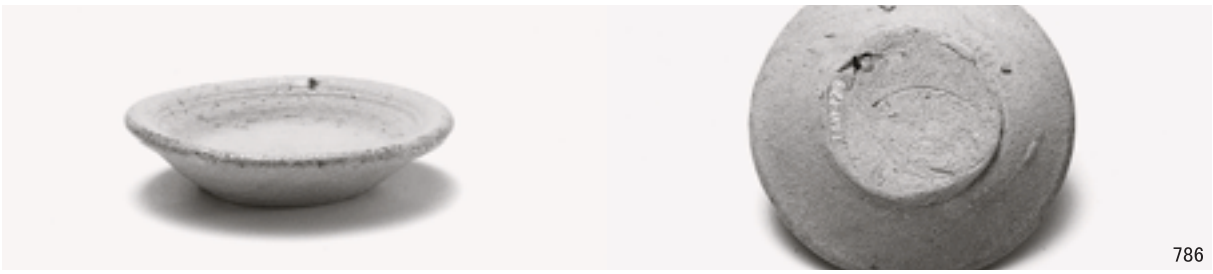
784

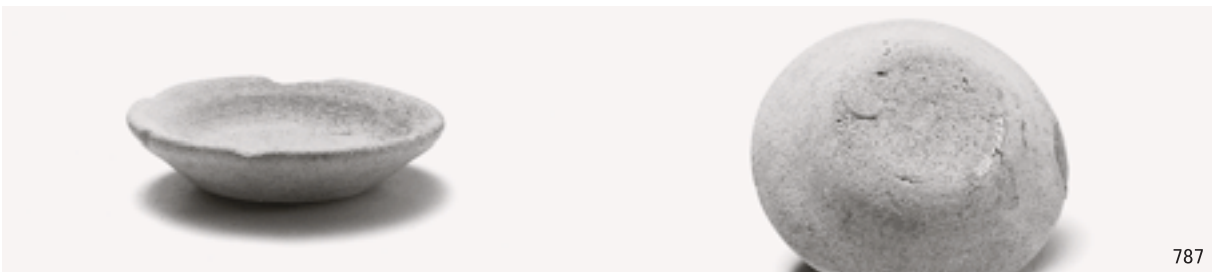
783

785

1. 天王ヶ谷 53 号横穴墓　出土遺物③

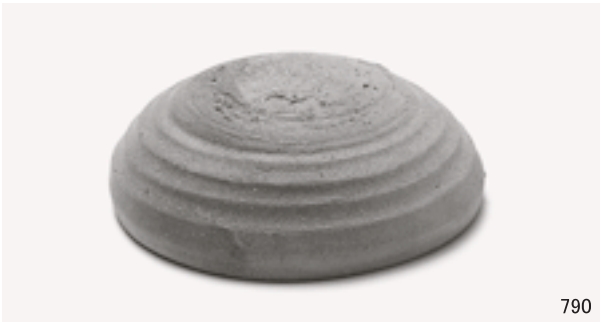
789


786


787

2. 天王ヶ谷 54 号横穴墓再利用時　出土遺物①

1. 天王ヶ谷 54 号横穴墓再利用時　出土遺物②



3. 天王ヶ谷 54 号横穴墓　出土遺物

2. 天王ヶ谷 54 号横穴墓再利用時　出土遺物（集合）　※

4. 天王ヶ谷 54 号横穴墓　出土遺物（集合）　※

793・794

※遺物番号は別図３にあり

図版 154　天王ヶ谷横穴墓群

795

天王ヶ谷横穴墓群　採集遺物

天王ヶ谷横穴墓群再利用時　出土遺物（集合）

遺物番号は別図３にあり

報 告 書 抄 録

ふ り が な	もりまちえんでんきゅうりょうのよこあなぼぐん　ちょうさほうこくへん　だいにぶんさつ
書　　名	森町円田丘陵の横穴墓群　調査報告編（第２分冊）
副 書 名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	森町－６
シ リ ー ズ 名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第６集
編 著 者 名	大谷宏治（編集・執筆）
編 集 機 関	静岡県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20　TEL　054-262-4261（代）
発 行 年 月 日	2012年３月16日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		経緯度（世界測地系）		発掘期間	発掘 面積	発掘原因
		市町	遺跡	北緯	東経			
宇藤横穴墓群（うとうよこあなぼぐん）	静岡県周智郡森町（しずおかけんしゅうちぐんもりまち） 円田（えんでん）760-1・903-1ほか	22461	－	34° 49′ 36″	137° 54′ 22″	19990508 － 19991019	1,000 ㎡	記録保存（第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査）
天王ヶ谷（てんのうがや） 横穴墓群（よこあなぼぐん）	同上 円田字天王ヶ谷（えんでんあざてんのうがや）724・733・736ほか	22461	－	34° 49′ 34″	137° 54′ 29″	19990729 － 20000218	3,000 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な 年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宇藤 横穴墓群	墳墓	古墳 後期～ 終末期	横穴墓13基	玉類（丸玉・小玉）・耳環・刀子・須恵器	２支群13基で構成される。13基は前庭を共有するものが多く、その共有関係から７単位群に区分できる。出土遺物が少なく時期を特定できないが、６世紀末～７世紀前半に築造が開始され、８世紀初頭まで継続的に築造されていた可能性が高い。 ７号横穴墓からは改葬された可能性が高い３体の人骨が出土し、壮年男性と未成年２人が埋葬されていたことが判明した。父親と子供二人と想定できる。
	散布地	近現代	（横穴墓の再利用）	磁器	開口していた横穴墓を博打穴として利用した。
天王ヶ谷 横穴墓群	墳墓	古墳 後期～ 終末期	横穴墓55基・土坑１基・性格不明遺構１基	玉類（勾玉・管玉・切子玉・丸玉・小玉）・耳環・大刀・鉄鏃・弓両頭金具・刀子・不明鉄製品・石製紡錘車・砥石・須恵器・土師器・人骨	４支群55基で構成される。55基は前庭を共有するものが多く、その共有関係から（最低）19単位群に区分できる。出土遺物からは44号墓が最も遡り、６世紀末葉に築造され、それ以外の大部分が７世紀前半～８世紀初頭に築造された可能性が高い。 23基の横穴墓から人骨が出土しており、調査の結果伸展葬は全く確認できないこと、出土した人骨に肉付きであった時に齧られたと想定する動物の咬痕が確認できることなどから改葬骨である可能性が高いことが判明した。出土した人骨の性別や死亡年齢が不明なものが多いため埋葬された人骨の関係については不明であるが、成人の男女が埋葬されるもの、成人女性とその子供の可能性のある人骨などが同一横穴墓に埋葬されている。必ずしも夫婦とその子供だけの埋葬ではないことが判明した。
		平安～ 中世	横穴墓を利用した墳墓	灰釉陶器（碗・小碗・壺）・山茶碗・山皿・土師器・人骨	平安時代末～鎌倉時代にかけての横穴墓を再利用した墳墓（「やぐら」か）である。横穴墓を再利用した墳墓としては比較的古い時期のものである。
	散布地	近現代	（横穴墓の再利用）	なし	開口していた横穴墓を博打穴として利用した。

要　約

宇藤横穴墓群・天王ヶ谷横穴墓群は太田川西岸で確認された最も群集する横穴墓群である。

横穴墓では人骨の残存状況が良好で、人骨が出土したすべての横穴墓で伸展葬の状態で埋葬された横穴墓はなく、すべて纏められた状態で出土したことは特筆できる。追葬にあたってかたづけたと考えるよりも、別場所で白骨化した遺体を改葬した可能性が想定できる。

また、同一横穴墓に埋葬された人骨の性別からは、夫婦とその子供という埋葬以外のパターンが確認できることから、両横穴墓群を造営した集団では、九州地方の古墳時代後期から終末期に想定される長子継承・夫婦合葬が確立していなかった可能性が高いことも判明した。

静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第６集

森町円田丘陵の横穴墓群

第二東名№113地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

森町－６

調査報告編　第２分冊

平成24年３月16日

編集・発行　静岡県埋蔵文化財センター
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL (054)262-4261(代)
FAX (054)262-4266

印　刷　所　松本印刷株式会社
〒421-0303　静岡県榛原郡吉田町片岡2210
TEL (0548)32-0851(代)